令和元年度

研究集録

付 研究論文集

『トマトがたくさんの町』
秩父市立大田小学校 第２学年
宮　原　善　久　朗　さん

『　水　晶　』
熊谷市立富士見中学校 第３学年
新　井　雛　里　さん

埼 玉 県 連 合 教 育 研 究 会

ホームページ
QR コード

あ　い　さ　つ

埼玉県連合教育研究会
会長　田　中　民　雄

日ごろ埼玉県連合教育研究会の活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、令和元年度埼玉連合教育研究会の『研究集録付研究論文集』が、教科等研究団体及び地域教育研究団体並びに研究論文入選者、記念講演者等の執筆者の方々のご協力により、本年度も年度内に発刊できますことに心より感謝申し上げます。

これもひとえに、各教育研究団体が、日々の教育実践を基盤に学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、新たな教育課題や働き方改革に真摯に取り組みながら、弛まぬ自主的・組織的な研究活動を積み重ねてこられた結果によるものと深く敬意を表します。

いよいよ、来年度から新学習指導要領に基づく教育が小学校から本格実施されますが、この『研究集録付研究論文集』は、中学校も含め各教育研究団体の学習指導要領の改訂・実施に向けての指針となる情報や実践記録等が集録されています。

集録された教科等研究団体の研究内容につきましては、令和元年度の各研究主題に基づき推進された研究活動の概要や学習指導要領の実施を見据えた研究成果を掲載しています。

また、地域教育研究団体の研究内容につきましては、55団体の内の15団体の運営組織や各部会等の活動内容等を集録しており、他の地域教育研究団体の組織づくりや研究の推進方法など大変参考になるものと思います。加えて、教科等研究団体と地域教育研究団体の相互の情報交換の冊子としても有効活用いただけるものと思っています。

『研究論文集』には、本年度応募されました５編の中から、審査を経て入賞されました研究論文（入選・佳作・新人奨励賞）３編を掲載いたしました。学習指導要領の改訂の時期には応募件数が減るという現状の中で、応募されました研究論文は、先生方の日々の課題解決に向けた継続的で実践的な研究論文でありました。今後も会員の皆様におかれましては、積極的にご応募くださることを期待いたします。

なお、この『研究集録付研究論文集』は、各学校等に1冊ずつの配付となりますが、昨年度から開設しましたホームページ【URL　https://sairenkyou.jp】の「刊行物案内」からスマートフォン等でも気軽にアクセスすることができますので、ご覧いただき、日々の研究活動をより一層充実したものにしていただけますことを期待しております。

結びに、本研究会のために常に温かいご指導、ご支援を賜りました県市町村教育委員会をはじめとする関係各位、研究団体並びに委員の皆様方に衷心より御礼申し上げ、刊行のあいさつといたします。

目　　次

あ い さ つ……埼玉県連合教育研究会会長　田中　民雄……1

研 究 集 録

Ⅰ　教科等研究団体等の研究

1　国語教育……埼玉県国語教育研究会……4
2　書写教育……埼玉県書写教育研究会……8
3　社会科教育……埼玉県社会科教育研究会……12
4　算数・数学教育……埼玉県算数数学教育研究会……16
5　理科教育……埼玉県理科教育研究会……20
6　音楽教育……埼玉県音楽教育連盟……24
7　図画工作・美術教育……埼玉県美術教育連盟……28
8　保健体育教育……埼玉県保健体育研究会……32
9　英語教育……埼玉県英語教育研究会……36
10　道徳教育……埼玉県道徳教育研究会……40
11　特別活動……埼玉県特別活動研究会……44
12　進路指導・キャリア教育……埼玉県進路指導・キャリア教育研究会……48
13　視聴覚教育……埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会……52
14　教育心理・教育相談……埼玉県教育心理・教育相談研究会……56
15　特別支援教育……埼玉県特別支援教育研究会……60
16　学校図書館教育……埼玉県学校図書館協議会……64
17　中学校技術・家庭科教育……埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会……68
18　小学校家庭科教育……埼玉県小学校家庭科教育研究会……72
19　生活科・総合的な学習の時間教育……埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会……76
20　本校の研究の取り組みについて……埼玉大学教育学部附属小学校……80
21　埼玉大学教育学部附属中学校……埼玉大学教育学部附属中学校……84

Ⅱ　全国教育研究発表大会　埼玉大会の報告

1　第58回全国学校体育研究大会　埼玉大会……90
2　第58回全日本特別支援教育研究連盟全国大会　埼玉大会……91

Ⅲ　地域教育研究団体の研究

1　蕨市教育研究会……94
2　朝霞市教育研究会……96
3　鴻巣市教育研究会……98
4　北本市教育研究会……100
5　狭山市教育研究会……102
6　入間市教育研究会……104
7　鶴ヶ島市教育研究会……106
8　吉見教育研究会……108
9　秩父教育研究会……110
10　児玉郡本庄市教育研究会……112
11　熊谷市教育研究会……114
12　加須市教育研究会……116
13　越谷市教育研究会……118
14　三郷市教育研究会……120
15　蓮田市教育研究会……122

研究論文集

Ⅰ　令和２年度研究論文募集要領……126

Ⅱ　令和元年度研究論文入賞者・応募者等一覧……127

＜　入　選　＞

社会的な「見方・考え方」を働かせた資質・能力の育成の可視化
～単元　地理的分野「地域の在り方」、歴史的分野「現代の日本と世界」の開発と実践を通して～【社会】…128
埼玉大学教育学部附属中学校　教諭　内藤　圭太

＜　佳　作　＞

思いっきり体を動かし、全力で運動に挑戦する児童の育成
～特別支援学級における主体的・対話的で深い学びのある教科別の指導「体育」の授業の実践～【体育】…134
熊谷市立熊谷西小学校　教諭　堀部　　慧

＜新人奨励賞＞

学力向上に向けた数学の“新”指導法
～『数学の歌・ダンス』『“数楽”すごろくのススメ』～　【数学】……140
富士見市立本郷中学校　教諭　力久　晃一

記念講演会

「学校における働き方改革について考える」
埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター　教授　安原　輝彦　氏……146

◎ **令和元年度埼玉県連合教育研究会役員等名簿**……154

あ と が き……編集委員長　長島　庸夫……159

○ **表 紙 絵**　「令和元年度身体障害者福祉のための第61回埼玉県児童生徒美術展覧会」
埼玉県連合教育研究会会長賞受賞
・「トマトがたくさんの町」　秩父市立大田小学校　　第２学年　宮原　善久朗　さん
・「水　晶」　熊谷市立富士見中学校　第３学年　新井　　雛里　さん

○ **表紙の題字**　埼玉県連合教育研究会　上亟　啓介　元会長

令和元年度

研究集録

Ⅰ　教科等研究団体等の研究

1　埼玉県国語教育研究会 …… 4
2　埼玉県書写教育研究会 …… 8
3　埼玉県社会科教育研究会 …… 12
4　埼玉県算数数学教育研究会 …… 16
5　埼玉県理科教育研究会 …… 20
6　埼玉県音楽教育連盟 …… 24
7　埼玉県美術教育連盟 …… 28
8　埼玉県保健体育研究会 …… 32
9　埼玉県英語教育研究会 …… 36
10　埼玉県道徳教育研究会 …… 40
11　埼玉県特別活動研究会 …… 44
12　埼玉県進路指導・キャリア教育研究会 …… 48
13　埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会 …… 52
14　埼玉県教育心理・教育相談研究会 …… 56
15　埼玉県特別支援教育研究会 …… 60
16　埼玉県学校図書館協議会 …… 64
17　埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会 …… 68
18　埼玉県小学校家庭科教育研究会 …… 72
19　埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会 …… 76
20　埼玉大学教育学部附属小学校 …… 80
21　埼玉大学教育学部附属中学校 …… 84

1 国 語 教 育

埼玉県国語教育研究会

Ⅰ 研究主題と事業

1 研究主題

「生活に生きて働く国語の能力の育成をめざす授業の創造」

2 事業

・国語教育夏季研修大会
・国語教育研究発表大会
・常任理事・理事研修会
・研究委嘱校研究発表大会
・地区別国語科授業研究会
・中学校国語学力向上対策事業（学力調査）
・「令和元年度国語教育研究集録」の発刊

Ⅱ 活動状況

1 新旧合同理事研修会 6月7日㈮

⑴ 平成30年度会務報告
⑵ 平成30年度決算報告
⑶ 平成30年度監査報告
⑷ 新役員および常任理事の選出
⑸ 令和元年度研究主題案および研究方針案についての審議
⑹ 令和元年度事業内容案および事業計画案についての審議
⑺ 令和元年度予算案についての審議

2 国語教育夏季研修大会提案者・司会者打ち合わせ会 7月9日㈫

3 国語教育夏季研修大会 8月8日㈭

⑴ 分科会 小学校6
中学校2
⑵ 講 演
文教大学教育学部学校教育課程
国語専修 教授 山下 直 先生
演 題 「平成29年度版学習指導要領とこれからの国語科学習指導」
⑶ 参加者数 約250名

4 地区別国語科授業研究会

⑴ 上尾市立今泉小学校 10月29日㈫
⑵ 美里町立松久小学校 11月22日㈮
⑶ さいたま市立大宮東小学校 11月26日㈫
⑷ 越谷市立越ヶ谷小学校 11月26日㈫
⑸ 富士見市立諏訪小学校 12月4日㈬

5 研究委嘱校研究発表大会

・美里町立松久小学校 11月22日㈮

6 国語教育研究発表大会発表者・司会者・指導者打ち合わせ会 12月13日㈮

7 国語教育研究発表大会 2月14日㈮

⑴ 会 場 上柴公民館（深谷市）
⑵ 分科会 小学校3 中学校1
⑶ 講 演
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 笠井 洋佳 先生
演 題 「国語科授業・評価のブラッシュアップ～優れた授業・研究事例から学ぶ～」

Ⅲ 研究内容

1 国語教育夏季研修大会

⑴ 提案者・提案主題名

○小低1 大澤 理恵 坂戸市立坂戸小学校
・主体的に読み、表現する児童の育成
～読むことを通して～

○小低1 川邉 町江 鴻巣市立鴻巣南小学校
・わくわく読み、いきいき伝える南っ子の育成
～文章を正確に読み取り、適切に表現するための指導法の研究～

○小低1 鯨井 健嗣 本庄市立児玉小学校
・はがき新聞を用いた「読むこと」の指導の工夫
～文学教材における考えの形成を目指して～

○小低2 浅井 貴子 加須市立鴻茎小学校
・学び合い、支え合い、伸ばし合う児童の育成を目指して

○小低2 窪田 楓 川越市立南古谷小学校
・自ら学び続ける児童の育成
～できる喜びを感じる指導の研究～

○小低2 逸見 佳世子 深谷市立幡羅小学校
・新学習指導要領を見据えた授業展開
～説明文的文章の指導における深い学びを目指して～

○小中1 浦井 一哉 川口市立領家小学校
・確かな学力をめざし、生き生きと学ぶ子の育成
～読解力・表現力をつける、国語の授業づくり～

○小中1 守屋 しずか 秩父市立原谷小学校
・主体的、協働的に学び合い、思考力を深める児童の育成

～「話合い活動」を生かした指導の工夫～
○小中１　平田　阿也音　さいたま市立日進小学校
・自分の考えをもち、進んで表現できる児童の育成
～付けたい力を明確にした言語活動の充実～
○小中２　小林　久乃　久喜市立菖蒲東小学校
・なかまとともに学びあい，自分の思いや考えを豊かに表現することができる東っ子の育成
～主体的・対話的で深い学びの学習指導の工夫改善を通して～
○小中２　谷澤　彩美　入間市立金子小学校
・主体的に学び、伝え合い、深め合う児童の育成
～言語活動の工夫を通して、確かな読みの力を育む国語科の授業の研究～
○小中２　美﨑　翔太郎　草加市立八幡小学校
・主体的に学ぶ児童の育成
～国語科で読む力を高める授業づくり～
○小高１　池田　仁美　さいたま市立三橋小学校
・確かな学力を身に付け、生き生きと学ぶことのできる児童の育成
～だれもがわかる喜び、できる喜びを実感できる国語科の指導工夫を通して～
○小高１　鈴木　綾華　越谷市立東越谷小学校
・自分の意見や考えを形成し、豊かな読みをもとに、考えを広げ高め広げていく児童の育成
～文学的な文章の実践から～
○小高１　山﨑　樹彦　本庄市立本庄東小学校
・基礎・基本を身に付け、思考力・表現力をはぐくむ児童の育成
～「ぼくの世界、君の世界」の実践を通して～
○小高２　岩崎　慶一　東松山市立青鳥小学校
・「教える力」と「教わる力」の育成
～教師の基礎・基本と児童の学びの土台づくり～
○小高２　南雲　章弘　草加市立長栄小学校
・「読み」をたのしみ、生き生きと学び合う児童の育成
～15歳の姿を目指した授業づくり～
○小高２　眞光　史子　さいたま市立浦和大里小学校
・自ら考え、進んで伝え合い、深め合う子の育成
～言語活動を通して、書くことの力を高める指導の工夫～
○中１　新井　俊之　さいたま市立常盤中学校
・情報収集能力の育成を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を育む指導の工夫
～生徒が目的をもって情報を取捨選択し、的確に活用できる授業を目指して～
○中１　平林　良太　神川町立神川中学校
・意図的・計画的な書く指導の実践
～読み書き関連学習と短作文指導～
○中２　堀内　尚徳　鴻巣市立鴻巣南中学校
・批評を通して表現力（書く力）をつける学習指導
○中２　村山　俊介　加須市立加須平成中学校
・よりよい人間関係を築き、自他を大切にする生徒の育成
～東京都港区立赤坂中学校　甲斐　利恵子教諭の授業「握手」の追試を通して～

⑵　国語教育夏季研修大会講演要旨

○講　師　文教大学教育学部
学校教育課程国語専修
教授　山下　直　先生
○演　題　「平成29年度版学習指導要領とこれからの国語科学習指導」

【中教審の答申にみる国語の課題】

平成20年版の学習指導要領のもとでの成果として、言語活動を通して指導することは義務教育の段階では定着していることを行政も認めているところである。一方で、子供たちが情報を的確に理解し自分の考えの形成に生かしていけるようにすることには、依然として課題が指摘されている。言語活動を通じてどのような力を育み伸ばすのかを明確にして実践していくことが次の課題である。つまり、言語活動を通して指導することは定着してきたので、次の段階として、言語活動の質の向上を目指すことが、中教審の答申が指摘している課題ということである。

では、言語活動の質を高めるためにはどんなことをすればいいのか。どんなことを意識するといいのか。具体的な指導が、どのような力を育成するものであるのかより深く認識できるよう、内容が具体化されたものが資質能力の三つの柱（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等）ということになる。この三つの柱を基に、どんな力を育成するのかをもう少し深く認識できるようにしたいということである。指導要領に沿って言えば、「学びに向かう力、人間性等」は、目標には反映されているが、指導事項には反映されていない。「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」は、指導事項に反映されているので、今日もこれらについての話が中心となる。「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」を深く認識することは言語活動の意識の向上の手立てとなる。

【言語活動の質の向上につながる学習指導要領の見方　内容編】

20年版と29年版の比較。中学年の「話すこと・聞くこと」の指導事項の文末に着目して比較する。20年版の指導要領は、ア以外は「話す」「述べる」「話し合う」に

なっているということを頭に留めておいてほしい。29年版の指導要領は「事柄を選ぶ」「構成を考える」「工夫する」「自分の考えを持つ」「考えをまとめる」ということで「話す」「話し合う」「述べる」という言葉は一つも出てこない。この文末が大事なポイントだと私は考えている。

20年版も29年版もアの指導事項は「必要な事柄」に中心がある。何か話す時に「必要な事柄」を集めてくる。20年版の「関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること」という指導事項においても、「目的を意識すること」「日常生活から集めること」を、指導事項に顕在化されていなくても自分の授業の中で意識的に行ってらっしゃる先生はたくさんいると思われる。そう考えると、アの指導事項は文言が入れ替わってはいるが、「必要な事柄」を中心とした事項であることには変わりないということである。イの指導事項は「理由や事例など」の事項である。これは、理由や事例を挙げて筋道を立てて話を作っていく「構成」の部分は、何ら変わっていないということである。つまり、まず私たちが押さえていくべきことは 、指導事項の内容自体は大きく変わっていないということである。むしろ「20年版のその指導事項理念をそのまま引き継いで今の事項が出来上がっている」というように考える方がより自然である。

変化した点は何か。その書きぶり、表現の仕方である。20年版のその理念を理解して自分の授業に反映させている先生は、指導事項の書きぶりが変わっても、やることに変わりはない。「社会に開かれたカリキュラム」を鑑みて事項の中心的、「どんな能力をつけたいのか」というところを焦点化していくということである。これを資質能力の明確化と言っているのである。

「話すこと・聞くこと」の文末表現を改めて比較する。20年版は「話す聞くための能力を身に付けるための指導事項にも関わらず、指導事項で『～話すこと』と表現すると話す聞く能力をつけるための「話す能力」とは何か」がわかりにくいのではないかという指摘があった。そのため29年版は話を聞くために必要な資質能力を見えやすくしたということである。

【言語活動の質の向上につながる学習指導要領の見方 系統編】

教える内容、指導する内容はほぼ変わっていないが、系統を丁寧に見て配列を今までよりも丁寧にしたということ。言語活動の質の向上の手立てにつながる学習指導要領の見方としては、内容に大きな変化はなく、資質能力をより明確にする書きぶりにし、系統をより吟味した配列になっているということ。

「学習者にどんな力を身に付けさせるのか」＝「単元の目標」を今までよりも捉えやすくしたいという願いが込められている。単元ごとに授業展開に違いがでるようにしたい。

しかし、教材は変わっているのにやっている授業は変わらない、教材ごとに違った授業の展開がなかなか生み出していけないという現状もある。

系統に注目すると、どんなところを焦点化すればよいのかということが見えやすくなってくる。どんな力を付けるのかということが、単元ごとに違うということを教師自身が明快に意識でき、その力を付けるための言語活動が変わってくる。それは言語活動の質を高めるということに繋がっていくのではないか。つまり、「どのような資質能力を身に付けるのか」ということを、これまで以上に明確にした言語活動を行えるようになる。そういうことを目指した指導要領になっている。

中学校　第1学年　読むこと

	20年版		29年版	
言語の特徴や使い方に関する事項	ア	文脈の中に置ける語句の意味を的確に捉え理解すること。	➡「知識及び技能」へ（語彙）	
文章の解釈	イ	文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。	ア	文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え，要旨を把握すること。	構造と内容の把握
	ウ	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容の理解に役立てること。	イ	場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて，描写を基に捉えること。	
			ウ	目的に応じて必要な情報に着目して要約したり，場面と場面，場面と描写などを結び付けたりして，内容を解釈すること。	精査・解釈
			エ	文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えること。	
自分の考えの形成	エ	文章の構成や展開表現の特徴について自分の考えを持つこと。	オ	文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにすること。	考えの形成
	オ	文章に表れているものの見方や考え方を広くすること。			
情報の扱い方に関する事項	カ	本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け，目的に応じて必要な情報を読み取ること。	➡「知識及び技能」へ（読書）	

【終わりに】

平成20年版の指導要領が出た時には、「言語活動とはどのようなことをすればよいのかといった質問があった。ところが今やそのような質問は本当になくなってきた。10年かけると定着していく。先生方がちょっとした意識をもって変えていくことで、10年かけて定着していくような流れを作っていくことが大切だと考える。

言語活動の質を上げていきたい。ところがすぐに質を上げることは簡単ではない。だから、少しずつ上げていこう。「少しずつ」という思いの一つ一つが先生方の意識を高め、また授業の力を高めていくことになると私は思う。

2　中学校国語学力調査（第61回）

⑴　ねらい

中学生一人一人の国語学力の実態や問題点を把握し、学習指導の工夫改善に役立てる。

⑵　調査の分野・領域・資料文

①文学的文章の読解・鑑賞

１年『天地ダイアリー』　（ささきあり）
２年『流星と稲妻』　（落合　由佳）
３年『線は、僕を描く』　（砥上　裕將）

◎文章中の登場人物の心情や展開を、表現に即して読み取る力を確かめる問題を出題した。

②説明的文章の読解

１年『皮膚はすごい―生き物たちの驚くべき進化』　（傳田　光洋）
２年『「食べること」の進化史　培養肉・昆虫食・３Ｄフードプリンタ』　（石川　伸一）
３年『「こころ」はいかにして生まれるのか　最新脳科学で解き明かす「情動」』　（櫻井　　武）

◎文章内容や構成、要旨等を、正しく読み取る力を確かめる問題を出題した。

③放送による問題（会話を聞く）

１年　委員会の活動報告
２年　「ごみを減らすためにできること」をテーマとしたパネルディスカッション
３年　「卒業前に地域のためにできること」をテーマとした話し合い

・話の概要を聞き取る問題
（話題の中心・意見の根拠　等）
・話の組み立て方の特徴や工夫をつかむ問題

④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関する問題

１年　主語を問う問題
２年　品詞の種類（副詞と形容詞）を問う問題
３年　助動詞の用法（打ち消し）を問う問題

なお、本年度より３年生のみ古典の問題を新設した。主語、歴史的仮名遣い、内容を問う問題を出題した。

⑤漢字の読み書き

	読み取り	書き取り
１年	車窓・著しい・度胸・熟れる・興奮	映す・誕生日・険しい・発揮・預ける
２年	車窓・起伏・滞る・催す・継承	検討・故障・誤る・壁面・率いる
３年	車窓・赴任・省く・峡谷・煩わしい	愉快・緊張・完璧・弧・退く

⑥作文

・事例や根拠を挙げて自分の考えを構成に注意して書く。

生徒にとって身近な話題や場面を設定し、資料から読み取ったこと等を踏まえて、自分の意見を述べる力について、その実態把握を目指した。

⑶　参加校状況

①参加校　13校

②地域別参加校数

さいたま…０　　南　　部…４
西　　部…２　　北　　部…１
東　　部…５　　国県私立…１

③参加生徒数　3,951名

④学年別参加生徒数

１年…1,216名
２年…1,238名
３年…1,497名

⑷　改善点

○国の教育施策との関連

調査結果を国の教育施策（全国学力・学習状況調査）と関連させ、「知識」を問う問題と「知識を活用」する問題を作成した。考察結果を報告書に掲載した。

⑸　結果の報告

埼玉大学、県教育委員会の指導・助言を得て集計処理し、問題ごとの正答率、誤答分析、指導のための方策等を含めて、国語教育研究大会冬季研究大会において報告を行う。

また、報告書（Ａ４判）を実施中学校宛に送付した。

２　書　写　教　育

埼玉県書写教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「確かな書写力を身に付け、文字文化を大切にする心を育む書写教育」

２　主題設定の理由及び方針

平成から令和へと年号が変わり、新しい時代を迎えた。教育も小・中・高等学校は改訂「学習指導要領」が告知され、小・中学校の国語科書写は「知識及び技能」に位置付けられた。高等学校国語科では「現代国語」「言語活動」の両方に書写や文字文化の内容が入り、小・中・高の連携した指導が求められている。

中学校国語科書写において「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」とある基本的な考え方に基づき、今年度の研究主題を「確かな書写力を身に付け、文字文化を大切にする心を育む書写教育」とした。

学習指導要領の改訂の方向性としては「何ができるようになるのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか」という観点を中心に組み立てられており、「主体的、対話的で深い学び」が重要とされているが、国語科書写においてもその視点から授業を改善する必要がある。

お手本を見て正確に書き写すことを中心とした今までの授業から、児童生徒が自ら課題を発見し、お互いに意見を交換したり発表したりして、対話的な学びから解決策を思考し、実際に文字を書くことを通して深い学びを実現する授業にしていくことが重要と考える。

このことを踏まえて、本研究会では、特に小学校低学年の水書用筆を用いた指導方法と小学校・中学校、更に高等学校の国語科、芸術科書道へと繋ぐことができる文字文化に興味をもたせる書写教育を目指し、実技研修会や授業研究会などを通して、教員の指導力の向上を図り、書写教育の推進を図った。

夏季実技研修会を８月２日㈮に県立富士見高等学校を会場に、午前中は書写授業の基本的な指導の仕方や水書用筆の指導など、午後は書きぞめの指導方法や課題の書き方について講師を招いて研修した。

授業研究会を10月17日㈭に行田市立東小学校を会場に、小学校３年生の毛筆「ひらがなの筆使い」を題材にした授業を公開し、先生同士の意見交換や講師の先生からの指導等、研究協議を行った。

Ⅱ　活動状況

１　役員会の概要

⑴　４月23日㈫　理事会　　県民活動総合センター
　◯県硬筆展覧会開催要項・審査規程審議
⑵　５月17日㈮　総会・研究協議会・講演会
　　浦和コミュニティーセンター
　◯総会（書写書道教育連盟・書写教育研究会）
　◯研究協議会・講演会
⑶　６月４日㈫　常任理事会　本庄市立本庄東小学校
　◯県硬筆展覧会本部・開催地区協議会
　◯本部事務分担及び計画
　◯県書きぞめ展覧会語句選定・開催要項案審議
⑷　６月19日㈬　理事会　　本庄市立本庄東小学校
　◯県硬筆展覧会作品審査会
　◯県書きぞめ展覧会開催要項案審議
⑸　10月11日㈮　理事会　　県民活動総合センター
　◯県書きぞめ展覧会開催要項・審査規程審議
　◯会報（埼書教連）発行
⑹　11月5日㈫　常任理事会
　　三郷市立瑞沼市民センター体育館
　◯県書きぞめ展覧会本部・開催地区協議会
　◯県硬筆展覧会語句選定・開催要項案作成
⑺　1月22日㈬　理事会
　　三郷市立瑞沼市民センター体育館
　◯県書きぞめ展覧会作品審査会
　◯県硬筆展覧会開催要項案審議

２　研究発表会の概要

⑴　小中高等学校書写書道教育研究協議会
　◯期　日　　令和元年５月17日㈮
　◯会　場　　浦和コミュニティセンター
　◯参加人数　55名
　◯研究発表者・発表テーマ
　①「書くことの楽しさや喜びを味わわせるとは」
　　鴻巣市立赤見台第二小学校　奈良　恵理子　先生
　②「字形を正しく意識させ、
　　表現力を高める書写指導」
　　八潮市立八條中学校　　須郷　秀敏　先生
　◯講　演
　・演題　「新教育課程とこれからの書写書道教育」
　・講師　文教大学教授　　豊口　和士　先生

３　研修会の概要

⑴　実技研修会

◯期　日　　令和元年８月２日㈮
◯会　場　　埼玉県立富士見高等学校
◯参加人数　37名
◯研修内容及び講師
「毛筆の基本・書きぞめの指導法」
・前埼書写研会長　　荻田　哲男　先生
・前埼書教連理事長　　風間　道雄　先生

⑵　埼玉県書写教育研究会委嘱授業研究会

【行田地区】
◯期　日　　令和元年10月17日㈭
◯会　場　　行田市立東小学校
◯参加人数　42名
◯単元名・授業者
「ひらがなの筆使い」
行田市立東小学校　　神田　美千恵　先生

⑶　各地区書写実技研修会・授業研究会

４　展覧会の概要

⑴　第58回硬筆中央展覧会
◯会　期　　令和元年６月22日㈯・23日㈰
◯会　場　　本庄市立本庄東小学校
◯出品点数

・推薦賞	小学校	282点
	中学校	128点
・特選賞	小学校	843点
	中学校	384点
・優良賞	小学校	1,686点
	中学校	768点
		4,091点

◯課　題　　11項参照

⑵　第72回書きぞめ中央展覧会
◯会　期　　令和２年１月25日㈯・26日㈰
◯会　場　　三郷市立瑞沼市民センター体育館
◯出品点数

・推薦賞	小学校	125点
	中学校	79点
・特選賞	小学校	501点
	中学校	318点
・優良賞	小学校	626点
	中学校	399点
	合　計	2,048点

◯課　題　　11ページ参照

⑶　令和元年度教職員書道展覧会
◯会　期　　令和２年１月25日㈯・26日㈰
◯会　場　　三郷市立瑞沼市民センター体育館
◯出品点数　４点

５　研究刊行物

⑴　「研究集録」第57号の発行

※　令和元年度硬筆展覧会参考手本揮毫者

小一　加須市立大越小学校　　大澤　美和子　先生
小二　県立深谷第一高等学校　　鷹啄　知美　先生
小三　幸手市立上高野小学校　　中島　奈緒子　先生
小四　幸手市立上高野小学校　　中島　奈緒子　先生
小五　さいたま市立泰平小学校　　齊藤　裕子　先生
小六　さいたま市立泰平小学校　　齊藤　裕子　先生
中一　松伏町立松伏第二中学校　　関根　祐介　先生
中二　松伏町立松伏第二中学校　　関根　祐介　先生
中三　県立越谷東高等学校　　野末　有紀　先生

※令和２年度書きぞめ展覧会参考手本揮毫者

小三　鶴ヶ島市立新町小学校　　根岸　光　先生
小四　さいたま市立泰平小学校　　齊藤　裕子　先生
小五　北本市立東小学校　　熊切　優子　先生
小六　嵐山町立玉ノ岡中学校　　福田　英正　先生
中一　県立川口青陵高校　　新井　和徳　先生
中二　嵐山町立玉ノ岡中学校　　福田　英正　先生
中三　県立川口青陵高等学校　　新井　和徳　先生

Ⅲ　研究内容

行田支部研究発表

１　発表者

行田市立東小学校　　神田　美千恵　先生

２　研究テーマ

「基礎基本を身に付け、主体的に書写を楽しむ児童生徒の育成を目指して」

新学習指導要領では、小中連携を基本にしながら、相互交流の実践と具体的な取組が必要である。そこで、基礎基本を大切にしながら「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、指導過程を工夫していく必要があると考え、研究テーマとして設定した。

３　発表内容

◎　県書写教育研究会委嘱「授業研究会」より

⑴　はじめに

小学校学習指導要領国語解説には、「文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること」とある。そこで、指導過程を見直し、日常生活における書写の能力を高めるための取組を実践した。

⑵　単元名・教材名　ひらがなの筆使い「にじ」

⑶　実施学年学級　行田市立東小学校　３年１組

⑷　児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は明るく素直な児童が多く、休み時間になるとすべての児童が外遊びをしている。

３年生から毛筆が始まったこともあり、週に１時間の書写の学習をとても楽しみにしている。

３年生の毛筆の学習でこれまでに、「横画」「縦画」「はらい」「おれ」「はね」の書き方を学習し

た。

毛筆の学習をきっかけに字形を整えて書こうとする意識をもつ児童が増えてきたが、正しい鉛筆の持ち方、姿勢や授業への集中などは、継続的な意識付けが必要である。また、筆圧を加減したり字形を認識したりすることについても、意図的な指導が必要だと考えている。

本単元では、毛筆で漢字の点画を学習してきた児童が、初めて平仮名に挑戦する。『にじ』を題材に、基本の点画として「曲がり」と「点」の筆使いの理解と習熟を図る。平仮名は、漢字と違って曲線的な筆使いであるが、無理に曲線を強調せず自然な運筆を心がけさせたい。また、「点」は小さいが始筆・送筆・終筆の筆使いを意識させるようにする。

学習の進め方としては、１年生の平仮名の硬筆学習を想起しながら進め、前時まで毛筆で学習した漢字の点画とくらべて、どんなところが違うか考えながら進めていきたい。そうすることで、漢字と平仮名の特徴が捉えやすくなる。毛筆で書くだけでなく、学習の最初と最後に硬筆で書く活動を取り入れることで、硬筆と毛筆のつながりを実感させたい。

⑸　単元の目標

○平仮名の筆使いに気を付けて書こうとしている。

○平仮名の筆使いを理解して、正しく書くことができる。

⑹　単元の指導計画

第１時　漢字とひらがなのちがいを見つけて書く。

第２時　ひらがなの穂先の動きに気を付けて書く。

第３時　ひらがなの「まがり」「点」の筆使いに気を付けて書く。

⑺　本時の学習指導（２／３時）

①目標

○平仮名の筆使いを理解して、正しく書くことができる。

②展開

ア　本時の学習課題を知る。

イ　自分の課題を試し書きと比べる。

ウ　「にじ」の基準を確認する。

エ　練習をする。

オ　毛筆でまとめ書きをする。

カ　硬筆で日常化をはかるために、「にじ」「にじ色」を硬筆で書く。

キ　本時の学習を振り返る。

⑻　「授業研究会」を終えて

①〈授業について〉

・手首の運動や姿勢の確認の合い言葉などの工夫があり、基礎が定着していた。

・筆順やつながりの確認をするためにチョークで字をなぞっていたのがわかりやすく、残るのもよい。

・過去の自分の作品と比較した点がよい。

・透明シートを重ねることで、上達したところや課題が見えてよかった。しかし文字の大きさを比べてしまって自信をなくしてしまうこともあるのではないか。

・電子黒板やＤＶＤで視覚的に見せるだけでなく、実際に先生が書いて穂先の動きを見せるのは効果的だった。

・最後の硬筆での振り返りで自己評価、相互評価ができていてよかった。

・他者との交流が意欲につながっていた。

・書く枚数は少なかったが、段階を踏んでいたので上達が見られた。

②〈これからの書写指導について〉

・水書用筆の使い方や授業の仕方

・１時間の中で書く時間はどれくらいとればよいのか。

③指導講評

指導者：文教大学講師　　荻田　哲男　先生

・習字ではなく書写、手本ではなく基準、清書ではなくまとめ書きなど、書写の用語を教師が適切に使う。

・めあてにそった褒め言葉を使うこと。上手下手ではない。

・今回の授業では書く枚数は少なかったが、今回のやり方もよい。慣れてきたらもう一枚書かせてもよい。

・課題の文字を勉強するのではなく、課題の文字を使って何を勉強するのかが大切。

・書写は国語の一環であるから、国語の授業とつなげる必要がある。はがきを書くなど学習したことを活用する機会を作るとよい。

・水書は導入で使える。ウォーミングアップとしても効果的である。

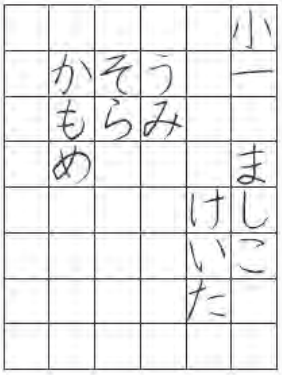
・左利きの児童はそのままでもよいが、右から書くようにできているのでどちらもやらせてもよい。左利きでやるときには左から右へ進むワークシートを作り選択できるようにするのもよい。

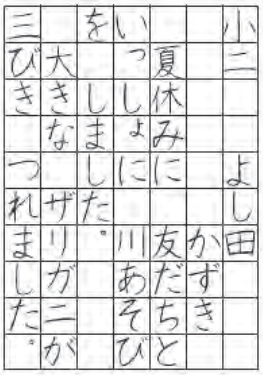
Ⅳ　今後の課題

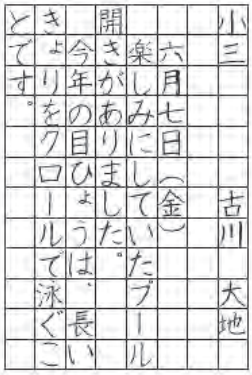
課題として、「水書用筆」を用いた書写指導の普及と実践、また、書写授業においても「主体的、対話的で深い学び」が主流となるような授業研究を一層推進し、教師の指導力の向上、児童生徒の書写力の育成を図っていきたい。

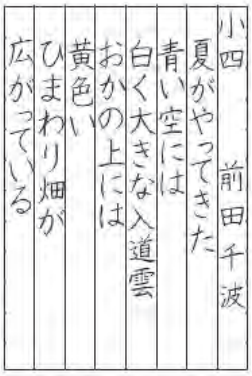
令和元年度　硬筆・書きぞめ展覧会参考手本

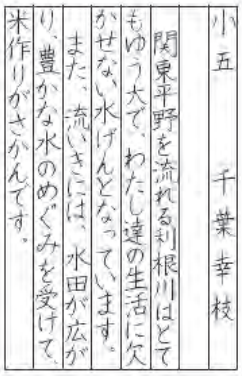
第58回硬筆展覧会課題

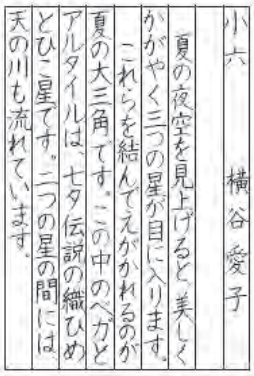

小一
ましこ
けいた
うみ
そら
かもめ

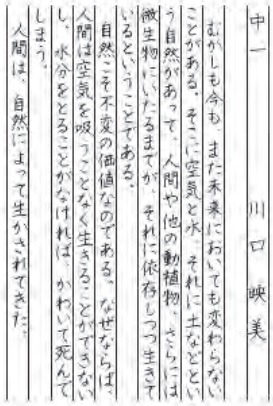

小二　よし田かずき
夏休みに友だちといっしょに川あそびをしました。
大きなザリガニがつれました。

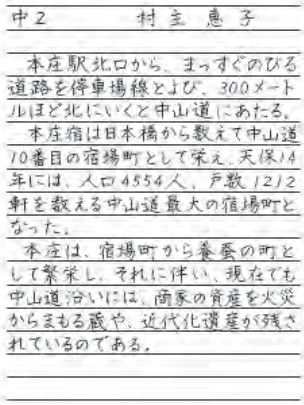

小三　古川大地
六月七日（金）楽しみにしていたプール開きがありました。今年の目ひょうは、長いきょりをクロールで泳ぐことです。

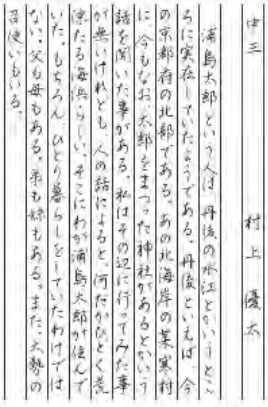

小四　前田千波
夏がやってきた
青い空には
白く大きな入道雲
おかの上には
黄色い
ひまわり畑が
広がっている


小五　千葉幸枝
関東平野を流れる利根川はとてもゆう大で、わたし達の生活に欠かせない水げんとなっています。また、流いきには、水田が広がり、豊かな水のめぐみを受けて、米作りがさかんです。


小六　横谷愛子
夏の夜空を見上げると、美しくかがやく三つの星が目に入ります。これらを結んでえがかれるのが夏の大三角です。この中のベガとアルタイルは、七夕伝説の織ひめとひこ星です。二つの星の間には天の川も流れています。


中一　川口映美
むかしも今も、また未来においても変わらないことがある。それこそ空気と水、それに土などという自然があって、人間や他の動植物、さらには微生物にいたるまでが、それに依存しつつ生きているということである。
自然こそ不変の価値なのである。なぜならば、人間は空気を吸うことなく生きることができないし、水分をとることがなければ、かわいて死んでしまう。
人間は、自然によって生かされてきた。


中2　村主恵子
本庄駅北口から、まっすぐのびる道路を停車場線とよび、300メートルほど北にいくと中山道にあたる。
本庄宿は日本橋から数えて中山道10番目の宿場町として栄え、天保14年には、人口4554人、戸数1212軒を数える中山道最大の宿場町となった。
本庄は、宿場町から養蚕の町として繁栄し、それに伴い、現在でも中山道沿いには、商家の資産を火災からまもる蔵や、近代化遺産が残されているのである。


中三　村上優太
浦島太郎という人は、丹後の水江というところに実在していたようである。丹後といえば、今の京都府の北部である。あの北海岸の某寒村に今もなお太郎をまつった神社があるという話を聞いた事がある。私はその辺に行ってみた事が無いけれども、人の話によると、何だかひとく荒涼たる海岸らしい。そこにわが浦島太郎が住んでいた。もちろん、ひとり暮らしをしていたわけではない。父も母もある。弟も妹もある。また、太郎の召使いもいる。

第72回書きぞめ展覧会課題

さくら
小三　山上明子

えど川
小四　川岸清司

語り合い
小五　赤木泰美

世界の友
小六　田中保志

令和の春
中一　石田光昇

万葉の歌
中二　秋田知恵

平和の祭典
中三　松井祐樹

３　社　会　科　教　育

埼玉県社会科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

○小学校「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」

○中学校「追究する力を育てる社会科学習～主体的・協働的に学ぶ学習の充実～」

社会科教育の今日的課題は、当面する社会的事象を自分のこととして受け止め、習得した知識や技能を活用して問題の解決に当たり、社会における自分の在り方を確かにしていく能力をいかに身に付けるかである。また、社会科の本質は、単に社会的事象に関する事項を数多く覚えることではなく、社会的事象のもつ社会的意味を追究することによって社会認識を深め、自らの生活の在り方を確かなものにしようとすることである。

本県の社会科教育は、戦後まもなく全国に先駆けて発表された川口プランに始まり、その精力的な実践研究は今日に受け継がれ、数多くの成果を挙げてきた。

本研究会は、社会科教育の今日的課題と本質的課題に対して、これまでの研究成果を生かして、研究・実践を行っている。

平成30年度には、新学習指導要領の趣旨を取り入れるべく、小学校は「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」を主題とし、10月25日㈭、26日㈮に川口市の４会場で、「第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会」を開催した。２日間で、全国各地から、延べ1,500名を超える参会者の皆様に、埼玉県から最新の研究を発信することができた。この研究成果を広めていくことが、今後の課題である。

中学校では、平成13年度に研究主題を「生徒がつくり自ら学ぶ社会科学習の在り方」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」を、平成21年度に研究主題を「学ぶ楽しさを味わい、わかる喜びを体感できる社会科学習」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」を、平成29年度には、「追究する力を育てる社会科学習－主体的・協働的に学ぶ学習の充実－」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」をそれぞれ開催し、成果を挙げた。川越関ブロ大会の成果を生かし、今後の研究発表大会に備え、平成30年度に研究推進委員会を立ち上げ、本年度も引き続き新たな研究を模索している。

Ⅱ　活動状況

１　理事研修会

⑴　第１回理事研修会

○期日　令和元年６月18日㈫

○会場　別所沼会館ヘリテイジ浦和

○講師　さいたま市立博物館主任指導主事　武久　浩之

○演題　「新学習指導要領とこれからの博物館活用」

⑵　第２回理事研修会

○期日　令和２年２月14日㈮

○会場　久喜市郷土資料館

○内容　令和元年度事業のまとめと令和２年度事業計画について

２　現地研修会

○期日　令和２年２月14日㈮

○会場　久喜市郷土資料館

○内容　久喜市郷土資料館の見学等

３　第53回小・中学校地域学習研修会

⑴　主催　埼玉県社会科教育研究会
　　後援　埼玉県教育委員会

⑵　期日　令和元年８月２日㈮

⑶　会場　荒川上流河川事務所

⑷　研修内容及び講師

○講義「荒川上流部の防災・減災対策について」
　荒川上流河川事務所防災情報課長　林　　健二

○さいたま築堤工事現場・西遊馬防災ステーション工事現場・災害対策室見学

本年度は荒川上流河川事務所を会場に開催した。

林様には、荒川上流部の防災・減災対策について、具体的な取組を交えてご講義いただいた。

さいたま築堤工事現場・西遊馬防災ステーション工事現場・災害対策室見学では、先進的な機械を活用して計画的に進められている様子を間近で見たり、工事に関わる方々の思いを聞いたりすることができた。

４　第48回埼玉県社会科教育研究会研究発表大会

⑴　期日　令和元年８月２日㈮

⑵　会場　荒川上流河川事務所

⑶　発表者

＜小学校＞

○「埼玉県の東部低地の用排水の教材化～新学習指導要領の「防災」の視点を入れて～」

八潮市立大原小学校　村橋　直樹

○「社会とのつながりを考え続ける児童の育成～社会との関わり方を選択・判断する学習を通して～」
川口市立鳩ヶ谷小学校　千守　泰貴

○「主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善」
さいたま市立大成小学校　廣瀬　悠

＜中学校＞

○「言語活動の充実と生徒の主体的な学習を促す社会科指導の工夫～適切な課題を設けて行う学習～」
久喜市立鷲宮東中学校　大名　拓史

○「追究する力を育てる社会科学習～主体的・協働的に学ぶ学習の充実～」
ふじみ野市立福岡中学校　林　遼平

○「確かな学力を身に付け、心豊かに生きる生徒の育成～新学習指導要領を踏まえた授業の実践～」
熊谷市立妻沼東中学校　山下　紘樹

⑷　指導者

埼玉県教育局義務教育指導課主任指導主事
藤井　真仁

川越市教育委員会学校教育課指導主事　寺内　和広

５　ブロック別授業研究会

＜小学校＞

⑴　東部ブロック

○期日　令和元年 10月29日㈫

○会場　久喜市立栗橋小学校

○授業者と単元名　矢部　利英　６年
「世界に歩みだした日本」

○研究の概要

本研究授業は、令和２年度より全面実施される新学習指導要領に基づき実践した。本小単元では、明治中・後期、大正期における大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争の勝利、条約改正の歩み、医学の発展などの歴史的事象を具体的に調べることを通して、国際的地位の向上を理解できるようにすることをねらいとした。

⑵　西部ブロック

○期日　令和元年10月25日㈮

○会場　所沢市立泉小学校

○授業者と単元名　飯田　太一　４年
「三富の開たく」

○研究の概要

本研究は、埼玉県西部の所沢市と三芳町にまたがっている三富地区を教材に授業を行った。

本研究を進めた所沢市社会科副読本等編集研究協議会では、埼玉県社会科教育研究会の研究テーマである「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」に沿って、現地へ足を運び三富地区の歴史を肌で感じながら教材研究を進めた。

⑶　南部ブロック

○期日　令和元年10月８日㈫

○会場　上尾市立東町小学校

○授業者と単元名　山岸　　司　４年
「郷土に伝わる昔の人々の願い」

○研究の概要

研究テーマ「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」の実現を目指すとともに、新学習指導要領に示されている「社会的事象の見方・考え方」を働かせた学習活動の研究についても併せて取り組んだ実践である。

⑷　北部ブロック

○期日　令和元年12月３日㈫

○会場　神川町立青柳小学校

○授業者と単元名　大久保　尚郁　４年
「県内の伝統・文化（秩父夜祭）」

○研究の概要

埼玉県社会科教育研究会の小学校研究主題「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」をもとに、本実践を行った。

今回は、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている、日本三大美祭とも称される「秩父夜祭」を県内の伝統文化の具体的事例として教材化を図った。

⑸　さいたま市ブロック

○期日　令和元年12月11日㈬

○会場　さいたま市立和土小学校

○授業者と単元名　堀　　泰治　５年
「情報を伝える人々」

○研究の概要

情報化社会の中で、児童の情報を扱う人間としての資質の向上を目指して、授業を構想し、研究を行った。

⑹　指導者

県教育局西部教育事務所指導主事　歌代　圭介　氏
県教育局北部教育事務所指導主事　矢島　弘一　氏
所沢市教育委員会指導主事　新井　祐紀　氏
上尾市教育委員会指導主事　松林　剛志　氏
本庄市教育委員会指導主事　栗原　　完　氏
羽生市立三田ヶ谷小学校長　細村　一彦　氏
さいたま市教育委員会指導主事　塩野　光洋　氏
さいたま市立新和小学校長　河野　秀樹　氏
埼玉県社会科教育研究会長、副会長、役員

＜中学校＞

⑴　東部ブロック

○期日　令和元年10月25日㈮

○会場　羽生市立西中学校

○授業者と単元名　新井　弘之　３年
「公共の福祉」
○研究の概要
現代社会の見方・考え方の基礎となるのが、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」という考え方である。多くの人々は家族、学校、地域社会、職場などの様々な集団を形成し、そこに所属して生活している。そして、集団に所属する人は、一人一人個性があり多様な考え方や価値観をもち、また利害の違いがあることから、当然、集団の内部で問題（トラブル）や紛争が生じる場合もある。このような「対立」が生じた場合、多様な考え方をもつ人が社会集団の中で共に成り立ちうるように、また、互いの利益が得られるよう、何らかの決定を行い、「合意」に至る努力がなされている。その際の決定の内容や手続きの妥当性についての判断基準が「効率」と「公正」である。
本単元の学習を通して、生徒の人権に対する興味・関心を高め、更に人間の尊重についての考え方を深めることにつながると考える。

⑵　西部ブロック

○期日　令和元年12月13日㈮
○会場　川越市立霞ケ関東中学校
○授業者と単元名　神崎　士龍　２年
「江戸幕府の成立と鎖国」
○研究の概要
本実践は研究テーマである「追究する力を育てる社会科学習　問題解決的な学習を通して～主体的・協働的に学ぶ学習の充実～」を受け、主体的に追究する意欲や、他者と協働して課題を解決しようとする意欲・態度を高めることを意識して構成したものである。また、単元のまとめと振り返りの区別にも留意した。

⑶　南部ブロック

○期日　令和元年12月５日㈭
○会場　朝霞市立朝霞第一中学校
○授業者と単元　外﨑　三吉　３年
「地方自治と私たち」
○研究の概要
本実践は、令和元年度埼玉県社会科教育研究会の「追究する力を育てる社会科学習～主体的・協働的に学ぶ学習の充実～」をテーマとし、単元を貫く課題を設定し、様々な資料から多面的・多角的に読み取る学習や、読み取った内容から課題を見つけ出し、その課題の解決プロセスをグループ活動により考え発表し、それらの学習活動を通して、他者と協働して課題を解決しようとする意欲・態度を高めることを目的として実践した。

⑷　北部ブロック

○期日　令和元年12月13日㈮
○会場　熊谷市立富士見中学校
○授業者と単元名　竹内　裕介　３年
「私たちの暮らしと経済」
○研究の概要
単元を貫く課題として「地域に長く愛されるハンバーガーショップを起業し、経営するとしたら、何について、どんなことを考える必要があるのか」を設定した。具体的には、毎時間、授業の場をハンバーガーショップの「経営会議」として、顧客満足度を上げるために、どのように経営していけばよいかを考えさせながら、多面的・多角的な視点から、経済に関する知識・技能を身に付けさせていく。

⑸　さいたま市ブロック

○期日　令和元年10月25日㈮
○会場　さいたま市立内谷中学校
○授業者と単元名　青木　　翔　１年
「中世の日本―東アジア世界との関わりと社会の変動」
○研究の概要
単元を通して、教員が提示した課題を教室内のどこでも・誰とでも協力して取り組んでよい活動を学習の前半部に実施し、相互承認とクラス全員の課題達成という条件を設定して自尊感情と協働性を高めた。
学習の後半部では、学習内容に関連したテーマでの意見交換を毎時盛り込んだ。「自分はどう思うか」という点に絞ったテーマとすることで、主権者となるための主体性の育成をめざした。
また、あえて意見交換という次元を焦点化することによって、他者の意見に耳を傾け、自らの意見を練り直すという部分を重視した。

⑹　指導者

県教育局義務教育指導課主任指導主事　藤井　真仁　氏
県教育局南部教育事務所指導主事　伊藤　敏郎　氏
県教育局北部教育事務所指導主事　矢島　弘一　氏
川越市教育委員会指導主事　中條　信裕　氏
朝霞市教育委員会指導主事　松本　欣巳　氏
さいたま市教育委員会指導主事　小倉愛咲子　氏
川越市立霞ケ関西中学校校長　堤　　貴幸　氏
さいたま市立大宮西中学校長　前島　一夫　氏
熊谷市立妻沼東中学校教頭　清水　利浩　氏
埼玉県社会科教育研究会長、副会長、役員

６　小学校社会科学習指導法研修会

本事業は、平成30年度の「第56回全国小学校社会

科研究協議会埼玉大会」の成果を基に、研究委員の授業実践の積み重ねを通して、研究委員一人一人の社会科授業における指導力の向上、さらには本県全体の社会科教育の推進を図っていくことをねらいとしている。本研修会は、２年間を1サイクルとする1年目であり、今後、研究委員の実践をまとめ『小学校社会科実践事例集第13集』を令和３年２月に完成させる予定である。

○期日　令和元年８月６日㈫
　　８月19日㈪
　　12月26日㈭
○会場　埼玉大学教育学部附属小学校

７　中学校基礎学力調査

生徒の基礎学力調査の実態を調査し、社会科指導の改善・推進の資料にすることを目的として実施し50回目を迎えた。

⑴　基礎学力問作委員会
○期日　令和元年６月26日㈬
　　７月23日㈫
　　８月７日㈬

⑵　基礎学力分析委員会
○期日　令和元年11月25日㈪
　　12月11日㈬
○会場　埼玉大学教育学部附属中学校

８　関東ブロック中学校社会科教育研究大会研究部会研究推進委員会

本事業は、2023年度に開催が決定した「第41回関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉大会」に向け、平成30年度から社会科の授業理論及び実践の研究を主なねらいとして組織された。

○期日　令和元年７月31日㈬・12月25日㈬
○会場　埼玉大学教育学部附属中学校

９　研究刊行物：会誌41号

おもな内容を、講演会記録、埼玉県社会科教育研究会研究発表大会要旨について、基礎学力問題、一年間のあゆみ（活動報告）として編集した。会誌は県内教育関係機関に送付し、同時に本研究会の理事を通じて、県内の全公立小・中学校に配付した。

10　その他

⑴　全国大会・関東ブロック大会

＜小学校＞

第57回全国小学校社会科研究協議会研究大会　奈良大会
○期日　令和元年10月31日㈭・11月１日㈮
○主題「よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習～子どもが社会とつながる授業を通して～」
○会場　岐阜市立岐阜小学校　他２校

第20回関東地区小学校社会科研究協議会　栃木大会
○期日　令和元年11月29日㈮
○主題「社会的事象の特色や意味を追究し、進んで社会にかかろうとする子どもを育てる社会科学習」
○会場　宇都宮市立横川東小学校　他１校

＜中学校＞

第52回全国中学校社会科教育研究大会　京都市大会
○期日　令和元年11月７日㈭・８日㈮
○主題「社会科で育てる未来の創り手～課題を解決するプロセスを見通す力を育む単元の開発～」
○会場　みやこめっせ（京都市勧業館）

第37回関東ブロック中学校社会科教育研究大会
千葉大会
○期日　令和元年11月22日㈮
○主題「変貌する未来を切り拓く社会科学習～手応えの発見につながる「深い学び」の探求～」
○会場　アパホテル＆リゾート東京ベイ幕張

⑵　役員一覧

会　長	斉藤　　実	（深谷市立桜ヶ丘小学校長）
副会長	村田　文雄	（久喜市立太東中学校長）
	山﨑　祐一	（ふじみ野市立大井西中学校長）
	清水　健治	（川口市立上青木南小学校長）
	沼尻　慎一	（熊谷市立玉井中学校長）
	井山　直之	（さいたま市立三橋中学校長）
幹　事	岩田　信之	（埼玉大学教育学部附属小学校）
	及川　恒平	（埼玉大学教育学部附属小学校）
	齊藤耕太郎	（埼玉大学教育学部附属中学校）
	内藤　圭介	（埼玉大学教育学部附属中学校）
	石高　吉記	（埼玉大学教育学部附属中学校）

Ⅲ　今後の課題

過去の研究大会の成果と課題を活かし、平成29年11月17日㈮に開催された第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉大会、平成30年10月25日㈭・26日㈮に開催された第56回全国小学校社会科研究協議会埼玉大会において、実践、研究を積み重ね、全国から来られた多くの参会者に、研究成果を発表することができた。

また、関中社埼玉大会、全小社埼玉大会への取組を通して、研究の裾野が若手教員を中心に広がってきていることが収穫である。

これからも、諸研修、ブロック別授業研究会、研究発表大会等を継続して実施し、研究に取り組んでいきたい。特に、今後も施設見学やワークショップ形式を取り入れた地域学習研修会やブロック別授業研究会において、工夫・改善を加えながら計画的・組織的に進めていくことで、これからの社会科教育を担う先生方の研修の充実に貢献できるようにしていきたい。

４　算数・数学教育

埼玉県算数数学教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

学ぶ楽しさを味わう算数数学の学習をめざして、学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材研究を深め、指導内容の系統を明らかにし、数学的活動を重視した学習指導が展開できるようにする。そのとき、児童生徒の学習意欲を喚起し、数理的な処理のよさや数学的な見方や考え方のよさに気付き、活用できるよう学習過程や指導の工夫に努め、指導と評価の一体化を図る。

Ⅱ　活動状況

１　小学校（主なもの）

⑴　総務部活動状況

①埼玉県算数数学教育研究会役員研修会

・令和元年６月４日㈫　埼玉大学附属中学校

・平成30年度事業報告、同決算報告

・令和元年度役員について

・令和元年度事業計画、同予算案　審議

・研究発表

「自ら『問うべき問い』を問うことについての一考察　　―算数を創る視点から―」

平成30年度　埼玉県長期研修教員

さいたま市立大砂土小学校　　天野　翔太　氏

②第101回全国算数・数学教育研究（沖縄）大会

・８月７日㈬・８日㈭・９日㈮

③第74回関東甲信静数学教育研究　千葉大会

・11月19日㈫

④日本数学教育学会総会（春期研究大会）

・令和元年６月16日㈰

会場　金沢大学

⑤研究集録の発行

令和元年度の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。今年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各小学校に１部ずつ配付した。

⑥算数教育研究発表会

・令和２年１月28日㈫

会場　さいたま市民会館うらわ

・講演

「『主体的・対話的で深い学び』の先にある学び」

埼玉大学教育学部教授　　二宮　裕之　氏

・研究発表

「数学的な見方・考え方を育てる算数指導」

発表者　川口市立柳崎小学校　　本橋　拓也　氏

司会者　川口市立並木小学校　　岩﨑　　洋　氏

「統合的・発展的に考察できる児童の育成」

発表者　川越市立川越第一小学校

大橋　美幸　氏

司会者　川越市立山田小学校　　石原　健作　氏

「主体的・対話的で深い学びの実現化に向けた算数科の指導の改善」

発表者　上里町立賀美小学校　　髙坂亜希子　氏

司会者　上里町立上里東小学校　林　香菜子　氏

「数学的な見方・考え方を働かせる算数指導」

発表者　深谷市立藤沢小学校　　加島　佳子　氏

司会者　深谷市立上柴西小学校　大塚　　俊　氏

「数学的な見方・考え方を育成する算数科授業～算数・数学のつながりを生かした指導～」

発表者　蓮田市立平野小学校　　田口　賢一　氏

司会者　久喜市立栗橋南小学校　奥澤　史康　氏

・委嘱校研究発表

「自分の考えを表現し、互いに学び合い、わかる喜びを味わえる児童の育成

～ＩＣＴの効果的な活用をとおして～」

発表校　東松山市立野本小学校

⑵　研修部活動状況

①小学校算数教育研究協議会

テキスト第52集を中心に県下10地区で研究協議をした。各地区の会場校等は次のとおりである。

北足立南部	11月28日㈭	川口市立木曽呂小学校
北足立北部	12月４日㈬	北本市立西小学校
さいたま市	１月24日㈮	さいたま市立土合小学校
入　　間	11月１日㈮	坂戸市立上谷小学校
比　　企	10月30日㈬	吉見市立東第一小学校
秩　　父	11月29日㈮	横瀬市立横瀬小学校
児　　玉	10月29日㈫	本庄市立共和小学校
大　　里	11月26日㈫	深谷市立本郷小学校
北　埼　玉	11月12日㈫	行田市立荒木小学校
埼　　葛	11月８日㈮	三郷市立新和小学校

②算数教育夏季研修会

・令和元年８月２日㈮

会場　さいたま市民会館おおみや

・講演

「学力・学習状況調査と算数科の授業改善」

県教育局市町村支援部義務教育指導課

主任指導主事　中谷　　樹　氏

「問題解決の過程を通して算数の『深い学び』を実現するために」
宇都宮大学教授　日野　圭子　氏
・研究発表
「児童が自ら創る算数・数学の授業づくり―「簡単な場合についての割合」の実践を通して―」
平成30年度　埼玉県長期研修教員
さいたま市立大砂土小学校　天野　翔太　氏

⑶　編集部活動状況

○算数教育研究協議会用テキスト第52集作成「数学的な見方・考え方を働かせる算数指導の展開」をテーマに掲げ編集を行った。

第１章では、数学的な見方・考え方を働かせる算数指導の展開についてまとめ、次のように示した。

１　はじめに
２「数学的な見方・考え方」とは
３「数学的な見方・考え方を働かせる指導」にするために
⑴　教材を「数学的な見方・考え方」でつなぐ
⑵　思考する方向の重点を決める
４「数学的な見方・考え方を働かせる指導」の視点と具体例について
５「数学的な見方・考え方を働かせる」ための評価について
６　おわりに

第２章では、各学年３編ずつ指導例を載せた。

⑷　調査研究部活動状況

○教員の意識調査

授業改善に向けた取組の一環として、昨年度に引き続き教員の意識調査を行った。調査項目については以下のとおりである。

１　職名、年齢、教職経験について
２「小学校学習指導要領解説　算数編」が改訂されたことについて
⑴「小学校学習指導要領解説　算数編」を持っているか。
⑵　領域の変化を知っているか。
⑶　内容が移行されたことを知っているか。
⑷　算数的活動が数学的活動に変わったことを知っているか。
⑸　数学的活動に変わったことで何が変わったかの記述
３　学習指導要領が全面実施になることに向けての意識調査

２　中学校（主なもの）

⑴　理事研修会

令和元年６月４日㈫
・平成30年度事業報告、会計報告、監査報告
・令和元年度役員、事業計画、予算案審議
・算数数学教育研究協議会について
・研修報告
平成30年度長期研修教員
「主体的に学ぶ生徒の育成を主眼とした数学的活動の実践」
行田市立行田中学校　新井　充貴　先生
「主体的・対話的で深い学びを通して身に付ける学びに向かう力の育成を目指す指導法の研究」
川口市立高等学校　穂谷野　陽一　先生
「数学を学ぶ楽しさを味わわせる指導法の研究
－統合的・発展的な考え方を観点として－」
秩父市立秩父第二中学校　髙橋　直人　先生

⑵　研究委嘱校

平成30・31年度　小鹿野町立小鹿野中学校
主題『学習意欲を高め、自ら学ぶ生徒の育成
～主体的・対話的で深い学びの授業の実践～』

⑶　数学教育研究協議会用テキスト第50集作成

「主体的に問題解決する力を育む数学学習指導
－図形／テキスト作成の50年を振り返り、不易と流行について考える」

という主題を設定し、理論と実践の結び付きを図るように編集したものである。

【理論編】

○数学的な見方・考え方を働かせる数学的活動
埼玉大学教育学部教授　二宮　裕之　氏

【実践編】

「理論編」で述べた考え方をもとに、各学年の＜数と式＞領域の授業実践例を載せている。各学年で６編の実践例をまとめ、主体的に問題解決する力を育むための数学的活動の具体を示し、その活動によってどんな力を育成するのかを明示した。また、学習指導において適切に振り返る場面を位置付け、学習活動と自己評価の一体化が図られていることを示した。「題材について」は、主体的に問題解決する力を育む具体的な活動を学年と領域の内容に即して明確に示した。「本時の計画」は、「学習活動」「指導上の留意点」「評価と具体的な手立て」の３項目で、本時のねらいに示した観点について具体的に評価する場面をしぼり、生徒の反応を評価し、どのようなフィードバックが目的達成に効果的かを明らかにした。

【特集編】

「テキスト作成の50年を振り返り、不易と流行について考える」では、はじめに、学習指導要領の改

訂について概要をまとめた。つぎに、テキスト第１集から第49集までの実践編（指導案例）のうち、その趣旨が今後も特に活用できそうな指導案を５編選び、推奨したい指導案として、そのポイントや今後実践するときの留意点等を簡潔にまとめた。

そして、テキスト作成の50年を振り返るため、テキスト第１集の作成から携わってこられた石田孝作先生をはじめとする諸先生方に集まっていただき、座談会を行った。理論編でも執筆をいただいている埼玉大学の二宮裕之先生をコーディネーターとして、不易と流行について考え、テキストが刊行されたいきさつやその時々で求められたこと、大切にした考え方等を、話していただいたものをまとめた。

⑷　数学教育研究協議会

⑶のような内容で作成された数学教育研究協議会用テキスト第50集をもとにして、県内10地区で、実践授業を通して研究協議会を実施した。

○南部地区

・11月５日㈫　草加市立川柳中学校

授業者　川柳中　西川　直実　氏
〃　宮口　泰尚　氏

・11月13日㈬　伊奈町立伊奈中学校

授業者　伊奈中　奥田　勇司　氏
〃　木部　将太　氏

○さいたま市

・11月13日㈬　さいたま市立木崎中学校

授業者　木崎中　小池　亮太　氏

○西部地区

・10月30日㈬　毛呂山町立毛呂山中学校

授業者　毛呂山中　図師　大智　氏
〃　佐藤　貴幸　氏

・11月15日㈮　滑川町立滑川中学校

授業者　滑川中　鈴木　優　氏

○北部地区

・10月30日㈬　秩父市立秩父第一中学校

授業者　秩父第一中　大久保　藍　氏
〃　武井　友和　氏

・10月29日㈫　本庄市立児玉中学校

授業者　本庄南中　井上　凌亮　氏

・12月13日㈮　熊谷市立別府中学校

授業者　別府中　沼澤　雄大　氏
〃　荒木　健　氏

○東部地区

・２月14日㈮　羽生市立東中学校

授業者　東中　奥木　智仁　氏

・11月８日㈮　三郷市立北中学校

授業者　北中　小倍　正行　氏
北中　尾崎　隆彦　氏
〃　田口　卓嗣　氏
〃　増子　透　氏
〃　奥村　健洋　氏

⑸　数学教育研究発表大会

○令和２年２月14日㈮

○浦和コミュニティセンター

３か年任期による数学教育研究推進委員会の３年次の発表である。７つの分科会に分かれ研究主題、研究仮説、実践例、今後の課題などを発表した。

○講演会

「中学校・高等学校数学科において数学的な見方・考え方を働かせて活用し探究する数学の学習指導」

埼玉大学教育学部准教授　松嵜　昭雄　氏

○分科会

・領域　図形
主題　筋道立てて考え、説明する力を養う図形指導

・領域　関数
主題　深い学びを実現させる関数指導

・領域　問題解決
主題　生徒が主体的に問題解決する授業
－知識構成型ジグソー法を取り入れた授業展開を通して－

・領域　データの活用
主題　データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断する力を育成する指導
－四分位範囲・箱ひげ図の指導を通して－

・領域　数学的な考え方
主題　数学的な考え方を深めることができる生徒の育成

・領域　活用・表現
主題　数学を活用する力の育成を目指して
－日常的な事象を数理的に考察し表現する活動を通して－

・領域　学習指導法
主題　ストラテジーを用いた深い学びを実現させる指導法の工夫
－可視化と対話による思考過程の認知と活用－

⑹　数学教育会誌の発行

平成30年度における会員の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。今年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各中学校に１部ずつ配付した。

３　研究会委嘱校

●委嘱校　小鹿野町立小鹿野中学校

●主　題　「学習意欲を高め、自ら学ぶ生徒の育成
～主体的・対話的で深い学びの授業の実践～」

〔研究の概要〕

⑴　主題設定の理由

・地域性に基づいた生徒の実態に即した取組
町内４校の統合後、生徒同士の望ましい人間関係を構築し、学び合いのできる集団づくりを意識した授業実践の蓄積

・校内研修主題との関連
小鹿野ベースを基とした小鹿野中としての授業スタイルの確立に向けた授業改善の方向性

・新学習指導要領における授業改善の視点とのつながり主体的・対話的で深い学びにつながる授業の実践による、数学的活動を通した、自ら学ぶ生徒の育成

⑵　研究の仮説

「主体的・対話的で深い学び」を視点に授業改善を行うことで、学習に対する興味や関心が湧き、他者との考えの交流が生まれ、課題を見いだして解決しようとするなど、自ら学ぶ生徒の育成につながると考えられる。

⑶　研究の実際

①「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善

生徒が、数学的な見方や考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けて、より深く理解したり、他者と考えの交流を行うことで、課題を見いだし解決したりすることができる。

ア　T.T指導、少人数指導の実施

個に応じた指導をするため、平成30年度は第１・２学年でT.T指導を行い、令和元年度は第２・３学年でT.T指導及び習熟度別少人数指導を行った。

イ　板書カードの活用

「目標・問題・課題・まとめ・振り返り」といった授業の中で使うものを板書カードとして作成した。後に、校内研修において「学び合い・見通し」を加え、他教科でも使える板書カードとして活用した。

ウ　ＩＣＴの活用

電子黒板やタンブレット端末を用いて、視覚的にわかりやすく提示した。

エ　授業研究

２年間で６度の研究授業を行い、事前の検討会や事後の研究協議を行った。

②小鹿野ベースの活用

「場面１：課題提示」、「場面２：課題解決」、「場面３：適用問題・活動」、「場面４：まとめ・振り返り」の学習過程に基づく授業展開を工夫した。指導案の中にも場面１～４を明確に示した。授業スタイルを確立することで、生徒自身に授業での見通しをもたせ、学習内容の焦点化ができる。そのことにより、生徒が楽しいと感じる授業の実践へとつながる。小鹿野町では、町内のすべての小中学校において、小鹿野ベースに基づく授業実践をしている。

③「振り返り」の充実

数学科で「振り返りの視点」を作成し、数学の授業で取り組んだ。後に、校内研修において、他教科でも取り組むこととなり、鹿中『振り返り』の視点に発展し、全教科で取り組んでいる。振り返りを行うことで、授業を通して学習したことや身に付いたことを自覚することができる。また、自己の変容にも気付くことができ、学習意欲を高めることにつながる。

④その他の取組

ア　鹿中数学検定の実施（平成30年度）
イ　コバトンプリントの活用（令和元年度）
ウ　数学コーナーの開設（令和元年度）
エ　「数学通信」の発行（平成30・令和元年度）
オ　復習プリントの配付（令和元年度）

⑷　成果と課題

①研究開始１年後の学力状況

H31県学調の中２数学、中３数学において県平均と同程度の伸びを示した。

②H31県学調質問紙調査から見えてきたこと

主体的・対話的な授業が定着しつつあることがわかった。問題や課題を工夫するとともに、まとめや振り返りを充実させていき、さらに深い学びとしていく。

③R01数学科アンケートから見えてきたこと

２・３学年において、個に応じた指導をさらに充実させるために、２学期から習熟度別少人数指導を導入したため、生徒一人一人の授業への参加意識が高まったと考える。

一方で授業での学びが、自主学習である予習や復習の充実につながっていない。適用問題・活動やまとめ・振り返りの時間をさらに充実させることが、次の学習への意欲につながると考える。

５　理　科　教　育

埼玉県理科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「自然を主体的・科学的に探究する
資質・能力の育成」

２　設定の理由及び方針

小学校では来年度、中学校では再来年度にせまった学習指導要領の全面実施に向けて、新学習指導要領の方針を踏まえ、それらを具現化すべく、研究、授業の充実に邁進していく必要がある。

今回の改訂では、大きな改変があった。特に次の２点について研究を進めていく必要があると考える。

一つ目は、理科の目標が「科学的な見方や考え方を養う」ことから、「理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育成する」ことへと、見方・考え方についての捉え方の整理がされたことである。改訂の意図を正確に捉え、授業にどのように反映していくのか、より具体的な指導法について研究が必要である。

もう一つは、「資質・能力」が「個別の知識や技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に整理されたことである。これに伴い、指導と評価の一体化がより強く求められ、評価が大きく変わると言える。また、その育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善が求められている。

そこで、本研究会では、これまで大切にしてきた「自然事象への主体的な関わり」「観察・実験を通した問題解決」を基盤とし、さらに新しい学習指導要領の方向性を踏まえ、その意向を具現化すべく、研究主題「自然を主体的・科学的に探究する資質・能力の育成」を設定した。本研究会が具体的な授業の在り方、児童生徒の姿を明らかにし、全県に発信していくことが理科教育の発展につながると考える。

上記の方針を基に、以下の５事項について研究を行った。

○問題解決の学習過程を重視した指導の工夫
○主体的・対話的で深い学びを実現させる授業改善
○問題解決の力を育成する指導の工夫
○日常生活や他教科と関連付けた授業の提案
○指導要領全面実施に向けた準備の発信

Ⅱ　活動状況（委員会・研究会等）

１　事務局打ち合わせ会（平成31年３月28日㈭）

会場：埼玉大学教育学部附属小学校

○年間事業計画・予算案の作成、及び総会準備

２　第１回常任理事研修会・総会

（令和元年６月19日㈬）会場：別所沼会館

○平成30年度事業・決算報告
○令和元年度事業・予算案審議、役員の承認
○退任役員への感謝状贈呈
○講演会
演題「理科における言語活動について
～結果と考察 理科系の作文技術に関連して～」
埼玉大学教育学部教授　近藤　一史　氏

３　理科教育研究発表会（教員の部）開催

（令和元年８月20日㈫）
会場：北本市文化センター

４　第２回常任理事研修会（令和元年８月30日㈮）

会場：埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

○科学教育振興展覧会（中央展）の計画
○理科教育研究発表会（教員の部）の反省
○　〃　（児童生徒の部）の計画

５　科学教育振興展覧会（中央展）開催

（令和元年10月25日㈮・26日㈯・27日㈰・29日㈫）
会場：さいたま市青少年宇宙科学館

６　理科教育研究発表会（児童生徒の部）開催

（令和２年２月７日㈮）
会場：熊谷市スポーツ・文化村「くまぴあ」

７　第３回常任理事研修会（令和２年２月18日㈫）

会場：埼玉会館

○科学教育振興展覧会（中央展）の反省
○理科教育研究発表会（児童生徒の部）の反省
○令和元年度の活動計画について

Ⅲ　研究内容

１　小学校理科指導法研究委員会

今年度は、「理科の見方・考え方を働かせて資質・能力の育成を目指す理科の授業づくり～」をテーマに研究を進めてきた。単元ごとに、どのような理科の見方を働かせられるのか整理しながら、「比較」を通して問題を見いだす力を中心に問題解決の力の育成のための手立てを追究し、実践を行った。

また、個人研究として、各自の実践を基に、研究内容の発表を通して協議し、深めることができた。委員の先生方に御執筆いただいた実践事例は、埼理研のホームページにて紹介している。

＜構成委員＞

顧　問	関根　努	県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
	佐久間貴宏	さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委員長	安部　正幸	川口市立東中学校長
副委員長	秋元　敏行	熊谷市立成田小学校長

委　　員
川口支部　住本　純一　川口市立神根小学校
蕨 支 部　野口　亮平　蕨市立中央東小学校
草加支部　美崎翔太郎　草加市立八幡小学校
朝霞支部　八田　敦史　和光市立下新倉小学校
鴻巣支部　小林　　隆　桶川市立桶川西小学校
　　淀野　　新　北本市立南小学校
　　小林　　隆　桶川市立桶川西小学校
上尾支部　髙橋　恭之　上尾市立原市小学校
さいたま支部　新海　智哉　さいたま市立高砂小学校
　　髙野　智大　さいたま市立道祖土小学校
　　田中　　麗　さいたま市立上小小学校
入間支部　千葉　　淳　狭山市立新狭山小学校
　　大平　　匠　狭山市立富士見小学校
比企支部　權田　尚岳　東松山市立野本小学校
秩父支部　伊古田博嗣　皆野町立皆野小学校
児玉支部　綿貫　祐介　本庄市立金屋小学校
大里支部　平柗　美誠　深谷市立榛沢小学校
　　神　　陽介　寄居町立鉢形小学校
北埼玉支部　稲場木綿子　加須市立礼羽小学校
埼葛支部　野水　理恵　越谷市立城ノ上小学校
　　金子　瑞貴　杉戸町立杉戸小学校

２　中学校指導法研究委員会

本年度は，新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業を研究し，その成果を蓄積していく。「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る工夫がなされた授業を実践し、その成果と課題を明らかにした報告書を埼玉県理科教育研究会のＨＰに掲載して、広く活用してもらうことを目指していく。

＜構成委員＞

顧　　問　鮫島　弘樹　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
　　佐久間貴宏　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委 員 長　安部　正幸　川口市立東中学校長
副委員長　小川　哲也　白岡市立白岡東小学校長
委　　員
川口支部　角田　洋史　川口市立在家中学校
蕨 支 部　石渡　　遼　戸田市立喜沢中学校
草加支部　平岡　恭奈　草加市立栄中学校
朝霞支部　桑田　敦史　志木市立志木中学校
　　澤山　　敬　新座市立第五中学校
鴻巣支部　森　　歩美　鴻巣市立吹上北中学校
上尾支部　東迫　隼平　上尾市立上尾中学校
さいたま支部　塚原　益夫　さいたま市立大成中学校
　　大嶋　陽介　さいたま市立大谷中学校
入間支部　及川　勇人　三芳町立三芳中学校
比企支部　米山　祐樹　ときがわ町立都幾川中学校
秩父支部　町田　翔平　小鹿野町立小鹿野中学校
児玉支部　若林　　佑　上里町立上里北中学校
大里支部　永島　大輔　熊谷市立中条中学校
　　大澤　豪人　深谷市立上柴中学校
北埼玉支部　野木村　祐　加須市立騎西中学校
埼葛支部　鵜野　美穂　春日部市立飯沼中学校
　　岡本雄太郎　久喜市立太東中学校

Ⅳ　研究委嘱校

１　春日部市立八木崎小学校（校長　福原　秀晴）

⑴　期　　日
令和元年６月20日㈭、10月31日㈭
１月28日㈫

⑵　研究主題
『思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業方法の工夫　～主体的・対話的な深い学びを通して～』

⑶　研究授業
第１学年「いえのしごと」
第２学年「わたしたちの野さいばたけ」
第３学年「物の重さを調べよう」
第４学年「水の３つのすがた」
第５学年「物のとけ方」
第６学年「水溶液の性質」

⑷　指 導 者
埼玉大学教育学部自然科学講座理科教育学教室
准教授　中島　雅子
埼玉県教育局東部教育事務所教育支援担当指導主事
須永　清司
春日部市教育委員会学校教育部指導課主幹
石川　和明
春日部市教育委員会学校教育部指導課指導主事
蓮見　慎哉

２　さいたま市立大谷口小学校（校長　八木澤　龍馬）

⑴　期　　日
令和元年６月19日㈬、６月28日㈮
７月10日㈬、11月６日㈬

⑵　研究主題
『気づき、考え、みがき合う　けやきっ子
～問題解決の力を育む理数教育の充実～』

⑶　研究授業
第１学年　生活科　「つくろう　あそぼう」
小川　卓也　教諭
第２学年　生活科　「大きくなあれ　わたしの野さい」　海老名　諒　教諭
第３学年　理　科　「こん虫を調べよう」
寳　　幸大　教諭
第４学年　理　科　「物のあたたまり方」
笠井　正範　教諭
第５学年　理　科　「物のとけ方」
根岸　佑妃　教諭
第６学年　理　科　「てこのはたらき」
眞矢　彩礼　教諭

⑷　指導者
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課
主席指導主事兼幼・小学校教育係長　浅野　博一
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課
主任指導主事兼中学校教育係長　佐久間貴宏

Ⅴ　理科教育研究発表会

１　教員の部

⑴　日　時　令和元年８月20日㈫
⑵　会　場　北本市文化センター
⑶　指導者　埼玉大学　小倉　康
埼玉大学　中島　雅子
県教育局義務教育指導課　鮫島　弘樹
さいたま市教育委員会　佐久間貴宏
県教育局南部教育事務所　小川　敏明
北本市教育委員会　中西　勇太
埼玉県理科教育研究会
郡　豊、秋元　敏行、竹田　聡
⑷　担　当　鴻巣支部（支部長　吉田　伸吾）
⑸　発表テーマ・発表者一覧
ア　小学校教員の部
①協働的に探究する活動を通して問題解決の力を高める指導の工夫
鴻巣市立松原小学校　内野　皓輝
②主体的・対話的で深い学びを実現するための学習指導の工夫
さいたま市立大谷口小学校　小川　卓也
③児童の主体的な学びを促し、思考力を高める指導の工夫
～分かるから考えられる・考えられるから分かる授業の展開のための３本の矢（手立て）～
越谷市立桜井南小学校　小林　正樹
④授業効果を高める指導法～児童の主体性を高める課題設定～
狭山市立富士見小学校　大平　匠
⑤科学的な思考力・判断力・表現力を高める理科指導の工夫
～他者と協働しながら思考し、問題を解決できる子の育成を目指して～
幸手市立上高野小学校　奥澤　智志
⑥科学的な思考力・判断力・表現力の育成を図る理科授業の工夫
～ICT機器の活用と話合い活動の充実を通して～
行田市立南河原小学校　斉藤　彰久
⑦主体的・対話的で深い学びの単元・授業づくりの研究
～一人一人が活動でき、深い学びにつながる工夫～
深谷市立桜ヶ丘小学校　金井　大季
⑧理科の資質・能力を育成するための学校全体での取組とその成果
本庄市立秋平小学校　田島　弘達
イ　中学校教員の部
①科学的な探究に必要な資質・能力を高める教授法の研究
～比例的変量関係認識を高め、理科学習を改善する学習プログラムの開発～
鴻巣市立川里中学校　内田　純一
②理科の「見方・考え方」を働かせて、深い学びを引き出す学習指導の工夫
上尾市立上尾中学校　東迫　隼平
③主体的・対話的で深い学びの実現につながる指導法の研究
川越市立山田中学校　佐藤　弘宣
④実験を計画する資質・能力を高める指導の工夫
鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校　坂本圭之祐
⑤自らの考えをアウトプットできる生徒の育成
～考察から具体的な実験方法を考え、検証する授業実践～
美里町立美里中学校　設楽　俊一
⑥実験結果から対話的に考察を深める授業づくり
秩父市立秩父第二中学校　西　恭平

２　児童生徒の部

⑴　期　日　令和２年２月７日㈮
⑵　会　場　熊谷市スポーツ・文化村「くまぴあ」

(3) 指導者　埼玉大学教員　他

Ⅵ　科学教育振興展覧会

1　地区展

(1) 期間・会場　９月28日㈯～10月21日㈪
（県下10会場各３～4日間）

(2) 出品数　1,628点（小・中）

(3) 優秀な作品（小・中・高　110点）中央展へ

2　中央展

(1) 期間・会場　10月25日㈮・26日㈯
・27日㈰・29日㈪
さいたま市青少年宇宙科学館

(2) 出品数　小・40点　中・40点　高・30点

(3) 審査員
埼玉大学教育学部
教授　近藤　一史　冨岡　寛顕　金子　康子
准教授　日比野　拓　大朝由美子　中島　雅子
埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課指導主事
熱尾　茂樹
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
鮫島　弘樹
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主席指導主事兼係長
浅野　博一
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
佐久間貴宏
埼玉県理科教育研究会 副会長　郡　豊
埼玉県理科教育研究会 副会長　秋元　敏行
埼玉県高等学校理化研究会 会長　水石　明彦
埼玉県高等学校生物研究会 会長　町田　邦弘
埼玉県高等学校文化連盟自然科学専門部 会長
中村　篤

(4) 受賞作品

◎埼玉県知事賞

「２年越しの飼育！
わたしのヤママユの一生」
熊谷市立妻沼小学校
小池　彩羽

「だんごむしの研究
パート８～わたしの
だんごむし・だんちゃん～」
和光市立第二中学校
荻島　温香

「水系リチウムイオン
－亜鉛二次電池の性能向上」
埼玉県立坂戸高等学校
鈴木　志歩　浅川　光輝

◎埼玉県議会議長賞

「Mission　最強の柱を探せ！」
春日部市立正善小学校　天野　馨優

「アメリカザリガニ　Procambarus clarkiiの
メスからの繁殖行動
～メスもオスを識別し、オスへ向かう～」
埼玉大学教育学部附属中学校　森　香南子

「自作自動採水装置を用いた雨水の分析」
獨協埼玉中学高等学校　髙橋　知己

◎埼玉県教育長賞

「洗濯物が乾く時間が見えた
～およそで広がるわくわく！！～」
川口市立芝富士小学校　髙橋　いお

「水の衝突」　深谷市立岡部中学校　久保　寛恭

「アメリカツノウズムシの脅威
～ナミウズムシは生き残ることができるか～」
埼玉県立松山高等学校　松本　陽彩
他２名

Ⅶ　今後の課題

いよいよ小学校では４月より、学習指導要領完全実施となる。具体的な指導法、そして大きな変換となる評価方法についての研究が急務といえる。本研究会から新たな理科教育を発信できるよう、各委員会で研究を深めたり、総会において教科調査官や有意義な研究を行っている先生の講演会を開催したりするなど、研究と発信の場をより確保していく必要がある。発信の方策として、研究会のホームページの刷新、更新頻度の向上を図った。研究会を身近なものとして感じてもらえるよう、今後も様々な意見を取り入れながら、よりよいものにしていきたい。

また、働き方改革の流れを受けて、理科教育研究会の事業についても見直しを行った。今年度は２つの委員会の廃止、研究集録をホームページ掲載により冊子作成の廃止、各行事による運営の印刷物等の精選などを行った。児童生徒の授業が一番の優先事項と考え、県内の先生方に自信をもって子供たちと向き合ってもらえるような形での見直しを今後も考えていく。特に行事の運営面での見直しを進めていく。来年度からは夏に行う理科教育研究発表会教員の部を隔年開催していく予定である。

6 音 楽 教 育

埼玉県音楽教育連盟

Ⅰ 研究主題と方針

1 研究主題

「伝わる音楽」

～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～

2 研究主題について

⑴ 「伝わる音楽」について

これまでの音楽科の授業の中で、表現領域において児童生徒が思いや意図をもって音楽表現を工夫する際に、その根拠が大切にされなかったり、思いや意図と音楽表現が適切に結び付いていなかったりする学習活動が見られた。また、鑑賞領域においては、「感じ取りましょう」「味わいましょう」と知覚・感受する視点が児童生徒まかせになってしまう授業や、知覚・感受をする活動が重視されずに、教師から児童生徒に一方的に知識として教え込むような授業が行われることもあった。つまり、音楽の様々な特性から音楽美を感得し合う「音楽の共有」が十分になされないままに、授業が展開されることが課題となっていた。

そこで、本研究では、協働的な学びを重視し、表現領域及び鑑賞領域で、児童生徒同士、教師と児童生徒が音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合うことを「伝わる」とし、「伝わる音楽」があふれて展開される授業の創造を目指すこととした。

表現領域において児童生徒が「伝わる音楽」を目指すとき、音や音楽に対するイメージを膨らませ自分なりの意図をもち、試行錯誤して表現することが大切であり、音楽表現と結び付け、そこに音楽に対する新しい価値を創造しようとする。その際、自分なりのイメージや表現意図を表すために、感性を敏感に働かせ、技能を高めながらよりよい音楽表現を求めていく。その過程は、思考・判断・表現を伴い、児童生徒の感性を豊かにしていく。

鑑賞領域においては、楽曲から音楽のよさや美しさなどについて、音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由を挙げながら言葉で表したり、その音楽が自分にとってどのような価値があるのかを明らかにしたりする活動をするとき、児童生徒は、音楽と言語を結び付けるために感性を働かせる。

こうした音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合う「伝わる」活動が、児童生徒の感性を豊かにすると考え、本主題を設定した。

⑵ 「音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して」について

音楽を共有し、音楽を多角的に捉えたり、自分の感じたことを改めて捉え直したりする中で、児童生徒の音楽的感受性は豊かになる。音楽的感受性を高めたとき、児童生徒は、明確な思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽のよさや魅力をより味わって聴いたりすることにつながる。音楽活動から感得した音楽の価値を明らかにしたり、再認識したりすることを通して、本研究で目指す児童生徒の姿とは、次のとおりである。

・思いや意図をもって音楽表現を工夫し、新しい価値を創造することができる児童生徒
・音楽のよさや魅力を味わい、自分にとっての価値を見い出すことができる児童生徒

音楽的感受性、すなわち音楽に対する感性を豊かにすることは、美しいものや崇高なものに感動する心を育む上で欠かすことができないものである。また、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考えたり、共感したり価値観の違いを認め合ったりすることのできる温かい心などを育むことにつながる。

以上の理由から、本研究の副主題とすることにした。

3 研究の方針

本連盟の研究推進に当たっては、役員研修会、音楽会、実技研修会、研究紀要（会報）のそれぞれの場において実施されるようにした。昨年に引き続き、組織及び活動内容の見直しについて、実践を行った上で、成果と課題を探った。それについては以下のとおりである。

⑴ 役員研修会

役員研修会は、本連盟における研究内容や方法についての共通理解が図られる研究推進において重要な研修会である。事業内容の厳選にかかわる指導の下、年間３回（６月中旬、夏季休業中、２月中旬）役員研修会を開催している。

第１回役員研修会では全体会にて、昨年度の事業報告があった。

本年度の活動内容について計画立案、報告があり、音教連の役員が一丸となって活動する方向を提

示することができた。

第２回役員研修会では、各地区からの活動報告がなされ、各地区、中央大会に関する音楽会についての報告を行った。また、埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事　大木まみこ先生を招いて講演会を開催した。その他、各部会の活動や研究委嘱に関する指導案検討や役割分担等が活発に行われた。

第３回役員研修会では、今年度の活動の総括として各地区活動報告と来年度に向けて準備を行った。また、春日部市立武里西小学校校長　横崎　剛志先生を招いてグループ討議を開催した。

⑵　音楽会

音楽会の実施状況は次のとおりである。

○地区音楽会を県内10地区で開催

○中央大会を県南・県北の２会場にて開催

⑶　実技研修会

現在、本連盟で実施している実技研修会は、次のとおりである。

○県内10地区ごとに行われる研修会

（実施計画、運営は各地区に一任）

○小学校管楽器指導に関する研修会

○合唱指導に関する研修会

これらの研修会は、児童生徒一人一人が豊かな音楽経験を積むことができ、そのことを通して「音楽性」「豊かな感性」を確実に育てていくために、音楽教育に携わる教師の資質向上を目的として実施されるものである。

このことの共通理解を図りながら、実施内容や方法について研究を進めていくようにした。

Ⅱ　活動状況

１　役員研修会

⑴　令和元年６月４日㈫

会場：さいたま市　プラザイースト

・平成30年度事業・決算及び監査報告

・令和元年度役員について

・令和元年度事業案・予算案審議　等

⑵　令和元年８月20日㈫

会場：さいたま市　プラザウエスト

・夏季地区研修会計画

・小・中学校音楽教育実技研修会計画

・地区音楽会の計画

・研究委嘱校研究発表大会について

・教育講演会

講師　埼玉県教育局市町村支援部
　　義務教育指導課
　　指導主事　　大木まみこ　先生

⑶　令和２年２月７日㈮

会場：埼玉大学教育学部附属小学校

・夏季地区研修会　地区音楽会報告

・グループ討議

講師　春日部市立武里西小学校
　　校長　　横崎　剛志　先生

２　音楽会

⑴　地区大会：日程及び会場

地　区	期　日	会　場
さいたま市	11月８日㈮ 11月12日㈫	（器）さいたま市民会館おおみや （歌）さいたま市民会館おおみや
南部・南	11月６日㈬	和光市民文化センター
南部・北	11月６日㈬	鴻巣市文化センター
西部・南	11月22日㈮	坂戸市文化会館
西部・北	11月８日㈮	東松山市民文化センター
秩　父	11月７日㈭	秩父宮記念市民会館
北部・西	11月６日㈬	本庄市民文化会館
北部・東	11月６日㈬	熊谷市江南総合文化会館
東部・北	11月８日㈮	パストラルかぞ
東部・南	11月12日㈫	春日部市民文化会館

＜実施委員長＞

さいたま市：（器）加藤　りさ（さいたま・美園中）
　　（歌）加藤　りさ（さいたま・美園中）
南部・南　：　藤川　英子（戸田・芦原小）
南部・北　：　吉野　徳子（鴻巣・鴻巣北小）
西部・南　：　尾澤　栄一（狭山・入間野中）
西部・北　：　塚本久美子（吉見・東第一小）
秩　父　：　島嵜　孝夫（横瀬・横瀬小）
北部・西　：　前田　芳江（神川・神泉小）
北部・東　：　小島　一代（熊谷・奈良小）
東部・北　：　清水乃理子（行田・北河原小）
東部・南　：　横崎　剛志（春日部・武里西小）

＜指導助言者＞

さいたま市：（器）監物　幸彦（さいたま・見沼小）
　　（歌）宮本江津子（さいたま・海老沼小）
南部・南　：　横崎　剛志（春日部・武里西小）
南部・北　：　矢島　　彰（坂戸・千代田中）
西部・南　：　関口　景子（川口・本町小）
西部・北　：　岡島　一恵（富士見・水谷小）
秩　父　：　新井　麻起（熊谷・星宮小）
北部・西　：　清水乃理子（行田・北河原小）
北部・東　：　小熊　利明（川越・川越第一中）
東部・北　：　吉原　敦子（日高・高根小）

東部・南　：　藤川　英子（戸田・芦原小）

地区音楽会については、各地区により事情は異なるが、学校数の多いさいたま市、南部・南地区、西部・南地区、東部・南地区については、参加校のローテーションや実施方法についての配慮が必要である。

⑵　中央大会：日程及び会場

○県南大会　　11月28日㈭
　会　　場　　戸田市文化会館
　実施委員長　藤川　英子（戸田・芦原小）
　指導助言者　鈴木　静哉（埼玉大学教育学部）
　　花田　尚美（さいたま市教育委員会）

○県北大会　　11月22日㈮
　会　　場　　深谷市民文化会館
　実施委員長　新井　麻起（熊谷・星宮小）
　指導助言者　竹澤　栄祐（埼玉大学教育学部）
　　大木まみこ（埼玉県教育委員会）

３　夏季地区研修会日程、内容、会場

＜さいたま市＞

○期　日　令和２年２月25日㈫
○会　場　さいたま市立教育研究所
○講　師　佐野　　靖　先生（東京藝術大学教授）
・これからの音楽科教育が目指すもの

＜南部・南（旧北足立南部地区）＞

【川口市】
○期　日　８月19日㈪
○会　場　蕨市立文化ホールくるる
○講　師　坪能　由紀子　先生
　（開智国際大学　教授）
　Ensemble Pastel（木管６重奏団）
＜午前＞クリエイティヴィティとコミュニケーション能力を育む音楽づくり
＜午後＞音楽レクチャーコンサート

【草加市】
○期　日　８月20日㈫
○会　場　草加市立高砂小学校
○講　師　小梨　貴弘　先生
　（戸田市立戸田東小学校　教諭）
・音楽科ＩＣＴワクワク活用講座

【蕨市】
○期　日　８月21日㈬
○会　場　蕨市立第二中学校
○講　師　木下　喜子　先生
　（宮代町立百間小学校　教諭）
・わらべ歌を授業に取り入れるための実技研修会

【戸田市】
○期　日　７月23日㈫
○会　場　戸田市立戸田東小学校
○講　師　小梨　貴弘　先生
　（戸田市立戸田東小学校　教諭）
・戸田市ＩＣＴを活用した音楽授業の創造

【朝霞市・志木市・和光市】
○期　日　８月22日㈭
○会　場　志木市立志木第二小学校
○講　師　篠塚　裕美子　先生
　（ヤマハミュージックジャパン
　　インストラクター）
・打楽器の指導法について

＜南部・北（旧北足立北部地区）＞

○期　日　８月７日㈬
○会　場　花と音楽の館かわさと
○講　師　粟飯原　喜男　先生
　（音楽の授業をつくる会　代表）
・小・中学校における鑑賞指導について

○期　日　８月21日㈬
○会　場　上尾市立今泉小学校
○講　師　田久保　裕一　先生
　（東京指揮者研究会　代表）
・指揮法の実践研修

＜西部・南（旧入間地区）＞

○期　日　７月31日㈬
○会　場　狭山市立入間川小学校
○講　師　塚田　真夫　先生
　（合唱団「結」
　　「コールフロイント」指揮者）
　石井　ゆきこ　先生
　（東京都港区立芝小学校　主任教諭）
<午前> 授業に役立つ指揮法
<午後> これからの音楽の授業

＜西部・北（旧比企地区）＞

○期　日　７月26日㈮
○会　場　東松山市立高坂小学校
○講　師　岩井　智宏　先生
　（桐蔭学園小学部　教諭）
・音楽で心を開放し、学びを深めよう
　　～心の育成に向けて～

＜秩父地区＞

○期　日　12月11日㈬
○会　場　皆野町立皆野中学校
○講　師　高橋　浩美　先生

（埼玉県立秩父特別支援学校　教諭）
・特別支援学校での実践を踏まえた指導法

＜北部・西（旧児玉地区）＞
○期　日　８月８日㈭
○会　場　上里町立上里北中学校
○講　師　藤川　泰彰　先生
（桐朋女子高等学校音楽科　教諭）
・合唱の指導と指揮法について

＜北部・東（旧大里地区）＞
○期　日　８月７日㈬
○会　場　熊谷文化創造館さくらめいと
○講　師　佐藤　太一　先生
（埼玉大学教育学部附属中学校副校長）
・音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽と豊かに関わろうとする児童生徒を育てる音楽科の授業づくり

＜東部・北（旧北埼玉地区）＞
○期　日　７月26日㈮
○会　場　パストラルかぞ
○講　師　石上　則子　先生
（日本女子大学・東京藝術大学
大学院講師）
・音楽づくり・創作の授業づくり
～「音楽遊び」から「音楽づくり・創作」へ～

＜東部・南（埼葛地区）＞
○期　日　７月26日㈮
○会　場　松伏町中央公民館　エローラ
○講　師　石井　ゆきこ　先生
（東京都港区立芝小学校　主任教諭）
田久保　裕一　先生
（東京指揮者研究会　代表）
<午前>　これからの鑑賞の授業
<午後>　子供の表現を引き出す指揮の工夫

Ⅲ　研究

＜第61回関東音楽教育研究会神奈川大会＞
令和元年11月15日㈮
大会主題「音・人・心　ともにつなげる　音楽の力」
○第１分科会　小学校６年＜歌唱＞
「音楽に思いをこめて」
授業者　横須賀市立明浜小学校
宇佐美あかね　教諭
○第２分科会　小学校４年＜音楽づくり＞
「日本の音楽を知ろう～音階から音楽をつくろう～」
授業者　横須賀市立田浦小学校　村上　裕規　教諭
○第３分科会　小学校５年＜鑑賞＞
「音楽のききどころ」
授業者　横須賀市立城北小学校　岩島　　亮　教諭
○第４分科会　中学校１年＜歌唱＞
「歌詞の内容や曲想を感じ取り表現を工夫して歌おう」
授業者　横須賀市立久里浜中学校
遠藤　澄子　教諭
○第５分科会　中学校２年＜創作＞
「表現したいイメージにふさわしい箏のための旋律をつくろう」
授業者　横須賀市立鴨居中学校　櫻井あゆみ　教諭
○第６分科会　中学校２年＜鑑賞＞
「心情曲線と主題の現れ方から曲の構成を探ろう」
授業者　横須賀市立神明中学校　中田　里帆　教諭
【研究演奏】
○横須賀市立大楠小学校
○藤沢市立六会中学校
○横須賀市立大津中学校
○横須賀市立池上中学校
【指導者】
文部科学省教科調査官　　志民　一成　氏
文部科学省前教科調査官　　津田　正之　氏

Ⅳ　今後の課題

今後も研究主題「伝わる音楽」の基、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導計画を作成し、実践を行っていくことが必要である。

音楽活動における児童生徒の姿に、より一層の表現する喜びや音楽と関わる楽しさが表れるような授業を県内全体に広げていくことが、本連盟における次年度以降の課題である。

7　図画工作・美術教育

埼玉県美術教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

埼玉県美術教育連盟は創立71年を迎えた。この長きにわたる歴史は埼玉の図工・美術教育の歩みでもある。

また、造形教育研究大会も第61回を迎えた。大会を通じて研究の成果が県内各学校の図工・美術教育の進展に大きな役割を果たしてきた。

本年度の造形大会は、さいたま市ブロックを中心に開催され、夏季休業中に１日半で実施した。平成27年度から夏季休業中の開催により参加者の拡大を図り、創造体験研修会の各コースを県内５地区で担当することにより若手教員の育成と題材の発展を図ることをねらいとし、大きな成果を挙げることができた。

今後も、先輩諸氏が長年にわたって築き上げてこられた実践と研究が基盤となって本県の造形教育が発展してきたことを確認し合い、時代の流れを正確に捉えて改善をしていくとともに、図画工作・美術がもつ可能性を広げていきたい。

1　研究主題

「きらめく感性　つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり『深い学び』の探求～」
（２年次）

⑴「きらめく感性　つくりだす喜び」
（めざす子どもの姿）

子供が主体となり、意欲的に、自らの世界を豊かにひらき、新たな自分をつくりだしていくような姿を「きらめく感性」「つくりだす喜び」という言葉で表現した。

「感性」は、表現及び鑑賞の活動において、子供の感覚や感じ方などを一層重視することを明確にするために示している。様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものである。

子供が、自らの感覚や感じ方、表現の思いなど、自分の感性を十分に働かせ、つくりだす喜びを味わう姿がめざす子供の姿である。

⑵　「未来をひらく授業づくり『深い学び』の探求」
（めざす授業の姿）

未来に向けて、子供たちにどのような資質・能力を育んでいくかを明らかにし、より豊かな授業を創造していきたい。「未来をひらく授業づくり」には、そうした課題意識が示されている。また、新教育課程を見据え、「主体的・対話的で深い学びの実現」という授業改善の視点も生かしながら、私たちの授業実践や研究を改めて見直し、さらなる充実と深化を図っていくことをめざして、「『深い学び』の探求」とした。

2　活動方針

⑴　研究テーマは、時代の要請を受けて設定する。

⑵　今年度は、埼玉県造形教育研究大会で授業実践研究会と創造体験研修会を年１回（１日半）夏季休業中に開催した。

また、美術教育連盟の事業の見直しを図りながら、造形教育の広がりと発展を期す方法について模索した。来年度から造形教育研究大会の授業実践研究会と創造体験研修会のうち、どちらかを年１回（１日）夏季休業中に開催する。開催地は、令和５年度の関東甲信越静地区造形教育研究大会埼玉大会に向けて計画的に決定していく。

⑶　時代や社会の変化を見据えて、その要請に応える研究を推進する。

⑷　造形教育研究大会の諸準備に当たり、理事会等の期日や時間を活用し、必要に応じて大会スタッフや提案者等が連絡、相談し合う場を設けた。

Ⅱ　活動状況

会則に基づき、次の事業を行った。

５月10日㈮　役員研修会（常任理事会）
会場：埼玉大学教育学部附属小学校

６月14日㈮　総会
会場：ときわ会館中ホール

６月15日㈯　関東甲信越静地区造形教育連合都県代表者会議　参加
会場：新宿区立淀橋第四小学校

８月６日㈫・７日㈬　第61回埼玉県造形教育研究大会
会場：埼玉大学教育学部附属小学校

８月22日㈭　令和元年度身体障害者福祉のための第61回埼玉県児童生徒美術展覧会中央審査会
会場：埼玉県障害者交流センター

８月22日㈭　役員研修会（理事会）
会場：埼玉県障害者交流センター

10月11日㈮　郷土を描く児童生徒美術展
　　中央審査会
　　会場：本庄市立本庄東小学校
10月19日㈯　令和元年度身体障害者福祉のための
・20日㈰　第61回埼玉県児童生徒美術展覧会
　　会場：東松山市立松山第一小学校
11月14日㈭　第59回関東甲信越静地区造形教育
・15日㈮　研究大会　群馬大会参加
11月30日㈯　第54回郷土を描く児童生徒美術展
・12月１日㈰　会場：本庄市立本庄東小学校
１月25日㈯　第60回埼玉県小・中学校等児童生徒
～２月２日㈰　美術展　県下10会場で開催
２月14日㈮　役員研修会（理事会）
　　会場：埼玉県立近代美術館
２月15日㈯　第60回埼玉県小・中学校等児童生徒
・16日㈰　美術展　第12回中央展

Ⅲ　研究内容

１　第６１回埼玉県造形教育研究大会

⑴　大会主題

「きらめく感性　つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり『深い学び』の探求～」

⑵　趣旨

本連盟では、参加される先生方が研修会の主体となり、子供たちと同じ目線で、新しい授業提案や題材開発につながるような授業実践発表会や実技研修会を求めて、本大会を実施してきた。

平成27年度より、それまでは年２回に分けて開催していた「授業実践研究会」と「創造体験研修会」を夏季休業期間に１日半で実施した。子供たちが、つくりだす喜びにあふれる授業を実現したいとの思いで、子供たちの喜びの声や輝く顔を実現するための授業提案や体験研修を企画し、後者では、様々な素材を基にした題材の表現の在り方や可能性を追求する目標に加えて、題材開発という視点だけでなく創造的な技能と創造する心を学ぶことを重視している。

分科会ごとのテーマを設定し、参加される先生方がそれぞれの希望に応じて多様なコースを選択できるようにした。

⑶　主催　埼玉県美術教育連盟

⑷　後援　埼玉県教育委員会
　　さいたま市教育委員会

⑸　期日　令和元年８月６日㈫
　　授業実践研究会
　　８月７日㈬
　　創造体験研修会

⑹　会場　埼玉大学教育学部附属小学校

⑺　１日目　授業実践研究会
　　日程　受　付　　９：00 ～ ９：30
　　全体会　　９：30 ～ 10：10
　　提案①②　10：15 ～ 12：30

	分科会	分科会協議題
1	素材との対話	①　光と影のよさを発見して、 表現しよう ～おどる光、遊ぶかげ 光と影のミラクルワールド～ （小６年） ②　15歳の自分をみつめて ～素材を生かした立体自画像～
2	自己との対話	①　思い出を形にしよう 自己を見つめる表現活動 ～やったーねんど よっしゃーねんど～ ②　自分を見つめて ～自己との対話～ 未来を描こう ～キュビズムに挑戦～（中２年）
3	生活との対話	①“共同でつくりだすアート空間” 学校の生活空間を彩る造形遊び ６年生を送ろう いつもの場所に 特別な思いをのせて ②『Fairies of East』 ～発見！　東中の妖精妖怪～
4	作品等との対話	①　作品との対話を活性化し、思いをのびのびと表現する児童の育成 ～発想力を引き出す 図画工作科の研究～ ・「ひみつのたまご」　（小２年） ・「へんてこ山のふしぎなお話」 （小３年） ・「音から広がる世界」（小６年） ②　感じる・楽しむ・対話する ～短時間の積み重ねによる 鑑賞活動の可能性～ プチ鑑賞クイズに挑戦しよう （中２年）

⑻　２日目　創造体験研修会

日程　受　　付　　９：00 ～ ９：30
コース説明　　９：30 ～ 10：00
研修会　前半　10：00 ～ 12：00
後半　13：00 ～ 15：00
後片付け　　15：30 ～ 16：00

コース		テーマ・内容
Aコース	造形遊び	身近なものの価値再発見！
		身近な材料の素敵を皆で再発見。空間を感じ、点、線、面を意識してつくりだす造形遊びを楽しみましょう。スケッチブックに学びの足跡を付けて可視化を目指します。
Bコース	絵に表す	見て、感じて、表す ～○○を見て、感じて描く～
		ものの見方や考え方を深め、絵の具、クレヨン、カラーペンなど、様々な画材を使って、自分らしい表現を追求します。2学期以降の授業に役立つ研修を行います。
Cコース	立体に表す	さわって　クレイ
		特徴の違う紙粘土。たくさん種類があるけれど、どれを使ったらいーの！？一度は思うけれども、なかなか機会がなくて困っている、そんな先生方にお勧めです。
Dコース	生活に生かす	ＥＮＪＯＹ！！ 美術の力で生活を豊かに楽しく！
		身近にあるものに美術の力を加えて、生活を楽しく豊かにする体験をします。 キーワードは、“Enjoy‼”うれしくなったり、楽しくなったり、ワクワクしたり、ものの見方や考え方が楽しく変わる提案をしたいと思います。
Eコース	鑑賞活動	鑑賞の引き出し ～誰でもできる鑑賞授業入門～
		「鑑賞授業の引き出しを増やそう」をテーマに、様々な鑑賞ツールを使った体験をします。対話型鑑賞の模擬授業や映像を用いた鑑賞の活動など、グループによる演習を中心に行います。

＜1日目　授業実践研究会の様子＞

○授業実践についての協議が活発に行われた。

＜2日目　創造体験研修会の様子＞

○色水づくりを体験し、色の変化を味わっていた。

○絵の具を使った表現をいろいろと試しながら、鑑賞し合っていた。

○紙テープを丸めた中にビー玉を入れるおもちゃをつくり、この後、動き方を試していた。

Ⅳ　関ブロ大会への参加

1　第59回　関東甲信越静地区造形教育研究大会
群馬大会

⑴　大会テーマ

「出会い　かかわり　つながる造形」

⑵　期日　令和元年11月14日㈭・15日㈮

(3) 会場　（全体会）
・昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）
（公開保育・公開授業・分科会）
・前橋市立おおご幼稚園
・前橋市立原小学校
・前橋市立第六中学校
・前橋市立荒砥中学校
・群馬県立前橋東高等学校

(4) 日程
１日目　・都県代表者会議
・全体会
・記念講演
・レセプション
２日目　・公開保育、公開授業
・校種別分科会

(5) 埼玉県の発表者

発　表　者	分科会テーマ
古屋　美恵子 （深谷市立花園小学校）	材料とかかわり 友達とつながる造形　Ｂ鑑賞

Ⅴ　児童生徒美術展の開催

１　令和元年度　身体障害者福祉のための第61回　埼玉県児童生徒美術展覧会

(1) 主催・共催
主催　社会福祉法人
埼玉県身体障害者福祉協会
共催　埼玉県美術教育連盟

(2) 地区審査
県下10会場で地区審査が行われ、入選・特選作品が選ばれた。

(3) 中央審査会
令和元年８月22日㈭　埼玉県障害者交流センターで、地区審査特選作品750点の中から、特別賞の作品68点が選ばれた。

(4) 展覧会会期・会場
会期　令和元年10月19日㈯・20日㈰
会場　東松山市立松山第一小学校

(5) 表彰式
令和元年10月19日㈯　実施

２　第54回　郷土を描く児童生徒美術展

(1) 主催・共催
主催　埼玉県校外教育協会
埼玉県
埼玉県教育委員会
埼玉県芸術文化祭実行委員会
共催　さいたま市教育委員会
埼玉県市町村教育委員会連合会
埼玉県美術教育連盟

(2) 地区審査
県下10会場で地区審査が行われ、入選作品9,127点・特選作品1,007点が選ばれた。

(3) 中央審査会
令和元年10月11日㈮　本庄市立本庄東小学校において地区審査で選ばれた特選作品1,007点の中から、埼玉県知事賞等120点が選ばれた。

(4) 展覧会会期・会場
会期　令和元年11月30日㈯・12月１日㈰
会場　本庄市立本庄東小学校

(5) 表彰式
期日　令和元年11月14 日㈭　実施
会場　埼玉会館

３　第60回　埼玉県小・中学校等児童生徒美術展

(1) 主催・共催
主催　埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会
埼玉県美術教育連盟
共催　埼玉県市町村教育委員会連合会

(2) 会期　１月25日㈯～２月２日㈰

(3) 会場　県下10地区会場で開催

(4) 第12回中央展
①会　期　令和２年２月15日㈯・16日㈰
②会　場　埼玉県立近代美術館
③内　容　平面作品100点・立体作品100点
④表　彰　県知事賞
県議会議長賞
県教育委員会教育長賞
さいたま市教育委員会教育長賞
⑤表彰式　令和２年２月16日㈰　13時30分～
埼玉県立近代美術館

Ⅵ　今後の課題

図画工作・美術科として、学力の重要な要素である①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力・人間性等、そして、造形的な見方・考え方を重視した研究を推進していく。

また、「子どもの心」「確かな力」という観点を生かしつつ、研究主題に位置付けて、さらに「主体的・対話的で深い学び」を視点に研究を深めていく。

8 保 健 体 育 教 育

埼玉県保健体育研究会

本研究会は、小学校部会と中学校部会から成り立ち、互いに連絡を取り合いながら活動をしている。

以下、本年度の両部会の研究方針や活動状況について概略を報告したい。

Ⅰ 小学校部会

本部会の主な活動の中心は「県小学校体育研究協議会」である。本研究協議会は、決められた研究テーマに基づき、個人あるいは共同で研究した結果を発表し合って研究協議を重ね、より優れた体育科教育の指導法や資料を得ようとするものである。

従って、研究については実践的で、日々の指導に直接役立つものが求められている。

1 研究主題の決定

理事会を年度当初に開催し、県教育委員会の指導をいただき、どの学校にも共通した課題として次のような研究主題と三つの領域を決定した。そして、領域毎に分科会を組織して研究協議を進めている。

2 研究主題

第１主題（運動領域）

「資質・能力をバランスよく育み、運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫」

第２主題（保健領域）

「健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健教育の工夫」

⑴ 体つくり運動系

① 多様な動きをつくる運動遊び 【１・２年】

② 多様な動きをつくる運動 【３・４年】

③ 体力を高める運動 【５・６年】

⑵ ボール運動系（ゲーム、ボール運動）

① 鬼遊び（陣地を取り合うゲームに発展するもの） 【１・２年】

② ゴール型ゲーム（陣地を取り合うゲーム） 【３・４年】

③ ゴール型（陣地を取り合うゲーム） 【５・６年】

⑶ 保健

①「毎日の生活と健康」 【３年】

②「育ちゆく体とわたし」 【４年】

③「心の健康」「けがの防止」 【５年】

④「病気の予防」 【６年】

3 研究主題と方針

生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくためには、小学校段階において運動に親しむ資質や能力の基礎を確実に育成することが重要となる。

運動に親しむ資質や能力とは、運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲よく運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能などを指している。

これらを育てるためには、以下の３点が重要である。

⑴ 児童の発達の段階、運動の特性や魅力に応じて、資質・能力を関連付けながらバランスよく育み、運動の楽しさや喜びを全ての児童に味わわせる。

⑵ 児童に身に付けさせたい具体的な内容を明確にし、指導内容の確実な定着を図ることができるよう指導と評価を一体として行い、できる喜びや達成感を全ての児童に味わわせる。

⑶ 学習規律の確立を図り、人間関係が温かく、助け合い、励まし合い、教え合い、高め合う学習集団を育て、安全で効率的な授業が行えるよう努める。

以上のように、令和元年度の研究主題を設定した。

4 活動状況

⑴ 資料交換会

研究協議会の参会者に他地区の研究資料を事前に配付することにより、研究を深め、よりよい協議ができるように行っている。

⑵ 指導者・司会者・助言者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするために行っている。

⑶ 研究協議会

協議会においては、意見交換や協議が充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（９分科会）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

⑷ 指導者

○ 県教育局県立学校部保健体育課指導主事

○ 県教育局教育事務所指導主事

○ 県総合教育センター指導主事

○ さいたま市教育委員会指導主事

○ 市町村教育委員会指導主事

○ 県小学校体育連盟役員

5 研究の視点

本年度は、各運動領域の次のことに視点を当てて研

究を進め、協議する。

⑴　体つくり運動系

「体つくり運動系（「多様な動きをつくる運動（遊び）」「体力を高める運動」）」は、様々な基本的な体の動きを身に付けたり、体の動きを高めたりして、体力を高めるために行われる運動である。

低・中学年においては、発達の段階から体力を高めることを学習の直接の目的とすることは難しいが、将来の体力の向上につなげていくためには、この時期に様々な基本的な体の動きを培っておくことが重要である。

低・中学年「多様な動きをつくる運動（遊び）」では、他の領域において扱われにくい体の様々な動きを取り上げ、その行い方を知るとともに、運動（遊び）の楽しさを味わいながら体の基本的な動きを培う。

高学年「体力を高める運動」では、低・中学年の「多様な動きをつくる運動（遊び）」において育まれた体の基本的な動きを基に、各種の動きを更に高めることにより体力の向上を目指す。児童一人一人が運動の楽しさを味わいながら、自己の体力に応じた課題をもち、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動を行う。

⑵　ボール運動系

「ボール運動系」は、競い合う楽しさに触れたり友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる運動である。

「ゴール型」は、コート内で攻守が入り交じり、ボール操作とボールを持たないときの動きによって攻防を組み立てたり、陣地を取り合って得点しやすい空間に侵入し、一定時間内に得点を競い合うことを課題としたりするゲームである。

低・中学年「ゲーム」では、友達と協力してゲームを楽しくする工夫や楽しいゲームをつくり上げることが、児童にとって重要な課題となる。

集団で勝敗を競うゲームでは、規則を工夫したり、作戦を選んだりすることを重視しながら、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを一層楽しめるようにすることが学習の中心となる。公正に行動する態度、特に勝敗をめぐって正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。

高学年「ボール運動」では、互いに協力し、役割を分担して練習を行い、ボール操作とボールを持たないときの動きを身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心である。

ルールやマナーを守り、仲間とゲームの楽しさや喜びを共有することができるようにすることが大切である。

⑶　保健

保健については、自他の生命を尊重するとともに、健康的な生活行動や習慣を身に付け、生涯にわたって健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、小学校においては、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な事項で構成している。

第３学年「毎日の生活と健康」では、健康の大切さを認識するとともに、家庭や学校における毎日の生活に関心をもち、健康に良い生活を続けることについての課題を見付け、それらの解決を目指して基本的な知識を習得したり、解決の方法を考えたりできるようにする。

第４学年「育ちゆく体とわたし」では、体の発育・発達について、年齢に伴う変化及び個人差、思春期の体の変化などについて課題を見付け、それらの解決を目指して基本的な知識を習得したり、解決の方法を考えたりできるようにする。

第５学年「心の健康」では、心の健康については、年齢とともに発達すること及び心と体には密接な関係があることについて理解できるようにすること及び、不安や悩みへの対処について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え判断したりできるようにする。

「けがの防止」では、けがの防止について、けがが発生する原因や防止の方法について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断したりできるようにする。

第６学年「病気の予防」では、病気の予防について、病気の発生要因や予防の方法、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響などについて課題を見付け、それらの解決を目指して知識を習得したり、解決の方法を考え、判断したりできるようにする。

６　研究の推進

⑴　県小学校体育連盟各支部においては、必ず２領域（「体つくり運動系」「ボール運動系」）の研究に取り組む。なお、「保健」に取り組む支部は「体つくり運動系」「ボール運動系」のどちらかを合わせて２領域とすることができる。

⑵　学校内・地域のグループ、支部等で組織的に取り組むことが望ましい。

⑶　研究対象学年は、体つくり運動系とボール運動系

は全学年、保健は第３～６学年の中から選ぶ。

⑷　研究仮説を基に具体的な単元の学習指導計画を作成し、授業を実践して結論を導くようにする。

⑸　研究の結果については、単元の目標と評価規準に照らし合わせた指導の成果を踏まえ、児童の具体的な変容（数値等）を示して考察を進める。

７　今後の課題

○埼玉県やさいたま市の体力向上施策や課題となっている体力を踏まえたさらなる研究の推進。

○本研究協議会後、各地区で行われている報告会の確保と内容の充実。

Ⅱ　中学校部会

本部会の主な活動である「県中学校保健体育研究協議会」では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校における保健体育指導の充実と一層の進展を期するため、教科保健体育の指導及び学校における体育・健康に関する指導上の諸課題から研究主題を設定し、各校の実践を通して得られた成果を持ち寄り、研究協議をする。このことにより、一層充実した研究実践を進め、心身共にたくましい生徒の育成を期するとともに、指導者の資質の向上を図ることをねらいとしている。さらに、県の研究協議会に至るまでの各学校における実践、各地区での資料の作成など研究活動の充実を図る上からも重要な研究協議会である。

１　研究主題の決定

本年度の研究主題は、学習指導要領に基づく体育授業の実践を目指し、昨年度のアンケート調査の結果を参考にし、研究常任委員会で検討を加え、その話し合いでの問題点を県教育委員会・県中学校体育連盟・県保健体育研究会の三者で調整を図り、次に示すように決定された。

２　研究主題と方針

研究主題

「生徒一人一人を確実に伸ばす保健体育指導の実践」

＜第１主題＞

陸上競技の特性に応じた効果的な学習指導の工夫

⑴　研究の趣旨

陸上競技は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

第１学年及び第２学年では、「記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率の良い動きを身に付けることができるようにする」ことをねらいとし、第３学年では、「各種目特有の技能を身に付ける」ことを学習のねらいとしている。

学習指導要領の趣旨に基づき、生徒一人一人の自発的・自主的な運動への取組を引き出し、指導内容をバランスよく身に付けさせるとともに、運動の特性や魅力に触れる楽しさや喜びを味わわせるための学習指導の工夫をする必要がある。

⑵　研究の観点

陸上競技の運動種目は、競走種目（短距離走・リレー、長距離走又はハードル走）から１種目以上を、跳躍種目（走り幅跳び又は走り高跳び）から１種目以上をそれぞれから選択して履修できるようにすることとしている。特に、３学年は、これらの中から自己に適した運動種目を選択できるようにするとともに、第１学年及び第２学年の学習を一層深められるよう配慮することが必要である。生徒一人一人を確実に伸ばす授業の実践に当たっては、個々の能力、適性、興味・関心等に応じた学習指導に努めるとともに、生徒の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点や、より安全に配慮した指導計画の改善を図ることが大切である。

これらのことを踏まえて、これまでの取組を見直すとともに、改めて各学校や生徒の実態を的確に把握し、生徒一人一人を確実に伸ばす「陸上競技」の学習指導について研究する。

⑶　研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、生徒一人一人を確実に伸ばす「陸上競技」の学習指導について研究する。

＜第２主題＞

ダンスの特性に応じた効果的な学習指導の工夫

⑴　研究の趣旨

ダンスは、イメージをとらえた表現や踊りを通した交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動であり、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

第１学年及び第２学年では、「イメージをとらえた表現や踊りを通した交流ができるようにする」ことをねらいとし、第３学年では、「感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表ができるようにする」ことを学習のねらいとしている。

学習指導要領の趣旨に基づき、生徒一人一人の自発的・自主的な運動への取組を引き出し、体力と運動技能を高めるとともに、運動の特性や魅力にふれる楽しさや喜びを味わわせるための学習指導の工夫

をする必要がある。

⑵　研究の観点

生徒一人一人を伸ばす授業の実践に当たっては、個々の能力、適正、興味・関心等に応じた学習指導に努めるとともに、生徒の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点や、より安全に配慮した指導計画の改善を図ることが大切である。

そのためには、生徒一人一人が自らの目標や課題を明確にし、課題を解決し目標を達成できるようにすることが重要である。教師が生徒の課題に対して適切な資料を準備したり、学習を支援する用具の工夫や適切な言葉かけ等を行ったりすることが求められる。

これらのことを踏まえて、これまでの取組を見直すとともに、改めて各学校や生徒の実態を的確に把握し、生徒一人一人を確実に伸ばす「ダンス」の学習指導について研究する。

⑶　研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、生徒一人一人を確実に伸ばす「ダンス」の学習指導について研究協議を行う。

＜第３主題＞

健康で安全な生活を営むための実践力を育てる保健学習の工夫

⑴　研究の趣旨

「保健」については、個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることをねらいとしている。

中学校においては、主として個人生活における健康・安全について、科学的に思考し、理解できるようにすることを目指している。

このことは、発達の段階を踏まえて、心身の健康の保持増進に関する内容を、単に知識や記憶としてとどめるだけではなく、生徒が現在及び将来の生活において、健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断の下に意志決定や行動選択を行い、自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力の基礎を育成することを目指したものである。

⑵　研究の観点

小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、小学校における「身近な生活において実践的に理解する」という指導内容や学習状況を把握した上で、子供たちの発達の段階を踏まえて、指導内容を明確にすることが大切である。

このため、学習指導要領及び解説から学習内容、指導上の配慮事項、学習方法などを充分読み取る必要がある。

学習指導の展開では、基礎的・基本的な知識を習得した上で、思考力・判断力を育成するために知識を活用する学習活動を授業展開の中に取り入れていくことが重要である。例えば、事例などを用いたディスカッション、ブレインストーミング、心肺蘇生法などの実習、実験、課題学習、また必要に応じてコンピュータ等を活用したり、専門性を有する教員の参加・協力を推進したりするなど、多様な指導方法の導入が効果的である。

このように、生徒の興味や関心を生かし、主体的に活動させ、思考や判断が働くような授業づくりが求められている。そのため、指導方法や評価方法を工夫した効果的な保健学習の在り方について研究する。

⑶　研究協議の方向

研究の観点に基づき、学校や地域における授業実践を通して、実践力を育てる学習指導の在り方について研究協議を行う。

３　活動状況

⑴　資料交換会

研究協議会の参会者に他地区の研究資料を事前に配付することにより、研究を深め、より良い協議ができるようにするために行っている。

⑵　指導者・司会者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするために行っている。

⑶　研究協議会

分科会においては、意見交換や協議することが充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（各３グループ）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

⑷　指導者

○　県教育局県立学校部保健体育課指導主事
○　県教育局教育事務所指導主事
○　県総合教育センター指導主事
○　さいたま市教育委員会指導主事
○　市町村教育委員会指導主事
○　県中学校体育連盟役員

４　今後の課題

○県の体力向上施策や課題となっている体力を踏まえたさらなる研究の推進。
○小学校や高等学校の研究協議会と連携を図るなど研究協議会のさらなる充実。

９　英　語　教　育

埼玉県英語教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「21世紀を逞しく生き抜く日本人の育成を目指した英語教育　～コミュニケーションを大切にする生徒の育成～」

２　主題設定の理由及び方針

知識基盤社会化やグローバル化が加速度的に進展するこれからの社会において、子供たちが豊かに逞しく生きるために、語学を駆使し協力して課題を解決できるようコミュニケーション力の育成が求められている。

また、令和２年度より、小学校高学年で外国語が必修教科となることから、小学校・中学校とも上級学校との連携を一層進めるとともに、上級学校での英語学習の土台作りを行い、学年が上がるごとに英語の学習意欲が向上するよう、コミュニケーションの必要性と楽しさを体得させる指導を計画的に進めることが求められている。

こうした背景を基に、学習指導要領における外国語科の目標に照らし、これまでの実践をもとに、生徒一人ひとりが主体的にコミュニケーションを大切にする英語教育を進め、21世紀を逞しく生き抜く日本人の育成を目指すために本研究主題を設定した。

この手段に迫るために、３年間を通して育てたい生徒像の具現化に向け、

①統合的な言語活動を通した表現力の育成
②学習形態などを工夫した発信力の育成
③小中高の連携を意識した英語学習の推進

の３点を掲げ、研究を推進する方針である。

Ⅱ　活動状況および研究内容

１　行事計画

６月５日㈬　理事・幹事会
（年間の方針、総会提出議案等の審議）
於：八潮市立八幡中学校

６月５日㈬　総会・授業研究会
（決算、予算、役員選出、事業報告、事業計画についての審議及び研究協議）
於：八潮市立八幡中学校

６月14日㈮　埼玉県中学校英語学力調査問題作成委員研修会
（問題作成に当たっての研究協議①）
於：埼玉大学教育学部附属中学校

６月27日㈭　関ブロ都県代表者会
（関中英協理事会研修会）
於：国立オリンピック記念青少年総合センター

７月31日㈬　教員研究発表会準備会
（実施に向けての準備・役割分担）
於：坂戸市文化施設オルモ

８月６日㈫　埼玉県中学校英語学力調査問題作成委員研修会
（問題作成に当たっての研究協議②）
於：埼玉大学教育学部附属中学校

８月７日㈬　教員研究発表会
（講演、研究成果発表等）
於：坂戸市文化施設オルモ

８月20日㈫　埼玉県中学校英語学力調査問題作成委員研修会
（問題作成に当たっての研究協議③）
於：埼玉大学教育学部附属中学校

10月１日㈫　英語弁論大会準備会
（大会実施に向けての準備・役割分担）
於：本庄市児玉文化会館（セルディ）

10月10日㈭　第71回高円宮杯英語弁論大会埼玉県予選
（生徒による英語弁論大会）
於：本庄市児玉文化会館（セルディ）

11月15日㈮　第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会
（大会参加および代表者による提案）
於：国立オリンピック記念青少年総合センター

11月25日㈪　埼玉県中学校英語学力調査実施
（全学年実施）
於：各参加校

３月２日㈪　埼英研だより発行（広報誌の発行）
埼玉県中学校英語学力調査結果分析速報の発行

３月３日㈫　常任理事会
（年度末反省及び次年度全体研究）
於：埼玉大学教育学部附属中学校

３月31日㈫　研究紀要発行

2　役　員

６月５日㈬に八潮市立八幡中学校で行われた総会において、本年度の役員が次のように選出された。

・会　長　　阿久津一浩（さいたま・大成中校長）
・副会長　　東　　敬治（秩父・秩父第二中校長）
　　新井　英和（熊谷・奈良中校長）
　　笠井　誠司（草加・青柳中校長）
　　田部井康弘（鴻巣・広田小校長）
　　菅野　誠一（富士見・勝瀬中校長）
　　小林　美音（所沢・美原小校長）
　　小島　久和（越谷・越谷西中校長）
　　槇島　良治（久喜・鷲宮中校長）
　　柳澤登紀男（さいたま･大谷口中校長）
　　横井　寿彦（さいたま･下落合小校長）
・監　事　　茂木　隆資（深谷・花園小校長）
　　坪井　政彦（さいたま･針ヶ谷小校長）
・支部長
　さいたま市　　星野　　浩（さいたま・泰平中校長）
　北足立南部　　及川　祐一（草加・両新田中校長）
　北足立北部　　加藤　秀樹（北本・宮内中校長）
　入　　間　　竹本　文男（鶴ヶ島・西中校長）
　比　　企　　杣田　和子（小川・八和田小校長）
　秩　　父　　吉岡　　章（小鹿野・小鹿野中校長）
　児　　玉　　福島　　実（上里・長幡小校長）
　大　　里　　西澤　　淳（熊谷・江南中教頭）
　北 埼 玉　　藤間　隆子（加須・加須東中校長）
　埼　　葛　　内山　真二（久喜・鷲宮西中校長）

3　専門部組織

・行事部　総会、英語弁論大会を担当
　部　長　深須　英昭（深谷・深谷中教諭）
　副部長　川端　洋子（北本・宮内中教諭）
　副部長　直井　海斗（上里・上里北中教諭）
・研修部　教員研究発表会を担当
　部　長　笠原　　俊
　　（秩父・秩父第一中主幹教諭）
　副部長　髙橋　伸行（富士見・水谷中主幹教諭）
　副部長　城　由美子（戸田・新曽中教諭）
・調査研究部　埼玉県中学校英語学力調査問題作成、結果分析を担当
　部　長　嶋村　　淳（さいたま・美園南中教諭）
　副部長　小山　協子（狭山・柏原中教諭）
・広報部　研究紀要、広報誌の発行
　部　長　田中　佑治（久喜・菖蒲南中教諭）
　副部長　松本　光正（東松山・市の川小教諭）
　副部長　出口　智康（行田・長野中教諭）
・庶務部　庶務、会計等を担当
　部　長　髙橋　太一（埼大附属中教諭）
　副部長　蓬澤　　守（埼大附属中教諭）

4　活動の状況

⑴　授業研究会、総会

・期日　　令和元年６月５日㈬
・会場　　八潮市立八幡中学校
・日程　　12：00～13：45　役員打合せ
　　13：00～13：45　受付
　　13：45～14：30，14：35　公開授業
　　14：55～15：55　研究協議
　　16：05～16：45　総会
・指導者（敬称略）
　県教育局市町村支援部義務教育指導課
　指導主事　　矢口　岳人
　県立総合教育センター指導主事兼所員　　贄田　　悠
・来　賓（敬称略）
　八潮市教育委員会教育長　　石黒　　貢
・授業者（敬称略）
　八潮市立八幡中学校　　宇田　記子
　八潮市立八幡小学校　　山田　晴久
・総会
　①平成30年度事業報告及び承認
　②平成30年度決算報告
　③監査報告及び承認
　④令和元年度役員の承認
　⑤令和元年度活動方針案審議
　⑥令和元年度事業計画案審議
　⑦令和元年度予算案審議

⑵　埼玉県中学校英語学力調査

現行教育課程の実施に伴う英語学力を調査して、その実態を把握し、学習活動の指針とするとともに、言語活動の在り方についての資料とすることを目的に実施しているものである。調査は県内全域の中学生を対象とし、学年ごとに実施している。

本年度の参加校数は47校であった。実施に至る経過は以下のとおりである。

・６月14日㈮
　埼玉県中学校英語学力調査問題作成委員研修会
　（埼玉大学教育学部附属中学校）
　問題作成委員の委嘱、方針・計画・分担等についての研究協議
・７～８月　問題作成委員会　　（各地区）
　担当組織ごとに開催
　（１年：北足立南部、２年：北埼玉、３年：秩父、スピーキング：調査研究部）

・８月６日㈫・20日㈫
第１・２回問題作成委員会
（埼玉大学教育学部附属中学校）
問題の検討及び完成
・８月24日㈯　実音テスト録音
（埼玉大学教育学部附属中学校）
・11月25日㈪～12月13日㈮
学力調査実施（各参加校）
・12月26日㈭　学力調査結果の分析
（各担当組織）
・３月２日㈪　分析結果速報の発送

⑶　教員研究発表会

英語教育に関する個人またはグループによる研究成果を発表し、県下英語科及び外国語活動担当教員の資質の向上をねらい、開催されるものである。

・期日
令和元年８月７日㈬
・会場
坂戸市文化施設オルモ
・内容
○全体研修
「中学校３年間で身に付けたい英語の基礎・基本」
帝京大学教育学部教育文化学科
講師　奥住　桂　先生
○各分科会での研究発表及び研修
＜第１分科会＞
「『伝え合い』を重視した
コミュニケーション能力の育成」
皆野町立皆野中学校　宮原　史明
「発信力強化に向けた会話活動」
加須市立昭和中学校　佐藤　　妙
「英語教育における小中連携の推進について
～川口市神根地区における小中７年間を通貫するCAN-DOリスト作成の取組～」
川口市立神根中学校　原　　健吾
＜第２分科会＞
「コミュニケーション活動におけるライティングの展開について」
伊奈町立小針中学校　林　創一郎
「ICTを活用した中高一貫教育」
さいたま市立浦和中学校　久保　智紀
＜第３分科会＞
「話すことにおける即興力の育成」
本庄市立本庄東中学校　岡　真理子
「即興性を育むための効果的な指導法
～言葉の学びを大切にした授業作りを通して～」
三郷市立彦糸中学校　小林　勇介
＜第４分科会＞
「『21世紀を逞しく生き抜く日本人の育成』のための小学校外国語教育の研究～授業作りの基礎・基本と小中連携～」
ときがわ町立玉川小学校　久保　和之
「場面設定を工夫したコミュニケーション活動の活性化～自分の意見を話せる児童の育成を目指して～」
熊谷市立大幡小学校　直井　麻美
「初期学習者における段階的な読み書き指導～新しい単語や文も自分の力で読める生徒の育成～」
所沢市立安松中学校　山井　葉里子

⑷　埼玉県中学校英語弁論大会

・期日　令和元年10月10日㈭
・会場　本庄市児玉文化会館（セルディ）
・目的　県内中学生の英語を話す能力、聞く能力の向上を図るとともに、諸言語活動の発表の場とする。
・審査員（敬称略）

埼玉大学名誉教授	宇田　和子
大東文化大学教授	靜　　哲人
埼玉大学教授	及川　　賢
東京学芸大学教授	高山　芳樹
埼玉大学英語教育開発センター准教授	Leander Hughes
東京理科大学講師	Debjani Ray
埼玉県県民生活部国際課国際交流員	Skookum Joshua
埼玉県教育局高校教育指導課国際交流員	Chris Craigo

・日程

９：20～９：35	受付
９：40～10：00	開会行事
10：10～12：30	予選の部発表
12：30～13：30	昼食・休憩
13：30～14：20	決勝の部発表
14：20～14：50	審査・休憩
14：50～15：30	閉会行事
15：30～16：00	諸連絡等

・入賞者

１位	アフメド　タハミド	三郷市立彦成中学校
	To Be Kind Is to Be Human	
２位	山田　悠翔	蕨市立東中学校
	Disconnect to Reconnect	
３位	薗田　佳奈	さいたま市立日進中学校
	YOU ARE WHAT YOU CHOOSE!	

４位　岡　陽香里　　深谷市立豊里中学校
My Rival
５位　安達　エレナ　　所沢市立柳瀬中学校
Just Like You
６位　渡辺　瞳美　　川越市立川越第一中学校
Saving ～Our Electrical Problem～
７位　前田　奈樹　　春日部市立武里中学校
Who Will Pick Up the Garbage
８位　田口　莉彩　　羽生市立東中学校
Unwanted Stares

今年度も、質の高いスピーチの発表であった。なお、上位３名は、高円宮杯第71回全日本中学校英語弁論大会中央大会に出場した。

⑸　第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会　東京大会

今年度は東京都で開催された。本研究会からも多数の参加者を得ることができ、英語教育に対する各界からの質の高い提言がなされた。概要は以下のとおりである。

①　開会行事
②　全体会
・大会主題提案
「主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」
～新学習指導要領全面実施に向けて～
③　公開授業
④　分科会
・第１分科会
「『語い』指導の充実」
・第２分科会
「『ペーパーテスト』における評価の充実」
・第３分科会
「『読むこと、書くこと』の言語活動の充実」
・第４分科会
「『聞くこと、話すこと』の言語活動の充実」

本研究大会において、埼玉県からは第３分科会でさいたま市立与野南中学校の関　勇人教諭が提案を行った。

⑹　研究紀要の発行

本年度の本会の活動の総括として以下のような内容の紀要を作成、発行するとともに、来年度以降の研究推進の基礎としたい。

・教員研究発表会記録
・英語学力調査全問題、解答および全学年分析結果
・英語弁論大会結果と入賞者及び弁論原稿
・総会、授業研究会記録
・埼英研だより等

Ⅲ　今後の課題

８月に行われた教員研究発表会では、県内各地で行われている研究や授業実践などが発表されたが、それらについての質疑応答や意見交換なども活発に行われ、大変意義深いものとなった。令和２年度から順次、新学習指導要領が完全実施となる。

今後も引き続き、コミュニケーションを大切にする児童生徒の育成を目指すことが大切である。

その達成のために、本会の諸活動を通じ、学習内容の深化や主体的な学びの工夫等に関する研修を深め、県内の外国語活動及び英語科教員の資質・能力の向上を図っていきたい。

10 道 徳 教 育

埼玉県道徳教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「人としての生き方について考えを深め、
　よりよく生きる児童生徒を育てる
　　道徳教育の創造」
～学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して～

2　研究方針

昭和33年の「道徳の時間」の特設以来、私たちは道徳の時間を道徳教育の要とし、道徳教育を推進してきた。そもそも、我が国の教育は、教育基本法第１条に示されているとおり「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われる」ものである。その人格の完成及び国民の育成の基盤となるものが道徳性であり、その道徳性を養うことが道徳教育の使命である。

しかし、道徳教育を巡っては、歴史的経緯に影響されたり、道徳の授業に対しては「多忙であり、他の指導に時間をとられがちである」或いは「指導の仕方が難しい」等といった解決すべき課題のために、十分な道徳の授業が行われにくかったりしていることも現実である。

そこで、学校教育法施行規則の改正に伴い、平成27年３月の一部改訂を経て、平成29年３月に告示された小・中学校の「学習指導要領」や同年９月に告示された小・中学校の「学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」及び、平成28年３月以降埼玉県教育委員会によって発行されている「埼玉県小・中学校教育課程編成要領（道徳）」、小・中学校の「埼玉県教育課程指導・評価資料（道徳）」から、これまでの道徳の授業を抜本的に見直していかなければならない。そして、問題解決的な指導方法等への工夫を通して、「考え、議論する道徳」へと質的転換を図ることを実現しなければならない。そのために、埼玉県道徳教育研究会として、これまでの蓄積を活かし、さらに研究を重ね、その成果等について、全県的に周知するとともに、関東・全国に発信していく必要があると考える。

また、今回の改正により、私たちが先ず取り組むべきは、いじめの防止や安全の確保である。児童生徒が、人としての生き方について考えを深め、自己への問いかけを通して、よりよく生きるための実践につながるような道徳教育を創造していかなければならない。かけがえのない児童生徒が、いじめ問題に起因して心身の発達に重大な支障を生じさせるような影響を受けたり、尊い生命まで危険にさらすような事態に陥ってしまったりすることは何としても避けなければならない。早い段階でその芽を摘み取り、すべての児童生徒を救うことこそが喫緊の課題であると捉える。

小学校では昨年度から、中学校でも今年度より「特別の教科　道徳」（道徳科）の授業や評価が行われており、道徳科への注目度が一層高まっている。今こそ県内各地の素晴らしい取組を基にした研究を深め、学習指導要領が求める道徳教育の実践を重ねながら、人としての生き方について考えを深め、よりよく生きる児童生徒を育てる道徳教育の創造へと向かいたいと考え、本主題を設定した。

3　組織・運営

⑴　理事会（総会）・専門部会・全体研究協議会

今年度当初の組織づくりと、活動方針、計画を確認・周知するとともに、全体研究協議会での道徳教育の講演を通して、自己の研究活動を振り返り、今後を見つめる。

⑵　夏季研修会

道徳科の指導方法の充実を目指して、「埼玉県道徳教育教材資料集・彩の国の道徳」「教科書」に掲載されている教材を用い、低学年・中学年・高学年・中学校各分科会に分かれて、教材吟味及び指導案づくりの研修を実施している。

また、若手教員を中心とした道徳教育の基礎基本を学ぶ分科会を開設し、研修を深めている。さらに、中央講師を招聘し、全体講演会を実施することにより、道徳教育を理論と実践の双方から学ぶ貴重な機会となっている。

⑶　埼玉県道徳教育研究大会　上尾大会

本研究会の研究の充実のため、毎年、授業研究を中心とした研究大会を実施している。

大会運営に当たっては、各役員の資質向上も含めて、道徳教育の課題解決に向けた授業研究と文部科学省教科調査官等の中央講師を招聘し、道徳教育の重要性を県下に発信する。

⑷　『会報』『道徳教育研究集録』の発行・配付

本会研究活動と全県の教育委員会、各小・中学校との道徳教育研究の連携を深めるために、広報紙として『会報』を年１回発行する。

また、道徳教育研究の充実と組織の強化、研究内容の普及のために年間の活動や研究内容、実践事例を一冊にまとめた研究集録を作成し、希望者に斡旋する。

⑸　各研究会への参加

小・中学校別に開催される関東大会・全国大会の本会への分担要請については、本会の威信にかけて担当者を選考の上、埼玉県道徳教育の情報発信、全国の道徳教育の発展に貢献するため、積極的に派遣する。

⑹　支部活動の推進

道徳教育について、埼玉県全体の振興を図るため本会と県内各道徳教育研究会との連携を深める。その際、会則第３章第５条の旧教育事務所や政令指定都市を単位とした９支部を基本に推進する。

Ⅱ　活動状況

１　令和元年度役員

会　長

藤澤由紀夫　越谷市立大沢小学校長

副会長

堀内　俊吾　久喜市立久喜中学校長
島方　勝弘　越谷市立南中学校長
阿部泰次郎　白岡市立菁莪小学校長

監　事

須山恵美子　川口市立飯仲小学校長
閑野　千鶴　桶川市立加納小学校長

総務部長

嘉藤　　央　深谷市立藤沢小学校長

総務部副部長

森田　昌孝　熊谷市立江南南小学校長
内野多美子　さいたま市立神田小学校長
久米　隆弘　日高市立武蔵台小学校長
中野　　緑　さいたま市立常盤小学校教頭
船越　一英　和光市立第五小学校教頭
相良みどり　越谷市立南越谷小学校教頭
棚倉　陽子　八潮市立大原小学校教諭
浜野　清人　深谷市立藤沢小学校教諭

授業開発部長

栗原　利夫　羽生市立東中学校長

授業開発部副部長

磯山　貴則　越谷市立出羽小学校長
柿沢　英和　春日部市立桜川小学校教頭
鈴木　孝雄　富士見市立みずほ台小学校教頭
浅井　俊朗　春日部市立武里南小学校教頭
岡﨑　秋世　三芳町立三芳小学校教頭
瀧澤　美雪　三郷市立新和小学校教諭
安部　仁美　伊奈町立小室小学校教諭
田中　彩子　伊奈町立日出谷小学校教諭
田村　直美　上尾市立東町小学校教諭
風間　俊樹　越谷市立北陽中学校教諭

企画推進部部長

藤間　隆子　加須市立加須東中学校長

企画推進部副部長

寺井　次郎　加須市立田ケ谷小学校長
須山恵美子　川口市立飯仲小学校長
閑野　千鶴　桶川市立加納小学校長
井上　貴昭　熊谷市立大原中学校教頭
佐藤　香織　川島町立つばさ北小学校教頭
本多　斎士　深谷市立深谷小学校教頭
亀田　央葉　本庄市立本庄東小学校主幹教諭
清水美津子　宮代町立百間中学校教諭
髙橋　伸治　川口市立中居小学校教諭
前田友美子　越谷市立大沢小学校教諭

事務局長

関本　由美　吉川市立関小学校長

事務局次長

福田　和己　羽生市立西中学校長
浅田　敦子　新座市立第四小学校教頭
野口　京子　三郷市立瑞木小学校教頭
清水　良江　鴻巣市立下忍小学校教頭
若林　朋子　鴻巣市立鴻巣中央小学校教頭
渡邉　純子　加須市立三俣小学校教諭
山田　敦子　越谷市立蒲生第二小学校教諭
笹川　千洋　さいたま市立栄和小学校教諭

２　本年度の主な事業

⑴　令和元年度　総会・専門部会・全体研修会

会　長　挨　拶

①期　日　令和元年５月24日㈮
②会　場　さいたま市民会館うらわ
③内　容
ア　総会（理事会）
平成30年度事業報告、会計報告審議
令和元年度事業計画、予算案審議
イ　専門部会
各専門部会活動計画審議、情報交換

ウ　全体研究協議会

講　演　北陸大学　教授　東風　安生　先生

演　題

「学習指導要領が求める道徳科の授業と評価」

東風先生　ご講演

【　講演の概要　】

○道徳科の評価の基本方針

「特別の教科　道徳」は、道徳性を養うことを学習活動として行っている。しかし、道徳性は極めて多様な児童生徒の人格全体に関わるものであることから、その評価は安易にはできない。そこで道徳科では、児童生徒の学習状況を見取り、個人内の成長の過程を重視し評価している。

○エビデンスに基づく教育とコンピテンシー

・エビデンスに基づく教育

誰もが納得できる根拠に基づいて説明すること、教育の質保証の視点から、エビデンスに基づく教育が求められている。

・コンピテンシーの育成

コンピテンシーとして示されている「学びに向かう力・人間性等の涵養」は、道徳性に極めて近い位置にある。横断的な道徳教育とどうつなげるか、道徳科でどう補充・深化・統合するかが求められる。

○道徳科の評価のこれから

・エビデンスとしての質的研究の模索

・児童生徒自身の自己評価能力を高める

・自己評価活動の活用による教育的効果

○道徳科の評価の在り方

指導者側の主観のみの評価では、児童生徒の本当の意味での道徳性の育成にはつながらない。自分自身の生き方を、自己評価を取り入れながら設計していくことで、メタ認知能力が育成され、コンピテンシーである学びに向かう力が育成される。

⑵　夏季研修会

①期　日　令和元年8月8日㈭

②会　場　鴻巣市文化センター（クレアこうのす）

③内　容

ア　分科会協議

基礎基本部会では、講師の高崎健康福祉大学　石川　勉 特任教授より基礎基本の理論から実際の授業や評価についてまで、具体的な教材を活用して研修を深めた。

小学校低・中・高・中学校分科会では、埼玉県道徳教育指導資料や教科書の教材を用い、教材吟味及び指導案作成をワークショップ形式で行った。それぞれの分科会で積極的な意見交換が行われ、実践的な指導により、今後の授業実践の推進につながる有意義な時間となった。

研　修　風　景

イ　全体会（分科会指導）

指導者　県教育局義務教育指導課

指導主事　安元　信幸　先生

ウ　記念講演

講　演　文部科学省初等中等教育局

教育課程課教科調査官

浅見　哲也　先生

演　題　「子供が自分との関わりで学ぶ

道徳科の授業の創造」

【　講演の概要　】

○全教育活動を通じて行う道徳教育

学校の教育活動で道徳教育に関わらないものはない。だからこそ分かりやすく推進することが重要である。

○要となる道徳科

要の働きとは、「補充、深化、統合」

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の４つを育てていくことが道徳科の目標となっている。

○道徳科授業の質的転換

・問題意識をもつ

問題が生まれるきっかけ３つの紹介

①子供にとって身近で切実な問題

②社会的な問題や現代的な課題

③教材の中に描かれている問題

・自分との関わりで考える
自我関与中心の学習について
・多面的・多角的に考える
価値理解、人間理解、他者理解を通して多面的・多角的な見方で考えさせる。
・自己の生き方についての考えを深める
書く活動を取り入れることで、自分の考えを整理したり、客観的に捉えたりすることができる。
決して評価の資料にするために書いているわけではない。

○道徳教育及び道徳科に求められる評価
評価のための形骸化された授業になっていくことが心配される。評価の考え方を踏まえて授業改善を図ることで、学習活動が充実し、道徳科の授業の目標の実現に向かうものである。

○終わりに

⑶　埼玉県道徳教育研究大会　上尾大会

①期　日　令和元年11月22日㈮

②会　場　上尾市立上尾中学校

③内　容

ア　授業公開（全学級公開）

イ　全体会

研究発表　上尾市立上尾中学校の取組

研究課題　「いかに生きるべきか
自ら考え続ける生徒の育成」

指導講評

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
教育指導幹　吉田　　元　先生

ウ　記念講演

講　演

開智国際大学准教授　　土井　雅弘　先生

演　題

「自己の生き方を問う道徳科の授業づくり」

土井先生　ご講演

【　講演の概要　】

○はじめに

○道徳の授業の要件
重要なことは、「児童生徒が自ら、自己の生き方を問えるようになる」ことである。教師から「問われる」ことによって、子供は自分で「問える」ようになる。

○新学習指導要領の改訂の考え方
「コンテンツ（知識・内容）・ベース」から、「コンピテンシー（資質・能力）・ベース」への転換。

○発問を制するものは授業を制す。

○教科との違いをしっかりと押さえる。
道徳では、「知っている」「分かっている」ことを、発問をきっかけに先生と子供たち、子供同士の対話を通して深く理解し、「知っている」の質を上げることを目標（ねらい）としている。

○「考え、議論する道徳」の授業
「発問づくり」と「話合いの工夫」が重要。
どの場面を取り上げどんな話合いをするか、子供の発言をどのようにまとめ対話を図るのかが、教師の力量、腕の見せどころである。

○なぜ話合い（対話）が重要か
「考え」とは「更新し続けるもの」である。考えが明確になる、一歩高まる、変わる（新たな考え）ことで、「本物の考え」になっていく。そのために、話合い（対話）が不可欠である。

○話合い（対話）を進める教師の心得
「むずかしいことをやさしく　やさしいことをふかく　ふかいことをおもしろく　おもしろいことをまじめに　まじめなことをゆかいに　そして、ゆかいなことはあくまでゆかいに」
（井上ひさし　氏）
先生が授業の中で「考える」ことに熱中して、子供とのやり取りを楽しみ、「分かる」に感動する姿を見せることが大切である。

Ⅲ　今後の課題

小学校、中学校ともに道徳科が実施された。

今、それぞれの学校で道徳科の授業、評価、道徳推進教師としての役割はどうしたらいいのか等、課題は山積している。そんな中、県内の多くの教員が、文字通り「考え、議論して」道徳科や道徳教育について研修を深める機会をもつことができたのは大きな喜びである。

本研究会では、これからも県内各地の小・中学校で、児童生徒のよりよい成長を願い、日々研鑽を続けている先生方の力となれるような活動を継続し、多くの先生方と共に学ぶ場を提供していきたいと考える。

11 特 別 活 動

埼玉県特別活動研究会

Ⅰ 研究主題と方針

1 研究主題

「新学習指導要領における特別活動の展開
～集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる実践を通して～」

2 主題設定の理由

平成の時代が終わりのときを迎え、令和という新しい時代が幕を開けた。誰もが思いを馳せるこの新しい時代には、どのような未来が待っているのだろうか。世界情勢がこれまでにないスピードと規模で変化を続けている現在、世界共通のツールとなったＩＴは、私たちの生活に大きな変化と影響を与えている。価値観の劇的な変化が続いている中で、私たち教師は、何を考え、何を子供たちに伝えるべきだろうか。今こそ子供たちと共に新たな時代をつくり上げていくという教育観を胸に、学校の役割を今一度、見つめ直していくことが必要である。

学校には、社会の変化に対応できる力を育むという大きな役割がある。それは、新しい知識や技能の習得だけではない。コンピュータの能力が人の知識量や技術力を上回ると予測されるこれからだからこそ、人として大切な資質・能力を磨き、高めていくことが必要なのである。例えば、あらかじめ正解のない問いや自ら設定した課題に挑戦すること、創造性を重視すること、思いやりや慈しみの心を大切にすることなどは、むしろこれまで以上に求められるといえる。子供たちにとっての社会である学校の役割は、まさにこういった資質・能力を高めていくことである。そして、こうした役割の根幹を担っているのが、集団活動、実践的な活動を特質としている特別活動であるといえる。

本会では、新学習指導要領先行実施の１年目となった昨年度、研究主題を「新学習指導要領における特別活動の展開」とし、“私たち”を主語に、考えを語れる子供の育成を目指して研究を進めた。その際、すべての教科・領域を貫く資質・能力の３つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）を踏まえて、各専門委員会を中心に、一人一人が実践的な活動を行ってきた。

その成果として、①新学習指導要領上の各活動・学校行事の特質、②各活動・学校行事における学習過程の基礎・基本が実践の充実に不可欠であること、③育てたい子供像を明確に描き、その重点となる資質・能力を実践ごとに明確にすることの重要性、等を確認することができた。

課題としては、

①これからの教育活動における特別活動の教育的意義
②特別活動ならではの見方・考え方を働かせる指導の工夫
③義務教育９年間を見通した特別活動の円滑な接続方法等

をより明確にしていく必要がある。

そして、先行実施２年目となる今年度は、引き続き，新学習指導要領と向き合うことに重点をおきながらも、昨年度の研究を礎にテーマをより焦点化し、研究をさらに深めていく。焦点化するに当たっては、これまでの成果と課題を踏まえ、特別活動で育成を目指す資質・能力を育むための手立てや方法について、より一層考えていきたい。

そのためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要である。特に、特別活動ならではの見方・考え方である「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせて活動できるようにしていくことが欠かせないと考えている。

こうしたことを踏まえ、今年度は、研究主題を「新学習指導要領における特別活動の展開」とし、副題を「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる実践を通して」とした。資質・能力を育むためには「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら実践を進めることが重要である。「見方・考え方」は以下のようなものが考えられる。

○　多様な立場や考え方を理解したうえで認め合おうとする見方・考え方
○　互いのよさを生かすような見方・考え方
○　様々な集団や社会に参画し、主体的に問題を解決しようとする見方・考え方
○　自己の在り方・生き方を考え、設計しようとする見方・考え方　　等

そして、研究を進めるに当たっては、次に示す二つの内容を中心に、専門委員会ごとに研究の視点を設け、それぞれの実践において、より具体的な手立てや方法の在り方を考えながら進めていく。

一つ目は、「集団や社会の形成者としての見方・考

え方を働かせる実践を展開するための全体計画や年間指導計画、一単位時間等の指導計画」についてである。各活動・学校行事の特質を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画について研究していく。以下は、その留意点である。

① 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点に立った指導計画を工夫する。
② 各活動・学校行事相互の連携、教科等との往還的関係を意識した指導計画を工夫する。
③ 各学校・子供の実態や、小中学校９年間における発達の段階を押さえた指導計画を工夫する。

二つ目は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる実践における指導と評価の方法」についてである。指導と評価の一体化に重点をおいたこれまでの研究を生かし、各実践において育てたい資質・能力を明確にしたうえで、その指導の在り方と評価方法について研究を深めていきたい。以下は、その留意点である。

① 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点に立った指導と評価の在り方を工夫する。
② 自分もよくみんなもよい合意形成や意思決定の機会があり、実践につながる学習過程を工夫する。
③ 個を集団活動の中で埋没させないための指導と評価の在り方を工夫する。

特別活動で育成を目指す資質・能力は、一朝一夕で身に付けられるものではない。特別活動ならではの見方・考え方を働かせて活動する経験を、確実に積み重ねることで、やがて身に付くものと考える。

それには、中・長期的な計画と視野をもち、教育活動全体における特別活動の在り方を認識しながら実践を続けることが不可欠である。その中で、生徒指導や道徳教育、学級経営やキャリア教育の充実についても、本質を押さえた特別活動の実践と関連して進めることが重要であることも押さえていく。

研究は机上のものではなく、実践のためにある。そして、実践は子供一人一人のためにある。子供とともにつくっていく新しい時代において、私たちは学校の役割を改めて見直す必要がある。さらに、学校だからこそ育むことのできる資質・能力を明確にし、特別活動の一層の充実を図っていくことが、未来を生きる子供たちの幸せにつながると信じている。

３　研究の方針

⑴　各専門委員会を中心に、研究主題に関わる実践研究を深める。
⑵　総会や講演会を通して、理論研究を深める。
⑶　各支部活動を通して、地域に根ざした実践の情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。
⑷　各種全国規模の大会との協力を通して、全国での情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。

Ⅱ　活動状況

１　支部長・専門委員長・理事等合同研究協議会

○日　時　令和元年５月７日㈫
　　15時～16時30分
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○内　容　支部活動、役員選出・承認、総会議案等の審議

２　定期総会及び講演会

○日　時　令和元年５月15日㈬
　　13時50分～16時30分
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○内　容　⑴　定期総会
　　⑵　講演会
演題「新学習指導要領における特別活動の展開」
講師　文部科学省初等中等教育局教育課程課
　　教科調査官
　　国立教育政策研究所教育課程
　　研究センター教育課程調査官
　　安部　恭子　氏

３　地区別研究協議会

○期　日　令和元年６月～令和２年２月まで
○実　施　各地区

４　役員研究協議会

⑴　第１回役員研究協議会
○日　時　令和元年５月29日㈬
　　15時～16時30分
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○内　容　令和元年度の専門委員会等の研究・運営計画について
⑵　第２回役員研究協議会
○日　時　令和２年３月３日㈫
　　15時～16時30分
○会　場　さいたま市民会館うらわ
○内　容　令和元年度の専門委員会等のまとめ及び次年度の事業計画について

5　専門委員研究協議会

⑴　第１回専門委員研究協議会

○日　時　令和元年６月６日㈭
13時15分～16時30分

○会　場　埼玉県県民活動総合センター

○内　容　研究主題についての共通理解と各専門委員会の研究の視点の確認

⑵　第２回専門委員研究協議会

○日　時　令和元年９月４日㈬
13時15分～16時30分

○会　場　埼玉県県民活動総合センター

○内　容　研究主題に沿った実践の構想レポート検討

⑶　第３回専門委員研究協議会

○日　時　令和２年１月15日㈬
13時15分～16時30分

○会　場　埼玉県県民活動総合センター

○内　容　実践レポートを基にした研究のまとめ

6　第24回夏季研究協議会

⑴　日　時　令和元年８月５日㈪
９時00分～16時30分

⑵　会　場　ウェスタ川越

⑶　内　容

①講演

演題「新学習指導要領における特別活動の展開
～キャリア教育の要としての特別活動～」

講師　日本体育大学　教授　橋谷　由紀　氏

②実践提案

分科会Ａ

【小学校・学級活動⑴、中学校・学級活動⑴】

○提案者　皆野町立皆野小学校
教諭　池田　尚未　先生
所沢市立富岡中学校
教諭　若見　啓介　先生

○指導者　宮代町立笠原小学校
校長　白石　昌孝　先生

分科会Ｂ

【小学校・学級活動⑶、中学校・学級活動⑶】

○提案者　川島町立つばさ南小学校
教諭　笠原　大輔　先生
さいたま市立大谷場中学校
教諭　鈴木　　恵　先生

○指導者　久喜市立久喜東中学校
校長　寺井進一郎　先生

分科会Ｃ

【小学校・学校行事、クラブ活動】

○提案者　川島町立中山小学校
教諭　小林　義知　先生
深谷市立藤沢小学校
教諭　小泉　琢磨　先生

○指導者　吉川市立旭小学校
校長　馬場　重弘　先生

分科会Ｄ

【児童会活動、生徒会活動】

○提案者　川口市立仲町小学校
教諭　武井佐矢香　先生
ふじみ野市立葦原中学校
教諭　屋比久幸寿　先生

○指導者　蓮田市立平野中学校
校長　香山　和昭　先生

7　研究集録第59集　発刊

8　広報活動

会報「特活」第129・130・131号発刊

9　退職記念講演会

○日　時　令和２年１月18日㈯

○会　場　さいたま市民会館おおみや

○講　演

演題「特別活動と私」

さいたま市立桜木中学校　校長
本会副会長　五十嵐圭一　先生
上里町立賀美小学校　校長
本会副会長　堀越由喜子　先生
秩父市立尾田蒔小学校　校長
本会副会長　千島　　真　先生

10　平成30・令和元年度研究委嘱校研究発表会

○期　日　令和元年11月８日㈮

○会　場　所沢市立清進小学校

○内　容

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、豊かに人とつながる特別活動の充実～自らの思いを大切に、自己実現できる児童を目指して～」

Ⅲ　研究内容

1　定期総会・講演会

〔演題〕　「新学習指導要領における特別活動の展開」

〔講師〕　文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官
国立教育政策研究所教育課程
研究センター教育課程調査官
安部　恭子　氏

〔内容〕
◯特別活動において育成を目指す資質・能力
◯集団や社会の形成者としての見方・考え方
◯特別活動の全体計画、各活動・学校行事の年間指導計画の確認
・特別活動の全体計画、各活動・学校行事の年間指導計画の作成
・全体計画に示す内容の例
「学校教育目標」
「特別活動の重点目標」
「各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間との関連」
「学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標と指導の方針」
「特別活動に充てる授業時数」
「特別活動を推進する組織」
「評価」　等
・特別活動の授業のうち、児童会活動、クラブ活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるようにする
・作成上の留意点について
学校の創意工夫を生かす、学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮する、児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにする　等
・学級活動の年間指導計画の確認
学級活動⑴の議題例、⑵ア～エ、⑶ア～ウのすべての題材が示されているか、各内容の配分を工夫し学級活動⑴の充実を図っているか、学級活動⑵⑶に充てる時数が多くなっていないか、学年が上がるにつれ学級活動⑴に充てる時数が十分確保できているか　等
◯特別活動の充実に向けて
・学校として育成を目指す資質・能力の再確認と共通理解
・全体計画や年間指導計画の見直し
・参画意識を高め、自己有用感を育む「自発的、自治的な活動の充実」を図る
・学習過程の明確化、見通しと振り返り　等

2　第24回夏季研究協議会

⑴　講演より
〔演題〕「新学習指導要領における特別活動の展開
～キャリア教育の要としての特別活動～」
〔講師〕　日本体育大学　教授　　橋谷　由紀　氏

〔内容〕
◯キャリアとキャリア教育
・キャリアとは「これまでの、そしてこれからの人生の履歴」を意味する。
・キャリア教育は、特定の教科や内容を学習することではなく、学校の児童生徒の実態に応じて教育活動を見直し、改善することを含んだ学校独自の取組である。各学校が実情に応じて「身に付けさせたい力」を設定し、実践することが重要である。
◯キャリア教育の要としての特別活動
・これまでも特別活動は、児童生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力の育成を担ってきた。
さらに実質的な効果上げるためには、「結果として」ではなく「キャリア教育の視点を意識して」活動を行うことが大切である。
⑵　分科会より
８名の提案者の発表をもとに、研究協議を行った。以下に示すのは、それぞれの実践の議題、題材、活動名である。
◯議題（学級活動⑴）
「二学期の係活動を決めよう」　（小学校２年）
「後期に必要な係活動を考えよう」（中学校１年）
◯題材（学級活動⑶）
「もうすぐ運動会」　（小学校３年）
「もうすぐ２年生」　（中学校１年）
◯活動名
「修学旅行・日光方面」（学校行事　小学校６年）
「クラブ長を中心に自分たちのクラブに！」
（クラブ活動）
「『仲リンピック』でたてわりグループの仲を深めよう」　（児童会活動）
「多くの生徒が活躍する生徒朝会を運営しよう」
（生徒会活動）

12　進路指導・キャリア教育

埼玉県進路指導・キャリア教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

学習指導要領の柱の一つとして、生徒の社会性や豊かな人間性をはぐくむため、学校における体験活動の機会を確保し、充実を図ることが求められている。

また、埼玉県５か年計画、安心・成長・自立自尊の埼玉へ（平成24～28年度）に基づく、第Ⅰ期埼玉県教育振興基本計画の中の基本目標１「子どもを鍛え次代を担う人材を育成する」の主な取組に、「発達の段階に応じたキャリア教育の推進」が挙げられていた。

更に、埼玉県５か年計画：第２期：平成29～33年度「－希望・活躍・うるおいの埼玉－」に基づき、その中の分野別施策の「３・人材の活躍を支える分野、⑴一人一人が人財として輝ける子供を育てる、ア・確かな学力と自立する力の育成」における主な取組の中で、「小・中・高等学校におけるキャリア教育の充実」「障害のある子供たちの自立と社会参加を目指したキャリア教育・職業教育の充実」が挙げられている。

本研究会では、キャリア教育を「社会的・職業的に自立するために必要な能力や態度等を育て、学校の学びと社会（職業）の接続を円滑に行うための教育」と捉え、小学校からのキャリア発達の段階に応じた学級活動や体験学習を充実させることを念頭においている。このようなキャリア教育の視点に立ち、発達の段階に応じたキャリア教育を充実させ、自己理解を深めさせ、児童生徒の職業的発達（キャリア発達）を促す進路指導・キャリア教育の在り方を研究実践する方針である。

１　研究組織

専門委員会の中に研究推進委員会を組織し、下部組織として、専門委員を第一部会（主に東部・南部＜さいたま市を含む＞地区）：第１学年（学級活動・道徳）、二部会（主に西部地区）：第２学年（学級活動・道徳）、第三部会（主に北部地区）：第３学年（学級活動・道徳）、小学校部会（全県）：低学年・中学年・高学年（学級活動・道徳）の４部会に分け、原則として地区ごとの部会に所属する。

２　25地区進路指導・キャリア教育研究協議会の実施と協力

県内を25地区に分け、小学校・中学校・高等学校の連携を図り、地区ごとに中学校で研究授業を行い、研究協議を通して進路指導・キャリア教育の研究推進を図った25地区の研究協議会を活性化し、実践内容をまとめ、全県に配付し成果を共有した。

３　副読本『中学生活と進路』（実業之日本社）埼玉県版の改訂（今年10月頃をめどに）

全国版の全面改定を考慮しつつ、キャリアパスポートの視点に立ち、県版部分の学年ごとの改定を行う。

キャリアパスポートとして使える埼玉県版を作成する。

４　関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会への提案

第45回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会　千葉大会

第２分科会：特別の教科「道徳」

富士見市立東中学校　広岡　由衣　教諭

Ⅱ　活動状況

５月11日㈯　第１回　代表者会議

・新年度組織、活動方針について

・第１回総会及び理事・専門委員合同研修会について

６月４日㈫

第１回総会及び理事・専門委員合同研修会

・事業報告、決算報告、役員の承認

・事業計画、予算案、専門委員会の報告

・25地区進路指導・キャリア教育研究委嘱校交付式・前年度委嘱校研究発表

・講演会

演題　「進路指導・キャリア教育の現状と課題」

講師　埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課主任指導主事　田邊　　玲　氏

７月15日（祝・月）第２回　代表者会議

・第２回理事・専門委員合同研修会について

・関ブロ千葉大会について

７月24日㈬・25日㈭

第68回進路指導・キャリア教育研究協議会全国大会

国立オリンピック記念青少年総合センター

・記念講演

・分科会、全体会

８月２日㈮

・第２回理事・専門委員合同研修会

・第２回専門委員会

・関ブロ千葉大会の案内

・講演会
演題　「新しい教育の形（ｷｬﾘｱ教育と経済教育）」
講師　一般社団法人CEEジャパン
代表理事　中許　善弘　氏

９月29日㈰　第３回　代表者会議
・25地区研究協議会への派遣について
・関ブロ千葉大会事前協議

11月８日㈮
・第45回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会　千葉大会
・全体会、実践発表、分科会
・第２分科会　特別の教科「道徳」
提案者　富士見市立東中学校
広岡　由衣　教諭

２月１日㈯　第４回　代表者会議
・第３回理事・専門委員合同研修会について

２月14日㈮
第３回理事・専門委員合同研修会
・研究会事業報告、25地区の実施報告
・関ブロ群馬大会に向けて
・講演会
演題　「学力向上とキャリア教育」
講師　秋田県小・中学校進路指導研究会
事務局長　平良木　洋　氏

３月７日㈯　第５回　代表者会議
・令和２年度に向けて
・関ブロ群馬大会に向けて

Ⅲ　研究内容

25地区進路指導・キャリア教育研究協議会
活動報告

１　本年度の取組

⑴　開催期日　令和元年7月５日㈮
～令和２年１月31日㈮

⑵　内　　容　それぞれのテーマに基づいた公開授業及び研究協議

２　研究協議等の状況

⑴　参加者数
～これまでの参加者数の推移～

	小学校	中学校	高　校	その他	合　計
平成23年	250	833	62	14	1,159
平成24年	257	622	89	75	1,043
平成25年	236	661	76	16	989
平成26年	265	788	57	100	1,210
平成27年	265	839	49	221	1,374
平成28年	245	770	73	132	1,220
平成29年	213	804	36	78	1,131
平成30年	192	711	30	186	1,119
令和元年	192*	538*	32*	89*	852*

＊ 令和元年度は、1月21日現在　（報告21校）【名】

今年度は１月21日㈫現在で、まだ実施してない学校と報告書が届いていない学校が4校あるため、前年度との単純な比較はできないが、報告の出ている地区の今年度の研究協議会参加者数は合計852名で、参加者数は昨年とほぼ同数である。

以下は、報告書の出ている21会場について、まとめたものである。

小・中・高全て参加があった会場は、21会場中10会場。小学校からの参加は現在のところ全会場で参加があり、参加者数は昨年とほぼ同数である。

高等学校の参加は10会場で、参加者数は昨年と同程度である。

１会場あたりの平均参加者は約40名で、昨年同期から若干の減少である。

⑵　公開授業について

全学年・全クラスを公開した学校が21校中８校と減少、全学年を公開した学校が21校中15校と昨年度と同程度となった。また、公開授業が行われたクラスは172クラスとなった。

授業内容は、学級活動・総合的な学習の時間を中心に行われ、各教科や道徳が８校で公開された。

今年度の特徴は、学級活動や総合的な学習の時間での板書や、ふり返りの方法をしっかりと計画している授業が目立った。また、「特別の教科　道徳」の指導と評価の一体化に重点を置いた授業も見られたほか、さいたま市立大宮八幡中学校では、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を生かし、その担い手となる生徒に必要な力を育むことができる授業が公開された。

特別支援学級の公開授業は、今年度４校８クラスで実施され、昨年度と比較すると増加している。

～公開授業を行ったクラス数～

教科等	１年	２年	３年	特支	合計
総合的な学習の時間	20	24	15	3	62
特別活動・学級活動	31	32	15	4	82
道　徳	2	5	2	1	10
教　科	3	3	11	0	17
合　計	56	64	43	8	171

※　1月21日現在　【クラス】

学級活動の内容は、昨年と同様に、課題解決に向けた主体的・協働的な学びの形態をとりながら、生徒一人ひとりに基礎的・汎用的能力を身に付けさせようとする公開授業が多く行われた。

公開授業後の研究協議では、講演会や全体会、分科会が開催され、活発な意見交換が行われ、指導者からの貴重なご指導をいただくことができた。

⑶　研究協議会の課題等について

本研究協議会は、会場校だけでなく、地区内の小・中学校における進路指導・キャリア教育の連携や研修を深める貴重な機会となっている。

キャリア教育について研究を進める学校も増え、キャリア教育的な視点に立った道徳や教科の授業の実施も定着してきているようである。

また、小中連携をキャリア教育という視点から捉えようとする取組もかなり増えてきた。

今後も子供たちのキャリア発達を促したり、支えたりするための取組が、各地区で工夫されていくことを期待したい。

Ⅳ　第45回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会　千葉大会　への提案

第２分科会　特別の教科「道徳」

テーマ「豊かな心をもち、表現できる生徒の育成
～教科横断的な指導で、よりよい基礎的・汎用的能力の育成を目指して～」

指導助言者：埼玉県教育委員会西部教育事務所
指導主事　戸口　智雄　氏

提案者：富士見市立東中学校　　広岡　由衣　教諭

１　はじめに

平成25年９月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、富士見市では「富士見市いじめ防止条例」を制定した。そのことに伴い、「富士見市いじめのない学校づくり子ども会議」と題し、年に一度、市内の小・中学校の児童会・生徒会本部役員が集まっている。この会議では、いじめのない学校にするための各校の取組をそれぞれ発表し合い、情報を共有している。

さらに、次年度に向けた課題について話し合い、また、各校へ持ち帰り、そのことについて考える授業を行っている。

昨年度は、インターネットやスマートフォンに関するトラブルを防止する策を考えた。今年度は、平成25年に作成された「いじめのない学校づくり子ども宣言」を時代の変容に合わせて、再度学校ごとに作成すべく、各校で取り組んでいる。生徒会本部と学年委員の代表である理事が話合いを重ね、生徒主体の学級討議を経て作成している。

２　実践のねらい

本校生徒は、素直で落ち着いた生徒が多い。しかし県の学力・学習状況調査でのアンケートから、「先生の話や友達の発表をしっかり聞き、自分の考えを伝えることができていますか」という項目に対して、２年生は県の平均が25.5ポイントに対して、本校は16.2ポイント、３年生は県の平均が25.4ポイントに対して本校は23.7ポイントと県の平均を下回っている。

普段の学校生活を見ていても、コミュニケーションの不足により誤解が生じ、人間関係に課題をもつ生徒が少なくない。また、学習においても、自信がもてず消極的である生徒が多いと感じる。

このような現状を踏まえて、全教育活動をキャリア教育を通し、言語活動を充実することで、自己肯定感を高くもち、他者の個性を理解し、自己表現ができる生徒を育成したい。

そこで、研究主題を「豊かな心をもち、表現できる生徒の育成」とした。また、道徳教育は、教育の中核をなすものであり、学校のあらゆる教育活動を通じて行われるべきものであることから、副題を「教科横断的な指導で、よりよい基礎的・汎用的能力の育成を目指して」とした。

本校の道徳教育の目標が、“自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う”であることから、特に、基礎的・汎用的能力の一つである人間関係形成・社会形成能力を道徳の授業の中で焦点化をして育成していきたい。

３　実践の概要

⑴　道徳科においての実践

①　授業形態の工夫

ア　全校同じ時間になるよう時間割を組む。

イ　学年主任や副担任による授業。

ウ　学年で一斉授業を行う。

エ　１人の授業者が１つの授業を全学年行う。

②　授業実践

ア　３年生で信念を貫いて生きる＜D　よりよく生きる喜び＞という題材を、ねらいを「ファンへの感謝を忘れずに、誇りをもって野球を続けた黒田博樹選手の姿勢に共感し、自分の生き方に誇りをもち、夢や希望のあるよりよい生き方を見いだそうとする心情を深める」とし、キャリア教育の視点を「話し合い活動を通して、自分の考えや気持ちを伝える。仕事をする上での様々な課題や価値を発見し、分析して自分の問題として考える」として行った。

イ　全学級で道徳の時間における生徒主導の話合い活動＜Ｂ　相互理解＞という授業を、ねらいを「学級討議を通して、いじめのない学校づくりを目指して、自身を振り返り、他者の心情を理解した人間関係づくりを心がける。」とし、キャリア教育の視点を「多様な他者の考えを理解する」として行った。

③　道徳ノートの活用（ポートフォリオ）

道徳の学びの軌跡を記録し、生徒自身、教師がそれぞれ確認できるようにした。

④　通信の発行

道徳部会により、「道徳通信　心　こころ」を発行し、学年ごとに取り組んだ内容や、生徒の代表的な感想を掲載している。また、学級担任は学級通信で感想や他の人の考えを共有できるようにした。授業後にもう一度振り返ることにより、持続的に学んだことを意識させた。

⑤　評価

生徒同様、授業者も道徳ノートに毎回の生徒の発言や話合い活動、記述内容を書き残すことで、学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導や評価に生かす。

また、授業者が代っても、同じその学級の担当用ノートに記入しておくことで、偏りがなく評価できるようにした。生徒が言葉や文章にうまく表現できないときには、キャリアカウンセリングを行うことで、真意をつかむ。

⑵　各教科等においての実践

①　総合的な学習の時間

本校では、「東風タイム」と題し、１学期から１年生は富士見市の歴史について、２年生は職場体験について、３年生は福祉について、それぞれテーマを決め調べ学習を行い、11月に学年ごとに発表している。実際に体験活動やインタビューをしたり、インターネットや本で調べたりし、半年ほどかけて発表準備を行っている。

また、発表の際には、１年生は２年生を、２年生は３年生を、３年生は１年生を見学し、次年度へ向けてのイメージを膨らませている。発表をお互いに見学することで、先を見通した学習を行っている。そして、毎年、一般社団法人　東入間青年会議所の方に職業に関する話をしてもらっている。その形態は、年によって異なり、今年は１、２年生合同で行った。

さらに、３年生では、県立高校、私立高校、専門学科のある高校と系統の違う３つの高校の先生に来ていただき、将来を見据えて、自分に合った進路選択を学んだ。

②　学級活動

行事の目標を立てる中で、普段の生活や過去の経験から課題を見つけ、より具体的な目標を設定するような授業を行った。

また、安心安全なネット利用講演として株式会社LINEの方による講演を行った。顔を合わせない相手とのコミュニケーションの難しさとトラブルを生まない方法を教わり他者理解を学んだ。

４　成果と課題

実践を通して他者の個性を理解し、自分の考えを深め、学んだことを素直に感想に書いたり発表したりできる生徒が増えていると感じる。

また、授業での感想だけでなく、生活ノートにも感想を書く生徒が増え、意欲をもって取り組める生徒が増えた。

自己理解に関する授業では、班員一人一人の良いところを書き、共有することで、自分を肯定的に捉え、自分の優れている面を見つけることができた。

さらに、過去の経験を踏まえて目標設定をする学習を通して、視野を広げて物事を考え、目標に向かって具体的な道筋を立てて考えられるようになった。自分の将来について身近に感じ、他者との関わりの中で、働くことの意義や大切さ、必要性について考えることができた。

課題としては、学ばせたい資質・能力を焦点化することの大切さを感じた。

また、本校教育の中にあるキャリア教育の宝の発掘ができたと感じる。

今後は、教職員がキャリア教育の視点を意識して指導をするということが、キャリア教育推進の基盤となる。

Ⅴ　今後の課題

キャリア教育を「学校の学びと社会の接続を円滑に行うための教育」と捉え、小学校からのキャリア発達の段階に応じた学級活動や体験学習を充実させることを念頭において実践を重ねていきたいと考えている。最終的には自己理解を深め、キャリア発達を促していきたい。

13 視 聴 覚 教 育

埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会

・埼玉県学校視聴覚教育連盟
・埼玉県放送教育研究会
・埼玉県教育機器研究会

埼玉県学校視聴覚教育連盟

Ⅰ 研究主題と方針

国際化、情報化、少子高齢化など、社会が急激に変化する中、平成29年３月に新学習指導要領が告示された。各学校では、教育基本法及び学校教育法その他の法令等の示すところに従い、人間として調和のとれた育成を目指し、心身の発達の段階や特性及び地域の実態を十分考慮して、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生きる力の育成を目指している。

各学校においては、言語能力、情報活用能力及び問題発見・解決能力の育成が求められている。特に、情報活用能力の育成に当たっては、ICT機器や情報通信ネットワーク等の環境整備、これらを適切に活用した学習活動の充実、各種視聴覚教材や教育機器の適切な活用等が不可欠である。学習活動においては、「ア.情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動」や「イ.プログラミング教育を体験しながら論理的な思考力を身に付けるための学習活動」を推進することが求められている。

高度情報通信社会を迎え、Society5.0の到来も視野に入れると、「授業でのICT活用」「教職員の指導力向上」「情報モラル、情報セキュリティの重要性」「プログラミング教育の推進」等々、学校の情報化に関わる教育課題は山積状態であると言える。

以上のことから本連盟では、教育メディアを積極的に活用した学習を研究・展開することで、児童生徒に『自ら学ぶ力』と『主体的に問題を解決する力』を身に付けさせ、生きる力を育成することを方針としている。昨年度に引き続いて本年度も

【心豊かに、自ら学び、主体的に活動する力を育む教育メディアの活用を目ざして～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～】

を研究主題とし、他の研究団体と連携して各支部でも積極的に取り組むこととした。

Ⅱ 活動状況

1 役員

顧　　問　　桒原　伸行
（熊谷市立江南幼稚園）
会　　長　　安藤　義仁
（蓮田市立蓮田中学校　校長）
副 会 長　　小山　　悟
（吉川市立吉川小学校　校長）
菅野　昌司
（所沢市立上新井学校　校長）
田島　孝志
（熊谷市立吉岡小学校　校長）
岡芹　純一
（本庄市立仁手小学校　校長）
吉田　和敬
（秩父市立吉田小学校　校長）
事務局長　　松本　直大
（白岡市立大山小学校　教頭）

2 主な活動

(1) 令和元年５月22日㈬
埼玉県県民活動総合センター
・埼玉県学校視聴覚教育連盟
理事研究協議会及び総会
・埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会
理事研究協議会

(2) 令和元年６月12日㈬
高崎市中央公民館
・関放協・関視連　第１回合同理事会

(3) 令和元年８月６日㈫
さいたま市浦和コミュニティーセンター
・第23回 埼玉県教育メディア活用研究大会
＜研究発表＞
「プログラミング教育」～総合的な学習の時間と算数科の学習を通して～
幸手市立幸手小学校　石塚　吉幸　教諭

(4) 令和元年11月５日㈫
高崎市中央公民館
・関放協・関視連　第２回合同理事会

⑸　令年元年11月６日㈬
　　高崎市立南小学校　他
　・関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会
　　「視聴覚教材を用いて主体的・対話的に
　　学習に参加した学びを深める授業」
　　蓮田市立黒浜中学校　小川　貴史　教諭
⑹　令和２年３月10日㈫
　　埼玉県県民活動総合センター
　・埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会理事研究協議会

Ⅲ　今後の課題

これまで以上にタブレットＰＣをはじめ多種多様なＩＣＴ機器、放送教材等の教育メディアを積極的に活用した学習を実践し、より効果的な活用法について、研究を深めていくことが求められている。

また、学校地域によってＩＣＴ機器の導入には差が大きい現状があるため、最先端機器の活用実践と併せて今、学校にある機器を有効に活用した教育実践や工夫を研究することも必要になる。そうした実践内容・工夫点などを、互いに共有し合い、より質の高い指導方法を考え、児童生徒の学力向上に努めることが今後の課題である。

令和３年度には、関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会埼玉大会が蓮田市を会場として行われることが決定し、開催に向けた準備を進めているところである。

埼玉県放送教育研究会

Ⅰ　研究主題と主題設定の理由

１　研究主題

「だれもが考える力を育み　世界観をひろげる
埼玉の放送教育」
～ひろがる・つながる・深まる～

２　主題設定の理由

今までの研究の成果をもとに、本研究会では2015年に冊子『なぜ教室には　テレビがあるのか！？－学ぶ喜びのもてる放送教育－』を上梓した。冊子では、放送番組を活用した学習により、子供は自分らしく学ぶ喜びを味わうことができることを伝えた。

以上を踏まえ、本年度は研究主題を「だれもが考える力を育み　世界観をひろげる　埼玉の放送教育」～ひろがる・つながる・深まる～　とした。

放送番組を視聴すると、子供は皆、「分かった！」と言う。番組には分からせる力、働きがあるからであるが、この「分かった」は、一人ひとり異なっている。それは、一人ひとりの知識や経験、物事のとらえ方や考え方が個性的かつ多様であり、その子なりだからである。放送番組を使った学習では、子供の知識や経験等を関連付け、脳を活性化させていく。それが考える力の萌芽となる。活性化した脳（子どもの頭の中の世界）では、いろいろな見方や考え方がひろがり、つながっていく。世界観（※知的・情意的な側面を含む、ものごとの見方やとらえ方）の深まりである。しかし、それは限界もある。さらにひろげてくれるのは、他の子供である。一人ひとりの世界観を学習活動において出し合ったり、確かめたりすることによって、さらに自分の世界観がひろがり、深まっていく。放送番組を活用した学習「放送教育」によって、考える力と子どもの学びが豊かになり、人格の完成にもつながると考える。

本研究会では、そのような学びの実現を目指すとともに、さらなる放送教育の可能性を探るため、以下の事業を計画し、研究主題にもとづき実践的な研究を進めていく。

３　活動内容

⑴　日々の授業や研究活動（授業研究）を充実させ、研究主題に迫る放送活用を推進する。
　・放送番組の視聴を通し、自分らしく考え、自分らしく表現している。　【ひろがる】
　・放送番組と自分の知識や経験、友達の発言を関連付けて考えている。　【つながる】
　・学んだことを生かし、さらに深く考え、追究しようとしている。　【深まる】
⑵　研究活動（授業研究等）の研究成果を広く発表していく。
⑶　ＮＨＫ杯全国中学校放送コンテストの県予選大会を通して、校内放送の普及・充実とその活用を図る。
⑷　公開授業研究会、埼玉県教育メディア活用研究大会を通して、放送活用の普及・充実を図る。
⑸　他の県内外の情報教育関係研究会と連携し、組織改革を推進する。
⑹　冊子　『続　なぜ教室には　テレビがあるのか！？－学ぶ喜びのもてる放送教育－』の編集検討をし、研究内容をより改善、深化させる。

Ⅱ　活動状況

1　役　員

会　　長　清水　　肇
（さいたま市立沼影小学校長）
副 会 長　石川　秀治
（さいたま市立浦和別所小学校教諭）
佐藤　寿朗
（志木市立志木宗岡第四小学校教頭）
事務局長　四方　孝明
（八潮市立八條小学校教諭）
次　　長　関口麻理子（新座市立八石小学校教諭）
武井　佑樹
（朝霞市立朝霞第十小学校教諭）

2　主な活動

⑴　定例会（毎月第３土曜日）
NHKさいたま放送局、さいたま教育会館
⑵　授業研究会及び研究協議会
・第１回授業研究会　　武井　佑樹　教諭
７月５日㈮　八潮市立八條小学校
（理科：ふしぎエンドレス）
・第２回授業研究会　　星野　功貴　教諭
11月13日㈬　さいたま市立大砂土東小学校
（道徳：ココロ部）
・第３回授業研究会　　大室　健司　講師
１月17日㈮　さいたま市立植竹小学校
⑶　埼玉県教育メディア研究活用大会
８月７日㈬　浦和コミュニティーセンター
テーマ「だれもが考える力を育む放送教育」
～特別の教科　道徳の実践より
提案者　関口　麻理子　教諭
（新座市立八石小学校）
⑷　NHK杯全国中学校放送コンテスト
選考者　　福田　珠美　教諭
（草加市立瀬崎中学校）
・６～７月　埼玉県地区大会
・８月５日㈪・６日㈫　全国大会予選
⑸　放送教育研究会全国大会
・11月８日㈮・（９日㈯）
さいたま市立浦和別所小学校　石川　秀治　教諭
⑹　関東甲信越放送・視聴覚研究大会（群馬大会）
・11月６日㈬　高崎市
⑺　夏期研修 ８月25日㈰　さいたま教育会館
⑻　視聴覚教育研究集録 「第46集」 刊行　３月

Ⅲ　研究成果（発表資料、指導案など）

1　メディア活用研究大会

⑴　提案内容
「だれもが考える力を育み
世界観を広げる　放送教育」
～理科の授業実践より～
提案者
朝霞市立朝霞第十小学校　　武井　佑樹　教諭
⑵　研究協議・指導講評
①研究協議より
・年間どのくらいの時間を番組活用する計画か。
→本年度は、理科専科をしているので、ほぼ全単元で活用しているが、実験もスムーズにできるようになってきた。
・理科以外の教科でも番組を活用したことがあるのか。→昨年、高学年の担任をしていたが道徳、社会、総合、国語などでも活用していた。
②指導講評より
・新学習指導要領では、学びの過程、すなわち問題を見いだし、さらに主体的に学ぶ姿勢が大切になってくる。それと合致している。
・年間指導計画を考慮して、活用していく必要がある。
・番組を活用することは、どの児童生徒も内容に入り込みやすい。ゆえに、効果的に活用していける。

2　第1回授業研究会

⑴　研究授業
八潮市立八條小学校　　四方　孝明　教諭
①単元名「チョウを育てよう」
②教材名「虫の育ち方」（NHK for school）
○教育番組（ふしぎエンドレス）には、次のような特徴がある。
・新学習指導要領に準拠した流れになっている。
・番組中に他校の児童が出演しており、考えを述べてしまったり、クリップを埋め込んで制作されていたりするので、ストーリー性が薄い。
⑵　研究協議・指導講評
☆成果と課題
・児童は、積極的に発言をし、教師が発問をしなくても、比較という視点をもって考えたり、表現したりすることができた。
・「ふしぎがいっぱい」の方が、より使いやすいのではないか。

3　第２回授業研究会

⑴　研究授業

さいたま市立大砂土東小学校　　星野　功貴 教諭

①単元名「本当の友達」

②教材名「友達ランキング」（NHK for school）

○教育番組（時々迷々）の動画には、次のような特徴がある。

・動画により登場人物の様子や関係、状況が見て分かる

・葛藤が起こりやすいような場面設定がなされている。

・問題点に対する答えは、動画で出てくることはなく、視聴した児童が、その場面の対応策（解決策）を考えられるように構成されている。

⑵　研究協議・指導講評

☆成果と課題

・児童同士が意見交流をしていた。
教師が発問するだけでなく、児童同士で意見の交流を行っていた。

・児童がしっかり考え、自分の意見をもてていた。児童一人一人が自分なりの意見をもてていた。

・映像を見て内容を理解するから、児童の思考のスタートラインを揃えられる。

・途中から、発表する児童が減ったり、個人間の対話になってしまったりした。

・今どきの児童は、交換日記の意味をあまり理解できていない部分があり、少し内容項目に考えが及ばない児童もいた。

4　第３回授業研究会

⑴　研究授業

さいたま市立植竹小学校　　大室　健司　講師

①単元名「発電のしくみ」

②教材名「電気はどこから」（NHK for school）

○教育番組（ふしぎがいっぱい）には、次のような特徴がある。

・発電をより身近に感じることができるようなストーリー性がある。

・主人公の台詞がなく、児童が自問自答し、自分の考えをより広げながら考えることができる。

⑵　研究協議・指導講評

☆成果

・児童の発言が途切れることなく続き、教師がそれらの発言をしっかりと受け止めて、板書に整理していたので、意欲的に学習できていた。

・本時は、並行学習の形をとっていたが、前時までの学習も生かされた思考を児童がすることができた。

・発電をより身近に感じ、身の回りの電気の利用を網羅的に考えることができていた。

5　全国大会（埼玉・東京）

⑴　研究授業

さいたま市立浦和別所小学校　石川 秀治　教諭

①単元名「平和で豊かな暮らしを目ざして」

②教材名「歴史にドキリ」（NHK for school）

○教育番組（部）には次のような特徴がある。

・歴史的事象や人物像を自分の中に描きやすい。

・個の能力の差を埋め、皆が同じ土俵で向き合える。

⑵　研究協議・指導講評

☆成果

・タブレット端末を活用して、クリップ動画も視聴し、グループごとの対話を通して考えを深めることができていた。

・歴史的な出来事を、番組視聴を通してよりイメージすることができ、児童が積極的に発言していた。

埼玉県教育機器研究会　（休会中）

14　教育心理・教育相談

埼玉県教育心理・教育相談研究会

Ⅰ　研究主題

「通常の学級における発達障害児童生徒等の指導支援～社会性を育むスキル教育の実践と定着～」

Ⅱ　研究の概要

1　主題設定の理由

⑴　平成17年４月に発達障害者支援法が施行され、さらに平成18年度から通級による指導の対象として新たにＬＤ・ＡＤＨＤが加わったことにより、ＬＤ・ＡＤＨＤ・自閉症に対する発達障害・情緒障害通級指導教室の新設や増設が県内で進んでいる。

このような状況のもと、発達障害のある児童生徒が、通常の学級に籍を置き学校生活を送るケースも増えてきた。

一方、指導支援する教職員にあっては、このような障害のある児童生徒に対する理解が十分とはいえず、「どのような学級経営を行ったらよいのか」、「児童生徒を支援する関係機関や支援員との連携協力の在り方について」などの課題が生じている。

これらの課題に対して、本研究会としてどのように取組を進めたらよいか協議を重ね、活動方針を固めるとともに、必要な資料収集や事例研修会を実施することになった。

⑵　本専門委員会では、本会の研究テーマに関わり掲示用資料集（ＣＤ版）の普及を行ってきた。平成26年度には活用資料集を完成させ、ＣＤ版とセットで普及活動を行ってきた。平成28年度には、活用パンフレットを配付し、教育相談の発展に力を注いできた。

昨今の大幅な教職員の世代交代の中、教育相談主任の役割や教育相談室運営について知りたいというニーズが高くなってきた。

この現状を踏まえ、今年度は、専門委員のメンバーが、新たなプロジェクトに取り組む。通常の学級における配慮を要する児童生徒の対処法についての方策についてまとめていく。

2　研究方針

⑴　通常の学級等において、発達障害を有する児童生徒をどう理解し、指導支援していくか、先行事例に学び、研究を深め、実践事例等を広める。

⑵　社会性を育むスキル教育の実践と定着を図るため、各地区の事例や情報に基づいた研究を進める。

⑶　定例の理事会・専門委員会において、教育心理・教育相談の課題等について研究協議を行う。

3　研究計画

⑴　夏季研修会

県内の地域（南部、西部、北部、東部、さいたま市の５地区）ごとに、講演会、ワークショップを実施し、発達障害の理解や教育相談的手法、考え方を活かした指導・援助の方法を身に付け、実践に役立てる。

⑵　教育心理・教育相談講演会

教育心理及び学校教育相談等で活躍している専門家の講演会を通して、教師が、いじめの背景や具体的な対処法などを学び、望ましい人間関係や心を育む教育について理解を深め、実践に役立てる。

⑶　理事研究協議会

本研究会の運営について協議するとともに、国や県内の動向を知り、各地域における学校の実態に応じた研究の在り方を検討する。また、有効な手立てや情報を各地域に持ち帰り、研究活動の啓発及び各学校に活かせる取組を行う。

⑷　専門委員会

教育相談主任の役割や教育相談室運営に関わる情報を収集し、専門委員の気付きを共有し、それらを起点にして広く学校現場に還元できる提案ができるよう検討する。

Ⅲ　活動状況

1　総会及び第１回理事研究協議会

⑴　期　日　令和元年６月7日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・平成30年度事業報告
・平成30年度決算報告及び監査報告
・令和元年度役員承認
・新役員紹介及びあいさつ
・令和元年度活動計画
　本年度の基本方針
　夏季研修会、講演会、理事会等の計画、
　専門委員会活動計画
・令和元年度予算案
・夏季研修会について

・地区別協議
・役員打合せ

2　令和元年度役員

会　長　大木　　剛（東秩父村立東秩父中学校　校長）
副会長　山根　　明（草加市立小山小学校　校長）
　　金井　健治（日高市立武蔵台中学校　校長）
　　齋藤久美子（熊谷市立熊谷南小学校　校長）
　　鈴木　恵子（杉戸町立高野台小学校　校長）
　　飯島　政範（さいたま市立日進小学校　校長）
監　事　櫻井　仁志（東秩父村立槻川小学校　校長）
　　塩原　憲孝（東松山市立白山中学校　校長）
代表幹事
南　部　加藤　吉宏（草加市立栄中学校　教諭）
西　部　井上　和美（日高市立武蔵台中学校　教諭）
北　部　渡辺　智彦（寄居町立鉢形小学校　教諭）
東　部　小沢　範子（越谷市立増林小学校　教頭）
さいたま　川添　倫義（さいたま市立浦和別所小学校　教頭）
事務局　松井　　守（東秩父村立東秩父中学校　教諭）
幹　事　角田　和美（蕨市立東小学校　教頭）
　　渡邊　由佳（坂戸市立坂戸小学校　教諭）
　　神田めぐみ（小川町立西中学校　養護教諭）
　　浅見　将吾（深谷市立花園小学校　教諭）
　　福島　宏之（熊谷市立秦小学校　校長）
　　阿部　秀人（寄居町立城南中学校　教諭）
　　笹岡　宏之（深谷市立本郷小学校　教諭）
　　新井久美子（長瀞町立長瀞第一小学校　教諭）
　　福島　陽子（越谷市立北中学校　養護教諭）
理　事　　各地区研究会から選出された48名
専門委員　各地区から選出された14名

3　夏季研修会

⑴　南部地区
①期　日　令和元年８月９日㈮
②会　場　埼玉県県民活動総合センター
③内　容
ア　講演会
演題①
『発達障害のある児童生徒の理解と対応』
講師　明星大学　心理学部
教授　小貫　　悟　氏
骨子「すべての子がわかる」から「すべての子が学ぶ」へ「成功体験」から「成長体験」へ「参加」から「理解」へ・・・・感覚的な強みを生かして理解させることが重要である。
演題②
『明日から生かせる支援のヒント』
講師　明星大学　非常勤講師
臨床心理士　岡田　あずさ　氏
骨子　ユニバーサルデザインの視点として、障害のある人に限らず、全ての人の役に立つデザインであること、ユニバーサルデザインは、全ての子どもの「わかりやすさ」につながる。
イ　ワークショップ
・「ほんとうのわたしを見つけてVer.２」の活用方法と実際
・医療機関との連携～教育相談やコーディネーターの役割について～
・エンカウンター　・ＬＤ体験　・ネグレクト
・教材紹介・図書紹介
⑵　西部地区
①　期　日　令和元年８月１日㈭
②　会　場　フレサよしみ
③　内　容
ア　講演会
演題
『社会性を高めるための非認知能力の重要性』
講師　立教大学　現代心理学部
教授　大石　幸二　氏
骨子　学校ですることとして、①待つ・並ぶこと、②一度手放すこと、③ふりかえること、④意気込むこと、
教師の関わりとして、①まなざし、②うけとめ、③かかわりが重要であると講演いただいた。
イ　ワークショップ
・人間関係作り
・発達に課題のある子どもたちの特徴とその支援
・感情がコントロールできない子への支援
⑶　北部地区
①　期　日　令和元年７月26日㈮
②　会　場　深谷市立川本公民館
③　内　容
ア　講演会
演題①
『子どものやる気を引きだす教育相談～不登校・ひきこもりの青少年への訪問相談の事例を参考に～』
講師　開善塾教育相談研究所
所長　藤崎　育子　氏

骨子　子供と関わる時には、大事にしているものを褒めることで、その子の性格や特性が見えてくること。
家庭訪問時には、①走れる靴　②荷物は軽く　③階段は静かに登る　④ノックは優しく　⑤返事がない場合はすぐ帰る　⑥午後２時ごろはしないこと（親も子も負担な時間帯）。不登校児の特徴として、生活習慣が身に付いていないことが多いので、生活力・生活習慣は大切になること。

演題②
『発達に気がかりのある子の理解～巡回相談にあたって～』
講師　深谷市教育研究所
主任学校福祉相談員　八木　邦彦　氏
骨子　巡回相談の観察のポイントやリフレーミング、支援と配慮（社会で自立する力を育てる・合理的配慮と子供の意志決定）

⑷　東部地区
①　期　日　令和元年８月７日㈬
②　会　場　文教大学
③　内　容
ア　講演会
演題
『安全でさりげないコミュニケーションとは？～コミュニケーションの心理学～』
講師　文教大学人間科学部
教授　谷島　弘仁　氏
骨子　交流分析の理論や、学ぶ利点、考え方や、より良いコミュニケーションのためにという交流分析からのヒントと交流パターン等を教えていただき、それが、相手の心と自分の心の状態を理解し、平行な関係になることに繋がっていく。
イ　ワークショップ
・教育相談の基礎・基本「傾聴」を学ぶ
・いじめられていると言われた時、まずどうする？
・保護者を対象とした登校支援プログラム

⑸　さいたま市（夏季）
①　期　日　令和元年８月５日㈪
②　会　場　さいたま市立教育研究所
③　内　容
ア　講演会
演題
『チーム学校として（不登校・いじめ等）の対応について』
講師　東京家政大学
教授　相馬　誠一　氏
骨子　・不登校の定義と現状
・ひきこもり事例の特徴
・いじめの定義と現状
・子供たちの自殺
・子供たちのいのちを守るチーム学校と機関連携

⑹　さいたま市（秋季）
①　期　日　令和元年11月13日㈬
②　会　場　プラザイースト
③　内　容
ア　講演会
演題
『チーム学校を機能させる保護者対応の在り方』
講師　神田外語大学
客員教授　嶋崎　政男　氏
骨子　・保護者との協働
・カウンセリング・マネジメント
・カリキュラム・マネジメント
・コーディネート・マネジメント
・クライシス・マネジメント
・ナレッジ・マネジメント

４　第２回理事研究協議会
⑴　期　日　令和元年11月８日㈮
⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター
⑶　内　容
・専門委員会活動報告
・夏季研修会報告
・冬季講演会について
・研究集録について
・夏季研修会諸経費について
・地区別協議
・役員打合せ

５　冬季講演会
⑴　期　日　令和元年11月８日㈮
⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター
⑶　講　師　所沢市立泉小学校
発達障害・情緒障害通級指導教室
教諭　坂本　條樹　氏
⑷　演題『ソーシャルスキルトレーニング（SST）を再考する―　神経基盤から考える社会性の発達と獲得　―』

骨子　SSTは、人との関わり行動をより適切で効果的に行うことができるように手助けをする援助法。日本にSSTが紹介されたのは1988年のリパーマンの来日が最初とされる。統合失調症の治療（医療）から始まり、学校教育にまで幅広く利用されるようになった。

SSTの課題として、獲得した社会性に関する機能を日常の社会・学校生活で発揮した場合、適切なフィードバックが得られにくい。一連の手続きとプログラムの繰り返しが取りにくいなどがある。

６　第３回理事研究協議会

⑴　期　日　令和２年２月７日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・令和元年度事業報告
・令和元年度専門委員会報告
・令和元年度会計報告
・令和２年度事業計画
・令和２年度専門委員会計画
・令和２年度役員推薦について
・研究集録について
・地区別協議
・役員打合せ

Ⅳ　専門委員会の活動

専門委員会では、平成23年度から「社会性を育むスキル教育」の実践と定着を図ることを目指し、掲示用の資料作成に取り組んだ。その資料は平成26年度からＣＤ資料として配布販売され、平成28年度からは、その活用パンフレットも配付されるに至り、県内で教育相談の発展に寄与することができた。

一昨年度からは、教育界の世代交代の中、教育相談主任としての役割と教育相談室運営などのニーズが高い現状を踏まえ、オリエンテーション版として、その指針となる趣旨の配布物を作成することとなった。一昨年度は一年目として、専門委員のメンバーが資料提供と情報提供を相互に行う中で、配付に向けての準備を進めた。そして昨年度、完成・配付することができた。

本年度は、学校という場において、様々なトラブルの状態を把握し、カテゴリーⅠ（行動）カテゴリーⅡ（情緒・心）カテゴリーⅢ（生活習慣）カテゴリーⅣ（学力）といったカテゴリーごとに分類し、トラブルを起こす児童生徒に対して具体的な短期・長期の対処法を出し合い、まとめて提示していこうという試みを行った。

１　第１回専門委員会

⑴　期　日　令和元年６月7日㈮

⑵　内　容

・昨年度の活動内容確認と今年度の計画立案
・今年度の活動内容確認

２　第２回専門委員会

⑴　期　日　令和元年11月８日㈮

⑵　内　容

・学校現場での配慮を要する児童生徒の具体的な対処法レシピ集作成に向けての情報交換
・冊子発行のための準備

３　第３回専門委員会

⑴　期　日　令和２年２月７日㈮

⑵　内　容

・今年度の反省と次年度の確認

Ⅴ　今後の活動

夏季のワークショップや講演会等を通して発達障害を有する児童生徒への指導支援の重要性が認識されるとともに、具体的に学んだことを生かし、効果的な指導が実施されるようになっている。

教職員アンケートの結果や課題を検討する中で、「発達障害」「いじめ」「不登校」等への継続的な対応から、保護者とのコンサルテーション、教職員の世代交代に関わること、校内教育相談体制全般に関わること、その他多くの話題が報告された。どれも学校現場からの切実な背景が込められていた。

研修会の参加回数から見てもわかるとおり、教育心理・教育相談に本格的に関わることが初めてである教職員がかなり多くなってきている。

昨年度配付した「教育相談主任としての役割と教育相談室運営」は、教育相談の実践に不安を抱える教職員への一助となるものと考えている。

今年度以降も、本研究会での活動が、本県の教育心理・教育相談分野の発展に寄与できるように研究を重ねていく。

15　特別支援教育

埼玉県特別支援教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、自立と社会参加につながる指導・支援の充実を求めて～全特連埼玉大会の開催とその成果を通じて～」

2　研究活動方針

令和の新たな時代を迎え、特別支援教育の推進は、特別支援学級・通級指導教室・特別支援学校、幼稚園、小・中学校、高等学校の全ての学校において、なお一層その重要性が増してきている。平成の時代より、障害者の権利に関する条約が批准されるとともに、障害者差別解消法が施行され、共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育システム構築の動きが加速している。

各学校においては必要な幼児児童生徒に合理的配慮の提供が求められ、ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善の取組が進められている。これらのことを踏まえ、私たちはより高い専門性を身に付け、幼児児童生徒が志をもち夢と自信に満ちて社会で活躍できるよう、自立に向けた指導・支援を推進する必要がある。

本研究会は､これらの特別支援教育推進に係る諸課題解決に向け､学校及び教職員が抱える今日的課題を踏まえて研究を推進する｡そして､幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の一層の充実を目指して､教職員の指導力の向上と本県特別支援教育の振興に寄与する｡本年は､全特連全国大会埼玉大会を開催し､本研究会が70年にわたり積み重ねてきた特別支援教育に関する知見を活かし､未来社会を拓く特別支援教育の在り方を提案･協議できるよう最善を尽くす。

Ⅱ　活動状況

1　研究組織

本研究会は、小学校・中学校の特別支援学級を母体とする本部と障害種・学校別の３つの部会（難聴・言語、発達・情緒、特別支援学校）で構成されている。

2　本部事業

⑴　令和元年度総会

活動状況及び研究活動方針や事業計画を審議した。また、全特連全国大会埼玉大会実行委員会を実施した。

○期　　日　令和元年６月７日㈮　参加者　94名
○会　　場　埼玉大学附属特別支援教育臨床研究センター
○協議事項　事業報告、事業計画、新役員選出等

⑵　第58回全特連全国大会埼玉大会（第53回関東甲信越地区特別支援教育研究協議会埼玉大会、第59回埼玉県特別支援教育研究協議会さいたま大会）

毎年夏に開催する重要な事業であり、今年は、全国と関東大会を兼ね、全特連結成70周年の記念大会として、今後の特別支援教育の充実と進展を期する大きな節目となった。１日目には、全体会（開会式、表彰式、研究報告、行政説明、基調報告、記念シンポジウム）、２日目には、学校見学、分科会が行われた。18の分科会では、実践に基づく提案がなされ、全国各地から参加した先生方と今日の特別支援教育の状況や情報を共有し、熱心なグループ協議が展開された。指導助言者として全特連関係、大学機関等の研究者を迎え、専門的な見地から特別支援教育における的確な御指導と貴重な情報を提供いただいた。全体を通じて、実行委員、さいたま市運営委員、作業部員等の県内の先生方のご協力により、円滑な運営ができた。（参加者1,653名）

○期　　日　令和元年10月17日㈭・18日㈮
○会　　場
１日目（17日）
［全体会］大宮ソニックシティホール大ホール
［理事会］国際会議室
［レセプション］パレスホテル大宮
２日目（18日）
［学校見学］さいたま市内の小/中/特別支援学校
［分科会］大宮ソニックシティビル会議室
○全 体 会
＊行政説明「特別支援教育行政の現状と課題」
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長
俵　　幸嗣　氏
＊基調報告「志をもち、未来社会を自立的に生きる子供たち」全日本特別支援教育研究連盟理事長
明官　　茂　氏
＊全特連結成70周年記念シンポジウム
テーマ「特別支援教育の未来を展望する」
～新学習指導要領と特別支援教育の実践研究を通して～
シンポジスト　宮﨑　英憲　氏　松矢　勝宏　氏
黒澤　一幸　氏
コーディネーター 明官　　茂　氏
＊全特連三木安正記念研究奨励賞受賞者研究報告
「自分たちで会社を作って『仕事』をしよう！」
～学校の役に立つ仕事をパーフェクトにしよう～

第58回全日本特別支援教育研究連盟全国大会埼玉大会　分科会一覧

No	分科会名・テーマ	討議の柱	助言者	提案者
1	学校経営 共生社会の実現を目指した学校経営	教職員の資質向上・人材育成 インクルーシブ教育システムの構築を推進する学校経営	竹早学園竹早教員保育士養成所　特別支援教育主査　大井　靖 茨城大学教育学部　教授　加藤　崇英	茨城県常陸太田市立世矢中学校　校長　佐藤　恵子 埼玉県久喜市立青毛小学校　校長　落合　統一
2	特別支援教育コーディネーターの役割とセンター的機能 校内資源や地域ネットワークを生かした支援と連携	合理的配慮・合意形成にかかる支援の在り方 特別支援学校のセンター的機能の活用と充実	東京都新宿区立花園小学校　校長　川崎　勝久 埼玉大学教育学部　教授　尾崎　啓子	三重県伊賀市立上野東小学校　教諭　石川　真恵 埼玉県立深谷はばたき特別支援学校　教諭　篠原　弥生
3	幼児期の特別支援教育と幼保小の連携 幼稚園や保育所における一人一人のニーズに応じた早期支援と就学支援	早期からの就学支援の在り方 保護者への支援と関係機関との連携の在り方	明治学院大学　名誉教授　金子　健 星美学園短期大学幼児保育学科　准教授　遠藤　愛	岡山県岡山市旭東保育園　園長　谷口　利恵 埼玉県幸手市立吉田幼稚園　教諭　内藤　純子
4	各教科等を合わせた指導① （日常生活の指導・生活単元学習） 一人一人の意欲や生活する力を育む日常生活の指導・生活単元学習	基本的生活習慣の確立に向けた指導 地域や学校の特色を生かした学習展開の工夫	植草学園大学発達教育学部　教授　名古屋恒彦 山梨県立わかば支援学校　校長　柳沢　縁	山梨県立やまびこ支援学校　教諭　永井　志麻 埼玉県戸田市立喜沢小学校　教諭　岡田　悦子
5	各教科等を合わせた指導②（作業学習） 一人一人の自立する力、働く力を育む作業学習	卒業後の職業生活につながる指導 地域や学校の特色を生かした作業学習	明治学院大学社会学部　准教授　高倉　誠一 創価大学教育学部　准教授　山内　俊久	北海道新得町立屈足中学校　教諭　富谷　千城 埼玉県川越市立特別支援学校　教諭　鈴木　譲二
6	教科別の指導①（小学校段階） 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	資質・能力をバランスよく育成する指導 ＩＣＴを有効に活用した指導	東京都江東区立豊洲北小学校　校長　喜多　好一 神奈川県横浜市教育委員会特別支援教育課主任指導主事　菅井　昭宏	栃木県さくら市立南小学校　教諭　杉本　有子 栃木県塩谷町立大宮小学校　教諭　深津　祥子 埼玉県さいたま市立南浦和小学校　教諭　本山　仁美
7	教科別の指導②（中学校段階） 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	資質・能力をバランスよく育成する指導 ＩＣＴを有効に活用した指導	東京都府中市立府中第三中学校　校長　高岡　麻美 長野県総合教育センター　専門主事　山岸　俊朗	群馬県前橋市立富士見中学校　教諭　池田美千穂 埼玉県春日部市立武里中学校　教諭　石川　大樹
8	自立活動 一人一人の教育的ニーズに応じ豊かな生活を支援する自立活動	きめ細かな実態把握・評価に基づく個別の指導計画の作成 困難さの背景に着目した指導	千葉県立千葉特別支援学校　校長　井上　昌士 栃木県教育委員会事務局特別支援教育室　指導主事　田辺さや佳	長野県中野市立中野小学校　教諭　岡崎　礼子 埼玉県立和光南特別支援学校　教諭　親崎　惇司
9	通常の学級における児童生徒の支援と授業改善（小・中学校） ＵＤの視点を取り入れた発達障害のある児童生徒への指導と授業づくり	合理的配慮に対応した学習環境整備と指導 すべての児童生徒に分かりやすい授業の工夫	埼玉純真短期大学　子ども支援センター長　教授　伊藤　道雄 新潟県教育庁義務教育課特別支援教育推進室　指導主事　疋田　敦士	新潟県上越市立南本町小学校　教諭　山崎　彰 埼玉県吉川市立美南小学校　教諭　宮本　絵美
10	高等学校における特別支援教育 高等学校における特別支援教育の推進	合理的配慮への対応とニーズに応じた指導 高等学校における通級による指導	東京都立中野特別支援学校　校長　山賀　出穂 国立特別支援教育総合研究所　主任研究員　若林　上総	京都府立清明高等学校　教諭　塩見　匠 埼玉県立新座高等学校　教諭　グラス万里子 埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園　教諭　相川　賢樹
11	通級による指導（発達障害・情緒障害） 通級指導教室における発達障害・情緒障害のある児童生徒への指導	主体的に学ぶ意欲を伸長する指導 在籍校・保護者・関係機関との連携の在り方	植草学園短期大学福祉学科　教授　佐藤　慎二 埼玉大学教育学部　教授　名越　斉子	熊本県熊本市立城南小学校　教諭　林田亜砂美 埼玉県熊谷市立熊谷西小学校　教諭　戸田　昌子 埼玉県熊谷市立熊谷西小学校　教諭　沼上　智子
12	難聴・言語障害のある児童生徒への指導 難聴・言語障害のある児童生徒への指導	専門性を生かした指導 在籍校・保護者・関係機関との連携の在り方	東京都調布市立飛田給小学校　校長　山中ともえ 国立特別支援教育総合研究所　上席総括研究員　横倉　久	東京都中央区立明正小学校　主任教諭　大井美保子 埼玉県宮代町立百間小学校　教諭　染谷美弥子
13	自閉症の児童生徒への指導 知的障害と自閉症を併せ　有する児童生徒への指導	自閉症の特性を生かした指導・支援の工夫 一人一人のニーズに応じた個別の指導計画の作成	東京都立品川特別支援学校　校長　杉本　順 淑徳大学総合福祉学部　教授　加藤　哲	千葉県旭市立中央小学校　教諭　宮内　弘和 埼玉県立秩父特別支援学校　教諭　磯田　貴之 埼玉県立秩父特別支援学校　教諭　宮前　太志
14	重度・重複障害のある児童生徒の指導・支援 重度・重複障害のある児童生徒の理解と支援及び医療との連携	障害の特性等に応じた指導上の配慮の充実 保護者・医療機関等との連携の在り方	東京都立調布特別支援学校　校長　宮田　守 埼玉大学教育学部　教授　細渕　富夫	福島県立平支援学校　教諭　角田　里香 埼玉県立熊谷特別支援学校　教諭　内田　考洋
15	キャリア教育 社会に開かれた教育課程の編成とキャリア教育	卒業後を見据えた一貫した指導・連携の在り方 働く意欲を育むキャリア教育	弘前大学大学院教育学研究科　教授　菊地　一文 群馬県教育委員会事務局特別支援教育課　指導主事　藤生　雅代	弘前大学教育学部附属特別支援学校　教諭　栩内　伸子 埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園　教諭　金谷　有子
16	交流及び共同学習 豊かな関わり合いの中で共に学び合う交流及び共同学習	豊かな心を育む交流及び共同学習 学校間における交流及び共同学習	東洋大学文学部　准教授　高野　聡子 神奈川県横浜市教育委員会特別支援教育課　指導主事　伊東　純太	神奈川県横浜市立岡野中学校　主幹教諭　佐竹　佳美 埼玉県立越谷西特別支援学校　教諭　鈴木風太郎
17	健康・安全教育 生きる力を育む健康・安全教育	健やかな心と体を育む指導の工夫 障害特性に応じた防災・安全教育の在り方	三楽病院サンライトサポート室　室長　早川　智博 埼玉大学教育学部(埼大附属特別支援学校長)　教授　戸部　秀之	兵庫県豊岡市立三江小学校　主幹教諭　藤原　美和 埼玉県立日高特別支援学校　教諭　齋藤　朝子
18	障害者スポーツ 障害者スポーツの推進・余暇活動の充実	障害者スポーツの推進体制の在り方 生涯スポーツとしての障害者スポーツの在り方	順天堂大学スポーツ健康学部　准教授　渡邉　貴裕 埼玉県障害者スポーツ協会　副会長　重田　博	福井県立嶺北特別支援学校　教諭　山田　摂雄 埼玉県立特別支援学校塙保己一学園　教諭　松本　一輝 埼玉県立特別支援学校塙保己一学園　教諭　杉浦　広樹

千葉県立銚子特別支援学校　教諭　東　　郁美

＊開催地研究報告「共に学ぶ、共に生きる」

～合唱ミュージカルライオンキングの取組～

埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園教諭

松澤ゆかり　加藤ゆかり　菅原　　俊

仁井田桂一郎（協力校：誠和福祉高校コーラス部・羽生第一高校吹奏楽部）

○分 科 会　61ページの一覧で報告する

⑶　研究委嘱

①久喜市立青毛小学校　［委嘱年度30・元年度］

「コミュニティ・スクールを基盤としたインクルーシブ教育システムの構築」

②熊谷市立富士見中学校［委嘱年度30・元年度］

「中学校通級指導教室における生徒一人一人の夢の実現に向けた、キャリア発達を促す取組」

③川越市立川越小学校　［委嘱年度30・元年度］

「豊かなかかわり合いの中で今と未来にいきる」

④久喜市立清久小学校　［委嘱年度元・２年度］

「多様な教育的ニーズに対応するＵＤを取り入れた授業研究」

⑤熊谷市立熊谷東中学校［委嘱年度元・２年度］

「校内通級指導教室を中心とする特別支援教育体制の充実に関する研究」

⑥戸田市立喜沢小学校　［委嘱年度元・２年度］

「共生社会の形成者を育成する特別支援教育に関する研究」

⑦戸田市立戸田中学校　［委嘱年度元・２年度］

「気づき・考え・深める特別支援教育」

３　難聴・言語障害教育研究部会

⑴　研修の概要

「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援のあり方を求めて」を研修テーマにして、全体研修会（２回）、グループ別研修会、役員研修会を行った。

埼玉県・さいたま市の65校130名の担当者にとって本研究部会は貴重な研修の場であり、難聴・言語障害に関する専門性向上の一助となった。

⑵　具体的な研修内容

【第１回　全体研修会】

期　　日　令和元年５月７日㈫

会　　場　さいたま市立日進小学校

全体協議　令和元年度研修計画立案及び役員選出

講 演 会　テーマ「特別支援教育の現状と課題」

講　　師　埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課

指導主事　早野　裕之　先生

埼玉県の特別支援教育の充実に向けての今年度の動向及び難聴・言語障害通級指導教室の役割についてお話いただいた。

【第２回　グループ別研修会】

期　　日　令和元年６月18日㈫

会　　場　越谷市立大沢小学校

［グループ別研修のテーマ］

○構音グループ「構音指導の基礎」

講　師　　西田　立郎　先生

○吃音グループ「グループ協議と指導内容の共有」

○難聴グループ「難聴児の指導と支援について」

講　師　田中美郷教育研究所

主任言語聴覚士　芦野　聡子　先生

○教室経営グループ「教室経営の現状と課題」

【第３回　全体研修会】

期　　日　令和元年11月13日㈬

会　　場　狭山市立入間川東小学校

国立障害者リハビリテーションセンター学院言語聴覚学科教官の坂田善政先生よりご講演いただいた。小児吃音の基本的な知識と、医学、心理学、社会学など、様々な側面からの指導・支援の仕方を学ぶことができた。

講　　演「児童の吃音の指導・支援～基本的な考え方と手立て～」

講　　師　国立障害者リハビリテーションセンター学院　言語聴覚学科

教官　坂田　善政　先生

【役員研修会】

期　　日　令和２年２月14日㈮

会　　場　朝霞市立朝霞第五小学校

講　　義　「難聴児の指導と支援」

講　　師　目白大学保健医療学部言語聴覚学科

木場　由紀子　先生

全体協議　・今年度の事業報告、会計報告

・今年度の各グループ別研修内容の報告

・新年度の役員について

４　発達・情緒障害教育研究部会

⑴　研究部研修テーマ

「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援のあり方」

⑵　研修実施報告

様々な分野で活躍する支援者からの発表・講演を聞き、特別支援教育の今日的課題について研鑽を深める。

【第１回研究協議会】

期　　日　令和元年８月27日㈫

会　　場　所沢市立並木小学校　　参加者 154名

全 体 会

演　　題　「発達の気になる子の・・・

楽しく運動・学習ができるようになるビジョントレーニング」

講師・指導

米国オプトメトリスト　北出　勝也　先生

視機能トレーニングセンター「Joy Vision」代表である北出勝也先生を講師にお招きし、講演会及び

実技演習を開催した。北出先生は、本国における「ビジョントレーニング」の第一人者で、日本では数少ないオプトメトリストの有資格者である。オプトメトリストとは、目の機能を検査し、最適なトレーニングを指導する視覚機能の国家資格（米国）である。

視覚機能とは、視力・眼球運動・両眼のチームワーク・調節機能などの入力機能と、脳の中で視覚情報を認知・記憶・イメージする処理機能の２つを総合した機能のことである。視覚機能のどこかに問題がある場合、字を効率よく読んだり、書いたりすることや、漢字を覚えたり、図形の問題を解くこと、イメージして考えることなどが苦手になってくる。

今回の講演では、まずそうした視覚機能のアセスメント方法を、実演を交えてご講義いただいた。特に、学校の授業中に誰でも確認できる「学校で見られるサイン」として、視覚機能に問題のある子の兆候をいくつか教えていただいた。例えば、「目を細めて見ようとする」「飛ばし読み、作り読み、頭の動き、ボールが受けられない」「字形の左右反転」などである。

そして、そのような困難さを抱える児童生徒らに対する豊富なトレーニング課題をご教授いただいた。

例えば、ブロックやパズルを用いた、知覚認知のトレーニング課題。目と手の協調運動を用いた眼球運動課題（ナンバータッチ、線なぞりなど）。さらにユニークな取組としては、クラスの児童生徒全員で取り組めるリズム運動を用いた眼球運動トレーニングがあった。これは、いくつかの動きを音楽に合わせて模倣し、その過程で眼球運動や目と手の協応運動が行われる仕組みになっている。

ビジョントレーニングの知名度と特別支援教育におけるニーズの高さから、当日は定員を大幅に超える申し込みがあり、参加者には大変な不便をおかけした。

【第２回研究協議会】

期　　日　令和２年２月20日㈭

会　　場　春日部市立牛島小学校　　参加者 70名

研究授業「発達障害児の社会性を育てる指導」

春日部市立牛島小学校

通級指導教室担当　　沼田　敦　先生

長年、通級指導教室を担当され、最新の特別支援教育の動向に詳しい沼田先生の日頃の実践をご紹介いただいた。沼田先生からは、特別支援の観点を取り入れた通常学級における授業や、通級担当と連携しての授業、さらにはユニバーサルデザインの観点を取り入れた授業などを公開いただいた。

沼田先生は、学習につまずきがある児童の学びの姿に着目し、そのつまずきに応じて授業を工夫することが、結果としてクラス全体の子供たちに対する授業改善につながるのではないか、との仮説のもと通常学級の授業を構成された。また、やりにくさを抱える子供を、以下の４タイプに分類して児童へアプローチした点もユニークであった。TYPEⅠ：注意の集中困難・多動傾向、TYPEⅡ：コミュニケーション、想像力の苦手さ、TYPEⅢ：処理や理解に時間がかかる、TYPEⅣ：興味・関心のなさがパフォーマンスに影響している（二次的な問題）。

さらに、抽出児童へのアプローチから全体の子供たちの学びの変化や影響を探る中で、授業がどのように分かりやすいものに変化していくのかに着目し、指導法の工夫を行なっていた点も見逃せない。

５　特別支援学校部会（９つの研究部会）

各研究テーマの基、実技研修も交え取り組んでいる。

（各部会の研究内容：本会発行の会報52号を参照）

○国語

「生活を豊かにする国語の指導」

○算数・数学

「新学習指導要領に基づいた指導法について」

○日常生活の指導

「一人一人の意欲や生活する力を育む日常生活の指導」

○生活単元学習

「一人一人の意欲や生活する力を育む生活単元学習
～地域や学校の特色を生かした学習展開の工夫～

○作業学習

「生徒の実態に即した作業学習」

○自立活動

「個の障害特性・ニーズを踏まえた自立活動の充実」
～新学習指導要領を踏まえた基本的な考え方と実践～

○体育

「よりよい授業づくりを目指して」
～子どもたちの達成感を大切にし、次の活動意欲を育む体育指導の工夫～

○音楽

「主体的に音楽に関わり、豊かに表現できる力を育てる音楽教育」～音楽のよさを味わい協働的に学び合える授業の工夫～

○図工・美術

「一人一人が主体的に楽しめる図工・美術」

６　今後の課題

全ての教育機関において「特別支援教育」の必要性が叫ばれ、インクルーシブ教育システムの構築が課題となっている。本会の研究協議会の参加者は、幼・小・中・高の校種、特別支援学級、特別支援学校、通常の学級の教員や管理職まで幅広い。

今後とも全国大会の成果を活かし、教育現場でのニーズに最も応えられる団体として、国や県の動向、他県の状況等を把握しながら、更に研究を推進し、教育実践の充実を図りたい。

16 学 校 図 書 館 教 育

埼玉県学校図書館協議会

Ⅰ　研究主題

「豊かな心と確かな学びを育む学校図書館の創造」
～主体的・対話的で深い学びを支える
学校図書館教育～

Ⅱ　主題設定の理由・方針

今年度は、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成し、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視した新学習指導要領の実施に向けての移行期間である。改訂の基本的な考え方として、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視するこれまでの学習指導要領の枠組みや教育内容を維持したうえで、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成するとある。

また、従来の「言語活動の充実」が「言語活動の確実な育成」と表現を変えて、発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成や、学習の基盤としての各教科等における言語活動の充実を謳っている。その中でも、読書活動は、児童生徒の知的活動を増進し、豊かな心と確かな学びを育むとともに、人間形成・情操や情報活用能力を養う上で重要である。全教育活動を通し、児童生徒の望ましい読書習慣や図書館等を活用する学習習慣を身に付けるため、学校図書館を計画的に利用して、多様でしかも創意工夫のある学習指導の展開を図ることが必要である。さらに、新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」についての理解と学校図書館の果たすべき役割について研究を深めていくことは焦眉の問題だと言える。

そこで、本年度は、学習指導要領の趣旨に基づき、主体的・対話的で深い学びを支える学校図書館の研究を最重要課題に設定し、研究大会や読書感想文コンクールをはじめとする諸事業の一層の充実を図ることとする。

1　活動方針

⑴　管理運営：学習・情報センターとしての学校図書館の充実
①学校図書館全体計画
②年間経営計画
③小中・地域連携全体計画の見直し

⑵　利用指導：学び方を学ぶ情報活用能力を育成する指導の在り方
①学び方指導計画、情報メディアを活用する学び方体系表
②利用指導年間指導計画の見直し
③学校図書館活用事例を付記した各教科等年間指導計画例の提案

⑶　読書指導：生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導の在り方
①読書指導の全体計画体系表
②読書指導年間指導計画
③小中連携の系統表

⑷　地域連携：学校、家庭、地域社会等の連携による読書活動の推進の在り方
①学校・家庭・地域等（図書館ボランティア等）の連携の体系表
②家庭教育との連携
③公立図書館等との連携推進

2　各部の事業概要

⑴　事務局……事業の計画・実施・評価、各会議の開催手続、年度資料ファイル管理、一般会計、会計監査等

⑵　総務部……読書感想文コンクール、読書感想画コンクールの企画・運営、表彰式の企画・運営

⑶　研究部……活動方針と努力点の計画・実施、研究員協議会、研究大会、授業研究会の企画・運営・管理・記録、研究刊行物の再編集

⑷　情報部……広報誌のための基礎資料収集と速報版の発行

⑸　出版部……研究集録・感想文集「真珠」の編集・発行、刊行物の企画・運営・管理等

3　活動状況

５月７日㈫　第１回本部役員研修会
会　場：朝霞市民会館

６月４日㈫　新旧役員研修会（総会）・理事会
本部役員会・第１回研究員研究協議会
会　場：越谷市中央市民会館

７月29日㈪　埼玉県学校図書館研究大会
　会　場：越谷市中央市民会館
　共　催：埼玉県図書館協会
８月８日㈭　関東地区学校図書館研究大会
～９日㈮　千葉大会へ参加
　会　場：千葉工業大学
11月20日㈬　第65回読書感想文コンクール
　県中央審査会
　会　場：さいたま市立与野本町小学校
11月26日㈫　授業研究会（中学校）及び
　第２回本部役員研修会
　会　場：越谷市立大相模中学校
　指導者：越谷市教育センター
　前越谷市立武蔵野中学校長
　前埼玉県学校図書館協議会
　研究部長　堀山　邦明　氏
　授業者：中井　美穂　教諭
　内　容：学び方を学ぶ情報活用能力を育成する指導の在り方
　国語　「調べたことを報告しよう」
１月14日㈫　第31回読書感想画コンクール
　県中央審査会
　会　場：さいたま市立教育研究所
　来　賓：毎日新聞さいたま支局
　支局長　　松下　英志　氏
　さいたま市教育委員会
　指導主事　小川　直生　氏
　さいたま市立片柳中学校
　校長　　中川　昇次　氏
２月12日㈬　読書感想文・感想画コンクール
　表彰式及び第２回理事会
　第２回研究員研究協議会
　会　場：越谷市中央市民会館
３月７日㈯　第２回本部役員会
　会　場：朝霞市民会館
☆ 研究集録　発行
☆ 感想文・感想画集　「真珠」発行
☆ 広報誌「埼玉SLA」発行

Ⅲ　本年度の主な研究内容

１　埼玉県学校図書館研究大会

令和元年７月29日㈪　越谷市中央市民会館にて、埼玉県学校図書館協議会・埼玉県図書館協議会の共催による「埼玉県学校図書館研究大会」を、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会の後援を受け開催した。

当日は、「豊かな心と学びを育む学校図書館の創造」をテーマに、午前に講演を１本、午後は全体講義を１つと４分科会に分かれての研究会を行った。小・中・高等学校の司書教諭や学校図書館・公立図書館の関係者が多数参加し、有意義な大会となった。

＜講演会＞

「読書好きを増やす学校づくり～物語だけでなく」
講師　沼津市立静浦小中一貫学校
司書教諭　小谷田照代　氏

平成26年４月開校、静岡県初の施設一体型小中一貫校に勤務している。全校生徒258名９学年が同じ校舎で学ぶその中心に、三層構造の学校図書館がある。

朝読書はもちろんのこと、総合的な学習の時間を利用した「言語科」のビブリオバトル、読書会を展開している。学校図書館の本を読まない中学生に本の面白さを知らせて、読書の幅を広げさせようとビブリオバトルを始めた。教員によるビブリオバトルを見学させることで生徒のやる気を喚起した。その活動により、生徒の読書への関心が高まった。

また、読んだ本について語り合う読書会の取組も始めた。本の感想を語り合うことで友達の意見に共感したり、自分の感想との違いに意外性を感じたりして、ますます本好きが増えていった。その他の教科でも並行読書や図書を活用した授業が頻繁に行われている。これは、教科横断的な学習を意識してカリキュラムマネジメントを行っている成果と言える。その中心にいるのが司書教諭であり、学校司書とともに、カリキュラムマネジメント会議において、教員のニーズを把握し情報交換を行っている。

グランドデザインに学校図書館についての項目が入っていること、学校図書館全体計画を作成し、それをもとに学校図書館を運営・活用していくことが大切である。

＜全体講義＞

「ビブリオバトルを楽しもう♪」
講師　埼玉県立浦和第一女子高等学校
主任司書　木下　通子　氏

ビブリオバトルの原型は、2007年に発案者　谷口忠大　先生が京都大学情報学研究科共生システム論研究室で「即興性」を大切にし、みんなが探してきた理系の本を紹介し合い、その中で一番いい本を決める勉強会から始まった。現在大学・高校を中心に展開されているが、中学生・大人の間にも広がりを見せている。

学校や図書館でビブリオバトルを行うメリットは、「本を通して人を知る　人を通して本を知る」ことにある。自分を表現することが苦手な人も、本が助けてくれるので思いを伝えやすい。

当日は、公式ルールを紹介しながら本を持参した参加者に、その方法を実践してもらい講義が進んだ。

【ビブリオバトル公式ルール】

・発表者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
・順番に一人５分間で本を紹介する。（５分間はその人の時間。原稿を書いてもよいが本番は見ない。）
・それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを２分間行う。
・全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一人一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

【ビブリオバトルの効果】

・参加者で本の内容を共有できる（書籍情報共有機能）
・スピーチの訓練になる（スピーチ能力向上機能）
・いい本が見つかる（良書探索機能）
・お互いの理解が深まる（コミュニティ開発機能）

まず、大人がやってみること。

効果を求めすぎず「楽しむ」ことが一番である。

＜分科会＞

分科会Ａ（管理運営）

「学習・情報センターとしての学校図書館の運営と充実」

提案発表者

幸手市立幸手小学校　菅野雄太朗　教諭
熊谷市立大原中学校　荒川　琴美　教諭

菅野教諭は、図書室の利用を促進するため、貸出人数の数値化、年２回の読書月間の設定を行っている。全小中学校配置の図書館協力員が厳選した本を届けるBookBoxの取組、「家読」、年２回のお話会、図書ボランティアによる読み聞かせや図書館整備が紹介された。

荒川教諭は、「より良い学校図書館を目指して―司書教諭がつなぎ広げる学校図書館教育―」と題して、主に「資料の整備」「来館者数を伸ばす取組」「市立図書館との協力」について、具体的な取組を紹介した。

協議では、図書購入の悩み、図書委員会の活性化、学習・情報センターとしての工夫について、参会者が実践を紹介したり、意見や感想を述べ合ったりした。

分科会Ｂ（利用指導）

「学び方を学ぶ情報活用能力を育成する指導の在り方」

提案発表者

川越市立名細小学校　小林　直子　教諭
本庄市立本庄西中学校　鯨井　有沙　教諭

小林教諭は、第３学年で取り組んだ図書館を活用した「総合的な学習の時間」の授業実践について発表した。初めてこの時間に取り組む児童に、情報活用の基礎を学ばせ、今後の学習につなげていくことを目標としている。

鯨井教諭は、利用できる学校図書館づくりを目指しての実践を発表した。第2学年の国語科「多様な情報の集め方」「魅力的な提案をする」の調べ学習での活用である。それらを通し、調べ学習のスキルや情報リテラシーを身に付けさせた。図書館利用の手立てとして、教師が意図的に導いていくことの大切さを説いていた。

年度当初の年間指導計画や系統表の確認、見通しを持って意図的に図書館を利用していくことが大切であることの助言があった。

分科会Ｃ（読書指導）

「生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導の在り方」

提案発表者

ふじみ野市立上野台小学校　千葉明日香　教諭
杉戸町立東中学校　谷部　友哉　教諭

千葉教諭は、「読書ビンゴ」、お薦めの本に投票する「図書室総選挙」、読み聞かせを紹介した。小学校では、児童の発達の段階に応じて内容を変え、より参加しやすい工夫を行っている。学校図書館支援員とは、学習支援の面でも協力している。

谷部教諭は、授業内・外での読書活動の取組と課題・検討点について発表した。PCを使った本の紹介カードの作成・発表・掲示の授業、地域ボランティアとの連携「読み聞かせブラックシアター」での古典学習の導入などを発表した。身近に本の少ない環境で生活している生徒への取組の必要性、その場しのぎの指導にならないような指導の継続性も課題として挙げられた。

助言者からは、教師自身も積極的に図書室へ足を運び、子どもの読書傾向の把握を行い、自らの読書にも意識を高くもつ必要性をご指導いただいた。

分科会Ｄ（地域連携）

「学校、家庭、地域社会等の連携による読書活動の推

進の在り方」

提案発表者

三郷市立丹後小学校　八代　徳子　教諭

鴻巣市教育委員会生涯学習課　早川　英子　主査

八代教諭は、学校図書館ボランティア・公共図書館との連携について発表した。読み聞かせ、お楽しみ会、館内掲示や夏休みのイベントなどでボランティアの協力を得ている。公共図書館には、小３・４年対象のポプラディア、小５・６年対象の朝日ジュニア年鑑の団体貸出をお願いしている。調べ学習への協力貸出、学級文庫の団体貸出、「子ども司書」養成講座、「らんどせるブックよもよも」（小１対象）、「図書館トーク」（小３対象）なども行っている。

早川氏は、学校図書館と鴻巣市立図書館との連携、学校図書館支援員について発表した。学校支援用として、調べ学習のための予算を設け、選書・発注も公共図書館のスタッフが行っている。資料定期配送、朝読書用図書貸出、調べ方についての出張授業、POPの展示、社会体験チャレンジ等を行っている。支援員の活動は、平成26年度から始まり現在７名の支援員を配置している。主な活動は、貸出業務、環境整備、授業支援、選書補助である。

連携を続けていく難しさはあるが、司書教諭と支援員が連携して取り組むことが必要である。

２　授業研究会（中学校）

期　日：11月26日㈫

会　場：越谷市立大相模中学校

内　容：調べたことを報告しよう

～パスファインダーを活用して～

授業者：司書教諭　中井　美穂　教諭

指導者：越谷市教育センター　堀山　邦明　氏

３　第65回読書感想文コンクール県中央審査会

期　日：11月20日㈬

会　場：さいたま市立与野本町小学校

最優秀賞受賞者

≪読書感想文≫

◎課題読書

小低　川越市立高階北小学校　２年　前田　湧心

作品名　「きょうだいをすきになるまほう」

小中　草加市立谷塚小学校　４年　石黒　琉翔

作品名

「自然の恵みに感謝して…ハチごはん」

小高　春日部市立武里小学校　５年　篠﨑　想空

作品名　「ねずみにあこがれて」

中学校

越谷市立北中学校　２年　嶋屋　涼子

作品名　「地図を描く資格」

◎自由読書

小低　春日部市立粕壁小学校　２年　古庄　柚葵

作品名　「わたしの大先ぱい、さあちゃん。」

小中　上尾市立大石小学校　３年　戸川　敬太

作品名「強くなるために」

小高　越谷市立東越谷小学校　６年　堀内　玲音

作品名　「自分らしい生き方」

中学校

草加市立谷塚中学校　１年　松村　優斗

作品名　「本当の敗者になりたい」

４　第31回読書感想画コンクール県中央審査会

期　日：１月14日㈫

会　場：さいたま市立教育研究所

最優秀賞受賞者

≪読書感想画≫

◎指定読書

小低

さいたま市立沼影小学校　３年　東　奏怜

小高

さいたま市立仲町小学校　６年　涌井あずさ

中学校

さいたま市立植竹中学校　２年　滝花　春乃

◎自由読書

小低

熊谷市立熊谷西小学校　１年　堀内　翼

小高

さいたま市立道祖土小学校　６年　越河　咲貴

中学校

さいたま市立植竹中学校　２年　飯田　里彩

Ⅳ　成果と今後の活動

夏季休業中の研究大会には多数の参加者があり、「主体的・対話的で深い学び」に果たす学校図書館と読書活動の役割について多様な視点から学ぶことができた。また、２月に感想文・感想画コンクールの表彰式と理事会を開催し、１年間のまとめと次年度に向けての準備を行うことができた。

令和５年の関東地区大会に向けて、研究の推進と各部の活動のさらなる改善が今後の課題である。

役員・研究員のネットワーク化も、引き続き、工夫改善の余地がある。

来年度も、各地区理事や研究員と綿密に連携し、学校図書館教育の充実をなお一層図っていきたい。

17　中学校技術・家庭科教育

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会

Ⅰ　はじめに

技術・家庭科のねらいの具現化に向け、題材計画の検討および題材開発検討を行い、実践研究を進め、その研究成果を県内各中学校の技術・家庭科の教育活動に広げ、生かす取組を行ってきた。

また、全国研究大会と７ブロックの研究大会を中心とする教科の研究と、生徒の学習成果の発表の場として設定されている「創造ものづくり教育フェア」の開催・運営を活動の両輪として教育実践を進める形が全国的な動きとなっているなか、本県でも同様に運営と広報の体制を整備し、フェア関係事業の拡張を意識した取組を行っている。

Ⅱ　研究主題

本県研究テーマ
「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する学習指導の研究
～新学習指導要領に基づいた題材計画の検討～」

本年度は、新学習指導要領の移行期間という特性を踏まえて、これまで関ブロ等で積み重ねてきた研究を生かしつつ、新たに「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する学習指導の研究～新学習指導要領に基づいた題材計画の検討～」というテーマを設定して研究を進めることにした。

Ⅲ　本年度の研究内容・活動状況

１　研究方針・研究体制

⑴　県内を11支部に分け、各支部より専門委員を選出し、指導内容等による分科会を配置し、研究について情報交換を行いながら、研究発表を行う体制を作る。

⑵　専門委員会の活動を中核とし、各支部でリーダーシップ をとった技術・家庭科教育の充実を図る。

⑶　これまでの研究成果と課題を基に、現行学習指導要領から新学習指導要領への移行に向けて題材計画・配列の検討など準備を中心に行った。

⑷　現行学習指導要領の趣旨の具現化につながるよう、各支部で授業研究会等を推進する。

⑸　各校の技術・家庭科の授業実践に生かせる資料を可能な限り検討及び作成・収集する。

⑹　部会（①材料と加工の技術部会、②生物育成の技術部会、③エネルギー変換の技術部会、④情報の技術部会、⑤家族・家庭生活部会、⑥衣食住の生活１（食生活）部会、⑦衣食住の生活２（衣・住生活）部会、⑧消費生活・環境部会ごとに、新学習指導要領の読み込み及び分析を行い、それに見合った年間指導計画及び題材計画を作成し、その中で授業実践や、授業提案を行いながら、研究を進めるとともにそれぞれの部員の指導力向上を図った。

また、ものづくりフェア部会を別に設け、フェア運営の充実を図った。

２　研究経過・活動の概要

⑴　専門委員会

①第１回専門委員会
６月18日㈫　県民活動総合センター
○平成30年度　活動報告
○令和元年度研究概要の説明・周知
○研究の検討及び進め方について

②第２回専門委員会
８月23日㈮　蓮田市文化会館ハストピア
○全体会（今後の研究の見通しについて）
○各分科会の研究協議
（今後の研究の方向性・実践予定の検討）
○文部科学省教科調査官（家庭分野）による講演

③第３回専門委員会
12月13日㈮　県民活動総合センター
○全体会（確認事項及び事務連絡）
○各分科会の研究協議
（研究集録の確認・今後の研究について）

④教員研究発表会
２月14日㈮　県民活動総合センター
○各分科会で新学習指導要領に沿った題材計画及び実践授業に関する発表
（全体提案及び８分科会）
○埼玉大学教育学部教授講演
埼玉県教育局指導主事（家庭分野）講演

⑵　支部長研修会

①支部代表者会
５月17日㈮　県民活動総合センター
○理事会・総会

②支部長研修会
９月18日㈬　県民活動総合センター

○２学期以降の諸事業運営検討
○関ブロ茨城大会に向けた準備
○ＳＡＩＴＡＭＡ創造ものづくり
教育フェア運営について
③支部長研修会
３月３日㈫　県民活動総合センター
○令和元年度事業報告
○令和元年度会計報告・監査報告
○令和２年度事業計画
⑶　ＳＡＩＴＡＭＡ創造ものづくり教育フェア
11月８日㈮　県民活動総合センター
11月16日㈯　イオンモール与野
＜後援＞埼玉県教育委員会　さいたま市教育委員会
＜趣旨・目的＞
○ものづくりの発表を通して，生徒が知識や技術を習得・活用することにより、ものをつくることの喜びを味わう機会とする。
○技術・家庭科で習得した知識や技術を生かし、生徒がつくる喜びや仲間と共同して競技をする喜びを味わう機会とする。また、発表の場を通して、他校生徒との交流を図り、併せて知識や技能の向上を図る。
○「ロボットコンテスト部門」、めざせ!「木工の技」チャンピオン部門、「豊かな生活を創るアイデアバックコンクール部門」「あなたのためのお弁当コンクール部門」「生徒作品コンクール部門」共に、第19回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県代表生徒・作品を選出する大会を兼ねるものとする。上記の第19回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県代表生徒・作品を選出する５部門と「生徒研究発表会部門」の計６つの部門からなる大会運営を実施した。県研究会のＷｅｂページや県専門委員会でのＰＲ等の広報活動を行った。今後とも各部門での多くの参加者・出品数となるように研究会としても検討していきたい。
①生徒研究発表部門
身近な問題やタイムリーな話題となっている事柄を研究テーマに設定し、担当の技術・家庭科教師による指導の下で各支部代表生徒による研究発表会が行われた。生徒が日々直面している生活の中から、疑問に思っていることがらの解明や生活する上での工夫等が多く取り上げられた。発表の仕方についても自信を持ってはっきりとした口調で話し、実物の提示や実演など研究内容が聞き手にわかりやすく伝わるよう各自で工夫を凝らし、しっかりと準備をしてこの会に臨んだ様子がうかがえた。聞き手も立派な態度で各研究について聞き入っていた。
＜講評＞
県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　浅川　直孝　先生
②埼玉ロボットコンテスト部門
全国大会へつながるルールと、県内のローカルルールを合わせて毎年８種類以上の競技が行われる。
トーナメント部門　会場　県民活動センター
Ａ　ワン・ツー・チャンス
Ｂ　あっち行けポイ
Ｃ　ロボット・オリエンテーリング
Ｄ　コンピュータ制御プログラミング
Ｅ　ロボサッカー
全国部門　会場　イオンモール与野
Ｆ　全国基礎部門　「Basic DIVISION 2019」
Ｇ　全国活用部門　「Lift od drop a block」
Ｈ　全国応用部門　「復興への願い２」
Ｉ　全国動画作品部門

Ｆ・Ｇ・Ｈの各部門については部門ごとに３チームが、関東甲信越地区長野大会の代表としてそれぞれ出場することになった。「勝利至上主義に走らず、互いのよさやアイデアを評価し合おう。」というスローガンを掲げ、勝敗にこだわらず、お互いのアイデアを認め、学び合いの場となるよう配慮している。
また、今年度から、技術・家庭科の取組について地域や家庭だけでなく、社会にも理解が広がるように、商業施設をお借りしての公開予選の形式で開催した。参観していただいた一般の方からの評判も上々であった。
＜審査員＞
埼玉県総合教育センター指導主事
林　　裕人　先生
埼玉大学　准教授　荻窪　光慈　先生
越谷市立平方中学校　校長　西村　稔　先生
③めざせ！「木工の技」チャンピオン部門
授業で習得した知識や技能を活用して、材料等の制約条件の中で作品を考え、構想図を基に製作した作品を募集したが応募がなかった。現行の学習指導要領において実践していくことは難しく、どのような形で募集を募るのか検討をしていく必要がある。
④生活を豊かにするアイデアバックコンクール部門
これまで生徒が身に付けてきた知識と技術を生

かして製作した作品とレポートを基に審査を行い、関東甲信越地区新潟大会への代表選考が行われた。上位２作品を選出し、関東甲信越大会へエントリーした。

⑤あなたのためのお弁当コンテスト部門

食材や献立を、お弁当を作る対象に合わせて思いやり、工夫して調理に当たるコンテストとなる。全国大会と同様に実際に調理を行い、審査を実施した。最優秀作品は全国大会へエントリーした。

＜審査員④⑤＞

県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　佐藤　朋子　先生

嵐山町立嵐山幼稚園園長　　田中　恵子　先生

⑥生徒作品コンクール部門

全県から作品を募集し、県の研究会で全て審査し、県代表の選出を行っている。技術分野と家庭分野で授業内製作作品（Ⅰ部門）、自主製作作品（Ⅱ部門）、家庭分野より合計５点を選出し、全国大会へエントリーした。提出される作品の質が年々低下しており、どのように質と量を高めていくかは今後の課題である。

＜審査員＞

県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　浅川　直孝　先生

県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　佐藤　朋子　先生

嵐山町立嵐山幼稚園

園長　田中　恵子　先生

ものづくりフェア全般において、商業施設にて公開を行ったことで、技術・家庭科という教科の取組について、広く社会に伝えることができた。

次年度以降も、ロボットコンテストの予選と取組の成果の展示という形を継続させていきたい。

⑷　第20回全国中学生創造ものづくり教育フェア
関東甲信越地区大会長野大会

12月１日(日)

会場：長野市立篠ノ井西中学校

＜趣旨・目的＞

○ものづくりの発表を通して、生徒が知識や技術を習得・活用することにより、ものをつくることの喜びを味わう機会とする。

○関東・甲信越地区におけるロボットコンテスト、アイディアバッグコンクールの全国中学生創造ものづくり教育フェア出場者を決める予選を開催する。

ロボットコンテスト、アイディアバッグコンクールの運営の補助を行った。

(5)　第20回全国中学生創造ものづくり教育フェア
1月25日(土)・26日(日)
第一会場　足立区梅田地域学習センター
（エル・ソフィア）
パソコン入力コンクール他
第二会場　足立区立梅島小学校
木工チャレンジコンテスト　他
第三会場　足立区立第九中学校
アイデアロボットコンテスト
第四会場　女子栄養大学駒込キャンパス
あなたのためのお弁当コンテスト
第五会場　東京芸術センター
閉会式　他

各都道府県の大会からブロック大会を経て、全国大会に至る一連の流れの最高位となるフェアの全国大会が東京都内４会場にて開催された。盛大に技術・家庭科の学習成果発表ができた。

(6)　埼玉県発明創意くふう展
10月26日(土)・27日(日)
さいたま新都心ビジネス交流プラザ

本年度も各地区より集まった作品を公開し、本研究会としては、埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長賞を８名に授与する形で携わった。

Ⅳ　成果と今後の課題

今年度は、ものづくりフェアを土曜日に商業施設で開催した。このことで、社会に広く伝えられるフェアの在り方について新たな課題が見つかった。

研究に関しては、専門委員会の部会において、次年度以降の新学習指導要領の移行期間に向けた準備を県全体で進めることができた。

今後は、新学習指導要領の改訂に向けて実践事例や評価の方法も含めて発信するとともに、教科の活動の社会への発信も大切に取り組んでいきたい。

18　小学校家庭科教育

埼玉県小学校家庭科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」
－くまがやラグビー・オリパラプロジェクトで生活をよりよくしようと工夫し実践できる児童の育成－

2　方針

本研究会は、昭和58年度に「第１回関東ブロック大会」、昭和63年度に「第25回全国大会、第６回関東ブロック大会」、平成11年度に「第17回関東ブロック大会」、平成24年度に「第29回関東ブロック大会」を開催した。その成果は年度を追って充実、発展しつつ今日に受け継がれている。

今年度の研究を推進するに当たり、昨年までの本研究会の研究成果と課題を踏まえながら、豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育を目指し、大里地区を研究指定地区とし研究を推進することとした。具体的には、大里地区の家庭科教育研究会を核とし、授業研究を中心とした実践的な研究を展開していく。

3　研究主題について（埼玉県研究主題）

⑴　児童の実態と課題

児童の実態調査から、本地区５・６年生の９割以上の児童が、「家庭科の学習が好き」「生活に役立つと思う」と答えており、家庭科の学習に意欲的に取り組んでいる。しかし、「家庭科の学習で学んだ知識や技能を実際に日常生活で実践しているか」という設問では、調理に関する実践率は高いものの、衣生活・住生活については、知識はあるが実践に結び付いていない傾向が見られる。また、本地区は、熊谷市が最高気温日本一の街であるように、季節の寒暖の差が大きく、快適な日常生活を過ごすためには、暑さ・寒さに対応した学習内容が特に必要とされる地域である。「夏と冬の衣食住」に対する児童の知識は浅く、家庭・地域の人々と協力しながら季節に合わせた生活を営むという意識は薄い。

これらのことから、家庭科の授業で習得した知識・技能を活用して、生活をよりよくしようと自ら解決方法を工夫し、実践できる児童を育成することが課題である。

⑵　家庭科で育みたい児童の姿

本研究では、生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成をねらいとしている。特に、６年生の授業では、新学習指導要領で新設された内容Ａ⑷「家族・家庭生活についての課題と実践」ア「日常生活から問題を見いだして課題を設定し，よりよい生活を考え，計画を立てて実践できること」においては、自分の課題を解決できる児童の育成をねらいとしている。

そのために、児童が意欲的に学習に取り組めるよう、住まいの整理整頓や清掃の仕方について身近な場面を設定した実践的・体験的な学習過程を工夫し、自分の家庭生活で確実に実践できるようにしていく。

⑶　新学習指導要領を見据えた授業改善

熊谷市が取り組む「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」では、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善により、新学習指導要領が目指す育成すべき三つの資質・能力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」いわゆる汎用的能力を育成し、「生きる力」を育む教育を推進している。

家庭科の目標は、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成すること」である。家庭科の目指す「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」は、新学習指導要領の「生きる力」に直結するものであると捉え、本研究では、この目標を達成するために「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」で教科等横断的に指導計画を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行った。他教科等の学習と関連を図ることで、限られた家庭科の授業時間数の中で、より深い学びができると考え研究を進めてきた。

⑷　研究主題の設定

上記の内容を踏まえ、研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育－くまがやラグビー・オリパラプロジェクトで生活をよりよくしようと工夫し実践できる児童の育成－」と設定する。「新学習指導要領に基づいた指導計画の編成」「『主体的・対話的で深い学び』に結び付く指導方法の工夫」「一人一人を伸ばし、実践力を高める評価の工夫」「家庭・地域、中学校との連携の工夫」

の４つの視点で研究を進め、目指す児童像の実現を図る。

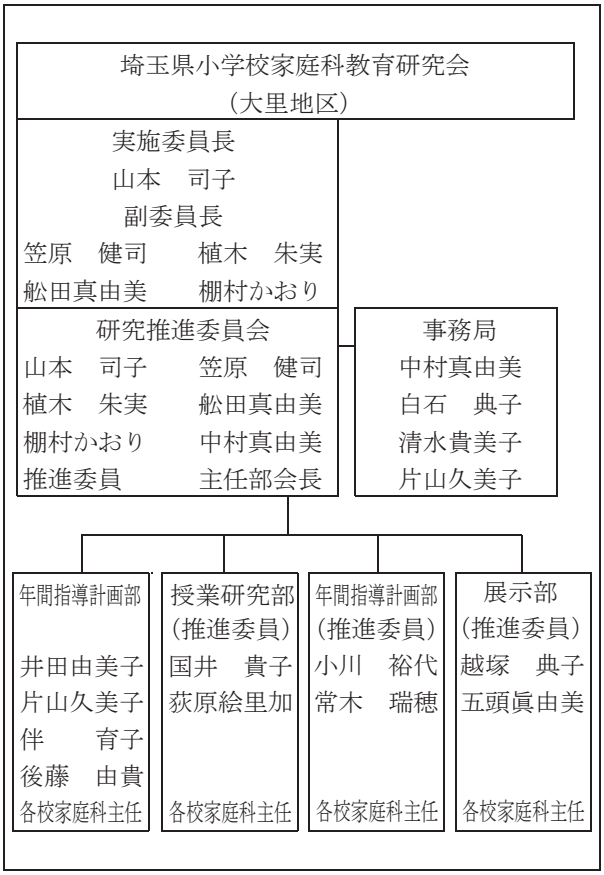
Ⅱ　研究概要について

１　研究の方法

⑴　研究の基本的な考え方

研究主題及び副主題に迫る実践的な研究をする。

⑵　研究組織



２　研究の内容

＜目指す児童像＞

○日常生活に必要な基礎的な理解と技能を身に付けている子

○日常生活の中から課題を設定し解決する子

○家族や地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようと工夫し実践する子

＜研究の視点＞

視点１　新学習指導要領に基づいた指導計画の編成

熊谷市では、熊谷市教育振興基本計画「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」に基づき、教科等横断的な指導計画を編成している。総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム改善により、汎用的な能力を育成していく。

視点２　「主体的・対話的で深い学び」に結び付く指導方法の工夫

「家庭科の指導に当たっては、⑴「知識及び技能」が習得されるようにすること、⑵「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、⑶「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要である。」と学習指導要領に示されている。そこで、学習課程や指導方法を工夫した。

視点３　一人一人を伸ばし、実践力を高める評価の工夫

各題材の学習を通して「何ができるようになるのか」「何が分かるようになるのか」、児童が事前にゴールを知ることで、目的意識が明確になり、意欲的に学習に取り組むことができるようになると考える。そこで題材を見通した振り返りカード（ポートフォリオ）を活用し、「関心・意欲・態度」を見取ることにした。

また、題材の指導計画とともに、学習活動に即した具体の評価規準と評価方法について明記し、毎時の児童の活動に伴う評価の観点と評価の方法について明確にした。評価を次時以降への指導・支援に生かしやすくするようにした。

視点４　家庭・地域、中学校との連携の工夫

学校公開、ＰＴＡや学校便り、学年便り、ホームページ等を通して、情報を提供することで、家庭・地域との連携を図り、家庭科のねらいや意義、学習内容を理解してもらえるように働きかける。

また、家族や地域の方からアドバイスをもらい実践し、日常生活の改善に生かしていくことで、自分たちの生活をより豊かにしようする態度を育んでいく。

さらに、義務教育の段階で身に付けておくことは何かということを見据え、小・中学校の教員が交流を行い、５年間を見通したカリキュラムの共通理解を図る。

３　研究の成果と課題

＜研究の成果＞

○教科等横断的に学習内容を整理し、家庭科と「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関連を明確にしたことで、快適な暮らし方に関する題材と総合的な学習の時間との学習のつながりを意識した取組ができるようになった。

○主体的・対話的で深い学びの実現のために、ジグソー法的な学習を取り入れたことで、全員が問題意識をもって活動することができた。話合いの場面で

は互いの意見を聞き、考えを深め、納得して自分の意見をもつという児童の姿が見られた。

○実践的・体験的な活動を積極的に取り入れたことで、実感を伴った理解につながり、学んだことを生活に生かそうとする児童の姿が見られた。

○『自己の伸び』に気付く評価に取り組むことで、今の自分を見つめ、自分のよさに気付くとともに今後どのように取り組んでいきたいか、意欲的に考える児童が増えた。

○学校・家庭・地域との連携に積極的に取り組んだことにより、家庭科学習の充実が図られたり、児童の家庭での実践意欲が高まったりする様子が見られた。

＜研究の課題＞

○児童は、授業の中で資料などから切り取った知識を持ち寄るだけの話合いになってしまうことがあった。教科等横断的に、各教科を通して、単なる意見発表ではなく、つながりのある発表ができるよう指導していきたい。

○家庭科で身に付けた知識や技能を児童の実生活と関連を図り、児童に課題を解決する能力を育む指導を今後も行っていくことが大切である。また、地域の特色を生かした活動の展開や中学校との接続について、さらに継続して研究していきたい。

Ⅲ　令和元年埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動

1　令和元年度　研究組織

会　　長	榊原　久子（東部）	
所属研究部	副会長（部長）	監事（副部長）
研　修　部	池田智恵子（西部）	影山　葉子（南部）
調査研究部	山本　司子（北部）	片山　広美（さいたま）
広　報　部	長島　淑子（さいたま）	棚村かおり（北部）
庶務会計部	井上　千春（南部）	酒本　希朱（西部）
専門委員会	小峯由起子（東部）	永沼　清美（東部）
	幹事 渡邊はるか　深澤真奈美　吉岡知世	

地区理事　62名

（常任理事24名含　常任理事は研究部に所属する）

専門委員　14名

研　修　部　部長：池田智恵子

・研修会の計画及び運営

・児童研究発表会の計画及び運営

・研究集録の編集及び発行

調査研究部　部長：山本　司子

・全国調査の協力

広　報　部　部長：長島　淑子

・小家研会報の作成

庶務会計部　部長：井上　千春

・文書作成及び発送

・総会、常任理事会、研修会等の要項作成

専門委員会　委員長：小峯由起子

・学習指導の実践に関する研究

2　研究会活動状況

⑴　令和元年度役員研修会及び講演会

令和元年６月４日㈫

＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校

①役員研修会

・平成30年度事業報告

・４部会・専門委員会の活動報告

・平成30年度決算報告・監査報告

・役員の補充・新役員の承認

・令和元年度事業計画、令和元年度予算案

・４部会・専門委員会の活動計画

・全小家研の入会について

・研究指定地区の研究の概要

②講演会

講師　埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事　　佐藤　朋子 先生

演題　「これからの家庭科教育について」

〈内容〉

新学習指導要領で期待される学び

○主体的・対話的で深い学びとカリキュラムマネジメントで三つの力（学びに向かう力・人間性等　知識及び技能　思考力、判断力、表現力等）をバランスよく育む。

○特に家庭科においては、

・消費者教育

・伝統や文化に関する教育に重視を。

○題材を見通した指導計画

・題材を貫く学習課題の設定をする。

・子供の姿を描いた授業設計をする。

小学校家庭科　改訂のポイント

①目標の改善

○「生活の営みに係る見方・考え方」

協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等を視点にする。

○特に小学校では、

協力・協働→家族や地域の人々との協力

生活文化の継承・創造

→生活文化の大切さに気付くこと

②内容の改善
○四つの内容から三つに構成
○各項目でアとイの指導事項で構成
・ア「知識及び技能」の習得
・イ「思考力・判断力・表現力等」の育成
○調理及び製作の一部の題材の指定
○「家族・家庭生活について
の課題と実践」の新設
③指導計画の作成と内容の取扱い
○各内容における新設の指導内容
④授業改善
○題材等のまとまりを見通した主体的・対話的で深い学びの実現
○ 実践的・体験的な活動の充実
○ 個に応じた指導の充実
○ 家庭や地域との連携
⑤移行期間中の実践
○全面実施に向けた２学年間を見通した指導計画の作成（今年度の第５学年）
○新設の内容の教材の開発

令和元年度　県の取組等

○埼玉県小学校教育課程編成要領
○令和元年度埼玉県指導の重点・努力点
○令和元年度教職員等消費者教育セミナー

⑵　夏季研修会
令和元年７月29日㈪
＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校
①全体会
・発明創意くふう展について
・家庭科教育研究協議会について
・児童研究発表会について
・地区別授業研究会の計画について
・４部会の活動
②令和元年度地区別授業研究会実施発表会
③講演会
講師　東京学芸大学
特任教授　森田みゆき　先生
演題　「昨今の衣生活事情
―家庭科教育の視点から―」

⑶　第50回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会
令和元年12月6日㈮
＜会場＞　熊谷市立熊谷西小学校
①研究授業及び研究協議会
・題材名「かたづけよう　身の回りの物」
５年２組授業者　後藤　由貴　教諭
・題材名「寒い季節を快適に」
６年２組授業者　木村さくら　教諭
②記念講演
文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　丸山　早苗　先生
演題　「これからの家庭科教育と評価」
③研究集録第50集の発行
平成２年度から研究指定地区研究の成果のまとめと埼玉県小学校家庭科研究会の組織・活動状況の２部構成で編集している。

⑷　地区別授業研究会（４地区）
①さいたま市
令和元年11月13日㈬
さいたま市立大成小学校
②南部・北足立南部地区
令和元年11月20日㈬
川口市立朝日東小学校
③西部・入間地区
令和２年１月16日㈭
鶴ヶ島市立長久保小学校
④東部・北埼玉地区
令和元年10月３日㈭
羽生市立井泉小学校

⑸　埼玉県発明創意くふう展
令和元年10月26日㈯～10月27日㈰
＜会場＞　新都心ビジネス交流プラザ

⑹　令和元年度児童研究発表会
令和元年11月５日㈫
＜会場＞　埼玉県県民活動総合センター

⑺　第３回役員研修会
令和２年２月12日㈬
＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校
・令和元年度の反省と次年度の展望
・会報の配付

19　生活科・総合的な学習の時間教育

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

「思考力・表現力・判断力を高める支援の工夫」

＜方針①＞授業研究会の開催

本年度は、鴻巣市立広田小学校、寄居町立男衾中学校、三郷市立戸ケ崎小学校、鳩山町立亀井小学校で研究を深めることを目的に授業研究会を開催する。

＜方針②＞指導法の研究と指導事例集の刊行

「構造的な板書」「発話分析」「思考ツールの活用」の三つの視点を掲げ、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に指導法の研究を行う。

Ⅱ　活動状況

1　活動内容

⑴　事務局幹事打合せ会
　○期日　　平成31年４月５日㈮
　○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
　○内容　　常任理事会の原案作成
　　各地区理事の調査用紙発送
　　講演会の講師の依頼

⑵　常任理事会
　○期日　　令和元年５月23日㈭
　○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
　○内容　　平成30年度決算報告
　　令和元年度の役員案
　　令和元年度事業計画及び予算案審議
　　各地区理事の確認
　　専門部の決定

⑶　講演会及び総会
　○期日　　令和元年６月12日㈬
　○会場　　東大宮コミュニティセンター
　○内容
　　①総会　常任理事の決定
　　専門部組織決定
　　令和元年度の事業計画及び日程
　　令和元年度の予算案の決定
　　②講演会
　　演題「新学習指導要領における生活科・総合的な学習の時間の役割」～主体的、対話的で深い学びの実現に向けて～
　　講演　文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　渋谷　一典　氏

⑷　第１回指導法研究委員会
　○期日　　令和元年６月26日㈬
　○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
　○内容　　委員の委嘱
　　研究の進め方

⑸　生活科・総合的な学習の時間研究発表会
　○期日　　令和元年８月６日㈫
　○会場　　さいたま市民会館おおみや
　○内容　　研究発表及び協議

⑹　第２回指導法研究委員会
　○期日　　令和元年８月８日㈭
　○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
　○内容　　指導方法の研究

⑺　第３回指導法研究委員会
　○期日　　令和元年10月25日㈮
　○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
　○内容　　指導方法の研究

⑻　授業委嘱校研究発表会
　○期日　　令和元年11月７日㈭
　○会場　　鴻巣市立広田小学校
　○内容　　詳細は、Ⅳ【P.77】を参照

⑼　授業委嘱校研究発表会
　○期日　　令和元年11月８日㈮
　○会場　　寄居町立男衾中学校
　○内容　　詳細は、Ⅳ【P.78】を参照

⑽　授業委嘱校研究発表会
　○期日　　令和元年11月27日㈬
　○会場　　三郷市立戸ケ崎小学校
　○内容　　詳細は、Ⅳ【P.78】を参照

⑾　授業委嘱校研究発表会
　○期日　　令和元年11月29日㈮
　○会場　　鳩山町立亀井小学校
　○内容　　詳細は、Ⅳ【P.79】を参照

⑿　理事研修会
　○期日　　令和２年２月12日㈬
　○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
　○内容　　実践報告及び講演
　　①生活科「生活科における学習評価の進め方と評価規準の作成について」
　　指導者：埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課　指導主事　小峰　　元　氏
　　②総合的な学習の時間
　　「総合的な学習の時間における評価について」
　　実践報告：所沢市立安松小学校
　　教諭　五月女竜也　氏
　　指導者：北本市立西小学校
　　教頭　市川　篤史　氏

2　運営組織

本研究会の事業は、四つの専門部会において、具体的に進められている。それぞれ、各地区理事が所属し、生活科・総合的な学習の時間教育の発展に大きな

役割を果たしている。

⑴　総務部

○地区活動全体の総轄

・総会・理事会・講演会の計画及び実施

・通知文書の発送・受理

・予算案・決算書の作成

⑵　研修部

○生活科・総合的な学習の時間研修に関する総轄

・研究発表会の計画及び実施

・授業研究会の計画及び実施

⑶　編集部

○研究会編集物に関する総轄

・研究集録の作成

⑷　指導法研究部

○生活科・総合的な学習の時間教育の指導法に関する総轄

・指導法の研究

・研究成果の編集

Ⅲ　研究内容

1　生活科・総合的な学習の時間指導法研究委員会

生活科・総合的な学習の時間の授業における指導方法の研究と各単元における指導の在り方について研究し、学習指導に役立てることを目的とする。

研究の視点として、「構造的な板書」「発話分析」「思考ツールの活用」の三つの視点を基に、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に研究を深めた。

その成果物として「生活科・総合的な学習の時間指導事例集　第28集」を発行した。

2　生活科・総合的な学習の時間研究発表会

○期日　　令和元年８月６日㈫

○会場　　さいたま市民会館おおみや

○内容

⑴　実践発表

①皆野町立皆野小学校　　教諭　小野田美紅　氏

テーマ「児童の気付きを大切にし、自然の不思議さや面白さを実感できる授業づくり」

②久喜市立砂原小学校　　教諭　林　　大輔　氏

テーマ「鷲宮の魅力再発見～地域と関わり合い、学び合いながら自己の考えを広げ、深め合う児童の育成～」

③蓮田市立黒浜西中学校　　教諭　西尾　　了　氏

テーマ「自信をもって積極的に行動できる生徒の育成を目指して～総合的な学習の時間を核とした、生徒の情意面の育成～」

⑵　指導講評

共栄大学教育学部　　教授　若手三喜雄　氏

3　生活科・総合的な学習の時間教育編集委員会

総会における講演の要旨、研究発表会の発表の要旨、役員一覧、生活科・総合的な学習の時間指導事例集、研究組織一覧、支部だより、事業報告などを主な内容として編集した。

○　研究刊行物　「生活・総合」　第30号

Ⅳ　授業研究委嘱校の発表概要

本年度は、鴻巣市立広田小学校、寄居町立男衾中学校、三郷市立戸ケ崎小学校、鳩山町立亀井小学校の４校に授業研究の委嘱をした。それぞれの公開授業等の概要について紹介する。

鴻巣市立広田小学校

1　日　時　令和元年11月７日㈭

2　授　業　生活科　第１学年

3　単元名　「たのしい　あきいっぱい」

4　授業者　原田　香織、福山　　愛

5　授業の概要

本単元は、学習指導要領の内容（５）「季節の変化と生活」と（６）「自然や物を使った遊び」を主とし、（８）「生活や出来事の交流」で構成している。また、幼稚園教育要領の幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（３）協同性、（６）思考力の芽生え、（７）自然との関わり・生命尊重、（９）言葉による伝え合いに関連させた内容である。実際に校庭や公園で秋を探したり、夏との違いや変化を友達と伝え合ったりすることで、秋の自然の遊びの面白さや夏から秋への季節の変化に気付くことをねらいとした。また、単元の終末には「見つけた秋」の発表会を行い、気付いたことや考えたこと、楽しかったことについて、言葉、絵、動作、劇化など多様な方法によって表現することができるようにした。

本時では、自分のお気に入りの秋を決め、それに合った発表の方法を選び、発表の方法でグループを作り、よりよい発表ができるように話合い活動を行った。

6　授業を振り返って

本時では、導入の際、事前にクラスで作成したイメージマップを基に、公園や校庭で見付けたものや様子について想起することができるようにした。また、単元の終わりにある祖父母参観の場を使って、友達や家族に発表する場があることを伝え、児童の意欲を高めた。児童は、想起したものや振り返りカードを基に、お気に入りの秋を決めることができた。

しかし、お気に入りの秋を決め、発表の方法を決めるという活動の流れで、お気に入りの秋と発表の方法につながりをもてない児童がいたため、接続できるような工夫が必要であると感じた。授業後には、「早く準備を始めたい。」「発表が楽しみ。」などといった発表に向けて意欲的な態度が見られた。

7　指導講評

北本市立西小学校　　教頭　市川　篤史　氏

課題を提示した後、見通しをもたせる発問によって、児童は活動の流れの見通しをもつことができて

いた。これからどのように学ぶか、自分はどのように進めていくかということを見通すことが重要である。秋のよさを十分に感じ、その見付けたよさを一人一人が大事にできるようにしていきたいと考えるならば、発表したい秋を選んだ理由を考え、書くという活動があるとよかった。また、とっておきの秋を決める際には、初めに見付けた秋をたくさん書き出し、順位をつけ、その理由を聞く、などの流れも考えられる。さらに、おもしろそうな発言に対して詳しく聞くことも重要である。例えば、「ポーンってどういうこと？」「ほんもののようにするってどうすればいい？」と聞き、「○○さんがこうしたいと思っているけど、どうすればいいと思う？」と他の児童に働きかけ、全体に共有していく。また、気付きを質的に高めるために、試行錯誤や繰り返す活動を設定し、十分に考えることができる受容的な環境をつくることが必要である。

寄居町立男衾中学校

1　日　時　令和元年11月８日㈮
2　授　業　総合的な学習の時間　第１学年
3　単元名　「身近な人にインタビュー」
　　聞いて・まとめて・広げよう
4　授業者　井出はる枝、髙橋　正樹、高松あすか
　　谷口　雅俊、小関　紀美
5　授業の概要
　本単元では、以下の２点をねらいとしている。
①他者のインタビューや発表からそのよさを理解し、学び合いを通して伝え合うことができること。
②働いている人の考えに思いを寄せ、社会体験事業に意欲を示し地域社会に貢献する態度を育てること。前時までに各教室でクラス内発表を行い、「聞いて・まとめて・広げる」授業を全生徒が行っている。本時では、代表者の発表を聞き、メモを取りながら質問を考える。ステップアップした授業になっている。①～②にスムーズに取り組んでいけるようにしたいと考えている。
6　授業を振り返って
　本時では、導入に生徒が前時の振り返りや流れについて話すことにより生徒が主体的に授業に参加してスムーズに展開がされていった。発表者に質問する事を考えながらメモをとることができるようにし、話を聞く主体的で対話的な学び合いを行った。ワークシートを活用できない生徒には教師が声をかけ学びに向かうことができるようにした。グループでの話合いの際には、ホワイトボードを使い可視化することで話の方向性が分かり、たくさんの意見を引き出せた。調べた職業は、保護者の職業を選んで調べている生徒が多く、より深い内容の質問や話合いができていた。ホワイトボードを掲示した際に、本時の内容に触れていけば、より深い学び合いが進められたと感じた。最後の短歌によるまとめでは、来年度の職場体験に向けてのよい作品ができ、今後の進路決定の第一歩となった。
7　指導講評
　寄居町教育委員会　　指導主事　飯野ゆかり　氏
　授業については、学習指導案の書き方や評価の仕方について学習内容と学習活動が大切で、今日の授業は学習指導案に教師の生徒への思いがしっかりと書かれていてよかった。授業づくりについて、授業者の経験を生かした内容になっている。学年が上がるごとに生徒の変容が見られる授業展開になっていた。他教科に使える教師の発問や意図を考え、学習指導案に記載していけるとよい。生徒が書いたホワイトボードの内容に触れて生徒にもキーワードを広めてあげると深い学びにつながっていく。評価方法等については、話合いの様子や表情を観察記録簿に記録し、評価することが重要になる。ＩＣＴを使うだけではなく、ツールとしてうまく組み合わせていくと効果的である。

三郷市立戸ケ崎小学校

1　日　時　令和元年11月27日㈬
2　授　業　⑴　生活科　第２学年
　　⑵　総合的な学習の時間　第５学年
3　単元名　⑴「めざせ、おもちゃづくりしょく人」
　　⑵「戸ケ崎小のよさが伝わる動画を作ろう！」
4　授業者　⑴　久住　禎裕、恩田　浩之
　　⑵　増田　一喜
5　授業の概要
⑴　第２学年１・２組
　身近にあるものや、自然の中で集めてきたものを使って、動くおもちゃを作った。おもちゃ作りの過程で、自分の思いや考えを大切にしながら、友達との関わりの中で、友達の考えや工夫のよさに気付き、それを受け入れながら活動することを楽しんだ。
⑵　第５学年２組
　来年度入学してくる1年生の保護者に向けて、入学説明会で観ていただく「戸ケ崎小ＰＲ動画」作りに挑戦した。新1年生の保護者に、戸ケ崎小学校のよさを紹介したいという思いで、試行錯誤しながら制作した。自分たちの考えだけでなく、多方面から情報を収集し撮り直しを重ねていった。
6　授業を振り返って
⑴　第２学年１・２組
　活動ごとに、「おもちゃの遊び方」「改良箇所や内容」「着眼点」などを子供たちと話し合いながら掲示物を出した。それをキーワードとしてカードにまとめ可視化した。そのことで、子供たちは、焦点化したおもちゃの改良をして楽しむことができた。また、このカード化された掲示物を子供たちは確認しながら、友達のおもちゃとの比較もできていた。思い思いの遊びができるような

場が多く設定されていたため、友達と関わりながら遊び、深い学びへとつながっていった。

⑵　第５学年２組

入学説明会で保護者に観てもらうというゴールが決まっていたため、子供たちは意欲的に取り組むことができた。しかし、はじめは、自分たちだけの感覚での動画づくりを行ったため、自己満足でしかない動画であった。その後、教員、自分の親、他学年児童、新１年生保護者等から、様々な情報を収集し、整理・分析していくうちに、学校に対する考え方や動画の内容に変化が表れてきた。それと同時に、来年、最高学年になる自分たちが、「もっとよい戸ケ崎小を作りたい」という意識が生まれてきた。動画も１作目に比べて、表現内容も技法もよくなってきた。

７　指導講評

⑴　元文教大学　　教授　嶋野　道弘　氏

生活科授業構築三原則は、①生活から出発させ生活に返す②具体的な活動や体験を通すこと③低学年児童の発達上の特性である。教科書は学習材になる。授業の中で、階段に的を置いて鉄砲で的当てをしていた子供たちがいた。先生の意図と子供の思いが一致した場の設定は素晴らしい。最近の多くの授業は、おもちゃを作ることに夢中になっているが、本来は「遊び」自体が目的である。友達と競ったり、力を合わせたりして、夢中になって遊ぶ姿が表れる授業づくりや教材研究に取り組んでほしい。

⑵　埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課

主任指導主事　田上　智明　氏

前時の子供たちの感想一覧はとても有効であった。総合的な学習はストーリーを描きながら授業を作っていくものである。教師の様々な働きかけによって、自分たちにできることを子供たちに気付かせていくことが大切である。自らが繰り返し働きかけ、情報を集めていく。学校に対する自分なりの概念づくりや愛着がもてることが重要である。自分の見方を持つ→他者の見方を知る→違いやずれを知る。成功率50％の課題こそが、子供たちが意欲的に取り組むことができる課題である。

鳩山町立亀井小学校

１　日　時　令和元年11月29日㈮

２　授　業　総合的な学習の時間　第３学年

３　単元名　「大豆大研究」

４　授業者　村上　佐千子

５　授業の概要

本単元は学習指導要領における、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題をもとにして設定したものである。地域や学校の特色に応じた課題は、よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり、児童が地域における自己の生き方との関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれている。

本単元では、本町の特産品である大豆の栽培や収穫などの体験活動を通して、大豆のよさ、大豆を使った加工食品の多様性、人々の知恵、栽培の工夫、大豆農家の思い、豆腐店の願い等について考えさせていく。

これら具体的な体験活動から、大豆のよさに気付くとともに、自らが暮らすこの鳩山の地に愛着をもって生活する態度を育てていきたい。

６　授業を振り返って

本時の活動は、「大豆の歌」の歌詞を考え、完成させることを目標として展開された。

まず初めには、前時に考えた、歌詞を班に分かれて確認した。これは、子供たちが育てている大豆について、今までのPCによる検索や町の図書館や図書室で探した大豆に関する書籍、そして、国語科の『すがたをかえる大豆』、社会科『鳩山町の農業』で得た知識を基に、「１番（問い）」「２番（栄養）」「３番（変身）」「４番（土地）」「５番（願い）」に分かれて、「童謡　うさぎとかめ（もしもしかめよ）」の歌に合わせて考えた歌詞である。次に、その歌詞を班員で分担して短冊に書き込み、暫定的に掲示して読んでみた。その後、小声で歌いながら、全体の構成や歌のリズムに合わせて短冊の並びを変えていった。最後に、できあがった歌をクラスの歌と同じように、これからの総合的な学習の時間の節目等で歌い続けることを確認し、１番から５番まで通して歌い上げた。

班ごとの話合いや歌唱の場面では、どの子も満面の笑顔で意欲的に情報交換したり、進んで前に来て歌ったりと、意欲的に活動に取り組んでいた。

７　指導講評

川越市教育センター　　主幹　齋藤　博伸　氏

課題設定や単元構成に欠かせないものはカリキュラムマネジメントである。本単元は、地域の環境や児童の実態、そして、家庭との連携を考慮し、教科で学んだことを生かして意図的・計画的に仕組まれたものとなっている。

本時の展開では３年生の特性を考慮し、グループ活動（対話）の人数を３名としていること、児童が歌詞を自由に入れ替えられるようにしていること、歌いながら考え、考えながら歌う場面を設定していること、担任が児童の言葉をタイムリーに聞き取り適切に対応していること、短冊に書いて全ての歌詞を児童全員で共有できるようにしていること等の工夫が盛り込まれていた。それぞれの学校で参考にして欲しい授業である。

本時のような、児童が主体的に考え行動する総合的な学習の時間の授業の展開例は、YouTubeにアップされているものも多いので参考にしていくとよい。（検索ワード「YouTube　博報財団」）

20　本校の研究の取り組みについて

埼玉大学教育学部附属小学校

Ⅰ　本校の研究概要

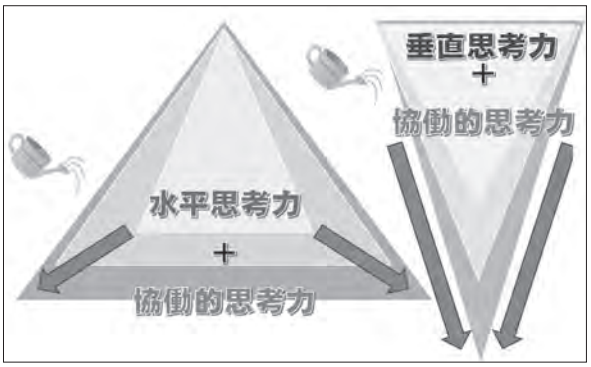
1　研究主題

「学びの本質」を育む授業の創造
～ともに広げ、ともにしぼる思考力～

2　学びの本質

本研究における「学びの本質」とは、全教科・健康教育等に共通した学力であり、これを本校では、「マスターキー」と呼んでいる。

本校では、「水平思考力（多様な観点で、複数の考えを生み出す力）」と、「垂直思考力（課題に対する自分の考えを再構成する力）」を、思考力，判断力，表現力等に関するマスターキーとして、その育成について平成24年度より６年をかけて研究を進めてきた。その成果と課題を踏まえ、平成30年度（７年次）より「協働的思考力（他者を理解し、人と関わり合う力）」に視点を当ててきた。児童自身が「水平思考力」「垂直思考力」をさらに効果的に発揮できる潤滑油のような役割として「協働的思考力」を捉えている。



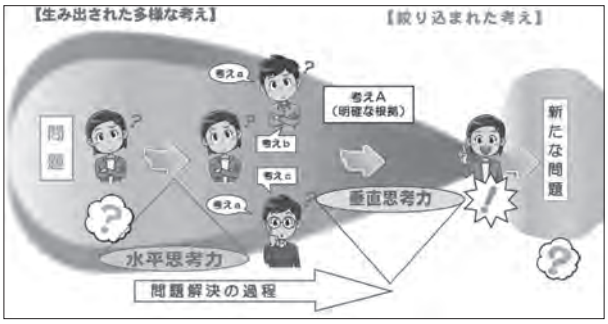
3　目指す児童像・研究の目的

本研究では、「学びの本質」が育まれた児童を以下のように捉え、研究を進めてきた。

> 問題解決の過程で、自ら多様な考えを生み出したり、自ら明確な根拠をもって考えを絞り込んだりしている姿

児童は学習活動の中で、問題解決に向けて、自分なりに考えを生み出したり、考えを絞り込んだりしている。本研究では、この問題解決の過程において、考えを生み出す際には、見通しや既習経験を焦点化したり、複数の考えを関連付けたりしながら、水平思考力を発揮して多様な考えを生み出せるようにしていく。また、考えを絞り込む際には、生み出された多様な考えを比べたり、整理したり、選んだりしながら、垂直思考力を発揮して、考えを再構成することができるようにしていく。しかし、一人では多様な考えを生み出すことができなかったり、明確な根拠をもって考えを絞り込んだりすることができないことがある。

そこで、協働的思考力を発揮して、他者と関わり合い、他者と自分の考えの共通点や相違点に気付き、理解することで、より水平思考力、垂直思考力が発揮できるようにしていく。そして、問題解決が図られた先には、さらに追究すべき新たな問題に向けた取組が始まるのである。



4　株式会社ベネッセコーポレーションとの共同研究

株式会社ベネッセコーポレーションは、先行的に高等学校における評価方法の研究を進めており、平成28年12月には、入試改革や急速に進む社会の変化に対応し、三つの思考力（批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力）を測定するテスト「ＧＰＳ－Academic（以下、ＧＰＳ）」を開発した。このＧＰＳの結果を、児童が自らの思考力について把握し、今後の学習方法や学習習慣の改善に生かすための材料になり得るものと考え、共同研究を進めていくこととした。（GPS=Global Proficiency Skills）

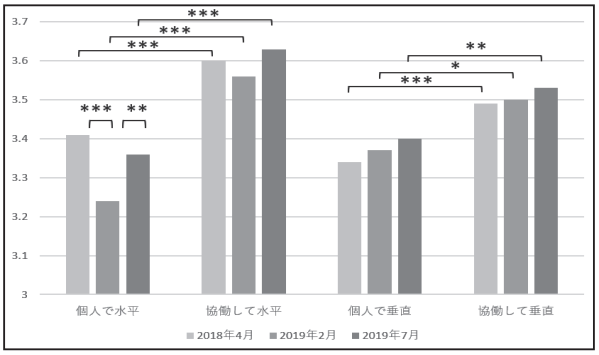
具体的には、問題作成に関わる意見交換、実施・結果分析、本校調査問題とＧＰＳの相関分析を行った。その結果、水平思考力は創造的思考力、垂直思考力は批判的思考力と関連していることが示唆された。そこで、今後は、本校の調査問題を更新していくのではなく、ＧＰＳを本校研究における思考力、判断力、表現力等の評価方法として採用していくこととした。

本校の「学びの本質」思考力，判断力，表現力等	定義	GPS-Academic 三つの力	定義
水平思考力（ひろげる）	多様な観点で、複数の考えを生み出す力	創造的思考力（うみだす力）	情報をつないだり、別の場面に応用したりすることで、問題を見付け新たな解決策を生み出す思考力
協働的思考力（ともに）	他者を理解し、人と関わり合う力	協働的思考力（かかわる力）	他者との共通点・違いを理解し、合意を得たり、気付きを得たりして、人と関わり合うための思考力
垂直思考力（しぼる）	課題に対する自分の考えを再構成する力	批判的思考力（きづく力）	必要な情報を取り出し、いろいろな観点から考え、自分の考えを筋道立てて説明するための思考力

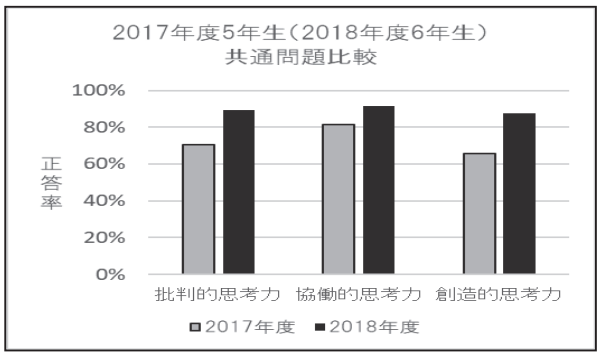
5　研究の成果

○授業での児童の姿から、協働的思考力を発揮し、水平思考力と垂直思考力をさらに発揮している児童の姿を捉えることができた。また、関わり合いを生み出しやすくするための教師の指導である「教師の働きかけ」をまとめることができた。

○児童を対象とした質問紙調査の結果から、児童は協働的思考力を発揮することが、よりよい水平思考、垂直思考につながると捉えており「ともに広げ、ともにしぼる」ことに価値を見出していることが示された。



○ＧＰＳの結果から、三つの思考力の伸びが見られた。特に、垂直思考力（批判的思考力）および水平思考力（創造的思考力）の伸びが顕著であった。



Ⅱ　活動内容

1　第87回小学校教育研究協議会について

⑴　期　日　令和元年10月15日㈫、16日㈬

⑵　会　場　埼玉大学教育学部附属小学校

⑶　主　題「学びの本質」を育む授業の創造
～ともに広げ、ともにしぼる思考力～

⑷　趣　旨
教科また自身の研究テーマに基づいて公開授業を行い、研究協議を通して小学校教育の充実を図る。

⑸　後　援
埼玉県教育委員会　　さいたま市教育委員会
埼玉県連合教育研究会　埼玉県公立小学校校長会

⑹　公開授業　　全18学級　　35授業提案

⑺　分科会
本年度は、継続研究８年次（最終年次）として教科分科会を設定した。学校研究主題と各教科等の研究主題を基に、具体的な方策を考え、授業を通して提案し、研究協議を行った。

◎教科の研究主題
①提案者　②公開授業　③指導者　④司会者

【国語科】

◎課題解決に機能する言語能力を育成する指導の工夫

①松下洋介　②３年「組み立てにそって、物語を書こう」
①吉野竜一　②１年「きいて　しらせよう」
５年「説得力のある構成を考え、すいせんするスピーチをしよう」
①笠原雅広　②４年「物語を読んで、考えたことを話し合おう」
６年「物語の世界をとらえ、自分の考えを伝え合おう」
③埼玉大学・山本　　良
県教育局・橋爪　　優
④川口・芝南小　川西　良輝
熊谷・熊谷西小　新井　晃太

【社会科】

◎社会がわかり、社会にかかわる児童を育てる社会科指導の工夫

①岩田信之　②４年「サラダボウル IN SAITAMA」
①及川恒平　②３年「わたしたちのくらしと密接に関わる生産の仕事」
６年「世界が見つめた明治維新」
③埼玉大学：桐谷正信
県教育局：篠田かなえ
④さいたま・春野小　小林孝太郎
久喜・栢間小　　小澤　晃司

【算数科】

◎問題を見いだし、数学的な表現を用いて伝え合う児童を育てる指導

①神谷直典　②３年「円と球」
①関口泰広　②４年「垂直、平行と四角形」
６年「比」
①藤田明人　②１年「くりさがりのあるひきざん」
５年「単位量当たりの大きさ（速さ）」
③埼玉大学・二宮　裕之
県教育局・志村　憲一
④さいたま・上小小　秋山　泰孝

【理科】

◎自然事象を通して、科学を語る児童を育てる指導の工夫

①塩盛秀雄　②３年「音を出して調べよう」
６年「月の形と太陽」
①肥田幸則　②５年「物の溶け方」
①関根達也　②４年「とじこめた空気と水」
③埼玉大学・小倉　　康
県教育局・関根　　努
④東松山・野本小　權田　尚岳

【生活科】

◎学びを自らの生活に生かす生活科の学習指導

①若村健一　②１年「あそびを　たのしもう」
①横田典久　②１年「こうえんを　たんけんしよう」
　　２年「すてきな　町さがし」
③埼玉大学・宇佐見香代
　県教育局・小峰　元
④川越・今成小　高知尾　梓
　川口・慈林小　鈴木　康平

【音楽科】

◎感性を働かせ、主体的・創造的に音楽を伝えようとする児童を育てる指導の工夫

①納見　梢　②３年「せんりつのとくちょうをかんじとろう」
①早船　剛　②５年「曲想を味わおう」
①三橋博道　②２年「日本の音楽を楽しもう」
　　４年「日本の音楽に親しもう」
③埼玉大学・伊藤　誠
　県教育局・大木まみこ
④所沢・美原小　佐藤　幸子
　熊谷・久下小　金井　涼

【図画工作科】

◎子供の思いを生かす指導と評価の工夫
～資質・能力の育成を目指して～

①廣田和人　②６年「木と金属でチャレンジ」
①坂井貴文　②４年「光の国の物語」
　　５年「風景の中の世界」
①安藤健太　②２年「ふしぎな ポケットから」
③埼玉大学・石上　城行
　県教育局・中　和馬
④川口・前川東小　義卜　泰門
　蕨・南小　荒川　祥輝

【家庭科】

◎よりよい生活を目指して、課題を解決しようとする児童を育む指導の工夫

①渡邊はるか　②５年「ミシンでわくわくソーイング」
①深澤真奈美　②６年「１食分の食事　ランチを作ろう」
③埼玉大学・河村　美穂
　県教育局・佐藤　朋子
④上尾・東小　山内　ゆい

【体育科】

◎「わかる」と「できる」をつなぐ思考力，判断力，表現力等を高め、運動への自信をもてる指導の工夫

①森田　哲史　②６年「体つくり運動」
①首藤祐太朗　②２年「鬼遊び」
　　４年「ハンドボール」
①浅間　聖也　②５年「走り幅跳び」
③埼玉大学・有川　秀之、石川　泰成
　県教育局・藤井　邦之
④皆野・国神小　山中　崇
　さいたま・大牧小　西川　裕樹
　三郷・新和小　田中　喜教

【健康教育】

◎学びをつなぎ、広げて健康課題を解決していくことができる児童を育てる指導の工夫

①岡田亜由美　②３年「かみかみパワーのひみつ」
③埼玉大学・七木田文彦
　県教育局・森　奈緒子
④さいたま・本太小　内海　友紀

２　校内授業研究会について

個人の研究主題を基に、授業を通して検証を試み、全員で研究協議を行った。研究会には、埼玉大学から指導者を招聘した。本年度は、各教科で授業研究会を９回実施した。

①教科等（学年）②授業者 ③指導者

⑴　令和元年５月16日㈭
　①生活科（２年）②若村　健一
　③埼玉大学・北田　佳子
⑵　令和元年６月10日㈪
　①理科（６年）②塩盛　秀雄
　③埼玉大学・小倉　康
⑶　令和元年６月27日㈭
　①音楽科（３年）②納見　梢
　③埼玉大学・鈴木静哉
⑷　令和元年７月４日㈭
　①図画工作科（４年）②坂井　貴文
　③埼玉大学・小澤　基弘
⑸　令和元年７月８日㈪
　①国語科（１年）②吉野　竜一
　③埼玉大学・戸田　功
⑹　令和元年10月28日㈪
　①体育科（４年）②首藤祐太朗
　③埼玉大学・石川　泰成
⑺　令和元年11月７日㈭
　①算数科（６年）②神谷　直典
　③埼玉大学・二宮　裕之
⑻　令和２年２月３日㈪
　①家庭科（６年）②渡邊はるか
　③埼玉大学・河村　美穂
⑼　令和２年２月６日㈭
　①社会科（４年）②岩田　信之
　③埼玉大学・山口　美保

３　第３回公開授業研究会について

⑴　期　日　令和２年１月25日㈯
⑵　会　場　埼玉大学教育学部附属小学校
⑶　趣　旨
　教科また自身の研究テーマに基づいて公開授業を行い、研究協議を通して小学校教育の充実を図る。
⑷　後　援
　埼玉県教育委員会　さいたま市教育委員会
　埼玉県連合教育研究会　埼玉県公立小学校校長会

(5) 公開授業　　全14学級　　20授業提案

①提案者 ②公開授業 ③指導者

【国語科】
①吉野　竜一　②１年「ふたりでかんがえよう
『これは、なんでしょう』」
①笠原　雅広　②６年「登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう
『海の命』」
③文部科学省教科調査官　菊池　英慈

【社会科】
①岩田　信之　②４年「災害からくらしを守る～荒ぶる川の水防災を考える～」
①及川　恒平　②６年「わたしたちの願いを実現する政治」
③文部科学省教科調査官　小倉　勝登

【算数科】
①神谷　直典　②３年「□を使った式」
①関口　泰広　②６年「いろいろな問題（算数のまとめ）」
①藤田　明人　②１年「おおきい　かず」
③文部科学省教科調査官　笠井　健一

【理科】
①肥田　幸則　②５年「振り子の動き」
①関根　達也　②５年「電流がつくる磁力」
③埼玉大学教育学部教授　小倉　　康

【生活科】
①若村　健一　②１年「あそびを たのしもう」
①横田　典久　②２年「うごく　うごく　わたしのおもちゃ」
③淑徳大学教育学部教授　岡野　雅一

【音楽科】
①納見　　梢　②３年「日本の音楽に親しもう」
①三橋　博道　②４年「曲の気分を感じ取ろう」
③文部科学省教科調査官　志民　一成

【図画工作科】
①廣田　和人　②３年「はこのなかみは　ひみつだよ」
①坂井　貴文　②４年「どろどろ　カッチン」
①安藤　健太　②２年「紙を 立てたら 楽しいことが」
③東京造形大学造形学部教授　小林　貴史

【家庭科】
①渡邊はるか　②５年「買い物名人になろう」
①深澤真奈美　②６年「楽しいソーイング　生活に役立つ物を作ろう」
③埼玉大学教育学部教授　川端　博子

【体育科】
①首藤祐太朗　②４年「ゴール型ゲーム」
①浅間　聖也　②２年「マットを使った運動遊び」
③日本体育大学教授　白旗　和也

Ⅲ　今後について

今年度は、第87回小学校教育研究協議会において継続研究８年目（最終年次）としての学校研究主題を具現化した授業を提案することができた。

これまでの研究の成果を今後に生かすためには、課題を的確に捉え、整理していくことが重要である。研究を通して、前述のような成果があった一方で、解決しなければならない課題も見えてきた。よりよく「学びの本質」を育むために、さらに研究を推進していきたい。

21　埼玉大学教育学部附属中学校

Ⅰ　研究主題と方針

1　主題

「『主体的・対話的で深い学び』の実現による資質・能力の育成～『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業の在り方～」

2　方針

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の改訂の経緯において資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、これまでの学校教育の蓄積を生かし学習の質を高める授業改善の取組を活性化していくことが求められている。そのために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を推進することが今の学校教育に求められている。

そこで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け授業改善を行い、生徒の資質・能力の育成を図ることとした。

＜研究の方向性＞

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて、各教科等の特質に応じた昨年度の実践を踏まえて、「主体的・対話的で深い学び」とは何かを各教科等で示していく。さらに、教師が「深い学び」の実現を目指して、単元・題材で育成したい資質・能力を見通し、意図的・計画的に指導計画を作成した。

研究の視点としては次の２つとする。

＜手立て１＞

単元・題材計画の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれの視点を位置付け、意図的・計画的に授業実践を行う。

＜手立て２＞

生徒に単元・題材の学びの見通しをもたせながら学習に取り組ませ、その学びを振り返る活動を行う。

Ⅱ　活動状況および研究内容

1　令和元年度中学校教育研究協議会

⑴　発表主題

「『主体的・対話的で深い学び』の実現による資質・能力の育成～『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業の在り方～」

⑵　主催　埼玉大学教育学部附属中学校

⑶　後援　埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会
埼玉県連合教育研究会
埼玉県中学校長会・さいたま市中学校長会
埼玉県市町村教育委員会連合会

【国語科】

研究主題「実社会や実生活に生きて働く国語の能力を育成する授業の創造～生徒の主体性と言語能力の育成に資する指導と評価～」

指導者　埼玉県教育局　笠井　洋佳　先生
埼玉大学　本橋　幸康　先生
司会者　北本市立西中学校　福田　裕臣　先生

本年度は以下の２点を重点として、研究・実践を行った。

⑴　付けたい力と教材に応じた「読むこと」領域における効果的な言語活動の設定

前年度の研究の課題として挙がった、思考・判断・表現する場面を確保できる言語活動の設定を１点目とした。

⑵　身に付けた資質・能力を活用することで解答できるペーパーテストの記述式問題の工夫

「授業で学習したことを出題することは、授業の内容を記憶できていたかどうかを調べるだけであって、本当の意味での、授業で身に付けた力を活用できたかどうかを評価することにならないのではないか」という問題意識から、ペーパーテストの記述式問題の工夫を２点目とした。

成果としては、次の２点が挙げられる。

①　言語活動を工夫し、生徒の読みを可視化したものを用いて交流する場面を設定することで、生徒が読んだことについての考えを言葉に着目して伝え合うことができた。また、言語活動のモデルの一例と付けたい力を生徒に示すことで、言語活動そのものが目的となることなく、指導事項の内容を踏まえた活動になった。

②　ペーパーテストの記述式問題の工夫として、教材文と類似の文章を用いたり、言語活動と類似の課題を設定したりすることで、言語活動を通して身に付けた個人の「思考・判断・表現」の能力を評価することができるようになった。

課題としては、ペーパーテストの記述式問題について、他の設問とのバランスや分量を十分に考慮する時間が必要であるということが挙げられる。今後も効果的な方法を追究していきたい。

【社会科】

研究主題「公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科学習
～生徒が「主体的・対話的で深い学び」に向かう学習活動を通して～」

指導者　埼玉県教育局　藤井　真仁　先生
　　埼玉大学　谷　謙二　先生
　　清水　亮　先生
　　中川　律　先生
司会者 さいたま市立植竹中学校　江森　大貴　先生

本校社会科部では研究主題を受け、研究を深める具体的な手立てとして次の２つについて取り組んだ。

⑴　社会科における単元の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれの視点を位置付け、意図的・計画的に授業実践を行う。

⑵　生徒に単元の学びの見通しをもたせながら学習に取り組ませ、その学びを振り返る活動を行う。

⑴については生徒が「主体的・対話的で深い学び」に向かうような学習活動を研究・展開していく中で、「資質・能力」の育成に向け研究を進めた。授業構成を指導事項に即して構成するのではなく、その単元で身に付けるべき「資質・能力」を明らかにし、授業を構成した。より効果的な形で育成できるよう単元全体から構成を図った。

⑵については、「社会科学びの地図」というワークシートを用い、単元の見通しをもたせながら学習に取り組ませ、学びを振り返る活動を行った。今後もワークシートの活用を研究していく。

これらを研究の柱として、第1学年歴史的分野「私たちと歴史～なぜ我が国では様々な時代の表し方を用いるのだろう～」、第２学年地理的分野「日本の様々な地域～地域調査の手法～」、第３学年公民的分野「私たちと現代社会～私たちが生きる現代社会と文化の特色～」を題材に研究授業に取り組んだ。

【数学科】

研究主題「深い学びの実現を目指した数学学習指導
～見通しと振り返りに焦点をあてて～」

指導者　埼玉県教育局　中谷　樹　先生
　　埼玉大学　二宮　裕之　先生
司会者　伊奈町立伊奈中学校　奥田　勇司　先生

数学の授業において、「学びが深まった」様相はどのような状態なのか、また、「深い学び」を実現させるために、教師はどのような授業づくりが必要か、これらの課題に迫るために本主題を設定した。

研究を進めていく上での手立てとして、次の２つを柱とした。１つ目は、単元・題材計画の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれの視点を位置付けた意図的、計画的な授業実践である。はじめに数学科の単元・題材計画における授業改善の視点について整理した。次に、意図的、計画的に学びを位置付ける単元計画の在り方について考察した。

２つ目は、生徒に単元・題材の学びの見通しをもたせながら学習に取り組ませ、その学びを振り返る活動である。単元全体を見通した活動について藤原（2018）をもとに、「単元の本質に迫る問い」、「単元全体の学びのつながりを生徒が自覚できるような課題設定の工夫」、「単元末に学びのつながりを振り返る時間」についての実践・研究を行った。

本研究を通して、教師が単元全体の学びを見通し、それぞれの学びが深まるような学習活動について吟味することができた。また、生徒たちは学習のつながりをまとめたり、数学の体系に気付いたりして、学びを深めることができた。

【理科】

研究主題「自然を主体的・科学的に探究する資質・能力の育成 ～振り返り活動を重視した指導と評価の一体化～」

指導者　埼玉県教育局　鮫島　弘樹　先生
　　埼玉大学　中島　雅子　先生
司会者　鴻巣市立川里中学校　内田　純一　先生

研修主題にせまるために、「一枚ポートフォリオ評価（One Page Portfolio Assessment、以下OPPAと略記）論を導入した授業を行い、学習の見通しを立てたり学んだことを振り返ったりすることによって、科学的概念の変容の自覚化や学ぶ意味、必然性の感得が促され、自然を科学的に探究する資質・能力がよりよく育成されるだろう。」という研究仮説を設定し、その効果を検証した。

授業にOPPA論を導入することの効果として、次の４点が明らかとなった。１点目は、OPPシートによって生徒の科学的概念の変容過程を可視化することで、資質・能力の評価が可能となることである。２点目は、OPPシートの「問い」が、「学習目標」の意識化や学習事項の振り返りに必然性をもたせ、生徒が主体的に学習を「見通す」、「振り返る」活動を行うようになることである。３点目は、OPPシートが科学的概念の変容過程の自覚化すなわち「自己評価」を促し、「学ぶ意味や必然性」を感得させ、学習意欲を向上させることが可能となることである。４点目は、OPPシートを毎時間確認することで、生徒の学習と教師の指導の形成的評価が「自己評価」によって行われ、「指導と評価の一体化」が可能となることである。

【音楽科】

研究主題「表現と鑑賞の関連を図り、思考力、判断力、表現力等をより効果的に育成する学習指導法の工夫」

指導者　埼玉県教育局　大木まみこ　先生
　　埼玉大学　伊藤　誠　先生
司会者　さいたま市立大宮南中学校
　　飯田光一郎　先生

本年度は以下の２つについて研究・実践を行った。

⑴　思考力、判断力、表現力等を、効果的に育成する

ための指導と評価の工夫について研究する。

⑵　中学校での「Ａ表現　創作分野」と「Ｂ鑑賞」の相互関連を図った題材や「我が国や郷土の伝統音楽」を教材とした「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の相互関連を図った題材を設定し、生徒の学習意欲を高め、自ら課題に取り組みたくなるような効果的な導入や指導法、生徒の思考の変容が見取ることのできるワークシートの工夫やその評価方法について研究する。

成果として、題材配列や題材構成を工夫することで、より深く音楽の構造を理解しながら鑑賞することができたこと。学習の過程で変容が見えるワークシート、思考の場面が分かるワークシートの作成ができたことなどが挙げられる。

課題として、学びの流れの振り返りについては不十分な面が見られた。さらに今後は、身に付けさせたい思考力、判断力、表現力等が、生徒の思考・判断にどのように関連し合い、題材におけるどの活動によって育成されたのか、また、それらが関連することで、どのような相乗効果があるかについても研究していきたい。

【美術科】

研究主題「表現と鑑賞を一体化させながら
資質・能力を育成する学習指導の工夫」

指導者　埼玉県南部教育事務所　興野　邦孝　先生
埼玉大学　高須賀昌志　先生
司会者　さいたま市立柏陽中学校　神宮　綾子　先生

研究に当たっては、造形的な見方・考え方を働かせている場面を一連の流れと考え、活動内容ごとに分け、ワークシートの工夫などで生徒の活動を見取ることができるようにし、造形的な見方・考え方が明確になるように研究を進めた。

また、「思考力、判断力、表現力等」は「発想や構想に関する資質・能力」と「鑑賞に関する資質・能力」双方で育成される資質・能力であるため、授業改善の工夫として、表現による発想や構想の場面と、鑑賞の場面を相互に関連させ、活動の中で一体化を目指して研究を行った。

研究における成果として、「造形的な見方・考え方」の基本となる造形的な視点を明確にすることができ、他教科や学校行事、日常生活の中で、様々な視点から自分の中に新しい価値をつくり出すことができる生徒を育成することができた。

【保健体育科】

研究主題「主体的な学びを育む保健体育の学習」

指導者　埼玉県教育局　金杉　博美　先生
埼玉大学　石川　泰成　先生
司会者　川口市立西中学校　冨田　晃吉　先生

本校保健体育科では研究主題を『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～自己の思考を深め、課題をよりよく解決することができる生徒の育成～』とし、生徒が思考を深め、試行錯誤を繰り返しながら、課題解決に向けて学習に取り組むことができるようにする授業改善について考え、次の２点について研究した。１点目は、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で工夫した活動等を指導と評価に示し、意図的且つ計画的に生徒の学びの深まりをつくる授業実践を行った。２点目は、対話をする学習場面において教師がテーマを明確にし、生徒が自分の意見をもって対話を行えるようにし、自己の思考が深まるように学習活動の工夫を行った。

成果としては、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で工夫した活動を組み立てることにより、生徒が試行錯誤しながら学習する様子を見取ることができた。今後は、生徒同士の対話の内容を、教師が確認できる方法について検討し、より指導と評価の一体化に努めたい。

【技術・家庭科】

研究主題「社会で生きる資質・能力を育成する学習指導　～題材の中で意図的に位置づけた「主体的・対話的で深い学び」を通して～」

指導者　埼玉県教育局　佐藤　朋子　先生
埼玉県東部教育事務所　浅川　直孝　先生
埼玉大学　山本　利一　先生
荒木　祐二　先生
島田　玲子　先生
司会者　志木市立志木第二中学校　石川　　航　先生
さいたま市立与野南中学校
宇塚　亜衣　先生

技術・家庭科では、「社会を生きる資質・能力」を育成するために、題材の中に意図的に「主体的・対話的で深い学び」を位置付けることで、より効果的に資質・能力が育成できると考えた。そこで「育成すべき資質・能力」と「見方・考え方」、「主体的・対話的で深い学び」について題材計画の中に整理してまとめるとともに、見通しと振り返りの工夫を行うことで、より生徒が主体的に学習に臨むとともに、学びに向かう力、人間性等の育成に繋げられるよう、各分野で研究し授業実践を行った。

次年度以降の研究では、新学習指導要領の全面実施に向けて、教科における育成すべき資質・能力の整理と「見方・考え方」を働かせる学習の工夫とともに、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善の視点を生かし、より生徒の資質・能力を育成できる学習指導の工夫について研究を進めたい。

【英語科】

研究主題「コミュニケーションの質の向上を図る学習指導の工夫～見通しと振り返りの工夫による授業改善～」

指導者　埼玉県教育局　　大沢　　裕　先生
　　埼玉大学　　及川　　賢　先生
司会者　北本市立北本中学校　　玉神　順哉　先生

英語科では、前年度に引き続き学校研究主題から、「コミュニケーションの質の向上」に関する研究を基盤として、学習指導をより効果的にするための指導法の工夫改善について、実践研究を進めた。

具体的には、生徒のコミュニケーションの質の向上を図る指導の手立てとして、「単元・題材計画の中で『主体的な学び』『対話的な学び』『深い学び』それぞれの視点を位置付け、意図的・計画的に授業実践を行う」ことと「生徒に単元・題材の学びの見通しをもたせながら学習に取り組ませ、その学びを振り返る活動を行う」ことという２つの視点から研究主題に迫った。前者は、「明確な単元目標の設定」や「生徒の考えや思考を広げたり深めたりする場面設定」を柱とし、後者は、「第三者からの振り返り」や「振り返り後の実践」を柱として研究を進めた。

研究の成果として、学習到達目標を設定し、適切な振り返りの場面を設定することにより、即興性のある「やり取り」の質の向上に結びついた。また、生徒自身の学習動機やその他の領域の育成すべき資質・能力の向上へと結びついているような姿も見て取れた。

今後の課題として、話す内容の質の向上や見取るための評価規準（基準）の適切な設定方法および生徒中心の授業設計のさらなる改善を図っていきたい。

【学校保健】

研究主題「心豊かな人間性を育むため指導の工夫」
指導者　埼玉県教育局　　芦川　恵美　先生
　　埼玉大学准教授　　七木田文彦　先生
司会者　川口市立高等学校　　三橋　絵美　先生

学校保健では、本校の研究主題を受け、上記の研究主題を設定した。目まぐるしく変化する現代社会において、子供たちに必要な力は「生きる力」であり、保健教育では、それを支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の３つをバランスよく育成することを目指して実践を重ねている。

本年度の研究では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点をそれぞれ単元・題材計画の中に位置付けるにあたり、「少し高いレベルの問い」の設定を行った。「少し高いレベルの問い」とは、生徒が一人では解決できないけれども、他者と関わることで解決できるかもしれないというレベルの問いである。また、生徒が課題を「自分事」として捉えられるよう、日常生活で起こりうる場面を設定し、実習を取り入れた授業を展開してきた。他にも、生徒保健委員会では、生徒の視点で捉えた健康課題について解決方法を考え、他の生徒に共有する取組を行ってきた。

成果として、生徒が生活の中で同じような課題に直面したときに、学んだ知識を活用し、適切に行動できている様子を見ることができた。今後は、将来の生活においても適切に意思決定や行動選択をすることができる生徒を育成できるよう、研鑽を積んでいく。

２　令和元年度の研究概要

⑴　研究主題

「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善による資質・能力の育成～対話的な学びを通して思考力、判断力、表現力等をのばす～」

⑵　研究主題について

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け継続して授業改善を行い、生徒の資質・能力の育成を図ることとした。

⑶　研究の内容

生徒の実態調査を行い、生徒の実態を捉え直した。昨年度の研究を継続していくとともに、「対話的な学び」の視点に焦点を当てて授業改善を図り資質・能力の育成を図ることとした。

具体的には、各教科等の特質に応じた「対話的な学び」の場面を効果的に設定することで、資質・能力を育成していくことができると考えた。生徒の資質・能力の中でも、特に「思考力、判断力、表現力等」に焦点を当てて育成を図り、本校の学校教育目標が述べる「自主的人間の形成」をめざした。

手立て１：対話が必要となる状況を作り出す「問い」の工夫
手立て２：授業を通して生徒の思考力、判断力、表現力等が育成できたことが分かる工夫

⑷　研究経過

①研究全体会

全教員で研究内容について議論を重ね、共通理解を図った。年間で５回実施し、研究の基礎理論、研究主題の設定、研究推進の実務について検討した。

②研究情報の収集

国立大学附属学校等の研究発表や「教育展望セミナー」などへの参加を通して、研究情報を収集した。

③夏季教員研修会（講演会）

令和元年７月29日㈪
講師　埼玉県教育局義務教育指導課長
八田　聡史　先生

④校内授業研究会

第１回　社会　内藤　圭太　令和元年７月４日㈭
第２回　音楽　辻浦　拓斗　令和元年12月６日㈮
第３回　英語　蓬澤　　守　令和２年２月12日㈬

令和元年度

研究集録

Ⅱ　全国教育研究発表大会　埼玉大会の報告

1　第58回全国学校体育研究大会

埼玉大会 ……90

2　第58回全日本特別支援教育研究連盟全国大会

埼玉大会 ……91

第58回全国体育研究大会
埼玉大会

1　研究主題

「新学習指導要領を踏まえた体育・保健体育学習の具現化に向けて」

～生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続できる資質・能力を育成するために～

2　期　　日

令和元年10月31日㈭　11月１日㈮

3　会　　場

【全体会会場】

大宮ソニックシティ　大ホール

【分科会会場】

第１分科会	埼玉大学教育学部附属幼稚園
第２分科会	さいたま市立芝川小学校
第３分科会	さいたま市立常盤小学校
第４分科会	川口市立並木小学校
第５分科会	埼玉大学教育学部附属小学校
第６分科会	さいたま市立原山中学校
第７分科会	さいたま市立与野西中学校
第８分科会	川口市立南中学校
第９分科会	埼玉大学教育学部附属中学校
第10分科会	埼玉県立大宮東高等学校
第11分科会	埼玉県立上尾南高等学校
第12分科会	埼玉大学教育学部附属特別支援学校

【写真①　全体会会場　大宮ソニックシティ　大ホール】

4　大会の概要

これからの時代を生きる子供たちにとって、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することは、明るく豊かで活力ある生活を営むために重要である。そのためには幼児期から、多様で適切な運動経験により運動の楽しさや喜びを味わい、学習したことを実生活、実社会において生かし、運動の習慣化につなげることが大切である。新学習指導要領では、指導内容を「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理した。また、これらの指導の内容を確実に身に付けるための授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学びの実現」についても示している。幼稚園においてはすでに全面実施となり、他の校種においても、全面実施に向けた移行期間における体育・保健体育学習の提案やその共有が求められている。

そこで、本大会では、新学習指導要領及び幼稚園教育要領の趣旨とこれまでの埼玉県における体育研究の成果と課題を踏まえ、大会主題を『新学習指導要領を踏まえた体育・保健体育学習の具現化に向けて』と設定した。

この主題のもと、埼玉県では、「指導と評価の一体化を図った単元案・単元計画の作成」「主体的・対話的で深い学びをめざした教材・教具、学習過程、学習形態の工夫」の２つを視点に授業研究を進めた。

本大会は、大会主題を踏まえ、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の12分科会で保育・授業を公開した。そして、各分科会において、主題に掲げる体育・保健体育学習の在り方について提案し、研究協議を行った。

5　成果と課題

本大会における成果として、新学習指導要領及び幼稚園教育要領の趣旨とこれまでの埼玉県における体育研究について提案し、全国各地の参会者や、各指導者による的確な見解を御指導いただくなど、各会場で、充実した研究協議を深めることができた。

課題としては、埼玉県の体育研究として、「指導と評価の一体化を図った単元案・単元計画の作成」「主体的・対話的で深い学びをめざした教材・教具、学習過程、学習形態の工夫」のさらなる具現化と、研究内容を県内・県外に広めていくことである。

【写真②　基調報告】

第58回全日本特別支援教育研究連盟 全国大会　埼玉大会

1　研究主題

「志をもち、未来社会を自立的に生きる子供たち」
～一人一人の教育ニーズに応じる教育の充実を求めて～

2　期　日　令和元年10月17日㈭・18日㈮

3　会　場

［全体会］大宮ソニックシティ大ホール
［理事・評議員研究協議会］ 国際会議室
［レセプション］ パレスホテル大宮
［学校見学］ さいたま市内の小・中・特別支援学校
［分科会］ 大宮ソニックシティビル会議室

4　大会概要

本大会は、我が国が批准した「障害者の権利に関する条約」が効力を生じて５年が経過し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のため特別支援教育が進展する中、新学習指導要領の全面実施を直前に控えた節目の開催となった。

埼玉県特別支援教育研究会が70年にわたり積み重ねてきた特別支援教育に関する知見を活かし、未来社会を拓く特別支援教育の在り方を提案し、参加者皆様と協議できるような埼玉大会とした。

【全体会次第】

・挨拶　大会長　全特連理事長　明官　茂
　大会実行委員長　埼特研会長　山田　明
・祝辞 文部科学大臣　萩生田光一
　埼玉県教育委員会教育長　小松　弥生
　さいたま市教育委員会教育長　細田眞由美
・功労賞表彰式・代表謝辞
　前大宮南中学校長　永妻　恒男
・三木安正記念研究奨励賞研究報告
　千葉県立銚子特別支援学校教諭　東　郁美
・開催地研究報告
　羽生ふじ高等学園教諭　松澤ゆかり
・行政説明
　文部科学省初等中等教育特別支援教育課長　俵　幸嗣
・基調報告　全特連理事長　明官　茂
・全特連結成70周年記念シンポジウム
　シンポジスト
　宮﨑　英憲　松矢　勝宏　黒澤　一幸
　コーディネーター　明官　茂
・次期大会挨拶　長崎大会実行委員長　宮﨑　耕二

【学校施設見学】（A～Gの７コース）

Aコース 埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園
Bコース さいたま市立ひまわり特別支援学校
　さいたま市立総合療育センターひまわり学園
Cコース さいたま市立日進中学校 埼玉大学教育学部附属特別支援学校
Dコース さいたま市立大宮南小学校 さいたま市立大宮南中学校
Eコース 埼玉県立けやき特別支援学校
Fコース さいたま市立大宮東中学校 さいたま市立大宮小学校
Gコース さいたま市立桜木小学校 さいたま市立桜木中学校

【分科会】

18の分科会では、実践に基づく提案がなされ、全国各地から参加された先生方と各地域での取組や悩み等の情報交換を交え、熱気に満ちたグループ協議が展開された。

（「15　特別支援教育」 分科会一覧　p.61参照）

5　成果と課題

本大会では、総勢1,600名余りの参加者となり令和時代の幕開け、全日本特別教育研究連盟結成70周年の記念大会として、今後の特別支援教育の更なる充実と進展を期する大会となった。

全国各地から参加した先生方と今日の特別支援教育の状況やさまざまな実践について情報を共有したことを、これからの教育活動に活かし、教育実践の充実を図りたい。

埼玉県特別支援教育研究会は、1950年（昭和25年）に発足し、来年は70周年を迎える。本研究会は、「すべての教育現場で、特別支援教育を！そして、『特別支援』を『特別でない』支援に！」を掲げ、子供たちが志をもち夢と自信に満ちて社会で活躍できるよう、自立に向けた指導・支援と幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の一層の充実を目指して、教職員の指導力の向上と埼玉県の特別教育の振興に寄与するために研究活動を行っていく。

【学校施設見学】

【全体会 開会式】

【全体会 開催地研究報告「共に学ぶ、共に生きる】

【分 科 会】

令和元年度

研究集録

Ⅲ　地域教育研究団体の研究

1　蕨市教育研究会 …… 94
2　朝霞市教育研究会 …… 96
3　鴻巣市教育研究会 …… 98
4　北本市教育研究会 …… 100
5　狭山市教育研究会 …… 102
6　入間市教育研究会 …… 104
7　鶴ヶ島市教育研究会 …… 106
8　吉見教育研究会 …… 108
9　秩父教育研究会 …… 110
10　児玉郡本庄市教育研究会 …… 112
11　熊谷市教育研究会 …… 114
12　加須市教育研究会 …… 116
13　越谷市教育研究会 …… 118
14　三郷市教育研究会 …… 120
15　蓮田市教育研究会 …… 122

1　蕨市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、蕨市立小学校７校、中学校３校の計10校の教職員267名を会員として組織されている研究団体である。

本会は、

1　教職員の自主的・自発的な教育研究意識、意欲に基づいた活動とすること。

2　教育研究会の場を、会員の研究・研修の成果を持ち寄る切磋琢磨の場とすること。

3　活動内容が、全ての会員に寄与し、蕨市教育の振興を図るものであること。

4　運営は、会員の意志を尊重し、民主的であること。

を根本理念にすえ、「生きる力」を育む学習指導要領の考え方に基づき、小・中学校間の垣根を越えて、連携を深めながら、指導力の向上と教育の振興を目的として運営している。

Ⅱ　本会の組織及び運営

1　組織

⑴　役員
　会長１名・副会長２名・事務局長１名
　・幹事２名・監事３名

⑵　評議員
　役員９名・各学校長10名
　・各学校代表10名・各研究部長25名

⑶　運営委員
　会長１名・副会長２名・事務局長１名
　・幹事２名・各学校委員10名

2　総会員数　267名

3　運営資金　年会費1,200円及び市補助金

4　研 究 部

⑴国語　⑵書写　⑶社会科　⑷算数・数学
⑸理科　⑹生活科　⑺音楽　⑻図工・美術
⑼体育・保健体育　⑽家庭・技術家庭
⑾外国語　⑿道徳教育　⒀特別活動
⒁生徒指導・教育相談　⒂進路指導
⒃人権教育　⒄情報教育　⒅特別支援教育
⒆学校図書館教育　⒇国際理解教育
(21)学校保健　(22)学校給食　(23)学校安全
(24)学校事務　(25)総合的な学習の時間

なお、各研究部の中には、部長１名・研究副部長２名・書記２名をおく。

Ⅲ　研究主題

令和元年度研究主題

「生きる力」を育む蕨っ子の育成

Ⅳ　年間の事業について

1　第１回運営委員会　平成31年４月９日㈫
・平成31年度総会に向けて
・第１回各会について

2　第１回評議員会　平成31年４月９日㈫
・第１回運営委員会審議事項の承認
・平成31年度役員選考委員の選任について

3　役員選考委員会　平成31年４月16日㈫
・平成31年度役員の選考

4　第２回運営委員会　平成31年４月26日㈮
・平成31年度役員選考委員会の報告
・平成31年度総会に向けて
・平成31年度事業計画案の検討
・平成31年度予算案の検討

5　総会　５月９日㈭
・平成30年度事業報告
・平成30年度決算及び監査報告
・令和元年度役員選出
・新旧役員あいさつ
・令和元年度事業計画案審議
・令和元年度予算案審議

6　第１回各研究部会　５月９日㈭
・役員選出
・事業計画案の立案
　（研究主題・研究計画・予算案）

7　各研究部会の活動　６月～
・調査研究・授業研究・視察・研究会
・発表会・協議会・講演会
　（各学期・休業中等　年間４～５回程度）

8　第３回運営委員会　７月11日㈭
・運営委員会の役割について
・今後の運営委員会の開催予定について
・各活動の事業計画の調整について

9　第２回評議員会　７月11日㈭
・評議員会の役割について

・総会の反省について
・各研究部会の事業計画の承認について
・各研究部会の事務手続きについて
・会費の集金について

10　一斉研修日　11月12日㈫

11　第４回運営委員会　12月17日㈫
・教育講演会の役割分担について

12　教育講演会　令和２年１月８日㈬
・演題　「学校における授業改善と働き方改革」
・講師　埼玉大学教育学部教育実践総合センター
教職大学院　教授　安原　輝彦　氏

13　研究集録編集・発行準備　２月
14　会計監査　３月

Ⅴ　一斉研修日における各部の活動について

１　国語　研究協議
小中連携を意識した古典指導について
２　社会　授業研究会　中１
授業者　遠藤　和彦　教諭（第二中）
３　算数・数学　授業研究会　小５
授業者　小峰　良介　教諭（南小）
４　理科　授業研究会　小６
授業者　野口　亮平　教諭（中東小）
５　生活科　授業研究会　小１
授業者　山﨑　由貴　教諭（東小）
６　音楽科　授業研究会　小５
授業者　田中　　玲　教諭（西中）
７　図工・美術　授業研究会　中３
授業者　澤井　敦子　教諭（東中）
近代美術館スタッフ
８　体育・保健体育　授業研究会　小２
授業者　上水　流聖　教諭（西小）
９　家庭・技術家庭　授業研究会　中１
授業者　福島　正午　教諭（第二中）
10　外国語　授業研究会　中１
授業者　斎藤　宇輝　教諭（第一中）
11　道徳教育　授業研究会　小２
授業者　市川　理奈　教諭（北小）
12　特別活動　授業研究会　小６
授業者　鈴木佳奈美　教諭（東小）
13　進路指導　授業研究会　中３
授業者　田中　博和　教諭（第二中）
14　情報教育　実技研修会
新規導入機器活用研修
15　特別支援教育　研究協議
通級の指導について
16　学校図書館　視察研修
蕨市立図書館視察
17　学校保健　研究協議
定期健診の効果的な実施について
18　学校事務　研究協議
財務に関する実務研修
※　一部令和元年度休止中の部会有

Ⅵ　今後に向けて

各研究部での研究協議会、授業研究会、実技研修会、管外視察研修等、研究内容や主題に沿った工夫された取組が行われた。

また、今年度は、本会が隔年で実施している教育講演会を、安原　輝彦　氏を講師としてお招きし、盛大に開催することができた。

併せて、本会の不易のテーマである「指導力の向上」についてもますます意識が高まり、熱心に主題に向け授業研究等に取り組む姿が見られた。

本研究会の研究主題は、「生きる力」を育む蕨っ子の育成である。

今後も、子供たち一人一人のよさや生きる力を伸ばすために教職員の指導力の向上を推進し、より一層活動を充実させていく。

2　朝霞市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、朝霞市小・中学校15校（小学校10校、中学校５校）の校長、教頭、教諭、養護教諭497名を会員として組織されている教育研究団体である。

本会では、朝霞市教育振興基本計画に定められた基本理念「21世紀を心豊かに 生きる力をはぐくむ 朝霞の教育」を推進するために、「公教育の理念に基づき、教育に関する研究の深化・進展を図り、会員相互の資質向上と朝霞市教育の振興を図ること」を目的としている。特に、教科・領域においては、授業研究を柱として研究等を進めている。各教科・領域等の代表、副代表を校長、教頭が務め、朝霞市教育委員会の指導・助言の下に開催をしている。

主な事業としては、下記の内容となる。

１　教育に関する主任研修会・授業研究会・実技研修会の開催
２　教育に関する調査研究
３　教育に関する研究委嘱
４　展覧会、音楽会、科学展、発表会の開催
５　その他教育に関する必要事項

Ⅱ　組織及び運営

各教科、領域等において、代表校長１名、副代表教頭１名、運営委員２名程度が中心となり、担当指導主事の指導・助言の下、年間研修計画に基づいて活動している。

Ⅲ　本年度の主な事業

１　各部の活動

⑴　国語
主任研修会　５月31日㈮
授業研究会　12月４日㈬

⑵　書写
主任研修会　５月22日㈬、６月12日㈬
１月15日㈬
朝霞市書きぞめ展１月31日～２月２日（金～日）

⑶　社会
主任研修会　６月28日㈮
授業研究会　12月５日㈭、２月19日㈬

⑷　算数・数学
主任研修会　６月４日㈫
授業研究会　12月６日㈮

⑸　理科
主任研修会　６月４日㈫、７月30日㈫
授業研究会　１月30日㈭
科学展　10月５日㈯

⑹　生活
主任研修会　７月９日㈫
授業研究会　１月31日㈮

⑺　音楽
主任研修会　５月21日㈫、10月３日㈭
12月10日㈫
授業研究会　11月７日㈭、１月31日㈮
音楽会　11月８日㈮
音楽鑑賞教室　１月14日㈫、１月15日㈬

⑻　図工・美術
主任研修会　６月28日㈮、12月３日㈫
１月14日㈫
授業研究会　９月17日㈫

⑼　体育・保健体育
主任研修会　４月11日㈭、４月24日㈬
７月９日㈫、８月26日㈪
２月19日㈬
授業研究会　10月30日㈬、11月13日㈬
11月19日㈫

⑽　技術
主任研修会　６月７日㈮、８月26日㈪
授業研究会　１月16日㈭

⑾　家庭
主任研修会　７月２日㈫、８月26日㈪
授業研究会　１月29日㈬

⑿　外国語活動・英語
主任研修会　５月24日㈮
授業研究会　11月５日㈫、１月17日㈮

⒀　特別の教科 道徳・道徳教育推進教師
主任研修会　６月７日㈮
２月下旬実施予定
授業研究会　11月27日㈬、２月４日㈫

⒁　特別活動
主任研修会　６月６日㈭
授業研究会　１月17日㈮

⒂　総合的な学習の時間
主任研修会　６月４日㈫
授業研究会　12月３日㈫

⑯ 教育相談
主任研修会　７月３日㈫、２月25日㈫
⑰ 人権教育
主任研修会　５月28日㈫、１月16日㈭
授業研究会　２月19日㈬
現地研修会　８月６日㈫
⑱ キャリア教育
主任研修会　７月９日㈫
⑲ 国際理解教育
主任研修会　５月24日㈮
⑳ 情報教育
主任研修会　７月３日㈬
授業研究会　１月24日㈮
㉑ 安全教育
主任研修会　２月18日㈫
㉒ 特別支援学級担当者会
主任研修会　５月22日㈬、８月30日㈮
12月10日㈫
授業研究会　11月１日㈮
㉓ 特別支援教育コーディネーター研修会
主任研修会　５月16日㈭、2月20日㈭
12月10日㈫
授業研究会　11月１日㈮
㉔ 生徒指導
小中連携推進協議会
４月24日㈬、２月26日㈬
学警連　６月12日㈬、10月23日㈬
㉕ 学校図書館教育
主任研修会　６月19日㈬、９月13日㈮
10月１日㈫
㉖ 給食・食育
主任研修会　６月11日㈫、２月６日㈭
授業研究会　１月29日㈬
㉗ 養護教諭研究協議会
研究協議会　４月16日㈫
他、毎月１回実施
管外視察　12月10日㈫

２　研究委嘱発表校及び研究主題

⑴ 朝霞市立朝霞第三小学校
発表期日　令和元年11月１日㈮
研究領域　算数
研究主題「自分の考えをもち、学び合う児童の育成」
～主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫～

⑵ 朝霞市立朝霞第四小学校
発表期日　令和元年11月20日㈬
研究領域　特別の教科　道徳
研究主題「心豊かに、よりよく生きようとする児童の育成」
～特別の教科　道徳を中心として～

⑶ 朝霞市立朝霞第一中学校
発表期日　令和元年11月７日㈭
研究領域　各教科等
研究主題「生徒の特性を踏まえた誰もがわかる授業づくり」
～授業のユニバーサルデザイン化をめざして～

⑷ 朝霞市立朝霞第五小学校
発表期日　令和２年度に発表
研究領域　低学年　生活科
中学年　総合的な学習の時間
高学年　社会科・総合的な学習の時間
研究主題「コミュニケーション能力の育成」
～伝え合う力を高める授業の工夫～

⑸ 朝霞市立朝霞第六小学校
発表期日　令和２年度に発表
研究領域　特別の教科　道徳
研究主題「よりよい生き方を考え、深め合う授業づくり」
～特別の教科 道徳の指導方法の工夫～

⑹ 朝霞市立朝霞第二中学校
発表期日　令和２年度に発表
研究領域　各教科等
研究主題「主体的・対話的で深い学びの実践」
～基礎的・基本的な知識・技能を活用し表現する生徒の育成～

Ⅳ　おわりに

次世代を担う児童生徒に、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよくはぐくむとともに、未来を生き抜く力の基礎を育てることが現在の学校教育に求められている。児童生徒にこうした力をはぐくむためには、教員一人一人の資質を向上させることが何よりも重要である。

本会では、授業研究や事例研究を中心として各学校の枠を越えて研修会等を実施してきた。さらには、その成果を各学校に持ち帰り、伝達及び協議することを通して、教員の資質向上に役立ててきた。

今後も、朝霞市の教育の充実・発展のために寄与していきたいと考える。

3　鴻巣市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、鴻巣市立小学校19校、中学校７校に在籍する教職員を会員として組織されている教育研究会である。

Ⅱ　活動概要

本会では、会員の自主的研究によって教育各般の振興を図るとともに、会員相互の親睦を深めて鴻巣市教育の向上発展に貢献することを目的としている。

上記の目標を達成するために以下の事業を行う。

・教育課程及び指導法の研究
・教科内容の研究及び教育各般の調査
・講演会、研究発表会、展覧会、音楽会、競技会等
・関係諸機関との連絡連携
・その他本会の目的達成に必要な事業

Ⅲ　主な事業

１　本部関係

・主任会　（５月）
・拡大理事会（６月）

２　各研究部の活動

⑴　国語研究部

「生きてはたらく国語力の育成を図る指導法の研究」

・授業研究会

⑵　書写研究部

「生活に生かす書写教育」

・鴻巣市硬筆展
・硬筆中央展（出品・審査）
・埼玉県書写教育実技研修会
・鴻巣市書きぞめ展
・書きぞめ中央展（出品・審査）

【 書きぞめ実技講習会 】

⑶　社会科研究部

「主体的に取り組む社会科の授業づくり」
～協調学習の手法を取り入れた授業改善～

・研修会
・授業研究会

⑷　算数・数学研究部

「数学的活動を充実させ、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、数学的思考力、表現力を育成する」

・管外視察
・授業研究会

⑸　理科研究部

「問題解決の過程を通して、観察、実験等を充実して主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業展開の工夫と改善」

・市内科学展
・授業研究会

⑹　生活科研究部

「人と社会・自然とのかかわりを大切にする生活科」

・授業研究会

⑺　音楽研究部

「豊かな感性を育むための音楽活動を目指して」

・実技研修会
・埼玉県南部北地区音楽会準備
・鴻巣市小中学校音楽会

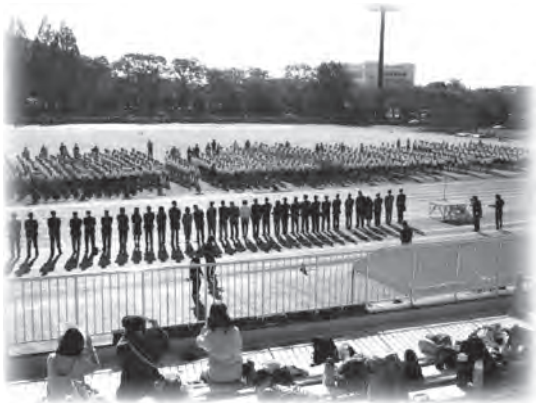
⑻　図工・美術研究部

「子どもが輝く　いきいき授業」
～「子どもの心」一人ひとりの存在・感性を大切に、深まりのある授業～

・実技研修会
・身体障害者福祉のための児童生徒美術展（出品・審査）
・郷土を描く児童生徒美術展（出品・審査）
・鴻巣市小中学校児童生徒美術展
・埼玉県小中学校児童生徒美術展（出品・審査）

【 図工・美術実技研修会 】

⑼　保健体育研究部
「児童生徒一人一人を伸ばす体育授業の研究」
・水泳実技講習会
・体育実技講習会
・鴻巣市小学校陸上競技大会
・体育研修会



【鴻巣市小学校陸上競技大会】

⑽　技術・家庭科研究部
「児童生徒のよい点や可能性を生かす学習指導と評価の工夫」
～生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童生徒の育成～
・授業研究会
・北足立北部班発明創意くふう展（出品・審査）

⑾　小学校外国語活動・外国語研究部
「小学校英語の教科化の充実に向けた授業の研究」
・鴻巣・北本地区英語弁論・暗唱大会
・授業研究会

⑿　道徳研究部
「自己の生き方について考えを深められる児童生徒の育成」
・授業研究会

⒀　特別活動研究部
「よりよい学校・学級文化を創造する特別活動」
・模擬学級会活動
・授業研究協議会
・褒賞規程研究集録作成

⒁　総合的な学習の時間研究部
「探究的な学習を活かした授業の展開」
～小中連携を視野に入れて～
・夏季研修会

⒂　学校保健・養護研究部
「養護教諭の実務の向上を目指して」
～日常から緊急時まで～
・定期健康診断のまとめ・統計
・研修会（講演・救急処置等）
・ほけんだより集の作成

⒃　学校図書館研究部
「情報発信基地としての学校図書館の在り方について」
～望ましい読書活動の活性化～
・読書感想文コンクール地区代表作品審査

⒄　特別支援教育研究部
「児童生徒一人一人が意欲をもって取り組める学習内容の工夫」
・なかよし交歓会
・なかよし発表会
・なかよし作品展
・管外視察研修

⒅　視聴覚・情報教育研究部
「理論的思考力育成のためのプログラミング教育の研究
・授業研究会
・研修会

⒆　学校給食・学校栄養職員研究部
「望ましい食習慣を身に付け、望ましい人間関係を育む食育の推進」
・栄養指導資料作成
・掲示物作成
・夏季研修会

⒇　安全教育研究部
「命の大切さを考える学校安全教育」
・研修会（学校安全・交通安全）

(21)　人権教育研究部
「人権教育の視点に立った望ましい集団生活のあり方」
・人権作文作品選定
・研修会

(22)　教育相談研究部
「児童生徒に寄り添う教育相談」
～特別な支援を必要とする児童生徒の理解と対応～
・研修会

(23)　学校事務研究部
「学校事務職員としての知識を広め、共有をはかる」
・研修会（給与関係・共同実施等）

Ⅳ　おわりに

本年度も、各研究部の部長が中心となり、授業研究会や研修会、各種行事を実施することができた。

来年度は新学習指導要領が小学校で全面実施、中学校で前年準備となることから、「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」等の具現化に向けて、各部が中心となり研究を進めていきたい。

４　北本市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、北本市小中学校12校（小学校８校、中学校４校）の教職員297名を会員として組織された教育研究団体である。本会は、会員の自主的研究によって教育各般の振興を図るとともに、会員相互の理解と親睦を深めて北本市教育の発展に貢献することを目的としている。

上記の目的を達成するために次の事業を行う。

１　教科等の研究に関すること。
２　教育の調査に関すること。
３　研究成果および資料等の作成刊行に関すること。
４　研修に関すること。
５　関係諸機関との連携提携に関すること。
６　その他本会の目的達成に必要なこと。

Ⅱ　本教育研究会の組織

１　研究部

本会に各研究部及びその他必要な研究部をおき、会員は、いずれかの研究部に属するものとする。

⑴国語研究部　⑵書写研究部　⑶社会科研究部　⑷算数・数学研究部　⑸理科研究部　⑹音楽研究部　⑺図工・美術研究部　⑻体育研究部　⑼技術・家庭研究部　⑽外国語活動・英語研究部　⑾道徳研究部　⑿特別活動研究部　⒀学校保健研究部　⒁学校図書館研究部　⒂学校給食研究部　⒃学校事務研究部　⒄特別支援教育研究部　⒅生活科研究部　⒆総合的な学習の時間研究部

２　役員

会長　１名、副会長　２名、理事　若干名、
監事　２名、幹事　２名

３　役員の任務

役員の任務は次のとおりとする。

⑴　会長は本会を代表し、会務を総理する。
⑵　副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはこれに代わる。
⑶　理事は理事会を構成し、会務を審議する。
⑷　監事は会計を監査する。
⑸　幹事は会長の命を受けて庶務会計にあたる。

４　役員の選出

本会の役員の選出は次のとおりとする。

⑴　会長、副会長、監事は理事会で選出し、総会の承認をうる。
⑵　理事は校長及び教頭、各研究部から選出された部長とする。
⑶　幹事は会長が委嘱する。

Ⅲ　主な事業

１　事務局（総務）の活動

４月　北本市教育研究会部員会
　　各部部長、副部長の選出　事業計画
５月　拡大理事会（総会）
　　令和元年度事業計画等
６月　予算執行等説明会
　　各部予算配分と諸連絡
11月　北本市教育研究大会（一斉授業研究会）
３月　理事会
　　令和元年度事業報告等
　　会計監査

２　各部の活動

⑴　国語研究部
・夏季研修会　８月７日㈬
・北本市教育研究大会　11月18日㈪

⑵　書写研究部
・硬筆展のための主任研修会　５月16日㈭
・市内硬筆展審査会　６月13日㈭
・県硬筆中央展参加　６月22日㈯・23日㈰
・書きぞめ実技研修会　10月16日㈬
・書きぞめ展のための主任研修会　11月27日㈬
・市内書きぞめ展覧会審査会　１月16日㈭
・県書きぞめ中央展覧会参加　１月25日㈯・26日㈰
・主任研修会　３月３日㈫

⑶　社会科研究部
・夏季研修会（フィールドワーク）　８月６日㈫
・北本市教育研究大会　11月18日㈪

⑷　算数・数学研究部
・南部（北足立北部）地区算数数学教育研究協議会（テキスト授業研究会）　12月４日㈬

⑸　理科研究部
・科学展のための主任研修会　６月26日㈬
・市内科学展審査会　９月11日㈬

⑹　音楽研究部
・夏季実技講習会（合唱指導）　８月２日㈮
・音楽会のための主任研修会　10月４日㈮
・市内小・中学校音楽会　11月５日㈫

・地区音楽会参加　11月６日㈬
・北本市教育研究大会　11月18日㈪
・主任研修会　12月13日㈮

⑺　図工・美術研究部
・主任研修会　６月５日㈬
・主任研修会　７月23日㈫
・主任研修会　９月11日㈬
・北本市教育研究大会　11月18日㈪
・郷土を描く美術展中央展参加　11月30日㈯
・市内図工・美術展審査会　12月６日㈮
・主任研修会　12月９日㈪
・県美術展参加　１月25日㈯・26日㈰
・主任研修会　２月19日㈬

⑻　体育研究部
・市内小学校球技大会　５月９日㈭・10日㈮
・市内小学校体育大会　10月９日㈬
・中学校駅伝班大会　10月28日㈪
・北本市教育研究大会　11月18日㈪

⑼　技術・家庭研究部
・家庭科実技講習会（料理）　８月５日㈪
・家庭科実技講習会（ミシン）　８月９日㈮
・発明創意くふう展及び児童生徒研究発表会
９月６日㈮
・北本市教育研究大会　11月18日㈪

⑽　外国語活動・英語研究部
・鴻巣・北本地区英語弁論大会　９月20日㈮
・北本市教育研究大会　11月18日㈪

⑾　道徳研究部
・主任研修会　８月５日㈪
・北本市教育研究大会　11月18日㈪
・主任研修会　２月25日㈫

⑿　特別活動研究部
・北本市教育研究大会　11月18日㈪
・主任研修会　３月５日㈭

⒀　学校保健研究部
・養護教諭研修会　６月25日㈫
・養護教諭研修会　７月10日㈬
・学校保健部会研修会　７月29日㈪
・養護教諭研修会　９月４日㈬
・養護教諭研修会　10月８日㈫
・養護教諭研修会　11月20日㈬
・養護教諭研修会　１月28日㈫
・学校保健部会研修会　３月３日㈫

⒁　学校図書館研究部
・管外視察（県立久喜図書館）　８月８日㈭
・読書感想文作品集作成の主任会　９月11日㈬
・読書感想文コンクール選考会　９月26日㈭
・主任研修会　２月25日㈫

⒂　学校給食研究部
・北本市教育研究大会　11月18日㈪
・主任研修会　１月28日㈫

⒃　学校事務研究部
・学校事務研修会　８月６日㈫
・学校事務研修会　８月９日㈮

⒄　特別支援教育研究部
・特別支援教育部会　７月２日㈫
・夏季研修会　８月29日㈭
・市内合同行事のための主任会　10月８日㈫
・北本市教育研究大会　11月18日㈪
・せいかつ発表会　12月10日㈫
・市内合同行事のための主任会　12月18日㈬
・市内小・中特別支援学級合同作品展
１月17日㈮～24日㈮
・卒業と進級を祝う会　２月18日㈫

⒅　生活科研究部
・管外視察（埼大附属小授業研）　10月16日㈬
・北本市教育研究大会　11月18日㈪
・生活科研修会（実践報告会）　11月27日㈬
・主任研修会　２月26日㈬

⒆　総合的な学習の時間研究部
・夏季研修会　７月31日㈬

Ⅳ　おわりに

今年度も、各研究部の部長が中心となり、事業計画を立案し、市内教職員の協力のもと活動を推進することができた。特に、主任研修会や授業研究会、管外視察、実技講習会等の実施により、市内教職員の資質向上を図ることができた。

中でも今年度で第３回となる北本市教育研究大会においては、11の部会で12の授業研究会を同日開催することができた。この大会は、会員が研究したい教科等の授業研究会を選んで参加し、指導力の向上に努める場とするものである。所属している部会に関わらず参加する部会を選べることで「校務分掌に縛られることなく、興味のある教科等の研修ができた。」という声が多く聞かれた。

反面「各部会の部長や授業者の負担が大きい。」「教科と領域が同日開催であるため、どちらかしか選べないのは良くない。」といった意見もある。会員のためになる会の在り方や、スムーズな運営について、今後も模索し、研究の充実に努めたい。

５　狭山市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本教育研究会は、埼玉県狭山市教育研究会と称し、事務局を会長在任校に置く。

狭山市立小学校15校、中学校８校の教職員で組織し、教育の振興と会員の資質の向上に努め、併せて相互の親睦を図ることを目的とする。

Ⅱ　本会の組織

１　役員

・会長１名　・副会長２名　・幹事３名
・監事２名

２　研究部

⑴国語　⑵書写　⑶社会　⑷算数・数学　⑸理科　⑹生活　⑺音楽　⑻図工・美術　⑼保健体育　⑽家庭　⑾技術・家庭　⑿英語　⒀総合的な学習　⒁英語活動　⒂視聴覚・情報　⒃学校図書館　⒄道徳　⒅教育心理相談　⒆特別支援教育　⒇学校保健　(21)特別活動　(22)安全教育　(23)生徒指導　(24)学校事務　(25)人権同和教　(26)進路指導・キャリア教育　(27)幼児教育　(28)特別支援学級担当者

３　各研究部の運営

⑴　前年度の研究推進・今後の課題の上にたって研究目標を明確にして、研究を推進する。
⑵　研究の成果が全会員のものとなるように計画・実施し広める。
⑶　年間のまとめ・研究集録を作成する。

Ⅲ　本年度の活動概要

１　全体活動

⑴　総会・講演会　（５月）
「つながりで学ぶ　世界遺産の旅」
講師　NPO法人世界遺産アカデミー
認定講師　関口　和信　氏
⑵　理事（部長）研究協議会　（５月・10月・２月）
⑶　選挙管理委員会　（４月・２月）
⑷　会計監査　（３月）

２　各研究部活動概要

⑴　国語
・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・授業研究会　（10月）
・代表者研究協議会　（１月）

⑵　書写
・代表者研究協議会　（４月）
・市内硬筆展覧会　（６月）
・授業研究会　（10月）
・狭山地区書きぞめ展覧会　（１月）

⑶　社会
・代表者研究協議会　（４月）
・授業研究会　（２月）

⑷　算数・数学
・代表者研究協議会　（４月）
・授業研究会　（10月）

⑸　理科
・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・市内科学教育振興展覧会　（９月）
・授業研究会　（10月）

⑹　生活
・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・授業研究会　（10月）

⑺　音楽
・代表者研究協議会　（４月）
・市内小中学校音楽会準備会　（６月）
・代表者研究協議会　（６月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・授業研究会　（10月）
・市内小中学校音楽会　（11月）
・代表者研究協議会　（２月）

⑻　図工・美術
・代表者研究協議会　（４月）
・市内図工美術作品展　（７月）
・夏季一斉研修会　（８月）
・授業研究会　（10月）
・代表者研究協議会　（１月）

⑼　保健体育
・代表者研究協議会　（４月）
・授業研究会　（10月）
・授業研究会　（11月）

⑽　家庭
・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・発明創意くふう展　（９月）

・授業研究会　(10月)

⑾　技術・家庭

・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（８月）
・授業研究会　(10月)
・代表者研究協議会　（２月）

⑿　英語

・代表者研究協議会　（４月）
・代表者研究協議会　（６月）
・市内英語暗唱弁論大会　（９月）
・授業研究会　(10月)

⒀　総合的な学習

・代表者研究協議会　（４月）
・授業研究会　(10月)

⒁　英語活動

・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・授業研究会　(10月)
・代表者研究協議会　（２月）

⒂　視聴覚・情報

・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）

⒃　学校図書館

・代表者研究協議会　（４月）
・代表者研究協議会　(10月)

⒄　道徳

・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・授業研究会　(11月)
・代表者研究協議会　（１月）

⒅　教育心理相談

・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）

⒆　特別支援教育

・代表者研究協議会　（４月）
・代表者研究協議会　（５月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・代表者研究協議会　(10月)
・授業研究会　(10月)
・学習発表会　(11月)
・作品展　（１月）
・代表者研究協議会　（２月）

⒇　学校保健

・代表者研究協議会　（４月）
・代表者研究協議会　（６月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・代表者研究協議会　(10月)
・代表者研究協議会　（３月）

㉑　特別活動

・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・授業研究会　(10月)

㉒　安全教育

・代表者研究協議会　（４月）
・代表者研究協議会　（２月）

㉓　生徒指導

・代表者研究協議会　（４月）
・授業研究会　(10月)

㉔　学校事務

・代表者研究協議会　（４月）
・代表者研究協議会　（５月）
・代表者研究協議会　（６月）
・代表者研究協議会　（７月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・代表者研究協議会　(10月)
・代表者研究協議会　(11月)
・代表者研究協議会　(12月)
・代表者研究協議会　（１月）
・代表者研究協議会　（２月）

㉕　人権同和教育

・代表者研究協議会　（４月）

㉖　進路指導・キャリア教育

・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・代表者研究協議会　(10月)
・代表者研究協議会　（２月）

㉗　幼児教育

・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）
・授業研究会　(11月)

㉘　特別支援学級担当者

・代表者研究協議会　（４月）
・夏季一斉研修会　（７月）

６　入間市教育研究会

Ⅰ　入間市教育研究会

１　会員と研究部

入間市教育研究会は、会員相互の研究・研修を重視して事業を計画し、その実施に当たっては市教育委員会との連携を密にする。

入間市各小中学校の指導の充実、教職員の資質の向上に寄与し、入間市の教育振興に期することを目的に小学校16校、中学校11校、計27校、会員数691名の研究会である。

本研究会では、「各研究部ごとの授業研究会・講演会・実技講習会の開催」「全体としての講演会や研修会」「研究委嘱校の研究発表会」の３つの活動を中心とし、各33の研究部が研究テーマを設定し活動している。

また、活動に際して、行政機関とも連携を取りながら活動を進めている。

Ⅱ　主な活動

・役員会　年５回（４月、６月、10月、12月、２月）
・理事会　年４回　　（４月、７月、10月、12月）
・研究部長会　年１回　　（６月）
・教育講演会と定期総会　　（５月）
・夏季教育講演会　　（８月）
・教育研究発表会　　（11月）
　〔小学校３校・中学校２校〕
・学校委員会　年１回　　（２月）

Ⅲ　特色ある活動

１　教育長による講演会

本会では、５月８日㈬に入間市市民会館で定期総会を開催したが、総会前に入間市教育委員会教育長をお招きして「入間市の教育」と題して講演会を行った。

教育長から直接、入間市の教育の現状や教職員に期待することなどを資料や映像で示していただいた。

初任者や他市からの転入職員にも入間市の現状を知ってもらうことや今年度の教育委員会の方針などを知る機会となっており、約600名の参加者からは「直接、教育長から話が聞けるよい機会だ」「入間市の教育方針がよく分かった」などの感想が寄せられていた。

２　研究発表会

入間市教育研究会では、各学校ごとに研究主題を設け学校研究を行っている。

その研究成果を入間市教育委員会とも連携して、発表校が11月８日㈮に研究発表会を実施した。

今年度は下記の５校（小学校３校、中学校２校）が研究発表会を行った。

発表校以外の先生方もそれぞれ希望する学校に参観に行き、その研究成果を市内の各学校で活かした。

⑴　黒須小学校
「楽しい授業の展開（数学科）」
～「できて、わかって、使える子」を育てる数学科の指導～
⑵　藤沢南小学校
「主体的に学びに向かう児童の育成」
～「書く」「話す」算数授業の工夫～
⑶　新久小学校
「豊かな社会生活を送るために必要な思考力・判断力」～算数科の授業をとおして～
⑷　豊岡中学校
「自立をめざし、協働を通して貢献できる力の育成」
～主体的に考え、聴く力と表現する力を育む『学び合い学習』を通して～
⑸　東金子中学校
「『学び合い学習』を取り入れた授業改善を図り、学力の向上をめざす」

今年度の各発表校で共通していたのは、少人数による「主体的・対話的で深い学びの学習」を目指した少人数による「学び合い学習」「グループ学習」であった。

小グループに分かれ、答えを導きだすために様々な話し合いを積極的に行っていた。自分だけでなく、友達の意見も聞きながら考えを深めていこうとする授業が各学校で行われていた。

公開授業後は、分科会が開かれ質問や意見が出され活発な討議が行われていた。

また、学校により講師を外部からお招きして、共同学習に関する講演会が開かれるなどの取組が行われていた。

３　研究部ごとの活動

本会は、教科・教科外など33の部会に細かく分かれ、各部ごとに様々な研究・研修に取り組んでいる。

４月に各校の主任が集まり年間の研修計画を立て１年を通して研修に努め、その成果と課題を２月27日㈭の学校委員会でまとめ・報告を行った。

具体的には、各研究部ごとに研修を行ったり、授業研究会を小学校・中学校で開催し市内各校の先生方が参加し、先生方の研究協議だけでなく、教育委員会指導主事や市内の校長が指導者となり指導講評を行ったりした。

また、書写部会では硬筆展・書きぞめ展、理科部会では科学展、音楽部会では小学校・中学校の合唱祭、技術・家庭部会では発明創意くふう展、図工美術部会では児童生徒美術展、英語部会では英語弁論暗唱会を開催し、児童生徒の関心を高めるとともに、教師の指導技術の向上に努めている。

４　夏季教育講演会

今年度は８月20日㈫入間市市民会館において、教育界の課題である「働き方改革」を取り上げ、（株）ワーク・ライフバランスコンサルタント社の田川琢磨氏を講師としてお招きし「子供たちの笑顔は大人が作る！子供も大人もイキイキと！～秘訣は働き方改革～」と題して講演会を行った。

働き方における教育界の現状や課題、解決に向けた取組などを映像を交えながら説明されました。

その中で他の学校や公官庁・民間企業等で行われている実践例も多数紹介された。

参加者からは、「まずは自分の意識を変えることが大切だと思いました」「発想の転換や考え方によってかえられる点があることを感じた」「仕事の優先順位をつけ、無駄な時間をなくしていきたい」などの感想があった。

その一方で、「学校の中だけでは変えられない点がたくさんあるので、難しい課題だと思う」との意見もあった。

Ⅳ　今後の活動

今年度は、例年の活動を引き継ぐとともに新しい活動を取り入れるように運営してきた。

学習指導要領の改訂に伴う指導内容の変化（小学校の英語教育、道徳の教科化など）にも市教育研究会（各部会）で積極的に取り組んでいきたい。

また、現在教育界の問題でもある「働き方改革」にも取り組んでいこうと考え、会議（出張）の回数や行事等の削減にも取り組んできた。

各教科、教科外の部会においても活動内容を見直し、研修会、展示会、発行資料の精選を検討してもらった。

次年度は、それを基に実施していく中で、更に検討を重ねていく。また、全体の講演会等の在り方も協議していく。

この機会にやるべきこと、教職員にとって本当に必要な研修とは何かを見直し、負担軽減とともに教職員の資質向上に直接つながる研修会の在り方を考えていきたい。

【研究発表会の様子】

7　鶴ヶ島市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、鶴ヶ島市小学校８校、中学校５校の教職員305名を会員として組織された教育研究団体である。「社会に出て自立していける子どもを育てる」「地域ぐるみで子どもを育てる」「人が学び、人が活きる社会を支える」を基本方針とした市の取組をもとに、各研究部で教職員の資質向上を図るための事業を計画・運営している。

一人一人の職員の長年の経験と実績を共有し、若い職員にその実績を伝え、市全体の結びつきを深めながら、よりよい教育活動の推進を図ることを目指している。

Ⅱ　本教育研究会の組織

各教科・領域等において各校の校長を相談役とし、指導・助言の下に研修の計画を立て活動に取り組んでいる。内容としては、主任研修会、教材研究会、授業研究会、臨地研修会など、各教科・領域等の現状を分析しながら行っている。

Ⅲ　本年度の主な事業

1　各部の主な活動

⑴　国語
「教員としての資質向上を目指し、教材研究などを通じ、効果的な指導法を研修する。」
主任研修会（８月）　教材研修会（11月）

⑵　書写
「教員としての資質向上を図り、硬筆・書きぞめ審査会を通して協議し、指導法を研修する。」
主任研修会（６月）　書きぞめ展・審査（１月）

⑶　社会
「教材研究等を行うことによって、教員としての資質向上を図る。」
授業研究会（11月）

⑷　算数・数学
「入間地区算数数学学力調査の結果を分析し、授業研究会を通し、算数数学教育の振興を図る。」
授業研究会（11月）

⑸　理科
「市内小中学校が連携し情報交換を行い、どの子も意欲的に取り組む指導法の工夫改善を図る。」
主任研修会（６月）　科学展（９月）
授業研究会（11月）

⑹　生活
「生活科の教材について研究し、授業に生かす。」
主任研修会（８月）　教材研究会（10月）

⑺　音楽
「表現する喜びを心から味わい、楽しく音楽とかかわる子どもを育成する。」
主任研修会（９月）　授業研究会（10月）
教材研究会（11月）　市内音楽祭（11月）

⑻　図工美術
「図工美術の小中間連携を図る。」
主任研修会（12月）　授業研究会（11月）
市内美術展（１月）

⑼　小学校家庭
「教材研究会と授業研究会を通して、教材や指導法の研修を行う。各校の家庭科部の連絡を密にし、家庭科教育の振興を図る。」
主任研修会（７月・11月）　授業研究会（１月）

⑽　技術・家庭
「関ブロに向けての研究授業案の作成と授業および教材研究。」
主任研修会（８月）　発明創意くふう展（９月）

⑾　小学校体育
「市内小中学校が連携し情報交換を行うとともに、授業研究会を通して体力向上の手立てを考えていく。」
指導案検討会（７月）　授業研究会（10月）

⑿　中学校体育
「学校間の連携を密にして、保健体育の充実や体力向上を図る。指導と評価の一体化を図る。」
授業研究会（11月）

⒀　英語
「コミュニケーション能力の向上を図る。」
主任研修会（８月）　英語弁論大会（９月）

⒁　道徳
「人とのかかわりを通し、よりよい生き方を求め、それを実践できる児童生徒の育成。」
主任研修会（６月）　授業研究会（10月）

⒂　総合的な学習の時間
「授業で活動できるような施設等について調査・研修し授業に生かす。」
主任研修会（８月・２月）

⒃　特別活動

「小中で連携し、それぞれの特色ある活動の情報交換をする。教材研究を通し、教員としての資質向上を図る。」
主任研修会（８月）　授業研究会（９月）

⑰ 生徒指導
「鶴ヶ島市内小中学校の情報交換を積極的に行い連携していく。関係機関との連携を深め課題解決に努める。」
主任研修会（６月）　担当者会議（11月・２月）

⑱ 人権教育
「授業研究を通し、人権教育に対しての実践力を高める指導法の研修を図る。資料や情報を小･中で交換し、９年間を見通した人権教育の推進を図る。」
主任研修会（７月）　授業研究会（９月）

⑲ 視聴覚・情報教育
「情報交換を密に行い、視聴覚・情報教育の効果的な指導方法の研修を図る。」
主任研修会（９月）　授業研究会（12月）

⑳ 特別支援
「交流会を通し、児童生徒・保護者間の交流を深め、授業研究、作品展を通して特別支援教育への理解を深める。」
主任研修会（６月）
なかよし交流会（６月・11月）
授業研究会（10月）　なかよし作品展（12月）

㉑ 学校図書館
「図書館司書との連携を図りながら、運営していく学校図書館を考える。」
主任研修会（６月・９月・11月）

㉒ 進路指導
「生徒の個性を理解し、進路指導・キャリア教育の充実に努める。」
主事研修会（８月・３月）

㉓ 学校食育
「児童生徒の自主的な給食活動を支援するために、各校の情報交換をし、食育・給食に関する指導法を研究する。」
主任研修会（８月）

㉔ 養護
「歯科保健活動の充実をめざして」
主任研修会（10月・２月）
教材研究会（12月）

㉕ 学校事務
「多様化する学校事務に対応できるよう研修を通して他校との共通理解を図り、学校事務の資質向上を目指す。」
主任研修会（６月・11月・１月）

㉖ 安全教育
「各校の実践の情報を交換し、安全教育の一層の充実を図る。主体的に危険回避できる児童生徒の育成を図る。」
主任研修会（２月）

㉗ 栄養
「アレルギー対応除去食に関する研究を行い、対応方法を研究する。朝ごはんレシピ媒体の新規作成を行う。」
主任研修会（12月）　教材研究会（12月）

㉘ 保健
「児童生徒の健康で安全な生活の営みのために情報交換を密にし、自校の保健指導に生かしていく。」
主事研修会（７月）

㉙ 教務
「教育課程見直し、次年度の調整。」
理事研修会（11月）

㉚ 教育相談
「生徒指導と教育相談の連携及びスクールカウンセラーとの連携を図る。」
主任研修会（８月）

２　小中連携の取組（夏季合同研修会）

(1) 鶴ヶ島中学校区　８月21日㈬
鶴ヶ島女性センター
『小中一体となった「学び合い学習による」授業改善』

(2) 藤中学校区　８月21日㈬
鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校
『学び合い学習を生かした授業展開』

(3) 富士見中学校区　８月21日㈬
鶴ヶ島市立杉下小学校
『授業づくり学校づくりの協力者』講演会

(4) 西中学校区　８月21日㈬
鶴ヶ島市立西中学校
『中学校実施のhyper-QU結果分析』

(5) 南中学校区　８月22日㈭
鶴ヶ島市立南中学校
『小・中一貫教育のための最重要事項』

Ⅳ　おわりに

本市では、市教研の取組として、定期総会時に講演会を開催している。

教職員の視野を広げ、教育技術を高めるための取組である。

教職員の資質向上を目指し今後とも研鑽に励んでいきたい。

8　吉見教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、埼玉県比企郡吉見教育研究会と称し、事務局を会長在任校に置く。

本会は、吉見町内の小中学校に籍を置く教職員が会員となって組織されている教育研究団体である。

学校数は、小学校６校、中学校１校の計７校、教職員会員数は111名である。

本会は、吉見町に在職する教職員が主体となって、職能の向上、教育の振興を図り、比企地区及び埼玉県の教育の発展、ひいては文化日本の建設に寄与し、併せて会員相互の親睦修養を図ることを目的とする。

Ⅱ　本研究会の組織

１　会員

正会員（町内在職教職員）

賛助会員（本会の趣旨に賛同する個人と団体）

２　役員

会長１名、副会長１名、常任理事15名、

監事３名、幹事若干名、理事若干名

３　会議

総会は毎年１回、会長が招集する。ただし、必要に応じて、臨時に招集することができる。

常任理事会、理事会及び幹事会は会長が認めたときに、これを招集する。

４　教科等研究部

⑴国語部	⑵書写部
⑶社会部	⑷算数・数学部
⑸理科部	⑹音楽部
⑺図工・美術部	⑻保健体育部
⑼技術・家庭部	⑽家庭部
⑾生活部	⑿英語・外国語活動
⒀道徳部	⒁特別活動部
⒂教育心理・教育相談部	⒃特別支援教育部
⒄人権教育部	⒅キャリア教育部
⒆生徒指導部	⒇安全教育部
㉑図書館教育部	㉒視聴覚・情報教育部
㉓環境教育部	㉔国際理解教育部
㉕総合的な学習部	㉖健康教育部
㉗養護部	㉘食育部
㉙校長会部	㉚教頭会部
㉛教務部	㉜庶務部

Ⅲ　本年度の主な事業

１　事務局事業

・教科・領域等主任研修会　（４月）

・総会及び講演会　（５月）

演題「吉見教育の現状と課題」

講師　大澤　幸正　先生

・保小連絡会　（８月）

・教育講演会　（８月）

演題「埼玉県学力・学習状況調査を活用した学力向上2019」

講師　関根　努　先生

・特別の教科　道徳講演会　（11月）

演題「道徳科の特質を生かした授業と評価」

講師　吉本　恒幸　先生

・県外視察　秋田県大曲市　（11月）

・県外視察報告会　（２月）

２　教科等研究部

⑴　国語

・授業研究会　北小学校　（11月）

⑵　書写

・主任研究協議会　吉見中学校　（５月・10月）

・比企地区硬筆審査会　（６月）

・比企地区書きぞめ審査・展示　（1月）

⑶　社会

・主任研究協議会　西が丘小学校　（２月）

⑷　算数・数学

・授業研究会　東第一小学校　（10月）

⑸　理科

・主任研究協議会　西が丘小学校　（９月）

・科学技術振興展覧会　（９月）

・授業研究会　南小学校　（11月）

・理科児童生徒研究発表会　（12月）

⑹　音楽

・授業研究会（歌唱）東第二小学校　（10月）

・授業研究会（器楽）西が丘小学校　（10月）

・西部北地区音楽会　（11月）

⑺　図工・美術

・身体障害者福祉のための美術展審査会　（８月）

・郷土を描く美術展審査会　（10月）

・主任研究協議会　東第一小学校　（12月）

・埼玉県小中学校児童生徒美術展　（１月）

⑻　保健体育
・授業研究会　東第二小学校　（11月）
⑼　技術・家庭
・主任研究協議会　吉見中学校　（６月）
・実技研修会　（８月）
・比企地区児童生徒研究発表会及び発明創意くふう展
（９月）
⑽　家庭
・比企地区児童生徒研究発表会及び発明創意くふう展
（９月）
・比企地区授業研究会　（10月）
⑾　生活
・主任研究協議会　東第一小学校　（２月）
⑿　英語・外国語活動
・授業研究会　東第二小学校　（６月）
・授業研究会　南小学校　（12月）
・授業研究会　西小学校　（11月）
・主任研究協議会　吉見中学校　（３月）
⒀　特別の教科　道徳
・授業研究会　北小学校　（11月）
・授業研究会　吉見中学校　（12月）
⒁　特別活動
・主任研究協議会　西小学校　（11月）
⒂　教育心理・教育相談
・教育相談講演会　町民体育館　（７月）
演題「生徒と教職員のレジリエンス」
講師　長尾　　宏　先生
・教育相談講演会　町民体育館　（12月）
演題「課題を抱える児童生徒の理解と支援」
講師　幸田　義光　先生
・教育相談講演会　町民体育館　（２月）
演題「児童生徒のよさや可能性を引き出し伸ばす
教育相談」
講師　柳澤　睦夫　先生
⒃　特別支援教育
・主任研究協議会　吉見中学校
（６月・10月・２月）
・合同遠足　こども動物自然公園　（６月）
・交流会　西が丘小学校　（11月）
・講演会　吉見中学校　（２月）
演題「特別支援学級における道徳」
講師　吉本　恒幸　先生
・道徳授業研究会　吉見中学校　（３月）
⒄　人権教育
・主任研究協議会　北小学校　（５月）
・授業研究会　西が丘小学校　（10月）
⒅　キャリア教育
・主任研究協議会　吉見中学校　（２月）
⒆　生徒指導
・学警連合同生徒指導委員会　（６月）
・青少年健全育成地域の集い　（10月）
・生徒指導事例研究協議会　（1月）
⒇　安全教育
・主任研究協議会　南小学校　（1月）
㉑　図書館教育
・主任研究協議会　町立図書館　（６月）
・読書感想文審査会　町立図書館　（９月）
㉒　視聴覚・情報教育
・授業研究会　東第二小学校　（10月）
・授業研究会　西が丘小学校　（11月）
・授業研究会　北小学校　（12月）
㉓　環境教育
・主任研究協議会　吉見中学校　（２月）
㉔　国際理解教育
・主任研究協議会　吉見中学校　（２月）
㉕　総合的な学習
・主任研究協議会　吉見中学校　（２月）
㉖　健康教育
・主任研究協議会　北小学校　（２月）
㉗　養護
・主任研究協議会　吉見町役場
（７月・９月・12月・２月）
㉘　食育
・献立会議　給食センター　毎月
㉙　校長会
・研究協議会　役場　町内学校　月1回
㉚　教頭会
・研究協議会　役場　町内学校　月1回
㉛　教務
・主任研究協議会　東第一小学校　（３月）
㉜　庶務
・主任研究協議会　吉見町役場　（８月・１月）

Ⅳ　おわりに

今年度は、吉見中学校が埼玉県道徳教育研究推進モデル校に委嘱されたことを受け、吉見町全体で道徳教育に関する研究を推進することができた。

また、町内全ての小学校が英語・外国語活動の授業研究会を校内研修と兼ねて実施することで（２年計画）、吉見町の英語・外国語活動の充実を図ることができた。

今後も教職員研修の一層の充実を図り、児童生徒の学力向上、豊かな心の育成につなげていきたい。

９　秩父教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、秩父教育研究会と称し、事務局を会長所属の学校に置く。

本会は、秩父市、横瀬町、小鹿野町、皆野町、長瀞町１市４町の小・中学校の教職員をもって組織されている教育研究団体である。教職員の資質向上と地域教育の振興に寄与することを目的としている。

学校数は、小学校23校、中学校12校の計35校、教職員会員数は637名である。

本会は、上記の目的を達成するために、教育関係機関並びに諸団体と連携し、次の事業を行う。

１　教育に関する研究会・講習会・発表会・展覧会等の開催
２　教育に関する研究調査
３　教育に関する実践的研究の委嘱
４　教育に関する図書雑誌の編集刊行斡旋
５　その他、教育に必要な事項

Ⅱ　本教育研究会の組織

１　役員

会長１名、副会長２名、理事（代議員）各校１名、監事３名、幹事若干名

２　任務

本会の役員の任務は次のとおりとする。

⑴　会長は本会を代表し、会務を掌理し各種会議を招集し、その議長となる。
⑵　副会長は会長を助け、会長に事故あるときはその職務を代理する。
⑶　理事は理事会を組織し、本会事業の企画運営に関して審議し、会務の執行にあたる。また、代議員として学校を代表し総会に出席する。
⑷　監事は、本会の会計を監査する。
⑸　幹事は、会長の命を受け、本会の庶務会計にあたる。

３　任期

役員の任期は２カ年とする。但し、再任を妨げない。補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

４　会議

毎年１回総会を開催し、会務の報告、会長・副会長・監事の選出、予算決算、その他重要事項につき審議決定する。会長が必要と認めた場合または会員の３分の１以上の要求がある場合は、臨時に総会を開くことができる。

総会は代議員による総会とする。各種会議の議決は、出席人数の過半数の賛成を必要とする。

５　経費

本会の経費は、会費及び補助金、その他をもってこれにあてる。会費は、１人年額1,000円とし、６月に全額納入する。

補助金は、秩父郡市内各市町より500円×学級数分をいただいている。

６　研究部

研究部は次のとおりとする。

⑴国語　⑵社会　⑶算数・数学　⑷理科　⑸生活　⑹音楽　⑺図工・美術　⑻保健体育　⑼技術・家庭　⑽家庭　⑾外国語　⑿書写　⒀生徒指導　⒁総合学習　⒂教育心理・教育相談　⒃学校図書館教育　⒄放送・視聴覚教育　⒅特別支援教育　⒆学校経営　⒇学校事務　(21)特別活動　(22)道徳教育　(23)学校給食　(24)進路指導・キャリア教育　(25)養護　(26)人権教育　(27)教務　(28)安全教育

各研究部には部長・副部長を置く。部長は本採者から選出する。役員の任期は１か年とする。

但し、再任を妨げない。また、部長は次年度第１回の研究部会を主催する。

Ⅲ　本年度の主な事業

１　事務局主催の活動

⑴　第１回理事研修会　（４月）
⑵　総会　（５月）
⑶　第１回研究部（教科外）研修会　（６月）
⑷　第１回研究部（教科）研修会　（６月）
⑸　第２回理事研修会　（７月）
⑹　教育講演会　（８月２日㈮）
　講師　声優・歌手・脚本家　佐久間レイ　氏
　演題「心を柔らかくストレッチ
　　～明日がきっと楽しみになります～」
⑺　第３回理事研修会　（２月）

２　各研究部主催の活動

⑴　国語
　講演会　（11月）
　講師　徳茂亜希子　指導主事
⑵　社会
　社会科展覧会　（10月）

授業研究会　（１月）
授業者　宮原　大輔　教諭

⑶ 算数・数学
授業研究会　（２月）
授業者　斉藤　仁志　教諭
研究協議及び講義
講師　　埼玉大学　教授　二宮　裕之　氏

⑷ 理科
科学教育振興展覧会　（10月）
理科研究発表会　（１月）

⑸ 生活
実技研修会　（７月）

⑹ 音楽
授業研究会　（11月）
授業者　亀田季代子　教諭
実技研修会　（12月）
講師　秩父特別支援学校　高橋　浩美　先生

⑺ 図工・美術
造形教育実技研修会　（７月）

⑻ 保健体育
小学校授業研究会　（10月）
中学校授業研究会　（11月）

⑼ 技術家庭
実技研修会　（８月）
発明創意くふう展及び研究発表会　（９月）
授業研究会　（11月）

⑽ 家庭
実技研修会　（８月）

⑾ 外国語
授業研究会　（11月）
授業者　笠原　　佳　教諭
指導者　旭　　和久　指導主事

⑿ 書写
秩父地区硬筆展覧会　（６月）
秩父地区書きぞめ展覧会　（１月）

⒀ 生徒指導　　研修会　（６月）

⒁ 総合的な学習　研修会　（６月）

⒂ 教育心理・教育相談
講演会　（８月）
「発達に遅れや偏りがある子の具体的な支援」
～自尊感情と関係性を育む学級づくり～
講師　創価大学教育学部　安部　博志　氏

⒃ 学校図書館教育
読書感想文審査会　（９月）
研修会　（10月）

⒄ 放送・視聴覚教育
研究協議会　（１月）

⒅ 特別支援教育
担任者研修会　（12月・１月）

⒆ 学校経営
視察研修・講演会　（10月）
講師　グラファイトデザイン
代表取締役社長　山田　拓郎　氏

⒇ 学校事務
講演会　（８月）
講師　北部教育事務所　総務・給与担当
研修会　「接遇マナー研修」　（２月）
講師　秩父市産業観光課　宮前　拓朗　氏

(21) 特別活動
授業研究会　（10月）
研修会　（１月）

(22) 道徳教育
授業研究会　（11月）

(23) 学校給食
実技研修会　「パン作り体験研修会」　（８月）

(24) 進路指導・キャリア教育
授業研究会　（11月）
授業者　今井　祐輔　教諭

(25) 養護
講演会　「SNSがもたらす健康問題・関係トラブルの実際と支援の在り方」　（７月）
講師　埼玉県立大学　教授　東　弘行　氏

(26) 人権教育
講演・実技体験　（10月）
「車いすバスケットボールの模範演技と体験」
講師　NPO法人インフィニティ代表理事
森田　俊光　氏

(27) 教務　　研修会　（２月）

(28) 安全教育　　研修会　（６月）

Ⅳ　成果と今後の課題

この一年間、各研究部において部長を中心に充実した研修会や行事が行われた。夏休みには小鹿野文化センターを会場に「教育講演会」を盛大に実施した。研修会や各行事は年々充実し、会員の資質向上に繋がっている。

今後は、児童生徒数の大幅な減少が予想されている。それに伴う会員数の減少、働き方改革による会員の負担軽減など、会の運営は多くの課題を抱えている。会員一人一人が将来に向け課題意識をもち、資質・教育力の向上を目指し、研究会の運営改善に取り組んでいくことが重要である。

10　児玉郡本庄市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、児玉郡・本庄市内の小中学校32校、30の教科等研究会をもって組織する。

Ⅱ　活動概要

各研究会は、授業研究会や講演会を通して、指導力の向上を目指している。

1　国語教育研究会
⑴　埼玉県国語教育夏季研修大会
⑵　授業研究会　美里町立松久小学校　11月22日㈮
授業者　教諭　塩川　景子、山﨑　沙織
指導者　北部教育事務所
指導主事　徳茂亜希子　氏
須永　伸一　氏

2　書写教育研究会
⑴　第58回硬筆展地区審査会　6月11日㈫
⑵　実技研修会「書きぞめ展に備えて」8月6日㈫
講師　本庄高等学校教諭　猪野　徹　氏
⑶　第73回児玉郡本庄市書きぞめ展覧会
令和2年1月11日㈯・12日㈰

3　社会科教育研究会
⑴　授業研究会　神川町立青柳小学校　12月3日㈫
授業者　教諭　大久保尚郁
指導者　北部教育事務所指導主事
矢島　弘一　氏

4　算数・数学教育研究会
⑴　授業研究会　本庄市立児玉中学校　10月29日㈫
授業者　教諭　井上　凌亮
指導者　北部教育事務所指導主事
中井美貴子　氏
⑵　授業研究会　本庄市立共和小学校　10月29日㈫
授業者　教諭　山口　航
指導者　本庄市教育委員会指導主事
市川　宝生　氏

5　理科教育研究会
⑴　科学展地区展　10月5日㈯
会場　本庄市立本庄南小学校
⑵　授業研究会　本庄市立金屋小学校　12月10日㈫
授業者　教諭　綿貫　祐介
指導者　北部教育事務所指導主事
大澤　正樹　氏

6　音楽教育研究会
⑴　実技研修会　8月8日㈭
「合唱の指導と指揮法について」
講師　桐朋学園大学非常勤講師　藤川　泰彰　氏
⑵　埼玉県小・中学校音楽会北部西地区音楽会
本庄市民文化会館　11月6日㈬
指導者　行田市立北河原小学校長
清水乃理子　氏

7　図工・美術教育研究会
⑴　夏季実技研修会　本庄市立北泉小学校
7月26日㈮
指導者　本庄市立北泉小学校長　岡村　和美　氏

8　保健体育教育研究会
⑴　小学校体育実技講習会
6月3日㈪・7月30日㈫
⑵　小学校体育授業研究会　11月8日㈮
⑶　小学校体育研究協議会　10月2日㈬等
⑷　中学校体育授業研究会　11月27日㈬
⑸　中学校体育研究協議会　11月29日㈮
⑹　女子体育実技講習会　8月7日㈬

9　技術・家庭科教育研究会
授業研究会　技術　本庄市立児玉中　11月22日㈮
家庭　本庄市立児玉中　11月22日㈮
小学校　家庭　本庄市立北泉小　1月29日㈬
指導者　県立総合教育センター
指導主事　林　裕人　氏
本庄市立本庄西中学校教頭
櫻井久美子　氏
北部教育事務所指導主事　酒井　春昭　氏

10　生活科・総合的な学習の時間研究会
授業研究会　上里町立上里北中学校　11月13日㈬
授業者　教諭　冬木　智大　他
教諭　高木　嶺　他
指導者　北部教育事務所指導主事　藤村敬一郎　氏

11　外国語活動・英語教育研究会
授業研究会　本庄市立金屋小学校　10月8日㈫
授業者　本庄市立金屋小学校　教諭　吉田　遼平
指導者　県立総合教育センター指導主事
贄田　悠　氏

12　道徳教育研究会
授業研究会　本庄市立児玉小学校　11月1日㈮
授業者　教諭　笹澤　有香
指導者　北部教育事務所指導主事　芳賀　一行　氏

13　特別活動教育研究会
講演会　7月30日㈫
会場　本庄早稲田国際リサーチパーク
講師　共栄大学教育学部教授　濱本　一　氏
演題　「これからの学校教育と特別活動」

14　生徒指導教育研究会
講演会　深谷市上柴公民館　8月21日㈬
講師　熊谷児童相談所所長　羽生　公洋　氏
安全確認・市町村支援担当課長
羽田　淳　氏

演題　「児童虐待の現状と対応」

15　教育相談教育研究会
講演会　深谷市川本公民館　　７月26日㈮
講師　開善塾教育相談研究所長　　藤崎　育子　氏
演題　「子どものやる気を引き出す教育相談」

16　進路指導・キャリア教育研究会
⑴　授業研究会　本庄市立北泉小学校　12月11日㈬
授業者　　教諭　天笠　真吾
指導者　北部教育事務所指導主事
中井美貴子　氏
⑵　授業研究会　本庄市立児玉中学校　１月31日㈮
授業者　　２学年全クラス
指導者　北部教育事務所指導主事
中井美貴子　氏

17　学校視聴覚・情報教育研究会
⑴　パソコン講習会
会場　本庄市立本庄南中学校　　８月22日㈭
講師　ラインズ株式会社　文教グループ
eサポートチーム　　黒須　健一　氏
演題　「プログラミング学習指導に役立つ、様々なソフトの体験」

18　学校図書館教育研究会
⑴　夏季研修会　神川中央公民館　　７月25日㈭
講師　県立久喜図書館　子ども読書推進担当
司書主幹　高野　治子　氏
演題　「学校での絵本の読み聞かせ」
⑵　読書感想文集　第50号発行

19　学校緑化教育研究会
現地研修会　県立児玉白楊高等学校10月17日㈭
講師　児玉白楊高等学校　生物資源科
教諭　福島　博喜　氏
内容　参加各校の緑化計画の資料交換
パンジーの種まき・鉢上げ・管理について

20　学校食育研究会
⑴　総会・研修会　　６月13日㈭
講師　県教育局県立学校部保健体育課
指導主事　森奈　緒子　氏
⑵　調理実習研修会　　８月７日㈬
講師　管理栄養士　　長谷川典夫　氏

21　保健主事教育研究会
⑴　研修会　本庄上里学校給食センター　８月２日㈮
講師　本庄市立本庄西小学校
栄養教諭　高橋亜紀子　氏
演題　「なぜ食育？！　スポーツ食育」
⑵　研修会　美里町立東児玉小学校　　11月15日㈮
埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究協議会

22　養護教諭研究会
⑴　第２回（夏季）研修会　　７月30日㈫
講師　特定非営利活動法人SHIP　星野　慎二　氏
演題　「多様性を認め、自分らしく生きられる社会」
⑵　第３回研修会及び研修発表会　　12月４日㈬
指導者　北部教育事務所指導主事
阿久津広真　氏

23　学校安全教育研究会
研修会　神川町立丹荘小学校　　８月２日㈮
講師　埼玉県教育局県立学校部保健体育課
指導主事　鎌田　聖治　氏
演題　「学校安全推進の現状と課題」

24　特別支援教育研究会
⑴　夏季研修会　　８月７日㈬
講師　立正大学　　助教　渡邉　孝継　氏
演題　「神経発達症児の世界と疑似体験」
⑵　児玉郡本庄市特別支援教育児童生徒作品展
11月30日㈯・12月１日㈰
会場　本庄市児玉総合文化会館

25　学校事務研究会
⑴　研修会　神川町中央公民館　　６月７日㈮
講師　県障害者福祉推進課　障害福祉団体担当
演題　「障碍者手帳について」
⑵　研究発表会　　12月６日㈮
上里町男女共同参画推進センター
「税について」（上里班）

26　人権教育研究会
⑴　講演会　８月５日㈪　講師　　門平　公夫　氏
⑵　授業研究会　上里町立七本木小学校
12月５日㈭
授業者　　教諭　神尾　篤
指導者　美里町立松久小学校長　敷地　昌明　氏

27　主幹教諭・教務主任研究会
⑴　第１回研修会（講演会）　　５月８日㈬
「変わるもの、変わらぬもの」
講師　上里町教育委員会教育長　下山　彰夫　氏
⑵　第２回研修会（研究校視察）　　11月15日㈮
埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究協議会
会場　美里町立東児玉小学校

28　学校栄養教諭研究会
⑴　栄養教諭研究会　　８月６日㈫
会場　本庄上里学校給食センター
内容　給食時間指導の媒体作成

29　環境教育研究会
⑴　夏季研修会　　８月２日㈮
場所　下久保ダム管理所
講師　下久保ダム管理所　　石黒　順司　氏
内容　講義　「ダム管理における水質への対応」
実験　「パックテスト」

30　国際理解教育研究会
⑴　各校での取組についてのレポート
⑵　研修会　本庄市立本庄東中学校　　８月22日㈭
①　各校国際理解教育に関する実践紹介
②　郡市内ALTによる自国文化等紹介
講師　本庄東中学校ALT
オリバー・ティグノ　氏

11　熊谷市教育研究会

Ⅰ　熊谷市教育研究会の概要

1　会員と組織及び目的

熊谷市教育研究会は、現在、会員1,019名の研究団体である。

役員は、会長１名、副会長５名、理事として校長部代表４名、教頭部代表４名、各教科等研究部長、各校選出の学校代表１名で構成されている。

なお、会長校は、本部事務局を担当し５名の副会長校は、会計事務局、会報事務局、学習指導研究協議会事務局、研究要録事務局、教育文化講演会事務局をそれぞれ担当する。

目的は、学校教育各般の研究により、会員の資質向上を図り、熊谷市の学校教育の振興を図ることである。

研究部等については、研究組織として、

・校長部
・教頭部
・教務主任部
・学校事務部
・教科研究部

国語、書写、社会、算数・数学、理科、生活、音楽、図工・美術、体育・保健体育、家庭、技術家庭（技）、技術家庭（家）、英語・外国語活動、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、進路指導・キャリア教育、学校食育、安全教育、生徒指導、人権教育、特別支援教育、学校教育相談、情報教育、学校図書館、養護、保健主事、環境教育、国際理解教育がある。

2　基本方針（令和元年度）

⑴　「熊谷教育」の発展のため、会員の意見を尊重しながら、教育研究活動の充実・改善を図る。

⑵　会員一人一人の研修意欲を高めるとともに資質の向上を目指し、全員が参加する全体研修会を実施する。

⑶　研究部は、日常の指導実践や長期を見通した研究課題を設定し、その解決を図るため、質の高い教育研究活動を行う。

⑷　生命の尊重や人権意識・防災意識の高揚を目指し、道徳教育・人権教育・防災教育の推進・充実を図る。

⑸　「学力日本一」を目指し、くまなびスクール、くまがやラグビー・オリパラプロジェクト、ラウンドシステムの考え方を生かした授業、道徳の「見える化」、運動量を増やし、汗をかかせる体育授業等を通して、「知・徳・体」のバランスのとれた学力向上を図る。

⑹　今年行われるラグビー・ワールドカップ2019の教育プログラムへの積極的な取組を通して、郷土愛（熊谷・埼玉を愛する心）とおもてなしの心をはぐくむ。

3　実施事業

⑴　研究課題に基づく調査研究活動の実施

⑵　研究要録・会報の発行

⑶　研究論文の応募・学習指導研究協議会での授業者の公募

⑷　研究会・講演会等の実施

⑸　音楽会・競技会等の実施

⑹　各教科、特別の教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の年間指導計画の作成並びに研究推進

⑺　学習指導研究協議会の実施と助成

⑻　各学校における各教科等の研究への協力

Ⅱ　令和元年度　事業計画

1　事業名・期日・会場

⑴　新旧正副会長候補・幹事候補者会　４月10日㈬
会場：熊谷市立熊谷西小学校

⑵　正副会長候補・幹事候補者会　４月17日㈬
会場：熊谷市立熊谷西小学校

⑶　主任研修会・理事研修会、部長会及び正副会長候補者・幹事候補者会　５月９日㈭
会場：彩の国くまがやドーム体育館

【　主任研修会・理事研修会　】
会長候補者、副会長候補者
５名のあいさつ及び紹介の様子

⑷　総会（代議員制）　　５月23日㈭
会場：熊谷市立江南公民館

【　熊谷市教育研究会総会　】

⑸　熊谷市小学校陸上フェスティバル　５月28日㈫
会場：熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

【　熊谷市小学校陸上フェスティバル開会式　】

⑹　研究要録論文募集依頼　　６月上旬

⑺　熊谷市教育研究会教育文化講演会
８月２日㈮　９：30～11：30
会場：熊谷文化創造館（さくらめいと）
講師：埼玉県教育委員会
教育委員　　後藤　素彦　氏
演題：「『ないものねだり』より
『あるもの探し』の生き方」

【　教育文化講演会　講演中の後藤　素彦　氏　】

⑻　会報「熊谷教育」　第27号発行
11月15日㈮

⑼　熊谷市中学校音楽会　　11月７日㈭
会場：熊谷文化創造館さくらめいと

⑽　熊谷市小学校音楽会
11月20日㈬・21日㈭
会場：熊谷文化創造館さくらめいと

⑾　本部役員会　　令和２年２月14日㈮
会場：熊谷市立熊谷西小学校

⑿　会報「熊谷教育」　第28号発行
２月17日㈪

⒀　第２回理事研修会　　２月25日㈫
会場：熊谷市めぬま農業研修センター

⒁　令和元年度研究要録発行　　３月上旬

⒂　令和２年度役員選考委員会　　３月24日㈫
会場：熊谷市立熊谷西小学校

Ⅲ　くまがやラグビー・オリパラプロジェクト

１　くまがやラグビー・オリパラプロジェクト（熊谷市教育振興基本計画）平成30年度から令和４年度

「熊谷市教育振興基本計画」は、長期的方針である『第２次熊谷市教育総合振興計画』に基づく中期的な方針であると位置付ける。

「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善による「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」、いわゆる汎用的能力の育成を行う。

熊谷市教育研究会も、熊谷市教育委員会の熊谷市における中期的（５年間）な熊谷教育の指針と施策をここに定め、時代や社会情勢の変化に適切に対応するため、先達に学び、「不易」のことを見極めながら、教育とは何かとの原点に立ち返り、あるべき教育を目指している。

Ⅳ　今後の活動

小学校では令和２年度から、中学校では、令和３年度から新学習指導要領による教育課程が全面実施される。現在、年間指導計画を各部会で作成している。

熊谷市教育研究会の目的は、学校教育各般の研究により、会員の資質向上を図り、熊谷市の学校教育の振興を図ることである。その目的に合わせて、全会員が常に研究と修養に努めて、「学力日本一」を継続しつつ、熊谷の子供たちのために今後とも全力で取り組んでいく。

12　加須市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、公立の幼・小・中学校43校（園）の教職員652名を会員として組織された教育研究団体である。

本会は、公立幼稚園及び小・中学校の学校教育の振興を図るとともに、相互の連携を密にし、職能の向上を図ることを目的とする。「未来社会を切り拓くための資質・能力を育む教育の実践」を研究テーマに設定し、次の事業を行う。

1　会員の研修のための講演会、講習会
2　発表会、研修会、視察調査等
3　幼児、児童生徒の発表会、展覧会、競技会等
4　会員や公立幼稚園及び小・中学校の研究助成
5　各種教育関係団体、機関との連絡・提携
6　その他必要事項

Ⅱ　本会の組織

1　役員

会長１名　副会長４名　監事３名
理事（各校長30名・幼稚園１名・教頭５名・
　　研究部６名・事務１名）　幹事２名

2　研究組織

会議は総会・理事会とする。
研究部の組織は次のとおりとする。
⑴国語教育　⑵書写教育　⑶社会科教育
⑷算数・数学教育　⑸理科教育
⑹生活科・総合的な学習の時間
⑺音楽教育　⑻図画工作・美術教育
⑼家庭科・技術家庭科教育
⑽体育・保健体育教育
⑾外国語活動・外国語教育　⑿道徳教育
⒀特別活動　⒁生徒指導
⒂進路指導・キャリア教育
⒃教育心理・教育相談　⒄安全・防災教育
⒅学校食育　⒆学校図書館教育
⒇人権教育　(21)特別支援教育
(22)国際理解教育　(23)視聴覚・情報教育
(24)環境教育　(25)福祉教育　(26)幼児教育
(27)教務主任　(28)保健主事　(29)養護教員
(30)学校事務

3　本会の会計予算（令和元年度）

1,497,221円

Ⅲ　本会の主な事業

1　本部の活動

⑴　各教科等主任研究協議会　（年２～３回）
⑵　教科等部長会　（年１回）
⑶　理事会　（年２回）
⑷　全員協議会・講演会　５月８日(水)
　演題「若年女性を取りまく現状
　　～SNSにひそむ危険～」
　講師　NPO法人BONDプロジェクト
　　代表　橘　ジュン　氏
⑸　教育講演会　７月22日(月)
　演題「毎日を楽しむ」
　講師　ウィルチェアラグビー
　　日本代表　倉橋　香衣　氏
⑹　研究発表会
・加須市立三俣小学校　10月８日(火)
　道徳教育
・加須市立種足小学校　11月12日(火)
　学習指導の改善
・加須市立加須平成中学校　11月13日(水)
　生徒指導・特別活動・人権教育
・加須市立原道小学校　11月22日(金)
　健康教育
・加須市立樋遣川小学校　１月29日(水)
　学習指導の改善
⑺　会計監査会　２月14日(金)

2　各教科等主任研究協議会の活動

⑴　国語教育研究部
・主任研究協議会　（４月・８月）
⑵　書写教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・市内硬筆審査会　（６月）
・書きぞめ実技研修会　(11月)
・市内書きぞめ審査会　（１月）
⑶　社会科教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・現地研修会　（８月）
・授業研究会　(10月)

・社会科作品展　(11月)

⑷　算数・数学教育研究部

・主任研究協議会　(４月)

・授業研究会　(10月)

⑸　理科教育研究部

・主任研究協議会　(４月)

・現地研修会　(８月)

・授業研究会　(11月)

・児童生徒理科発表会　(１月)

⑹　生活科・総合的な学習の時間研究部

・主任研究協議会　(４月・７月)

⑺　音楽教育研究部

・主任研究協議会　(４月・９月・２月)

・市内音楽会運営委員会　(６・９月)

・市内小・中学校音楽会　(10月)

⑻　図画工作・美術教育研究部

・主任研究協議会　(４月・７月・９月)

・身障展審査会　(８月)

・郷土を描く美術展審査会　(10月)

・児童生徒美術展　(１月)

⑼　家庭科・技術家庭科教育研究部

・主任研究協議会　(４月)

・夏季研修会　(８月)

・発明創意くふう展　(９月)

・授業研究会　(10月)

⑽　体育・保健体育教育研究部

・主任研究協議会　(４月・９月)

・体育実技伝達講習会　(８月)

・市内小学校陸上競技会　(10月)

⑾　外国語活動・外国語教育研究部

・主任研究協議会　(４月)

・授業研究会　(11月)

⑿　道徳教育研究部

・主任研究協議会　(４月・７月)

⒀　特別活動研究部

・主任研究協議会　(４月・８月)

・授業研究会　(11月)

⒁　生徒指導研究部

・主任研究協議会　(４月・５月・10月)

⒂　進路指導・キャリア教育研究部

・主任研究協議会　(４月・１月)

⒃　教育心理・教育相談研究部

・主任研究協議会　(４月・２月)

⒄　安全・防災教育研究部

・主任研究協議会　(４月・１月)

⒅　学校食育研究部

・主任研究協議会　(４月・１月)

⒆　学校図書館教育研究部

・主任研究協議会　(４月)

・読書感想文審査会　(９月)

⒇　人権教育研究部

・主任研究協議会　(４月)

・現地研修会　(８月)

・人権教育研究集会　(10月)

(21)　特別支援教育研究部

・主任研究協議会　(４月・６月)

(22)　国際理解教育研究部

・主任研究協議会　(４月・８月)

(23)　視聴覚・情報教育研究部

・主任研究協議会　(４月)

・実技研修会　(８月)

(24)　環境教育研究部

・主任研究協議会　(４月・７月)

(25)　福祉教育研究部

・主任研究協議会　(４月)

・講演会　(８月)

(26)　幼児教育研究部

・主任研究協議会　(４月・８月)

(27)　教務主任研究部

・主任研究協議会　(４月・１月)

(28)　保健主事研究部

・主任研究協議会　(４月・６月)

(29)　養護教員研究部

・主任研究協議会　(４月・11月・１月)

(30)　学校事務研究部

・主任研究協議会　(４月・６月・８月)

Ⅳ　おわりに

本研究会では、「未来社会を切り拓くための資質・能力を育む教育の実践」の具現化を目指し、各部が創意工夫した取組を実践してきた。

今後も、本市の地域性や特長を生かした組織的・計画的な研究活動を推進し、教職員の指導力向上に努めていく。

13　越谷市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、越谷市立小学校30校、中学校15校の教職員で組織し、26の教科等研究部会をもって活動している。

Ⅱ　本会の概要

1　役員

会長１名、副会長３名、幹事３名、監事３名、
各教科等部会長・副部会長（各教科等に置く）
評議員（各学校２名）

2　教科・領域等研究部　（26研究部会）

本会には、次の研究部会を開く。各部会の構成は、各校の主任及び希望者をもってする。

⑴国語　⑵書写　⑶社会　⑷算数・数学　⑸理科　⑹生活科　⑺音楽　⑻図画工作・美術　⑼技術・家庭科　⑽保健体育　⑾英語　⑿道徳　⒀特別活動　⒁総合的な学習の時間　⒂視聴覚　⒃学校図書館　⒄特別支援教育　⒅安全教育　⒆人権教育　⒇教育心理相談　(21)学校食育　(22)生徒指導　(23)学校事務　(24)養護教員　(25)保健主事　(26)進路指導・キャリア教育

Ⅲ　本年度の活動概要

1　事務局関係の活動

⑴	教科・領域等研究部会	４月24日㈬
⑵	理事・評議員会及び総会	５月７日㈫
⑶	理事・評議員研究協議会	６月11日㈫
⑷	正副会長研究協議会	７月12日㈮
⑸	正副会長研究協議会	12月10日㈫
⑹	教育研究大会	１月17日㈮
⑺	役員協議会・会計監査	２月18日㈫
⑻	理事研究協議会	３月11日㈬

2　各研究部の活動概要

⑴　各教科研究部会

・年１回もしくは２回の授業研究会及び研究協議会の実施
・音楽研究部会、家庭科研究部会は、実技研修会を実施
・音楽研究部会は、市内小中学校音楽会開催
・書写研究部会は、市内小中学校硬筆展覧会及び市内小中学校書きぞめ展覧会開催
・図画工作・美術研究部会は、市内小中学校絵画展覧会開催
・英語研究部会は、市内中学校英語弁論大会開催
・家庭科研究部会は、発明創意くふう展覧会開催

⑵　各領域等研究部会

・年１回もしくは２回の研究協議会の実施
・授業研究会及び授業研究協議会の実施

Ⅳ　越谷市教育研究大会

1　開催日時　令和２年１月17日㈮　14：00～16：30

2　開催場所　越谷サンシティホール

3　主な内容

⑴　教育実践発表
富士中学校・南越谷小学校・出羽小学校

⑵　研究発表
音楽研究部会

⑶　講演
講師　開善塾教育相談研究所
所長　藤崎　育子　氏

4　教育実践発表会

テーマ「自立した生き方を身に付けた児童生徒」
富士中学校区小中一貫教育の日々の取組を発表
小中一貫教育の接続の工夫、児童生徒間の交流の取組、教員間の交流の工夫等実践していることを説明し成果と課題、今後への改善点を発表した。

5　研究発表

音楽研究部会の合唱の披露
指揮者　蓮沼　勇一　氏の指導の下、練習、研究を重ね研究大会で合唱を披露した。
合唱　混声三部合唱
『ぜんぶ』
作詞者：さくらももこ　作曲者：相澤　直人
『ぼくはぼく』
作詞者：工藤直子　作曲者：三宅悠太
指揮　蓮沼　勇一　氏
伴奏　五月女洋介　氏

6　講演

演題「不登校・ひきこもりの子どもとその家庭への支援・指導・相談の実際」
～民間教育機関のアウトリーチの現場から～
講師　開善塾教育相談研究所所長　藤崎　育子　氏
・子供のことを知る
・子供の自己評価（肯定感）をあげる関わり方
・親を支える

・つなぐ　学校（教室）復帰を目指して
・社会で生きていけるように育てるために

上記の内容を不登校児童生徒についての実態・対処方法など講師の経験を具体例として挙げ、対処方法、普段の教育活動で気を付けること等を詳しくご講演いただいた。

Ⅴ　研究部の授業実践

各研究部会が、授業研究会及び研究協議会を開催し、授業の改善、指導力の向上に努めた。今回はその内の視聴覚部の授業研究会を紹介する。

１　開催日時　令和元年10月25日㈮
２　開催場所　越谷市立鷺後小学校
３　発表学年　第１学年／第５学年
４　教　　科　算数科
５　内　　容　算数科におけるプログラミング教育
６　研究課題

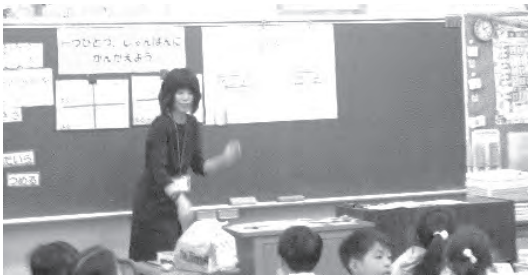
「主体的に課題に取り組み、自ら学ぶ子の育成」
～基礎・基本を身に付け、数学的な思考力・表現力・活用力を育てる算数教育、プログラミング教育の推進～

７　実践内容

⑴　第１学年「かたちあそび」

○概要

形を分類する際に、プログラミング的思考を働かせて、フローチャート図を構築しながら、課題を解決していく授業を実践した。この授業では、コンピュータを使わずに実践するアンプラグドの方法で授業を展開した。フローチャートは、複雑化しやすいプロセスの記録、学習、計画、改善、伝達を明確かつ分かりやすい方法で実現するためのツールとして有効であった。



○児童の反応

形を分類する際、どこに視点をおいて判断していくと速くて正確にできるか試行錯誤しながらフローチャートを構築し、課題を解決していった。形を分類する視点をフローチャートで明確にすることにより、判断する根拠が理解でき、活用問題でいろいろな形が出ても素早く分けることができた。

⑵　第５学年「正多角形と円周の長さ」

○概要

教科書会社が提供しているプログラミングソフトを使用し、正多角形の作図を行った。

始めに、一人１台のコンピュータ（iPad）を配付し、三角形の作図に取り組んだ。内角の和を入力してしまうと三角形は作図できないという課題を発見し、自力解決していった。

三角形の作図の仕組みを理解し、多角形でも同じ考えで作図ができるか取り組んだ。

○児童の反応

コンピュータを使用することで、頂点の多い正多角形を簡単に作図することができた。

数字を変えるだけでいろいろな正多角形をかくことができることに自然と気付けていた。

自力解決中に相談し合う姿やブロック操作の方法を説明し合う姿も見られ、学習内容が深まった。

この２つの授業を公開することで、来年度から実施されるプログラミング教育の考え方、指導法、授業の展開の仕方、来年度に向けての準備などを各学校に広めることができた。

Ⅵ　終わりに

今年度も、各研究部の部長が中心となり、事業計画を立案し、滞りなく活動推進することができた。

来年度は、新学習指導要領の小学校での全面実施であり、実施に向けての準備や滞りなく教育活動が展開されるよう研究を深めてきた。

来年度も本研究会が推進役となって研修したことが生かされるよう、学校間相互の連携、会員の資質向上に努めるとともに、本研究会の業務改善を鑑みながら越谷市の教育の充実に寄与していきたい。

14　三郷市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、市内小学校19校、中学校8校、計27校に在職する教職員619名を会員とし、26の部会を組織し活動している。

本会では、学習指導要領に基づき、下記の４つの視点に立った研修や実践的な活動を、学校間及び関係機関との連携を図り推進している。

その４つの視点は「①基礎的・基本的な知識・技能の定着と、自ら学び自ら考える力、主体的に学習に取り組む態度の育成を図るための指導計画の作成　②体づくりや食に関する指導を通し、健やかな体を育むとともに、道徳性を養う道徳教育の充実を図り、豊かな心を育成するための教育活動の推進　③創意工夫を生かした教育課程の編成・実施による「特色ある学校づくり」の推進　④新学習指導要領の研究を深め、新学習指導要領に対応した教育への円滑な移行の実施」である。

Ⅱ　本会の組織

１　本会の教育組織は、次のとおりである。

⑴国語　⑵書写　⑶社会　⑷生活　⑸算数・数学
⑹理科　⑺音楽　⑻図工・美術　⑼保健・体育
⑽家庭　⑾技術・家庭　⑿外国語・外国語活動
⒀道徳　⒁総合的な学習　⒂特別活
⒃特別支援教育　⒄教育相談・教育心理
⒅視聴覚教育　⒆学校図書館教育　⒇生徒指導
(21)進路指導・キャリア教育　(22)学校安全教育
(23)食育　(24)保健主事　(25)学校保健　(26)人権教育

２　本会の役員は、次のとおりとする。

⑴会長１名　⑵副会長２名　⑶監事２名
⑷事務局３名　⑸幹事11名　⑹学校委員各校３名

Ⅲ　本年度の主な事業

１　本部の活動

⑴　教科等主任研究協議会　（４月）
⑵　幹事研究協議会　（４月、１月、２月）
⑶　合同研究協議会　（４月、１月）
⑷　総会・全員研修会　（５月）
⑸　教科等部長研究協議会　（５月）
⑹　会計監査　（２月）

２　各部会の研究主題と主な活動内容

⑴　国語部会
・『言語能力を定着させる指導と評価の工夫
～主体的・対話的で深い学びの視点から～』
・講演会　（９月）

⑵　書写部会
・『書写能力を高める効果的な指導法
～毛筆書写と硬筆書写との関連～』
・硬筆審査会　（６月）
・書きぞめ審査会　（１月）

⑶　社会部会
・『主体的に学ぶ社会科の推進』
・授業研究会　(10月)

⑷　生活部会
・『友だちと関わりながら主体的に学ぶ児童を育てる生活科の学習指導』
・講演会　（９月）

⑸　算数・数学部会
・『数学的活動を通した指導法の工夫』
・授業研究会　(11月)

⑹　理科部会
・『自然を主体的に調べる授業の工夫と科学的な思考力や表現力の育成』
・市内科学教育振興展覧会　（９月）
・実験実技研修会　（２月）

⑺　音楽部会
・『音楽と楽しくかかわり、自ら創意工夫して表現する児童生徒の育成』
・市内小中学校合同音楽会　(11月)
・授業研究会　（１月）

⑻　図工・美術部会
・『豊かな発想を表現できる児童生徒の育成
～一人一人のよさや可能性を伸ばす指導と評価の研究～』
・講演　版画の実技研修　(11月)

⑼　保健・体育部会
・第一主題
『資質・能力をバランスよく育み、運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫』
・第二主題
『健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健教育の工夫』
・小学校授業研究会　（９月）
・中学校授業研究会　(10月)

⑽　家庭部会
・『自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成』
・児童研究発表・発明創意くふう展　（９月）
・授業研究会　（１月）

⑾ 技術・家庭部会
・『「見方・考え方」を働かせた問題解決を図るための指導計画の検討』
・市内発明創意くふう展　（９月）
・授業研究会　（11月）
⑿ 外国語・外国語活動部会
・『コミュニケーションを図ろうとする児童・英語を使いながら学ぶ生徒の育成』
・英語スピーチコンテスト　（９月）
・授業研究会　（10月）
⒀ 道徳部会
・『豊かな心を育む道徳教育　～多様な指導方法についての研究～』
・授業研究会　（10月）
⒁ 総合的な学習部会
・『探究的な学習が深まる総合的な学習の時間の推進』
・授業研究会　（11月）
⒂ 特別活動部会
・『生き生きとした児童生徒の育成　～児童生徒の自発的・自主的な活動を通して～』
・授業研究会　（11月）
⒃ 特別支援教育部会
・『児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援のあり方を求めて』
・合同運動会　（７月）
・合同学習会（各中学校区５ブロック）
（９月、10月）
・授業研究会　（２月）
・作品展示会　（２月）
⒄ 教育心理・教育相談部会
・『教育相談の進め方と支援の在り方』
・研修会　（６月）
⒅ 視聴覚教育部会
・『ＩＣＴ機器の活用により深い学びを実現する指導方法の改善　～プログラミング教育の課題解決に向けて～』
・実技研修会　（12月）
⒆ 学校図書館教育部会
・『「日本一の読書のまち三郷」の読書活動の活性化を目指して　～読書の感動をいかに表現させるか～』
・読書感想文審査会　（９月）
⒇ 生徒指導部会
・『小中相互理解による生徒指導の推進　～一人一人の児童生徒に視点をあてて～』
・講演会　（８月）
・事例研修会　（12月）
㉑ 進路指導・キャリア教育部会
・『自己決定力を育てる進路指導・キャリア教育』
・講演会　（９月）
㉒ 学校安全教育部会
・『児童生徒に自助を育成する学校安全の在り方』
・講演会　（８月）
・実践的防災訓練　（11月）
㉓ 食育・学校教育部会
・『健康な心と体をつくるための食育・学校給食の在り方』
・講演会、掲示物作成　（８月）
㉔ 保健主事部会
・『健康教育の推進』
・埼葛学校保健研究会研修会　（11月）
㉕ 学校保健部会
・『学校保健の充実をめざして』
・全体協議、班別研修　（６月、８月、11月）
㉖ 人権教育部会
・『人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童生徒の育成』
・講演会　（８月）

Ⅳ　おわりに

市内小中学校合同音楽会、発明創意くふう展、市内科学教育振興展覧会、英語スピーチコンテスト、特別支援学級合同運動会・作品展各部会などでたくさんの子供たちが輝いて活動することができた。

また、各部会での授業研究会、講演会、指導法研修会などを通して資質能力の向上が図られ、子供たちの「夢」を育む教育を遂行することができた。

今後も「生きる力」が漲る児童生徒の育成に、邁進していく。

15　蓮田市教育研究会

Ⅰ　蓮田市教育研究会の概要

1　会員と専門部

蓮田市教育研究会は、蓮田市内教職員の職能向上と教育の振興を図り、地域社会の文化の発展に貢献することを目的に、現在、小学校８校、中学校５校、計13校で組織され、会員数は283名である。

本会は、上記の目的を達成するために、29の専門部を中心に以下の事業を行っている。

⑴　講演会・講習会・研究会・発表会・展覧会・体育会などの開催
⑵　教育に関する調査研究
⑶　会員の学術文化に関する研究助成
⑷　社会教育の普及徹底
⑸　青少年文化活動の研究振興
⑹　ＰＴＡ及び各種団体との連絡協議
⑺　その他必要な事項

Ⅱ　主な活動

1	主任研究協議会	（４月）
2	第１回理事・部長研究協議会	（４月）
3	蓮田市教育研究会総会	（５月）
4	蓮田市教職員全体研修会	（５月）
5	蓮田市学校警察連絡協議会総会及び第１回連絡協議会	（７月）
6	蓮田市教職員全体研修会	（８月）
7	市内科学教育振興展覧会「科学の祭典in蓮田」	（９月）
8	蓮田市英語弁論暗誦大会	（９月）
9	発明創意くふう作品展及び研究発表会	（９月）
10	小学校社会科現地研修会	（９月）
11	蓮田市小中学校音楽会	（11月）
12	市内小中学校児童生徒美術展	（11月）
13	第２回理事・部長研究協議会	（１月）
14	蓮田市学校警察連絡協議会第２回連絡協議会	（２月）
15	会計監査	（３月）
16	各専門部の活動（年間を通して随時実施）	

Ⅲ　特色ある活動

1　蓮田市教職員全体研修会

蓮田市では、年間２回指導者を招聘し、教職員全員が参加する研修会を実施している。本研究会は、総会員数が280名程度ということで、市内の総合文化会館を利用し、全員が同じ会場で同時に研修を開催できる利点がある。

研修を通して教職員としての資質の向上を図れるだけでなく、研修会前後の時間を活用して、市内の教職員間の交流を深めたり、情報交換を行ったりできる良い機会となっている。

５月には、共栄大学教育学部　濱本　一　教授に「新学習指導要領の全面実施に向けて」というテーマで、正に次年度の全面実施に向けて、学級づくり・授業改善・キャリア教育の視点で実践的な御指導をいただくことができた。

８月には、人権教育研修会として、埼玉県犯罪被害者援助センター　橋本　隆史　様に御講演いただいた。心の痛みに寄り添い、すべての人々が互いに支え合っていける社会を構築していくためにも、日々の教育活動をさらに人権教育の視点から深化充実できるように各校で取り組んでいきたい。

2　蓮田市学校警察連絡協議会

生徒指導部会では、市内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校及び家庭・地域・関係諸機関が一体となり、本協議会を実施している。警察署の方からの御指導や、各学校や関係機関との情報交換を定期的に開催することにより、生徒指導上の諸課題の解決に向け話し合いを進めている。

また、市内の児童生徒の豊かな人間関係作りや社会性の育成、規範意識の醸成のため、積極的な生徒指導を推進している。

3　市内科学教育振興展覧会「科学の祭典in蓮田」

理科部会では、子供たちの深い学びの実現のために、小・中学校が交互に授業研究会を行うとともに、科学教育振興展覧会を開催し、市内小・中学校の理科教育の振興及び児童生徒の理科に関する興味・関心の向上に努めている。

例年、本展覧会には小・中学校合わせて150点ほどの作品が出品され、保護者の方を中心に約700名の方

が参観されている。

また本市では、児童生徒の学びの質を高めるために、市長賞、教育長賞、議長賞、ＰＴＡ連絡協議会長賞等、表彰にも工夫している。

４　蓮田市英語弁論暗誦大会

外国語・英語部会では、次年度から小学校で外国語が教科化されることを受けて、小学校教員と中学校教員の交流を深め、小・中学校の外国語・英語教育の系統性に焦点を当てて研究を深めている。

市内英語弁論暗唱大会では、例年、市内の蓮田松韻高等学校及び市外から審査員として指導者を招聘し英語による弁論、暗誦の発表を行っている。

参加生徒は暗誦部門、弁論部門に分かれ、審査の結果、弁論部門の上位２名が埼葛大会に出場している。

また、小学校・中学校での授業研究会も実施し、小・中学校の交流をより一層深め、連携した外国語・英語教育を目指し研修を深めている。

５　小学校社会科現地研修会

社会科部会では、小学校３年生の地域学習の充実を図るため、東京セキスイハイム工業蓮田工場での現地研修会を実施している。

各校で個別に実施するのではなく、市内の小学校３年担当者または社会科主任が参会し、事前に工場見学の打ち合わせ、工場内の見学を実施しておくことにより、３年生の学習事項と関連させ、見学に関する指導について内容を協議することができ、非常に有意義な研修会になっている。

６　蓮田市小中学校音楽会

音楽部会では、「音楽的な体験を楽しく積ませる中で、音楽性を引き出し伸ばす指導」をテーマに、子供たちの音楽を愛好する心情と、豊かな感性をどのように育成していくかを課題とし、各校において基礎・基本をふまえた様々な表現活動を体験させる中で、一人一人の個性や創造性を培う指導の在り方について研究を進めてきている。

蓮田市小中学校音楽会では、会場の定員の都合により、中学校区ごとに第１部（午前の部＝小中学校計８校）と第２部（午後の部＝小中学校計５校）により開催し、日頃から培われた音楽科の教育実践発表の場として盛大に挙行されている。いずれの学校においても質の高い素晴らしい発表となり、音楽科における小中連携が市内において円滑に行われている成果ととらえることができている。

会場の関係により、保護者は、自校の発表のみの参観に限られている。それでも例年、数多くの方々に参観いただいている。本事業への保護者の関心の高さがうかがえる。

７　市内小中学校児童生徒美術展

図画工作・美術部会では、「一人一人の特性・個性を生かし、造形活動の基礎的な能力を育てる学習指導と評価の工夫」をテーマに実技研修会を実施するとともに、市内小中学校児童生徒美術展を開催している。

各校の代表作品が展示され、例年、２日間の公開期間中、1000名を超える児童生徒、保護者、地域の方の来場が見込まれている。

表彰は、科学展に準じて各賞が工夫されている。

Ⅳ　今後の活動について

埼玉県では「豊かな学びで未来を拓く埼玉教育」を、蓮田市では「子供たちの未来のために、未来を子供たちのために」を掲げている。未来を創り、未来を生きていく子供たちのために、私たちが「今」できることは、いろいろな生き方の選択肢を示し、可能性を広げ、伸長させていくことだと考える。

日々向き合っている児童生徒が、未来にどんな活躍をするのか、どんな姿に成長しているのかを楽しみに、今後も、蓮田市教育研究会として、蓮田市の子供たちのよりよい成長のために、子供たちの可能性を広げ、伸ばす事業を展開していきたい。

令和元年度

研究論文集

Ⅰ　令和２年度研究論文募集要領…… 126

Ⅱ　令和元年度研究論文入賞者・応募者等一覧…… 127

＜　入　　選　＞

社会的な「見方・考え方」を働かせた資質・能力の育成の可視化
～単元　地理的分野「地域の在り方」、歴史的分野「現代の日本と世界」
の開発と実践を通して～【社会】…… 128
埼玉大学教育学部附属中学校　教諭　内藤　圭太

＜　佳　　作　＞

思いっきり体を動かし、全力で運動に挑戦する児童の育成
～特別支援学級における主体的・対話的で深い学びのある教科別の指導
「体育」の授業の実践～【体育】…… 134
熊谷市立熊谷西小学校　教諭　堀部　　慧

＜新人奨励賞＞

学力向上に向けた数学の“新”指導法
～『数学の歌・ダンス』『“数楽”すごろくのススメ』～【数学】…… 140
富士見市立本郷中学校　教諭　力久　晃一

令和２年度研究論文募集要領

埼玉県連合教育研究会

令和２年度研究論文を下記の要領で募集いたします。何とぞ、奮ってご応募ください。

記

1　目的

日々の教育実践の中から生まれた研究を会員の皆様から募集し、これを広く発表することによって本県教育の振興に資する。

2　募集内容

教科、道徳、、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、進路指導・キャリア教育、視聴覚教育、教育心理･教育相談、特別支援教育、学校図書館教育等の児童生徒に直接かかわる実践的教育研究として、どのように計画し、仮説を立て実践し、さらに、その結果をどのように評価し、今後の教育実践にどう発展させるか等の研究であることとします。

3　応募資格

応募者は、県内の公立小・中・特別支援学校・義務教育学校に勤務する教員（会員）の個人及びグループの研究（学校としての研究も含む）であることとします。

4　応募規程

原稿の書式は、Ａ４判縦長･横書き、横 24 字×縦 46 行×２段組で、パソコン入力（Ｗｏｒｄ）により、４～６枚以内（写真、図表を含む）とし、文体は常体（「である」体）を原則とします。

また、研究論文には「表紙」を付け、その上に「応募票」を添付してください。

「表紙」には、①題名　②氏名（グループ代表者名）③職名、④勤務校を記入してください。

5　応募票

「応募票」は、ホームページの各種提出書類の「研究論文応募票」からダウンロードしてください。

「応募票」の電子データを希望される方は、下記電話か E-mail にて事務教局までお申し出ください。

「応募票」は、「個人研究」･「グループ研究」･「学校研究」別に「表紙」に添付してください。

6　応募上の留意点

研究論文は、紙上未発表のものに限ります。

研究論文原稿は、返却しませんので、あらかじめご了承ください。

7　原稿等の提出期限

令和２年９月４日㈮必着

「応募票」及び論文原稿の提出については、下記事務局へ電子メールでの送付も併せてお願いします。

8　審査結果

審査結果は、令和２年１２月中旬に、各応募者に書面にて通知します。

9　表彰等

最優秀賞・入選・佳作等に選ばれた研究論文は、令和２年度『研究集録付研究論文集』及びホームページへの掲載を行い、入賞者には、本会評議員会（総会）後の入賞者表彰式にて表彰を行います。

なお、研究資料費として入選論文には７万円（最優秀賞は 10 万円）、佳作論文には５万円、選外の応募者にも薄謝を進呈します。

また、教職経験 10 年未満の方を対象に新人奨励賞（３万円）を設けています。

10　審査員

本部役員および編集委員

11　提出・問い合わせ先

〒 330-0804　さいたま市大宮区堀の内町１－ 99　さいたま市立大宮東中学校内

埼玉県連合教育研究会事務局　TEL　048-641-0808　　FAX　048-645-1922

E-mail　saitamakenrengoukyouiku@jcom.home.ne.jp

ホームページ URL　https://sairenkyou.jp/

令和元年度研究論文入賞者・応募者等一覧

Ⅰ　入賞者

1　入　選

No.	氏　名	所　属　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	内藤　圭太	埼玉大学教育学部附属中学校	教　諭	社　会	個　人
		社会的な「見方・考え方」を働かせた資質・能力の育成の可視化 ～単元　地理的分野「地域の在り方」、歴史的分野「現代の日本と世界」 の開発と実践を通して～			

2　佳　作

No.	氏　名	所　蔵　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	堀部　　慧	熊谷市立熊谷西小学校	教　諭	体　育	個　人
		思いっきり体を動かし、全力で運動に挑戦する児童の育成 ～特別支援学級における主体的・対話的で深い学びのある教科別の指導 「体育」の授業の実践～			

3　新人奨励賞

No.	氏　名	所　蔵　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	力久　晃一	富士見市立本郷中学校	教　諭	数　学	個　人
		学力向上に向けた数学の“新”指導法 ～『数学の歌・ダンス』『“数楽”すごろくのススメ』～			

Ⅱ　応募者

No.	氏　名	所　属　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	鈴木　慎一	越谷市立富士中学校	教　諭	社　会	個　人
		生徒が主体的に学習したくなる教材の提案 ～中学校社会科地理的分野・歴史的分野の実践を通じて～			
2	師岡　洋輔	埼玉大学教育学部附属中学校	教　諭	数　学	個　人
		問題発見・問題生成する力の育成を目指した数学科問題解決の授業に関する一考察			

社会的な「見方・考え方」を働かせた資質・能力の育成の可視化

～単元　地理的分野「地域の在り方」、歴史的分野「現代の日本と世界」の開発と実践を通して～

埼玉大学教育学部附属中学校　教諭　内　藤　圭　太

Ⅰ　問題の所在

平成 29 年の学習指導要領の改訂（以下、新学習指導要領）において、学習・指導の改善充実や教育環境の充実等において、「主体的・対話的で深い学び」の実現が挙げられている。特に、深い学びの実現のために、社会科のみならず全ての教科等において各教科等を結ぶ中核をなすものとして「見方・考え方」が示された。「見方・考え方」は全教科を通じて資質・能力を確実に育成するためのツールとして位置付けられている。小中学校においては、「社会的な見方・考え方」は、社会に見られる課題を把握して、その考察、構想する際の「視点や方法（考え方）」として整理されている。小学校新学習指導要領には、「見方・考え方を働かせ」るとは、「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより児童生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていく、としている。つまり、「見方・考え方」は、働かせるものであると同時に、それ自体を鍛えていくことが大切であると言えよう。これは同時に、これまで全体像が不明確であると言われてきた「社会的な見方や考え方」との差別化[1]も図られている。

しかし、「見方・考え方」の導入による社会科三分野の学びの分断や、学習するべき対象と視点の固定化についての課題[2]も残されている。これは、大杉昭英がかつて指摘した「「見方や考え方」が拡大、精緻化すれば、それに従って、ある一定の方向へ判断を導く」という問題[3]から引き継がれたものであるとも言えるであろう。

また、生徒が「見方・考え方」を働かせることによって育成される資質・能力とは具体的に何か、どのようにしたら可視化できるか、そしてどのようにすれば評価できるか、については課題が残っている。「見方・考え方」の働きの可視化に関する先行研究としては、草原和博らの研究[4]がある。しかし、この研究は「見方・考え方」の働きの可視化としては一定の成果があるが、働いた結果としてどのような資質・能力が育成され、評価できるかについては明らかにされていない。

そこで、本研究では、①生徒自身が「見方・考え方」を働かせている場面の可視化、②「見方・考え方」を働かせることによる資質・能力の育成の評価の２点について、考察・構想を伴った単元を開発し、実践することを通して検討することを主な目的とする。

Ⅱ　研究の仮説

社会に見られる課題の解決について考察・構想する単元を開発し、これまでの学習を振り返り、生徒自身が「見方・考え方」を働かせるように指導することで、資質・能力の育成が可視化できるであろう。

Ⅲ　研究の方法

１　対象

埼玉大学教育学部附属中学校の現第３学年の生徒（173 名）を対象に、平成 29 年度から令和元年度の授業実践の成果とアンケート調査を基に分析する。

２　授業づくりの方法

授業づくりの方法について、先行研究を踏まえて検討する。すでに、「見方・考え方」を働かせる授業づくりについては、視点の吟味、問いの質が、獲得する知識に関わることが、以下の図のように示されている[5]。

視点 → 問い → 協働的な学び → 知識

この学習の流れにおける課題は、単元の重点目標が三つの資質・能力のどこに置かれるかによって、協働的な学び（考察・構想）の性格とそこから得られる知識が変わるということである。この課題に対し、草原和博は、下の図を示し、「思考・判断・表現して自己や社会との関わり方を「考察・構想」することを目標に、それに必要な「問い」が芽生え、「問い」を多面的・多角的に解決するために、「視点」が活用されるという構図で提案されるべきであった[6]」としている。

①目標 → ②考察・構想 → ③問い → ④視点

草原の論を受け、筆者の授業づくりの方法を以下に示す。これは、筆者が以前「探求的思考力を育成する」、という主旨で授業づくりの方法を提示したもの[7]を、新学習指導要領に示された「見方・考え方」を働かせることと、資質・能力の育成の主旨を踏まえて再構成したものである。単元・本時で身に付けさせたい資質・能力、学習を終えた時点での生徒の様子を、「①目標」

とする。次に、学習の目標を達成する学習活動として、どのような「②考察・構想」をさせるかを見出す。そして、社会に見られる課題の考察・構想に必要な「③問い」を生徒自身に生み出させる。これは、生徒に学習の必要感を与えることにもなる。そして、問いを解決するための「④視点」を生徒に設定させるのである。

3　生徒の視点からの授業の実際

ここでは、生徒の視点から授業づくりを考えたい。授業中に、仮に教師が「見方・考え方を働かせなさい。」や「今、働いている場面ですよ。」などと言ったとしても、生徒にその実感が伴うことはない。まして、「あなた方は本時において、課題を追究したり解決したりしたのだから、このような知識が身に付いたはずですよ。」と言っても生徒は、「それなら、教師が知識を直接教えてくれた方が良い。」と思うに違いないであろう。いくら良い課題や問いが与えられても、それを解決するための知識は、生徒自身によって収集されなければならないと考える。筆者は、このような視点から以下のような授業形式をとっている。

課題把握 → **課題追究**（情報収集）→
課題追究（考察）→ **課題解決**（まとめ）

単元あるいは、１単位時間の授業の導入で、生徒が本時の課題を把握する。その後、生徒は提示された知識について調べる。知識獲得の時間も「情報収集」として、課題追究の中に位置付けているのである[8]。

そして、身に付けるべき知識を、教師と生徒で共有した上で課題追究を行うことで、活用される知識は共有される。この課題追究するための教師からの指示や問いが「見方・考え方」を働かせるものになれば良いのである。このように設定された課題追究の場面であれば、仮に教師から「今、見方・考え方が働いている（働かせる）場面ですよ。」と言われたとしても、生徒は実感を伴った追究をすることができるであろう。

4　授業実践・生徒への評価

課題解決の場面は、生徒がノートやワークシートに記述した問いに対するまとめを読むことで、授業の流れを踏まえ、必要な知識を活用して考察することができているか、その結果、知識が身に付いているか、などを評価・判断する場面となる。筆者は、毎時間全ての生徒に対して行うことはできないため、各単元末にノートやワークシートを提出させて評価している。

5　学習の成果・課題の総括

本時の課題が解決されたのち、単元の課題の解決に必要な内容について「振り返り」を行わせる。これは、単元を貫く学習問題と本時の課題の関連性を生徒自身に考えさせるものであるが、このことが新たな課題を生み出すことにもなる。また、授業改善の視点を明確化することにもつながると考えている。

Ⅳ　授業実践

1　【実践⑴】単元　地理的分野「地域の在り方」（８時間扱い）2019年２月～３月実践

本単元は、第２学年の地理的分野の学習のまとめとして位置付けられている。そのため、これまでの単元で教師から問われることで働かせてきた地理的な「見方・考え方」を、生徒が自らの課題を解決するために問いを設定し、「見方・考え方」の視点を活用させることにより、資質・能力の育成を可視化できると考えた。

本校の学区は、さいたま市、川口市、戸田市、蕨市の４市である。事前アンケート調査の集計結果から、生徒の居住地の割合は浦和区、南区、中央区、川口市の順に高いことが分かった。注目すべきは、地域の課題を把握している生徒が多かった一方、家族で地域の将来について話すと答えた生徒は４割未満であったという点である。そこで、「附属中学区の地域的特色について説明する資料集を作成しよう！」という単元を貫く学習問題を設定し、表１のような構成で展開した。

表１　単元「地域の在り方」の構成

段階	学習活動・内容
①目標	・自分の住んでいる地域の実態や課題を諸資料（統計データ、まちの新旧の地図、写真、ハザードマップなどの防災情報）を提示し、地域の課題を見いだす。
②考察・構想	・単元を貫く学習問題（パフォーマンス課題※次頁表２）を読み、学習の見通しをもつ。 ・どのような考察・構想を行うか、どのような疑問をもつか、どのような視点から考察するか考える。
③問い	・「なぜ、それが課題と言えるか？」データを掲載して説明する。 ・「どのようにして。そのような課題が生じたのか？」について、説明する。
④視点	・課題を解決するための提言を行う。 ・「位置や分布」「場所」「人間と自然との相互依存関係」「地域」など、「見方・考え方」の視点を自ら設定する。

資料集の作成に当たっては、生徒が自らが設定した課題が地域の人にとっての意味あるものになっているか、資料の文章が他者に伝わるものになっているか、グループで対話や議論を繰り返していた。さらには、本校学校図書館の活用のみならず、行政の統計資料を集めたり、自らフィールドワークや聞き取り調査をしたりする生徒が見られるなど、より説得力をもった資料集の作成に向けて探究する活動が展開された。

表2　パフォーマンス課題（具体的な事例を設定して構成された学習課題）による評価とルーブリック（評価段階）

パフォーマンス課題　附属中学区の地域的特色について説明する資料集を作成しよう！			
段階	具体的な姿	活用している知識	思考力、判断力・表現力等
A	過去から現在までの地域的特色を踏まえ、将来的な地域の変容の予測や市民としての役割にも言及して附属中学区の資料を作成している。	埼玉大学教育学部附属中学校学区の特色地理的事象を取り上げ、その原因や背景と共に、地域市民としての今後の役割に言及した資料集記述	より適切なテーマ、グラフ、統計、地図などを使用し、持続可能な社会の形成の観点から、資料を作成することができる。
B	附属中学区の特色について、中核となる地域の事象を設定し、それに複数の地理的要素を関連付けて資料を作成している	埼玉大学教育学部附属中学校学区の特色ある地理的事象を生活経験をも結び付けて取り上げ、その原因や背景を説明した資料集記述	埼玉大学教育学部附属中学校学区の将来像や課題について取り上げ、目指すべき市民を育てることができる資料集としての機能をもっている。
C	附属中学区の特色について、複数の地理的視点を網羅的に踏まえた資料を作成している。	市民としての地域に関する知識を、埼玉大学教育学部附属中学校学区の地域的特色として考察の視点（自然環境、人口、産業、交通）を踏まえた資料集記述	埼玉大学教育学部附属中学校学区の特色ある地理的事象を選択し、そのような様子が見られるのはなぜか、という問いに答えることができている。

このような学習を経て完成した資料集を図１に示す。これは、生徒が住む川口市の課題を、生徒の生活体験や諸資料を根拠に見いだしたものであり、外国人移住者の増加の推移や、より良い関係を築くための方策を取り上げている。また、地域の在り方や将来の予測にまで踏み込んだ記述が見られたものである。

生徒の資料をパフォーマンス課題と照合することによって、生徒の資質・能力の高まりがみられた箇所が分かる。また、生徒は、自らの課題を解決するために、「地域」という視点から「見方・考え方」を働かせていることが読み取れる。例えば、「なぜ、外国人移住者が増えたのか？」という問いの解を、人口推移、川口市の交通の便、マンション建設など、「川口市はどのような地域なのか？」という視点から見いだしている。

本実践においては、自分が住む地域の課題の解決について考察・構想する単元を設定し、生徒にこれまでの単元の学習を振り返らせ、問いを生ませ、「見方・考え方」の視点を活用させることをねらいとした。生徒が「見方・考え方」を働かせた成果が作成された資料集であり、その記述内容が資質・能力の育成された状態が可視化されたものである。しかし、パフォーマンス課題に基づいた学習評価については、教師側の意図に生徒が合わせたにすぎないとも読み取れ、真正の学び[9]にはなっているとは言い難い。このため、次の単元においては、より可視化された資質・能力を適切に評価するために学習の手法を再検討することとした。

図１　生徒が作成した資料集の例

「外国人移住者が増えている川口市の課題と未来」

２　【実践⑵】単元　歴史的分野「現代の日本と世界」（４時間扱い）2019年６月～７月実践

本単元は、歴史的分野の最終単元に位置付けられる。新学習指導要領解説に、「これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。」とあるように、生徒が自分自身の興味関心に基づいて自ら課題を設定させることが大切であると考えた。

そこで、単元を貫く学習問題を、「私たちが生きている今を、どのように後世に残すことができるだろうか？」と設定した。単元の構成は、次頁の表３に示す。

第１時は、「①目標」の確認の段階であり、20世紀後半から現代までの年表を読み取らせ、現代社会に生じている課題について把握させる。そして、単元を貫く学習問題を導き、生徒に自ら追究したいと考える課題を設定させた。次に、自分が設定した課題の整理や分析、課題解決の「②考察・構想」に必要となる歴史的な「見方・考え方」は何かを考えさせた。その際、前単元で課題となっていた「見方・考え方」の視点を自ら設定できない生徒に対する手立てとして、本単元では、下のような図を示し、これまでの学習で、自分が教師から何を問われ、どのように「見方・考え方」を働かせてきたかを振り返らせ、生徒自身が「見方・考え方」を活用させられる手立てとした。そして、単元の学習の見通しをもたせるため、自分が選択した「見方・考え方」を用いて課題を追究した場合、どのような結論に至るか、仮説を設定させた。

★これまでの学習で働かせてきた歴史的な「見方・考え方」
①時系列に関わる視点……時期、年代など
②諸事象の推移に関わる視点…展開、変化、継続など
③諸事象の比較に関わる視点…類似、差異、特色など
④事象相互のつながりに関わる視点……景、原因、結果、影響など

第２・３時は、「③問い」の吟味の段階であり、課題の原因や背景を考察する調査活動を行う。歴史の教科書や資料集、学校図書館の資料やインターネットを用いて、日本や世界が抱えている課題を整理、分析し、その背景や原因を追究する。その際、活用している「見方・考え方」は何かを常に自覚させ、明示させた。

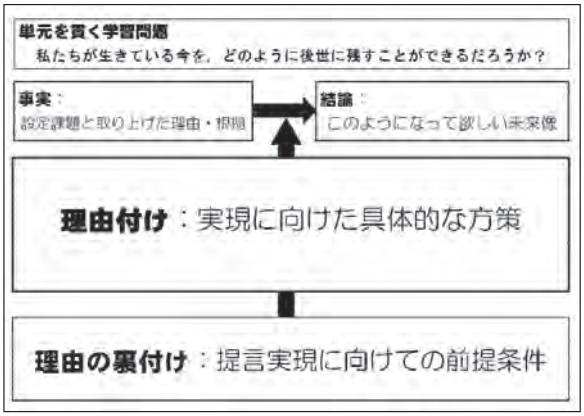
その後、過去の類似の事例が起こった時期（解決できた時代）と、現代（解決できていない時代）ではどのような点が違っているのかを考えさせた。また、課題の解決には、時間軸の上での考察以外に、どのような視点が必要かについて考えさせた。

第４時は、「④視点」の吟味の段階であり。各自が追究してきた課題について、４人の学習班の中で発表し、課題解決に向けた自分の考えや意見を提案し、班員と議論させた。下に、代表生徒たちによって全体発表されたものの一部を紹介する。

例①「少子高齢化」を設定した生徒
古代から現在に至るまでの日本の人口推移を調べ、日本の人口減少が始まったのは最近であること、過去に少子高齢化を解決してきた事例がないことに気付きました。現代の課題として、不景気などにより、出産・育児をためらう人がいることが挙げられます。
このような課題を解決するためには、歴史的な視点だけではなく、経済や政治の視点が必要であると考えました。

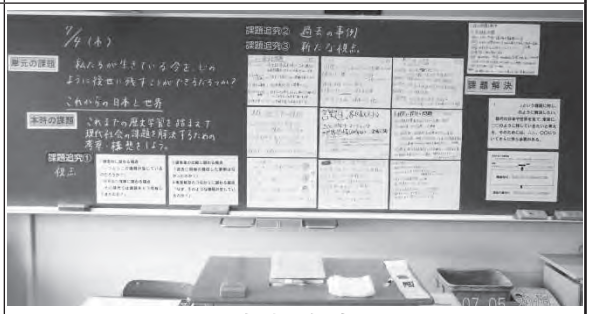
例②「災害の復興」を設定した生徒
飛鳥時代には、為政者による災害復興を行っていたことが分かりました。現在は、様々なボランティアが災害復興にあたっています。現在において課題を解決するためには、国際的な結び付きを強める必要があると考えました。

発表後、単元を貫く学習問題「私たちが生きている今を、どのように後世に残すことができるだろうか？」の解を考えさせた。その際、下のようなトゥールミン図式を活用させることで、自分の考えを整理させた。



本単元の成果は、生徒たちの多くが、現代社会の諸課題を、歴史の大きな流れの中で捉え、解決するための方法を考察・構想し、主体的に学習に向かう姿勢を、トゥールミン図式を活用することで、可視化させることができた点である。これに基づき、「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に向かう態度」についての資質・能力の評価を行った。本単元の課題は、生徒の探究が個別の歴史的事象の知識の部分に集中してしまい、大きな歴史の中での考察が不十分になった点である。

表３　単元「私たちが生きている今を、どのように後世に残すことができるだろうか？」の構成

時	段階	学習内容・活動	生徒の様子・板書
1	①目標 ②考察・構想	**【課題把握】「現代社会の諸課題を歴史の大きな流れの中から捉えよう」** ・現代の年表を読み取らせ、現代社会に生じている課題について把握させる。 ・自分が設定した課題の整理や分析に必要となる歴史的な「見方・考え方」は何かを考えさせる。 ・自分が選択した「見方・考え方」を用いて課題を追究した場合、どのような結論に至るか、仮説を設定する。	 **単元を貫く学習問題と「見方・考え方」の提示**
2・3	③問い	**【課題追究】「現代社会の諸課題の原因や背景を歴史の大きな流れの中から捉えよう」** ・第１時に設定した課題の原因や背景を考察するための調査活動を行う。 ・歴史の教科書や資料集、学校図書館の資料やインターネットを用いて、日本や世界が抱えている課題を整理、分析し、その背景や原因を追究する。その際、活用している「見方・考え方」は何かを常に自覚させ、明示させる。	 **学校図書館における探究**
4	④視点	**【課題解決】「現代社会の諸課題を解決するための考察・構想をしよう」** ・各自が追究してきた課題について、四人の学習班の中で発表し、課題解決に向けた自分の考えや意見を提案し、班員と議論させる。 ・単元を貫く学習問題の解を、トゥールミン図式を活用してまとめる。 ・どのような未来になって欲しいか、していくべきであるかを記述する。	 **本時の板書**

※第４時は、校内授業研究会として、令和元年７月４日㈭に実施し、清水亮（埼玉大学教育学部准教授）先生、藤野敦（文部科学省初等中等教育局教科調査官）先生より御指導をいただきました。

改善点として、本単元は「現代社会の諸課題の解決策を昔の事例から学ぶ」、または「現代社会の諸課題を歴史と関連付ける」ことを中心に考察させる単元として実践するべき単元であると考えた。特に、第１時で用いる現代社会の諸課題を捉えさせるための年表の工夫、過去の類似の事例に結び付けるためのワークシートの改善が必要である。また、現代社会の諸課題について、歴史的な視点から解決できること、できないことを明確にすることや、過去の課題を未来では繰り返さないための構想を考えさせることが、重要であると考えた。また、単元を貫く学習課題を「現代社会の諸課題を解決するための方法を、これまでの歴史の学習から考えよう。」と設定することも考えられる。これは、１年次から継続的に続けていくことが重要であろう。

Ⅴ　成果・課題

本研究では、**【実践⑴】**、**【実践⑵】**のそれぞれの実施後に、生徒にアンケートをとった。その結果が、**表４**である。４段階で、当てはまる場合は「４」、当てはまらない場合は「１」を記入させた。

二つの実践を通して、調査項目の⑴～⑶に見られるように、単元を通した主体的な学びの要素である見通しと振り返り、さらには対話を通して学習が深まり、資質・能力が育成されたと言えよう。

また、調査項目⑷にあるように、「見方・考え方」を用いるという点においては、経年変化をみると、一定数の伸びが見られたことから、考察・構想する単元において、生徒の「見方・考え方」を働かせたことによる資質・能力が可視化されたと言えるであろう。

表４　生徒に対するアンケート調査結果

⑴　単元を貫く課題をとらえ、その解決への見通しを持つことができたか

実施月	4	3	2	1	合計（人）
2019 年 3 月	70	77	7	1	155
2019 年 7 月	67	86	6	0	159

⑵　単元の振り返りを行うことで次の単元の学習につながる学びがあったか

実施月	4	3	2	1	合計（人）
2019 年 3 月	80	62	12	1	155
2019 年 7 月	76	80	3	0	159

⑶　課題解決のため仲間と話し合ったり、実社会の人々の話を聞いたり、書籍や資料を通して、よりよい解を発見することができたか

実施月	4	3	2	1	合計（人）
2019 年 3 月	97	53	4	1	155
2019 年 7 月	76	75	8	0	159

⑷「社会的な見方・考え方」などを用いて考察、構想や説明、議論等を行い課題を追究したり解決したりすることができたか

実施月	4	3	2	1	合計（人）
2019 年 3 月	59	90	6	0	155
2019 年 7 月	67	82	9	1	159

※網掛け部：評価が下がった箇所

しかし、調査項目⑷より「見方・考え方」を用いることに対して、課題を抱えた生徒が一定数いることからも、今後も日常の授業において、「見方・考え方」を生徒が、意識的に働かせる手立て、働かせていることに気付かせるための方法論を講じる必要がある。

Ⅵ　結語

本研究では、生徒が社会的な「見方・考え方」を働かせ、資質・能力の育成を可視化させる仕掛けを開発することができた。特に、社会に見られる課題の解決について考察・構想する単元において、これまでの学習を振り返り、生徒自身が「見方・考え方」を働かせるように指導することで、資質・能力の育成が可視化できることを検証できたことの意義は大きい。

今後は、本研究で論じてきた方法によって育成された資質・能力に対してより適切な評価を実現するため、授業改善に取り組む必要がある。特に、本研究は、学習指導要領において、構想を主目的とした単元における単元開発と実践であったが、考察を主目的とした単元においても、資質・能力の育成過程を可視化するための手立てについて研究を深めていきたい。また、本研究で開発した方法論を、今後実践していく公民的分野、さらには高等学校の学習においても適応できるかどうかについても検討していきたいと考えている。

【註】

1　加藤寿朗「「見方や考え方」と「見方・考え方」」澤井陽介・加藤寿朗編『見方・考え方［社会科編］「見方・考え方」を働かせる真の授業の姿とは？』東洋館出版社、2017 年、pp.162-171

2　草原和博「地理主義の強化に留意して主権者教育を実現する」『社会科教育』編集部編『平成 29 年度版　学習指導要領改訂のポイント　小学校・中学校　社会』明治図書出版、2017 年、pp.32-33

3　大杉昭英「中学校社会科における「見方や考え方」の検討―地理的分野と公民的分野の比較を通して―」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 14 号、2002、p.94

4　草原和博他「歴史的な見方・考え方の働きはいかに可視化できるのか―思考ツールを用いた歴史導入単元「江戸時代の朝顔ブーム」を手がかりに―」『広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部』第 66 号、2017 年、p.41

5　加藤寿朗　註 1、pp.169-171

6　草原和博　註 3、p.33

7　内藤圭太『15 のストラテジーでうまくいく！中学校社会科学習課題のデザイン』明治図書、2017 年、p.18

8　工藤文三編『平成 29 年改訂　中学校教育課程実践講座　社会』ぎょうせい、2018 年 p.92

9　石井英真「今求められる学力と学びとは―コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影―」日本標準ブックレット、2015 年、pp.56-57 を参照されたい。

【引用・参考文献】

・青柳慎一『中学校社会科　授業を変える課題提示と発問の工夫 45』明治図書、2015 年

・池野範男『社会形成科社会科論―批判主義社会科の継承と革新―』風間書房、2019 年

・市川伸一 編『2019 年改訂　速解 新指導要領と「資質・能力」を育む評価』ぎょうせい、2019 年

・尾原康光『自由主義社会科教育論』渓水社、2009 年

・豊嶌啓司・柴田康弘「社会科パフォーマンス課題における真正性の類型化と段階性の実践的検証」日本社会科教育学会『社会科教育研究』No.135、pp.14-26

・内藤圭太『単元を貫く「発問」でつくる中学校社会科授業モデル 30』明治図書、2015 年

・西岡加名恵 編『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書、2008 年

・原田智仁 編『平成 29 年度版　中学校学習指導要領の展開』明治図書、2017 年

思いっきり体を動かし、全力で運動に挑戦する児童の育成

～特別支援学級における主体的・対話的で深い学びのある教科別の指導「体育」の授業の実践～

熊谷市立熊谷西小学校　教諭　堀　部　　慧

Ⅰ　はじめに

障害のある、なしに関わらず、多くの児童にとって、友達と関わりを持ちながら体を動かし、汗をかいて活動をすることのできる「体育」の授業は、好きな教科を聞き取った際、常に上位に位置する教科である。本校の特別支援学級の児童へのアンケートでは、「体育の授業が好き」と答えた児童が22人中、16人となった。反面、「授業で何をしたらいいのか分からない」「楽しくない」といった感想をもっている児童もいる。

本研究では、単元計画やルール、教具を工夫した授業を実践し、特別な支援を要する児童でも全力で運動をし、運動の楽しさを十分に味わうことができるようにすることを目的とした。

Ⅱ　研究の仮説と手立て

特別な支援を要する児童でも主体的に参加することができる体育授業にするために、次のような仮説をたてた。

> 技能のポイントをしぼり、単元計画やルール、教具を工夫することで、児童一人一人ができる喜びを味わい、技能を向上させることができるだろう。

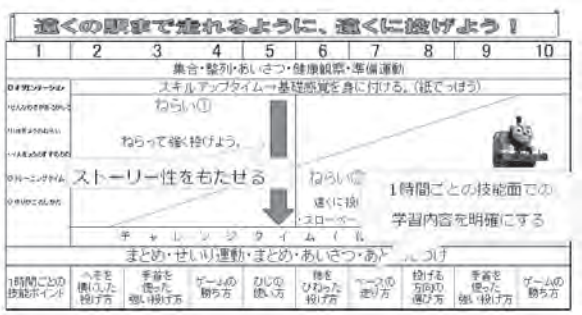
仮説を検証するために、主体的・対話的な授業にするための視点、深い学びのある授業にするための視点に分けた手立てを、ボールゲーム領域の学習において実践を行った。

1　児童が主体的に取り組むための手立て

〇学習課程の工夫

・学習課題のストーリー化

・１時間ごとの技能面での学習内容の明確化

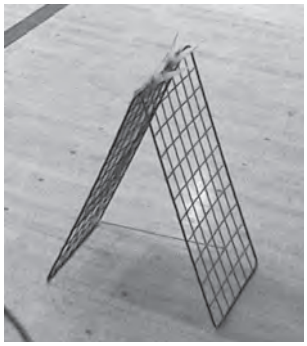


〇教材・教具の工夫

・段ボールトーマス

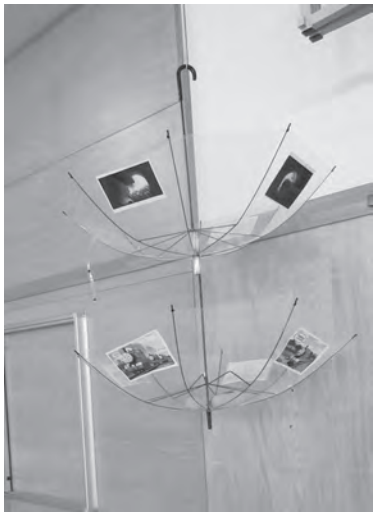
トーマスのイラストを段ボールに貼り、ボールを当てる的とした。強く当てればトーマスがどんどん進むと意欲付けを図った。

・ベースの掲示



ベースを１塁２塁とするのではなくストーリー性を重視し、ベースを〇〇駅として、「次の駅まで走ろう」と声をかけ、意欲付けを図った。

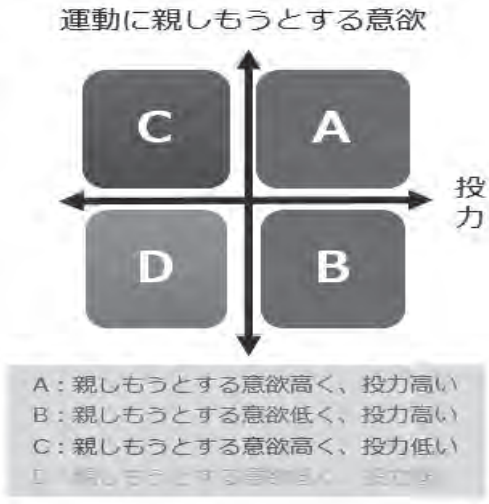
・玉入れ



かさを体育館の２階からつるし、玉入れのかごとした。高さを調整することができるようにし、児童の投力の実態に合わせることができるようにした。

2　児童が対話的に取り組むための手立て

○グループ分けの工夫



投力の技能の習熟度のみでグルーピングをするのではなく、運動に親しもうとする態度も視点として、意図的なグルーピングを行った。例えば、運動に親しもうとする意欲も、投力も高いAグループと、意欲は高いが投力は低いCグループを組み合わせることで、意欲のある児童同士で、よいモデルを見ながら活動に取り組めるグループを作るなど、特性に合ったグルーピングを行った。

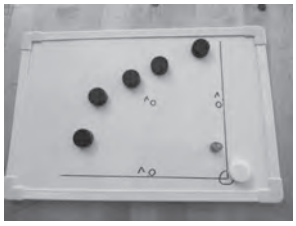
○ICTの活用

児童同士が対話をする上で、よい動きの児童の映像をICTで示し、気付いたことを出し合った。映像の中のポイントで教師が、意図的に静止画にするなど、児童がどこに着目すればよいのか焦点化し、わかりやすく提示した。

ICTと言っても難しい機械や新しい機械を使う訳ではなく、学校にあるデジタルカメラで活動の様子を撮影し、テレビにつないで振り返りを行った。

○作戦タイムでの関わり合いの工夫

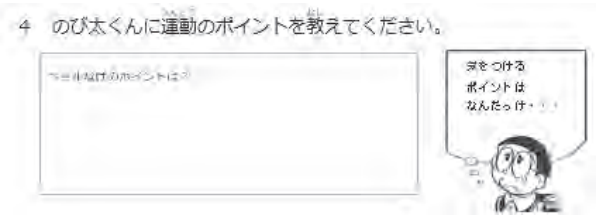
ボールを投げる時に守備がどこにいるのか、ホワイトボードとICTも活用し、相談させた。磁石を動かしながら、場面ごとにどこに投げるとよいか相談させた。



3　深い学びのある授業にするための手立て

○学んだことの言語化の工夫

学んだことを定着させるために、１時間ごとの技能面の学習内容に沿ったまとめをし、発表や学習カードで自分の考えを表すことを行った。発表の時にICTを活用することで、見るポイントが焦点化され、言語に表しやすい環境を整えた。また、学習カードには、キャラクターなどを活用し、書きやすくなる工夫を行った。



○個々の運動の実態に応じた個別の指導の工夫

学習活動	指導上の留意点（○指導）					
	A児	B児	C児	D児	E児	F児
６ボール投げゲーム	○音楽をかけ、楽しくたくさん投げられるようにする。	○型を大きく回して投げるよう、ひじに手を添える。	○体をひねることができるよう、へそを横に向ける声かけをする。	○まとを狙って投げるよう、声をかける。	○ひじを高く上げるよう意識させる。	○手首を使って強く投げるよう声をかける。
７スローベースボール	○投げることをまず意識させ、思いっきり投げてから走るよう、声をかける。	○へそを横にするよう意識できるように、へそを向ける向きの声かけをする。	○力強く投げられるように、足の幅の目安を示す。	○人のいないところを狙ってボールを投げるよう声をかける。	○守っている人の頭をねらうよう声をかけ、角度をつけられるようにする。	○手首を速くふる意識を付けられるよう、投げる前にフォームの確認をする。

個々の運動の実態に応じ、個別の指導の留意点を明確にし、授業に取り組んでいる。

Ⅲ　研究の実践内容

１　調査対象

熊谷西小学校　知的・情緒障害特別支援学級

男子　15名　　女子　7名

２　検証授業の流れ

○「トーマスになって遠くの駅まで走ろう！」

ボールゲーム領域

○「投げる」運動にポイントを絞った学習課程

「投げる」運動を「つよく投げる」「遠くに投げる」「たくさん投げる」の３つのポイントにしぼり、それぞれのポイントに応じた運動を計画した。

○慣れの運動

「つよく投げる」ために、手首を素早く振って投げることをポイントとし、紙でっぽうを使い、投げる基礎感覚づくりを行った。

児童たちは、よい音を鳴らすために、何度も手首を素早く振る運動に取り組んだ。また、作り方もすぐ覚え、どんな紙にすると良い音が出るのか、どのように手首を使うと大きな音がでるか考えながら作り、休み時間に繰り返し投げる運動を行っていた。

○ボール投げゲーム

この活動でも「つよく投げる」ことを意識できるようにトーマスの段ボールに向かってボールを当てるゲームを設定した。強く投げるために

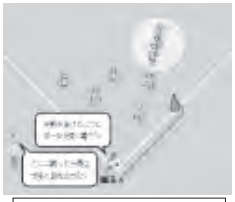
①へそを横にする。
②左足を前に踏み出す。
③ボールを耳の後ろまで上げる。

をポイントとした。使用したボールは、投げても遠くまで転がって行かないよう、紅白玉とした。児童から「強く投げるために、紙でっぽうの時の手首を意識したほうがいい」と慣れの運動とも関連させた意見も挙がった。

○スローベースボール

「遠くに投げる」ことを意識できるようにスローベースボールに取り組んだ。

攻撃のルール
①ホームベースの丸の中からボールを投げる
②１～４へと走る。
③アウトと言われたら止まる。
④ベースを回るごとに１点とする。
⑤アウトになったら次の人に交代し、チームの全員が投げたら攻守交代する。



守備のルール
①飛んできたボールをとる。
②とった人の所に集まって座る。
③声をそろえて「アウト」と言う。

ボールは子どもの手の大きさに合った、当たっても痛くないウレタンボールを使用した。今後打つ活動にも繋げるためにも適度な硬さのボールを選んだ。

ベースを直径20ｃｍ程の丸いゴムのマットとした。どのベースからどの方向へ走るのか分からなくなることが予想されたため、マットの前に①、②、③、④と番号を付けた掲示を置くとともに、「ティドマス機関庫」や「ナップフォード駅」などの、トーマスのストーリーに合わせた掲示をし、意欲付けを行った。

話合い活動では、右の写真のような、守備の児童が固まって守っている場面を提示し、どこに投げればいいか、話合いの視点を持たせた。高学年の児童たちは「空いているところを狙って投げればいい」とすぐに気付き作戦ボード使って、低学年の児童に教える様子が見られた。他の話合いの場面では、遠くに投げられた児童をその場で撮影し、どうすればより遠くに投げられるか、試合の途中で話合いの場面を作り、映像を見て意見を出させた。試合の途中で投げ方を確かめることで、よい動きを自分の動きに取り入れて活動することができるようにした。

〇体力チェック

「たくさん投げること」を意識するとともに、これまでの活動で学んだことを実践する場として体力チェックを設定した。体育館の２階からロープでかさをつり下げ、玉入れのような場を設定した。ボールは紅白玉を投げるようにした。かさの高さの調整をできるようにしたため、児童の投力の実態に合わせて高さを変えることができた。また、体育館の床に引かれている線をまたぐよう声をかけたことで、へそを横にした投げ方ができるようにした。児童は投げ方の確認をするとともに、時間内にたくさんの紅白玉を投げることができた。

〇まとめ

ICTを使い、本時の技能のポイントが達成できている児童の映像を提示し、よいところを見つけ合う活動を行った。ICTと言っても大がかりな機材ではなく、一般的なデジタルカメラをテレビにつなぐだけの簡単な機材で行い、映像の一時停止や拡大などの簡単な操作でポイントを示した。児童は誰がテレビに映るか毎回楽しみにしており、自分が映るととても嬉しそうにはにかんでいる児童が多かった。映像は選ばれた児童の自己肯定感を高めるとともに、どこがよいポイントなのか、客観的に見ることのできる、よい教具となった。運動をしている最中も「ぼくを映していいですよ」と言いながら、ポイントを意識し、代表になろうと一生懸命活動をする児童も見られた。

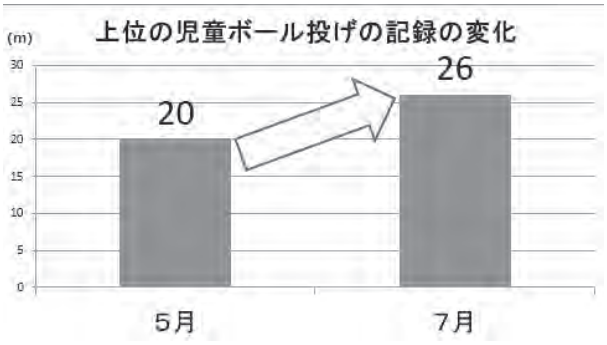
Ⅳ　研究の結果と考察

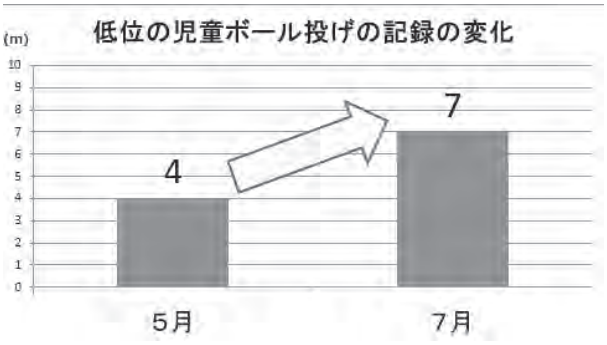
1　児童が主体的に取り組むための手立てについての考察

〇主体的に取り組む手立てとして、学習課程の工夫と教材・教具の工夫を行ったことで、①投力の記録が上位と低位の児童の、投力の記録の向上、②投げる技能の向上の２つの成果が見られた。

⑴　投力の記録が上位の児童と低位の児童の、投力の記録の向上

単元前の５月に行った新体力テストでのボール投げの記録を元に、低位の児童と上位の児童の記録を、単元後に計測した記録と比較した。





⑵　投げる技能の向上

上位・低位の児童共に記録を向上させることができた。その要因と考えられる理由が、②投げる技能の向上である。以下が低位の児童の投げ方の写真だが、単元初めの、へそが横を向いている投げ方から、単元後半にかけては、体重が後ろから前に異動するような、遠くに投げることのできる投げ方に変わっている。

・単元前半

へそが前を向いてしまう。

・単元後半

体重が前に

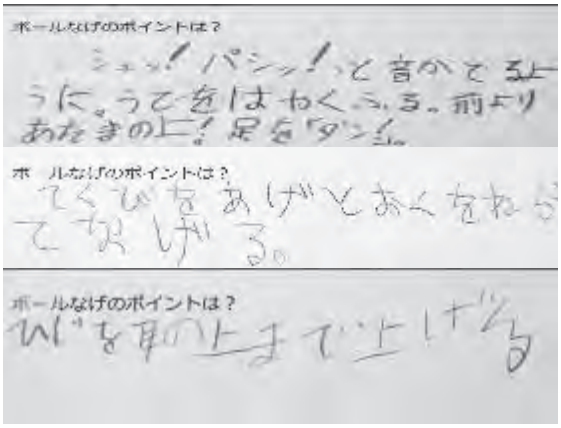
このように学習課程の工夫により、スモールステップで投げる技能の向上を図ることができ、投力の記録を向上させることができたと考えられる。

2　児童が対話的に取り組むための手立てについての考察

○対話的に取り組む手立てとして、グループ分けの工夫や、ICTの活用、作戦タイムでの関わり合いの工夫を行った結果、投げる技能のポイントが身に付いたことで、運動に対して自信が付くとともに、友達との関わりが良好になったことで、運動に親しもうとする意欲の向上が見られた。単元後に保護者面談が計画されていたため、家庭での様子を保護者に聞いたところ、「外でキャッチボールをしたいと父に声をかけていました。」という児童や、「私に、投げるときは手首をぴゅっとした方がいいよとアドバイスをしてくれました。」や、「家で紙でっぽうの作り方を教えてくれました。」などの保護者の声を聞くことができた。家庭で学習の様子の話をしている様子が思い浮かべられる。また、単元の途中で、交流授業を行っている通常学級でベースボール型ゲームの授業が始まり、普段参加をしぶることもある体育の授業に、率先して参加しようとする姿が見られた。投げる活動や守備の動きなどに自信がもて、交流学級の友達とも良好な関わりができると感じたためと考えられる。

3　深い学びのある授業にするための手立てについての考察

○深い学びのある授業にするための手立てとして、学んだことの言語化の工夫と個々の運動の実態に応じた個別の指導の工夫を行った結果、児童なりの言葉でより遠くに投げるポイントをまとめることができた。以下が児童のボール投げのポイントを記入した例である。



それぞれ習得している技能に差のある児童に対し、個々に応じた支援をしてきたことで、児童が投げるポイントを理解し、自分なりの言葉で表現することができた。

Ⅴ　研究の成果

1　児童が主体的に取り組むための手立てを行ったことで、投力の記録の向上と投げる技能の向上が見られた。

2　児童が対話的に取り組むための手立てを行ったことで、投げることに自信が付くとともに、友達との関わりが良好になり、運動に親しもうとする意欲の向上が見られた。

3　深い学びのある授業にするための手立てを行ったことで、児童が自分なりの言葉で投げるポイントを理解し、表現することができた。

以上のことにより、仮説「技能のポイントをしぼり、単元計画やルール、教具を工夫することで、児童一人一人ができる喜びを味わい、技能を向上させることができるだろう。」は検証できたと考えられる。

Ⅵ　今後の課題

○ボール投げの技能のポイントの精選をすること。

○技能向上に向けて児童にとって魅力のある、効果的な教材・教具の工夫をすること。

参考文献

・「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省
・「平成31年度　学校体育必携」
埼玉県教育局県立学校部保健体育課
・「埼玉県小学校教育課程編成要領」埼玉県教育委員会
・「小学校体育 運動領域 まるわかりハンドブック」
文部科学省
・「埼玉県小学校教育課程指導資料」埼玉県教育委員会
・「埼玉県小学校教育課程評価資料」埼玉県教育委員会
・「埼玉県小学校教育課指導実践事例集」
埼玉県教育委員会
・「すべての児童が「わかった！できた！楽しい！」を実感できる体育授業の実践」　杉浦　里奈・堀部　慧
埼玉県特別支援教育研究会　第57回研究協議会

学力向上に向けた数学の“新”指導法
～『数学の歌・ダンス』『“数楽”すごろくのススメ』～

富士見市立本郷中学校　教諭　力　久　晃　一

Ⅰ　はじめに

「教師は授業で勝負！」これは、出張や研修の度に、学校現場でいつも言われていることであるが、日々の多忙さゆえ、多くの教員が忘れがちになる部分かもしれない。しかし、良い授業、分かる授業を行い、生徒に実力、学力をつけさせることは教師として最大の使命であることは言うまでもない。

数学の授業を行っていると、毎年、数学が嫌いな『数が苦（すうがく）』生徒が必ずと言っていいほど存在する。今回は、「数学嫌いの『数が苦（すうがく）』を、数学が楽しい『数楽（すうがく）』へ」をテーマに数学の指導法について研究した。これまで、ほとんどの生徒は、丁寧に授業を行うと、その授業内では内容を理解し練習問題も解くことができるが、次の授業では、その内容を忘れている生徒も多く、いかに定着させるかが課題であった。

Ⅱ　学力調査からわかる生徒の実態

私が勤務する埼玉県富士見市立本郷中学校では、平成25年度から平成29年度までの５年間の全国学力・学習状況調査では、平均正答率が埼玉県、全国共に下回っている現状が続いていた。

数学A	学習指導要領の領域別　平均正答率(%)				評価の観点別　平均正答率(%)		問題形式別　平均正答率(%)	
	数と式	図形	関数	資料の活用	技能	知識理解	選択式	短答式
本郷中	67.3	62.1	52.6	61.6	66.4	55.7	61.1	62.0
埼玉県	68.9	65.2	55.5	57.3	66.8	59.2	66.0	61.9
全国	70.4	66.0	57.4	57.6	68.2	60.2	66.8	63.4

（表１　H29全国学テ結果　数学A）

数学B	学習指導要領の領域別　平均正答率(%)				評価の観点別　平均正答率(%)		問題形式別　平均正答率(%)		
	数と式	図形	関数	資料の活用	見方考え方	技能	選択式	短答式	記述式
本郷中	41.2	44.4	47.1	50.2	34.0	57.4	51.3	63.6	19.0
埼玉県	44.6	47.4	50.0	48.9	36.3	60.5	54.0	65.5	21.2
全国	46.3	47.1	50.8	49.1	36.8	61.2	53.8	66.3	21.7

（表２　H29 全国学テ結果　数学B）

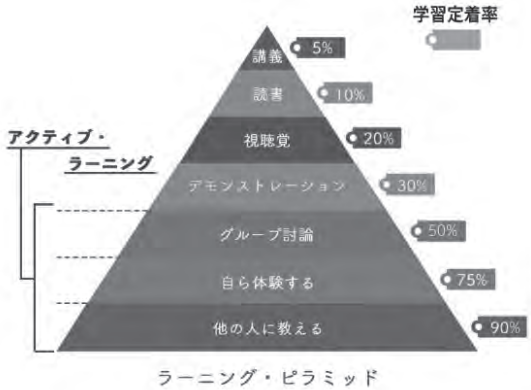
また、埼玉県が独自に実施している埼玉県学力・学習状況調査でも、平成29年度の結果は「７－A」（富士見市平均から－２レベル、埼玉県平均から－１レベル）というレベルであり、前年度より伸びてはいるものの市平均や県平均は下回っていた。

	平均正答率	H28中1	H29中2	平成29年度からの学力の伸び
本郷中	53.9	7-C	7-A	2
富士見市	58.1	7-B	8-B	3
埼玉県	54.8	7-B	8-C	2

（表３　平成29年度埼玉県学力・学習状況調査　数学の昨年からの伸び）

Ⅲ　研究の仮説

学習定着率を表した「ラーニングピラミッド（図１）」によると、能動的・主体的な活動が多くなるほど、学習定着率が高く、教育効果が高いと言われている。現在、教育界でよく注目されている手法は「アクティブ・ラーニング（以下AL）」である。ALとは、生徒が能動的に学ぶ中で「認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」というものであり、これは、「ラーニングピラミッド」の下３つの部分を指す。



（図１　アメリカ国立訓練研究所National Training Laboratories　参考）

数学の授業の内容は理解していることから、これからはimpressive（印象に残る）なlesson（授業）を行うことが生徒の学力を向上させると考え、それを『インプレッスン（impressive + lesson）』と名付けた。『インプレッスン』は「ラーニングピラミッド」でいうとALの中でも自ら体験する分野に入る。『インプレッスン』の具体的な指導実践としては「数学の歌」や「数学のダンス」が挙げられる。また、ALの中で、学習定着率が最も高いと考えられている「他の人に教える」分野として、数学のマスを使ったすごろくを開発し、以下の仮説を立てた。

仮説①	数学の授業に『インプレッスン』を取り入れることで、生徒の学力は向上するだろう。
仮説②	生徒の言葉によるまとめのインタビュー活動を通して、授業の要点を整理しやすくなるだろう。
仮説③	生徒と教師のダブル授業を行うことで、知識の定着率が上がり、上位層の学力も向上するだろう。
仮説④	すごろくというゲーム的要素を取り入れることで、数学を好きな生徒が増え、学びに向かう姿勢が向上するだろう。

Ⅳ　実践の概要

忘れたくても忘れられない『インプレッスン』の一環として、数学にダンスを取り入れた。体を動かすことが好きな生徒は、休み時間にも踊ったりすることで、数学を身近に感じられるようにした。学習を定着させる基本的な取組として、繰り返し学習する従来の反復学習の他に『インプレッスン』というものを取り組んだ。『インプレッスン』学習は、あまり興味がないことでも、教え方、学び方の斬新さによって強烈に記憶に残る学習方法である。

Ⅴ　仮説の検証　具体的な実践

1　『具体的な実践１～「“数楽”の歌」』

１つ目は、「“数楽”の歌」である。本郷中の生徒は、数学を苦手としていたが、音楽の授業はとても楽しそうに取り組んでいることから、昔からなじみのある歌であれば、誰もが歌えると思い、数学が楽しくなる替え歌「“数楽”の歌」を考案した。生徒には当時、「数学を歌で教える先生なんて、日本に先生だけかもな。ＣＤでも作ろうかな」と話していた。

「“数楽”の歌」は、昔からなじみのある歌をポイントとしている。また、リズムがあって長くないことも重要である。二等辺三角形の性質では、①二つの底角は等しい②頂角の二等分線は底辺を垂直に二等分するという２つの性質を、となりのトトロでお馴染みの「さんぽ」の替え歌で「に～とうへ～ん　さんかくけ～い　ふたつのへんが～　ひとしいさんかくけ～い　せいしつは～ふたつ～」と続いていき、歌で覚えることができる。

「“数楽”の歌」を使えば、丸々一曲覚えるので、後々、証明の授業に入ったときに、すんなりと記憶からアウトプットできる。歌やストーリー、リズムは一度覚えたら忘れにくい。何より笑顔で学習に取り組める、まさに「“数楽”」の実践として効果的である。

2　『具体的な実践２～「“数楽”ダンス」』

２つ目は、「“数楽”ダンス」である。最近、男女ともに体育でダンスをすることが多い。数学嫌いの体育好きという生徒はどこの学校にもいる。数学と体を動かすことを同時に行うダンスを、中学２年生で学習する「図形と証明」の単元に取り入れた。この分野は、中学校の数学の授業の中で、一番と言っていいほど、覚える項目がとても多く、毎年のように生徒を苦しめている。

塾などで先取り学習をしている生徒は、「図形と証明」の単元に対して難しいというマイナスのイメージをもっていることもあるため、同じ教え方では数学嫌いを加速させかねない。以前、私自身も教科書中心に工夫を加えず教えていたときは、一人また一人と居眠りをする生徒を出してしまった。また、穴埋め問題やドリル学習を行っても焼け石に水であった。この単元は論理的な思考を鍛えられるという魅力ある分野である一方、生徒にとっては、説明による指導ばかりでなかなか結果が出ず、眠くなる気持ちも分からなくない。この「“数楽”ダンス」をやるまでは、「図形と証明」の単元は、教える私としても、苦手な分野であった。

しかし、「数楽ダンス」をやると椅子から立ち、体を動かすので眠くならないどころか、授業のリフレッシュにもなる。また、ユニークな振り付けを考案したので、楽しく踊ることができ、生徒の中には全力で踊って息を切らしたり、汗をかいたりする生徒も出てきた。卒業した生徒の中には、進学先の高校でも休み時間に踊ったということを報告してくれる生徒もいた。「先生！あのダンスのおかげで人気者になれました」と数学の力以外にも効果を発揮している。多くの生徒の「図形と証明」の苦手意識を払拭できた。

３　『具体的な実践３～「生徒の言葉によるまとめのインタビュー活動」』

３つ目は、「インタビュー活動」を取り入れた。自分の言葉で１時間の授業内容を要約する活動を行う。各自まとめを行ったあと、教室内を自由に動いて、他のクラスメートにインタビューをして、良いまとめは、自分のノートに書き写す。生徒自身がインタビュアーになることで、授業に対して能動的な姿勢に変わり、自らの学習を深く振り返り、目標を意識したまとめを書くことができる。また、上手に要約できている生徒の真似をすることで、少しずつまとめ方やノートの取り方が良くなり、結果的に学習定着率が向上する。さらに、人に見られることも意識するので、今まで単色でしかノートをとらなかった生徒も見やすいノート作りができるようになった。

加えて、ちょっとしたアイデアを紹介する。授業で大切なところは、黄色や赤のチョークで囲むだけでなく、私の授業では「学習戦隊　大事マン（写真１）」というキャラクターを考案して登場させている。

（写真１　学習戦隊　大事マン）

３つのポーズの「学習戦隊　大事マン」を板書に合わせて作った。日曜日に放送されているヒーロー戦隊を真似したもので、絵が上手な生徒に枠を描いてもらった。

「大事マン」を使うときは、専用の歌も歌いながら登場させると、生徒は「おっ！」と目を輝かせる。大事な部分を焦点化することも、良い要約、まとめが書けるポイントとなる。

４　『具体的な実践４～「生徒と教師のダブル授業」』

１単位時間の授業の中で、生徒が授業をし、そのあと私が授業をする「ダブル授業」を行った。数学の得意な生徒や数学の力を伸ばしたい生徒を集め、グループを作り、そのグループに、次の授業で行うところを示し、内容を考えさせて実際に15分程度の授業を行わせた。生徒は習熟度別少人数授業で教え合いや学び合いの授業を経験していたので、スムーズに説明することができていた。

数学が得意な生徒でも、他の友だちに伝えるとなると難しい。そのため授業の集中度が増し、授業を聞く側の生徒も友だちが一生懸命に説明をするので、普段より真剣に理解しようと努力する姿が見られた。

生徒の説明後、質問タイムを設け、さらに理解が深まるように工夫した。質問タイムでは、今までより積極的に質問する生徒が増え、学習に対する意欲も高くなった。質問タイム後に先ほどと同じ内容を教師が説明し、あやふやであった部分の理解を補った。確認や復習にもなり定着を図ることができた。

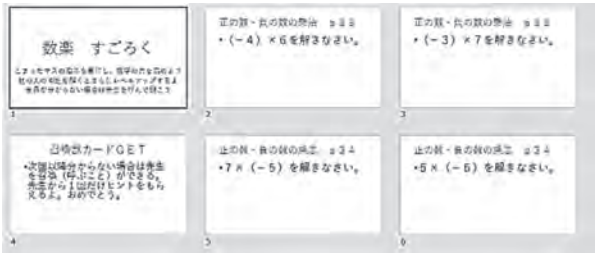
５　『具体的な実践５～「教育×遊び“数楽”すごろく」』

４歳の自分の息子と遊んだ「恐竜かるた」、小さい頃から夢中で遊んだ「人生ゲーム」や「桃太郎電鉄」をヒントに「“数楽”すごろく」を開発している。学びの中に遊びを取り入れると、子どもは夢中になって取り組む。「“数楽”かるた」も考えたが、なかなか形にすることが難しく、最終的に「“数楽”すごろく」に行き着いた。

「“数楽”すごろく」とは、数学の問題をマスにし、班員と対戦しながら数学を学べる教材である。

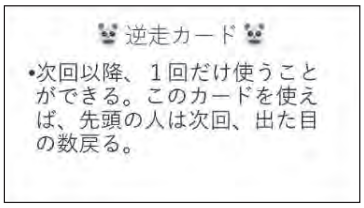
この「“数楽”すごろく」の４つの特徴をあげる。

1点目、すごろくはパワーポイントで作っており、問題や覚えさせたいこと、板書のキーワードをシートに打ち込んでおくだけですぐに作成できる。

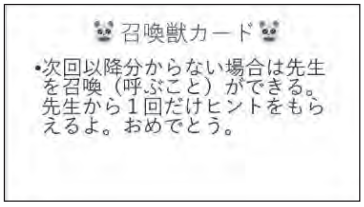


（写真２　パワーポイントで作った「数楽すごろく」のマス）

２点目、教師が準備しなくてはならないものはマスとさいころの2つのみで、動かすコマは各生徒が消しゴムなどを持参するので準備が少ない。



また、ラッキーカードは生徒作成なので、生徒の実態に応じて、徐々に追加していけば良い。自分のアイデアやデザインが採用された生徒の自尊感情も同時に高めることができる。



（写真３　「数楽すごろく」のラッキーカード一部抜粋）

３点目、復習や確認に活用でき、どの生徒も楽しんで意欲的に取り組める。自分が止まらなかったマス目の問題を進んで解く生徒の姿も多く見られた。

４点目、今回は、「”数が苦“（すうがく）」の生徒を「”数楽“（すうがく）」にしたいと始めた取組だが、すごろく自体は他の教科にも応用できるメソッドである。全教科とはいかないまでも、分野ごとで取り入れてみると、小学校から高校まで、楽しんで学習に取り組める生徒が増えるはずだ。

（写真４　すごろくのコマを進める生徒）

数学の定期テストにも同じような問題が出ているため、他の生徒が止まったマス目の問題を一緒に解くとテスト対策にもなると好評である。すごろくの性質上、同じマス目に止まることもあるので、数学が苦手な生徒は得意な生徒の真似をして答える場面も見られた。

Ⅵ　取組の成果と課題

２年間の取組の結果、平成30年度の全国学力・学習状況調査の数学Ａ、Ｂの両分野の全17区分全てにおいて埼玉県と全国の平均点を超えるようになった。

数学A	学習指導要領の領域別　平均正答率(%)				評価の観点別　平均正答率(%)		問題形式別　平均正答率(%)	
	数と式	図形	関数	資料の活用	技能	知識理解	選択式	短答式
本郷中	74.0	70.1	60.6	64.1	72.9	65.9	63.3	73.9
埼玉県	69.2	68.7	54.2	62.7	69.1	62.3	60.7	69.2
全国	71.1	69.1	55.5	63.5	70.4	63.3	61.5	70.7

（表４　H30 全国学テ結果　数学 A）

数学B	学習指導要領の領域別　平均正答率(%)				評価の観点別　平均正答率(%)		問題形式別　平均正答率(%)		
	数と式	図形	関数	資料の活用	見方考え方	技能	選択式	短答式	記述式
本郷中	54.6	47.3	53.7	39.5	46.6	53.3	62.1	58.2	29.6
埼玉県	50.9	46.4	52.8	37.5	44.8	50.9	61.6	56.0	27.3
全国	51.4	46.7	52.8	38.0	45.1	51.3	61.5	56.2	27.9

（表５　H30 全国学テ結果　数学 B）

数学Ａの数値の向上は、『インプレッスン（impressive + lesson）』が一躍を担っている。どんなに良い授業でも、どんなに良い知識でも定着しなければ意味をなさない。

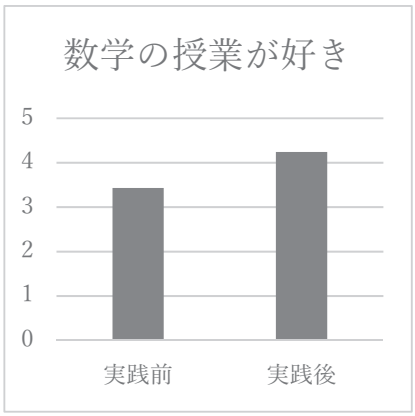
「理解」には、３つの段階があると思っている。１段階目は自分が理解している、２段階目は理解していて教えることができる、教えてもらった人も理解する、の３段階である。数学Bの数値の向上は、「インタビュー活動」で自分の課題を知り、良いまとめ、良い要約を書かせたことや「ダブル授業」で「理解」が深まったことが考えられる。

また、平成30年度の埼玉県学力・学習状況調査では、「７－A」から「９－C」というレベルまで４段階伸びており、埼玉県平均（８－A）と富士見市平均（８－A）の両方を超えることができた。学びに向かう力が自然とつく対戦型のすごろくで、学習に対して前向きに取り組めた結果である。

	平均正答率	H29中2	H30中3	平成29年度からの学力の伸び
本郷中	62.8	7-A	9-C	4
富士見市	62.1	8-B	8-A	1
埼玉県	59.1	8-C	8-A	2

（表６　平成30年度埼玉県学力・学習状況調査　数学の昨年からの伸び）

さらに、５月29日に実施した校内の「学習に関するアンケート」では「好き」の項目は90%、「意欲」の項目は94%、「楽しみ」の項目は93%であった。２年前の調査では、平均すると70%後半から80%前半なので、かなりの生徒が数学に対しての苦手意識がなくなっている。

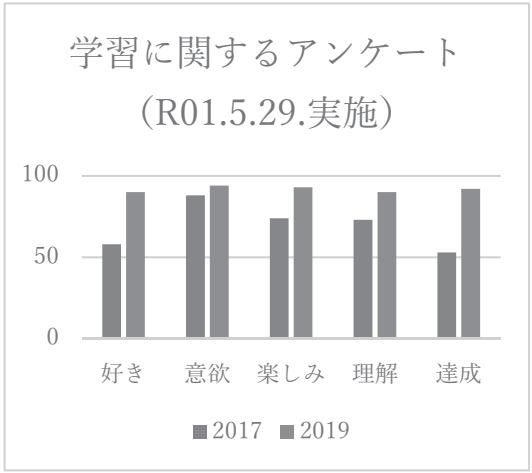


（グラフ１　学習に関するアンケート）

本来、人間は誰しも新しい知識を得たい、学びたいという欲求をもっている。その知的好奇心を刺激し、自ら主体的に学ぶ生徒を育てることが現在求められている。「すごろく学習」などを他の教科にも応用し、数学以外の分野でも生徒が進んで学べるシステムを整えたい。全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の数値を意識しつつも、数値で図ることが難しい「主体的に学びに向かう力」を育むことが今後の課題である。

Ⅶ　おわりに

学力向上に向けて、独自に行った数学の意識調査では、「数学の授業が好きである。」という項目は実践前の評価が3.4であったのに対し、実践後の評価は4.2という結果の向上が見られた。全国学力・学習状況調査で数値が改善したのは、授業の雰囲気とともに生徒の学ぶ姿勢が数年前と比べると格段に向上してきたことによる。



（グラフ２　数学の授業の意識調査の「数学の授業が好きである」の項目）

学力の向上により、生徒の自己肯定感も高まり、生徒指導上の問題も激減した。生徒指導の特効薬は、生徒の学力を伸ばすことである。研修の度に言われ続けてきた「教師は授業で勝負」を日々意識して取り組み、成果を挙げることができているが、以前よりはこの言葉の重みを感じている。これからも、生徒の学力を伸ばすための指導法を研究し、変化する時代に対応できる生徒を育てていきたい。

参考文献

1）2012年８月中央教育審議会答申
2）アメリカ国立訓練研究所National Training Laboratories
3）アクティブラーニング　学校教育の理想と現実（講談社現代新書）小針　誠　著

令和元年度

記念講演会

「学校における働き方改革について考える」

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

教授　安　原　輝　彦　氏

＜記念講演＞

「学校における働き方改革について考える」

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター　教授　安　原　輝　彦　氏

1　はじめに

皆様、こんにちは。

今日は、こういうテーマですけれども、あまり深く考える必要はないと思います。最後が「考える」ですから、働き方改革の処方箋を持ってきたわけではありません。こうすれば、学校が変わるんだというのをご期待された方は、ちょっと期待外れになるかなと思います。今日は、そうじゃなくて考えましょう一緒に。

只今、過分なご紹介をいただきました。決して温かく優しい人間ではなくて随分酷いことをやってきたなという反省ばかりの現役時代でした。校長・教頭の職は、教頭も校長も２年しかやっていません。僕は学術研究者ではないので、それほど理論的なことは言えませんが、自分がいろいろ体験したり、経験したり、あるいは失敗したりしたことを研究者の先生と一緒に理論化していくみたいなことをしていました。

どうですか、皆さん、学校は大変ですか。働き方改革、今は、国も各自治体もいろいろ言っていますけど、うちの学校、そうだなという方がどちらかというと多いですかね。ちょっと聞いてみたいんですけど。午後６時には、誰も居ませんという学校、朝は７時半前までには誰も来ていませんという学校ありますか。

2　教師のスタンスを見直そう

まず、次に挙げるものの内、共通するものは何か。わかったら手を挙げてほしいんですが。

①『二十四の瞳』 映画、1954 年、まだ僕は産まれてないんです。皆さんもそうかなと思うんですが。

②『青春とはなんだ』1965 年から 66 年のテレビドラマ。

③『これが青春だ』 その次に出てきた青春シリーズドラマ。このあたりは、校長先生方ですとご存知の方もちらほら出てきますかね。

④『でっかい青春』 ⑤『進め青春』ここぐらいまでがテレビドラマですが、ここまでで共通するものが何かわかりますか。

1978 年・80 年に熱中時代というテレビドラマがありました。40.0％の視聴率でした。

次、『３年Ｂ組金八先生』知らない人、いない。視聴率は、やはり 40％近く。ほぼ 10 人に４人じゃなくて、観ている世代からほぼ、当時の中学生とか、或いは、我々教員をなさっていた方もいるかと思います。

それから、『スクールウォーズ』『教師ビンビン物語』『醜いアヒルの子』この辺は、逆に観なくなりますか。これも 1996 年ですから、皆さんはもう充実した時期で、非働き方改革真っただ中、ほとんどテレビを観る時間がないという時ではなかったですかね。

『ヤンキー母校に帰る』『ゴクセン２』これは、2005 年、すごい視聴率 32.5％。あれだけチャンネルがたくさんある時代、これだけの視聴率です。

さあ、共通するテーマは何でしょう。あまり真剣に考えてもしょうがないんですけど。

これ、非働き方改革ですよね。このドラマに出てくる先生達は、非働き方改革の先生方です。実は、僕もこの中の幾つかには反発をしたり、憧れたりして教員になった一人です。もともと教員は、こういうものだというイメージを作られた人間ですから。あの時代、先生って、こういうものなんだと僕たちは観ていたんです。視聴率の高いドラマが作り出す暗黙の教師像。日本人の 75 歳から 30 歳前半までの方達が描く教師像は、先ほどのドラマ・映画の影響が大きいんです。

3　教員ってどんな人たち、ミッションは？

まず、教師自身がもつ教師像はどうでしょうか。

教師自身が残業を前提に考え、先生達の中には残業が当たり前だと考えている人がいるかもしれないです。残業は悪だと考えている先生の方が僕は少ないのではないのかなと思います。何故ならば、こういうドラマを観て育ってきているんですから。逆に、きちんと７時間４５分で帰ると罪悪感をもっている先生がいるらしいです。ムカッとくる先生もいるらしいです。だから、働き方改革は非常に難しいです。

教員自身のまず問題。次に、保護者や子供たちが、描く教師像もやっぱり、さっきと同じなんです。

７時間 45 分でサッと帰る先生、「わあ、素晴らしいわ」と褒めてくれる保護者たくさんいますか。

それから、地域や一般社会、保護者の方を含めて、子

供のための自己犠牲を厭わない存在であると。何か交通事故があったとか、或いは不審者が出たとか、通学路で何かあった時に一般社会の人達は認めてくれるでしょうか。「先生はもういいですよ。労働時間過ぎているんですから早く帰ってください。先生、何残っているんですか。困るんじゃないですか働き方改革でしょ」って、言ってくれる人どのくらいいますかね。

こうなると教職は、聖職（聖なる職業）という意識が強いんです。ブラックな職場にならざるを得ないでしょ。『これが青春だ』だからです。『すすめ青春』だからです。まず、校長先生方は、こういうものと闘わなければいけないのかなと。或いは、学校の先生自身が、こういうことを自覚できるかどうかというところが出発点のような気がします。

まず、冷静に自分たちのスタンスを見てみようということから始めないと、考え方は変わりません。教員の働き方改革について考える前に、そもそも教員ってどんな人達なんですか？　教員のミッション、どんな仕事をしているのか、何が中心の仕事なんですか。教員として働いていることを支えているもの、教員一人のモチベーションは何か。これらのことを教員同士が議論できるか。これができないと、何かを変えるということはすごく難しいような気がします。

勤務実態調査（文科省）「過労死防止白書（2018 年版）」勤務時間週 60 時間以上の「教諭」の率から、小学校 33.5％、中学校 57.7％。１日の平均勤務時間、11 時間を過ぎています。副校長・教頭 12 時間 33 分。校長先生方、家に持ち帰っているでしょ？書類は持ち帰らないけど、課題は持ち帰って晩酌やりながら、あれどうしようかなとか考えているでしょう。

残業を月 45 時間で年間 360 時間以内にしないといけないでしょ。月 45 時間ということは、４で割ると１週間 10 時間、１週間 10 時間を５で割ると、１日約２時間。２時間越えて残っている職員がいたら、アウトです。例えば、勤務開始時刻を８時としたら、休憩時間 45 分・１時間取ったとして、４時 45 分ですか。２時間足すと、７時にはどこの学校も誰も居ないというふうにしないと法律違反になるんでしょ。

４　教師が負担に感じていること

教員に聞いた文科省の実態調査です。教員が負担に感じていること、小学校も中学校も国や教育委員会からの調査やアンケートの対応が一番負担だというんです。小学校の２番目は、研修会や教育研究の事前レポートや報告書の作成だそうで、研究会が嫌ではなく、報告書・レポートは嫌だと言っているんです。

中学校は、保護者・地域からの要望・苦情等への対応です。小学校には、これが３位にきて中学校の先生は、３番目に研修会や教育研究の事前レポートや報告書の作成がきています。

５　一般の企業と比べてみて

教師という職業人の特徴を考えてみたいと思います。ここを知らないと働き方改革のコツがずれて、先生方に指示ばかりしてうまくいかないんです。先生ってどんな人間だか、いろいろ考えてみました。

まず、原則、保守的。４月の職員会議で例年どおりが多くないですか。「子供が毎年違うんだから、スタッフだって変わるんだから全然違うことをやりましょう」って言ったら、周りの先生方から拍手が沸く学校は、すぐ働き方改革できます。次に教員免許状を持っていなければできない専門職ですから、非常に個人的な自分のペースを守りたい人が多くないですか。

それから、皆「先生」と呼ばれ、フラットな関係です。校長先生・副校長先生・教頭先生・主幹教諭、全部先生。大学を卒業する３月 31 日まで学生だったのに、４月１日になったら先生と呼ばれるんですよ。不思議な世界ですね。また、給与・昇給にさほど意欲をもたない。こういう人達が集まる世界なんですよ。ほぼ全員、大学卒ですよ。こういう職場って、一般企業の中でも少ないです。ほぼ全員、学歴は大学卒業。話せばわかる人達ですよ。

そして、ここが特に難しい点ですが、先生と児童、先生と生徒が特別権力関係にあり、自分の価値観が絶対だと思っている先生がいます。スカート丈、膝上は許さないとか、膝上５㎝までとか。自分で決められるんですよ。だから独善的になってしまう。こういう先生は、自己の経験に基づく指導をします。大体先生というのは、私は違いますけれども、小学校時代・中学校時代、優秀だったはずで優等生に近いはずです。先生によく頼まれたり、リーダーになったり、学級委員をやったり、生徒会に出たり、修学旅行委員になったりとか、結構やっている子が多い。そういう人達の集まり、倫理観が高くまじめです。

それから、議論をしたがらない。日本人って多くは同質社会の中にいますから、言語的には苦労しないのに議論はしたがらない。ちょっと意見したら次の学年会で、あいつの言うことは聞かないとかね、そうなったら働き方改革できないですよ。

これが、教員の特性です。さらに、成果がなかなか数字にでない。目に見えない。知・徳・体ですから。

６　教師自身が働き方改革を阻んでいないか？

【働き方改革の壁】

皆さん、働き方改革の壁って何ですか。

１つ目、同じ学年、同じ教科の教材をそれぞれ独自に

作成して、お互い融通し合わない。特に小学校では。僕は社会科担当ですから、地歴公で、地理的分野は安原先生ね、歴史分野は田中先生ね、公民的分野は齊藤先生ねってやれば、仮に３年ごとに同じ教材を作っておけば、後は時代の流れで、若干変えればいいわけで、1/3 で済むじゃないですか。小学校で校長になったときびっくりしました。３年生の３クラスの道徳の授業を見てみたら、１組・２組・３組、だいたい同じ時間に同じ題材を使ってやっていました。でも、ペープサートは違うし、黒板に貼る資料は違うし、発問の順番も違っていました。それぞれのクラスでわざわざ、独自に教材を作っている。

例えば、１学期の分は１組の先生が作り、２学期の分は２組の先生が作り、３学期の分は３組の先生が作ればいいじゃないですか。皆が作れば 1/3 の労力で済むじゃないですか。

僕なんか、常に楽しようと思っていたので、どうしたら楽ができるか考えていました。でも、一般の先生は違うんです。「先生の授業、この単元のこの題材つまんなかったからこう変えましょうよ」と言われるより、自分で作って誰にも見せない方がいいと思っちゃう。

２つ目、学校を見ていて、学級目標、学習目標、生活目標が教室に貼ってあったり、ノートにいっぱい書いてあったりしますか。全部達成していますか。先生は達成度を全部チェックしていませんよね。何で目標が好きなんだろう。目標の達成評価をしないで改善できますか。だから、毎年同じことを繰り返してやっているんですね。

３つ目、先生方、連絡帳・生活記録ノートなど何かしらのノートを毎日抱えて、コメントを書いていませんか。どのくらい効果がありました？　やっぱり、一言一言書いていたから、今やノーベル賞学者になっていますか？君の学習のやり方は素晴らしいとか、よく頑張ったねって書いたから、今や日本を代表する人とかになりましたか。僕も最初は書いていたんですけど、効果がないということがある時、気付いて止めました。子供もちゃんと評価しています。「また、同じこと書いている。もっと、違うことを書けよ」とかね。

そこで、１週間に１列ずつにして、毎日、５・６冊書けば終わり。そうしたら、ものすごく文が長くなってきて子供たちも私も書いていました。それも面倒くさくなってきて止めました。これ、自分の自己満足だということに気が付いたんです。これを書かなかったらもっと酷いことになっていたという言い訳を自分で作っていたんですね。

４つ目、学習規律・生活ルーツにはすごく厳しいけど、学力とか学習の定着には甘い。学習規律を身に付けないと学習はちゃんとできないと考えているんです。だけど、学習規律が身に付いているんだから学習ができないはずはないとは考えない。楽しくわかる授業をすれば、子供って態度がよくなりませんか。「先生ね、今日こういうのを持ってきたんだ」って興味のあるものを見せたら黙っていても、子供たちは「何？何？何？」って向くじゃないですか。それを、教室に入っていって、「今日は教科書 65 ページ開いて」。つまんないから、わいわいざわざわしますよね。そういう違いって結構あります。簡単に今５つ書いてありますけど。

【働き方改革の壁２　皆さんの学校は？】

①同じ学年、同じ教科の教材をそれぞれ独自に作成（融通し合わない）→（協働、分担できないの？）

②学級目標、学習目標、生活目標、班目標、個人目標･･･目標だらけ→（絵に描いた餅状態）

③連絡帳、生活記録ノートを毎日学級の全員に一言記入→教師の自己満足（負担の割に効果薄？）

④学習規律や生活ルールには厳しいのに学力・学習定着には甘い→（学習規律が身に付いているのだから学習ができないはずはないと考えない）

⑤学習規律や学習態度が整わないと授業が成立しないと思い込んでいる→楽しく、よくわかる授業であれば学習態度もよくなるという発想に至らない

この中で、２つ当てはまる先生がいたら、その先生の働き方を改革するのは大変でしょうね。

次に僕が、４つ挙げるうちの１つでも当てはまらなければ働き方改革はできますよ。

①指導方法、教材研究、生徒指導観など教職の専門性の議論を避ける→学びを仕事とする先生が、よりよい学びを求めて同僚と話し合ったり、議論したりすることを避けている学校は学びの場と言えるか？　言えないですよね。だから、働き方改革ができない。

②担任王国の学習指導、生活指導、生徒指導から脱却できない→完璧な担任はいない。新任がベテランと同じ達成度であるわけがない。体調不良もあれば、家庭の事情もあり、皆でオープンにできるかどうか。

③部活動では勝利主義、学習評価は平均点主義、仕事評価は時間量主義→学習指導要領を読めば部活動は、生徒の自主的・自律的な活動ですから、それを支える先生であれば、働き方改革できます。また、平均点を気にしている先生、１組 53 点、２組 56 点、３組 61 点、俺のクラスはよくできる。よく見たら、０点もいれば 100 点もいるんです。子供の顔や声に目と耳を傾けない独りよがりですからこういう先生は。

④愚痴や苦労があいさつになっている学校→「先生、昨日も大変だったのよ」と言っている学校は、働き方改革できません。「先生､昨日大変だったでしょう？」「何がですか。特に、全然大丈夫だよ」っていう学校はできます。改善しよう、変えてみよう、やってみようと

いう前向きなあいさつができればOKです。

つまり、改善や改革の機運が育たない職場では働き方改革は絵に描いた餅になっちゃうんですよね。

7　どう考えますか？【演習1・演習2】

これをやってみましょう。　どう考えますか？

学校教育活動を担う教師として、子供たちに様々な力や態度を付けてもらいたいと願う毎日ですが、A・B・C・D・Eで順位を付けるとしたら、一番力を付けてあげたい力はどれですか。

A　学力（授業が分かる、授業についていける）
B　仲間を思いやる気持ち（優しい子）
C　学習規律（学習習慣）ができてる子
D　生活規律（生活習慣）がしっかりしている子
E　健康生活（元気な子）をしている子

あえて順番を付けると。決まりましたか？

Aの方、Bの方、Cの方、Dの方、Eの方　ありがとうございます。A・E・Bの順でした。

今度は逆。学校教育活動の主体者である子供たちに順番を付けさせたら、子供たちはどんな力を自分が一番付けたいと思っていると思いますか。

学力のAの方、友達思いの優しい子になりたいんだのBの方、あら、いない。じゃ学習規律のCの方、Dの生活規律の方、健康な元気な子になりたいのEの方、さすが、校長先生、素晴らしい。これはニュージーランドの研究です。

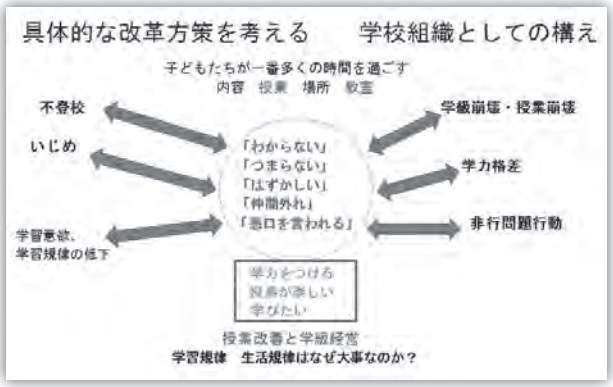
これをみてください。一番左の棒グラフが　児童生徒自身、2番目が保護者、3番目が皆さん校長先生で、4番目が教員です。これ、学力に関して聞いたんですけど、学力には何が一番影響するのかという質問で、要は子供が何と答えているか、学力は自分の責任だと答えている子は9％なんです。保護者がお前ができないからなと考えている人は同じく9％。校長先生方管理職は、この地域の子供たちは学力が低いなど、子供の理由としている管理職は19%。教員は58%。子供が一生懸命取り組まないと学力は伸びないよと思っているのが、一番高いのは先生です。

次に真ん中の塊が、「教師と児童生徒の関係」で、学校の先生が、教師と児童生徒の関係が大事だと考えている児童生徒が81％で、子供たちは、先生とうまくいけば学力は伸びると思っているんです。保護者も子供と同じように71％と高い。校長先生は46％で、一番低いのは27％で先生です。教師が一番、子供の学力に影響を与えていると考えているのが、一番低いのが先生です。これは、ニュージーランドの相対的に学力の低い学校で調査をした結果です。先ほど、先生方に手を挙げてもらいましたが、NeedsとWantがマッチするかどうかというのはすごく大きいんです。子供たちは、学力を伸ばしたいと思っているんです。ところが学校の先生は、あんた達はもともと、やる気がないんだったらできる訳ないじゃないかと思っています。

8　具体的な改革方策を考える

具体的な改革方策を考えるときに、あれもこれもやっては駄目です。どこに教員たちは力を入れなければいけないのか、教員たち自身が本来は議論してほしい。

私がいつも言っているのは、学校の中で、一番多く時間を過ごしているのは授業です。ここがヒントです。ここを変えなかったら、ここを安定させれば、多分、先生の働くエネルギーもすごく焦点化していくはずです。実は、この図の真ん中が子供です。



「わからない」、「つまらない」、「はずかしい」、「仲間外れ」、「悪口を言われる」これを子供たちはすごく気にしています。教室の中で過ごすとき。ここから周りの教育問題が始まるわけです。原因は、この中のどれかですよ。この子供たちはびくびくしながら教室に来るわけです。これがうまくいかないと、ある者は不登校になり、ある者はいじめに発展し、ある者は学力格差に陥ります。

学習がわからない子供たちが増えれば学級崩壊、授業崩壊になり、そして、学習意欲や学習規律が低下し、或いは非行問題行動に走ってしまいます。

つまり、学力を付けて、授業が楽しくて、学びたいという教室になれば問題はすごく減るんです。周りの問題が減っちゃうんですよ。授業改善や学級経営に、教員のエネルギーをすごく使った方がいいんじゃないかなと。何のための学習規律？　楽しい授業をもっと楽しくするために、学習規律ってきちんとやるんでしょ。学ぶってこんなに素晴らしいんだということを、もっと発展させるために生活規律なり学習規律なりをきちんとしていくんです。多分そういう発想の先生は意外に少ないと思います。大前提に、まず、面白い授業、楽しい授業、わかる授業、へえ、そぅだったんだっていう授業をすれば学習規律も生活規律も同時に伸びていくはずです。学習規律や生活規律を最初から整えてから授業やるとなると、

半分以上失敗しますね。

実は、教室に集まった子供たちには、４種類の子供がいます。①もう､先生が持ってきた教材なんて知っちゃっている子。②まあまあわかって、今日はこんな勉強をするのか、大体わかる子。③えっと、えっと、今日の大事な所はここかなくらいで何をやっているのかわかっているけど、まだ全部は理解していない子。④何を言っているのかわからない子。もし、教師の指導が真ん中の２番目に焦点を当てて授業をしたらどうなるか。１番目の子はつまんないでしょう。わかり切っちゃっているから。３番目の子は、うーんと時間がかかっちゃう。４番目の子は、あーと言って座っているわけ。これは、先生が一人でやるとですよ。教師一人で格差のある多様で多人数の子にどう指導するか。

ここに、皆さん悩んでいるんじゃないですか。ここを改善すれば働き方改革なんですよ。そこで、子供たちを使うんですよ。１番の子がいるんでしょ。３番の子もいるんでしょ。４番の子もいるんです。組み合わせればいいじゃないですか。能力別が失敗しちゃうのは、学習意欲が育たないからですよ。同じような子を集めると発想が同じようになっちゃう。４番目の下位のグループの子たちを集めて丁寧に教えても、結局、周りは下位の子で、下位同士の発想しから抜け出せないんですよ。混在してわからない子にわかる子が教えるっていうのは、できない子にとってはいいことですし、できる子にとっては理解がとっても進むんです。教えて初めて自分がわかったということになるんですよ。そのような実験結果はたくさんあるんですね。先生は、何も最初から最後まで一人で全部やることはないんですよ。そんなの４・５人のグループをいっぱい作れば、子供たち同士でやれるんじゃないですか。だから常識を疑ってみてくださいということです。

９　常識を疑ってみては？

①ドリル学習は学ぶ力を伸ばすか？

これは、いろいろな学習心理とか学習科学で明らかですが、期待するほどは伸ばしません。何故か。ドリル学習というのは、結局、自学習なんです。できない子は永遠にできない。できる子はすっとできちゃう。ドリルをみんなで使うのは別ですよ。ドリルの何ページの何番を何々君と何々さんと何々さん、今日はこの４人のグループで全員がわかるまでやってみてというドリルの使い方ならいいんです。

②定期テストで学力が測れるか？

定期テストは、ある時点のある範囲のテストをするだけでしょ。１週間たったら、皆さんも経験あるでしょ。自分が学生の頃、ワーと覚えてガーと勉強して、１か月経って同じ問題をやって全部できますか？できないでしょ。人間の脳はそんなふうになっていませんから。学力は定期テストでは測れません。

③一つの学級を一人の担任に任せた方が子供は伸びるか？

これは、絶対に伸びません。子供たちの個性もバラバラ、先生の個性もバラバラ。教師集団というのは個性的な集団ですから、できるだけ多くの教員が多くの子供たちと出会う場面を作った方が、子供たちは伸びるんです。相性のいい先生と子供が会えば担任は当たりなんです。４月のクラス発表の午後、お母さん方のラインを見てください。「今年は外れ」「今年は当たり」「もう我慢しなくちゃ」「うち、塾に入れなくちゃ」あれ、わかっているのに何故やるのかなと、僕、不思議に思うんですけど。極端なことを言えば、クラスやめちゃえばと。安原は、月曜日は１組に出て、火曜日は２組に出て、水曜日は３組に出ます。そして、「１組の人とは、木曜日に会いましょう」って言って、ローテーションにしたら、僕と馬の合わない子供たちは、木曜日まで大丈夫だと思うでしょう。親も混乱するじゃないですか、「誰が担任なのよ」って、みんな担任。当たり外れがないってことになるんです。そういう常識、学校では常識ではないんでしょうけど、そういうものを作っていけば、働き方改革、もしかしたらうまくいくかもしれません。

先生方に言ってください。今の小学校１年生の 20 年後、26 歳ですよ。中学校３年生は、20 年後 35 歳、30 年後 45 歳ですよ。社会人の真っただ中です。どんな社会になっていると思います？　すごい社会になっていますよ。そういう社会で生きていく力を小中の時に付けてあげなければいけない。先生方が本気でそう思っているかどうか。世界情勢がどうなっているか。グローバル･多文化･多言語、国内社会･国際社会、今と同じでしょうか。もっと、ポピュリズムになっているかもしれない。逆に、開ければ日本語、フランス語、ドイツ語が飛び交っているかもしれない。先生方が生きてきた時代とは違い、少子高齢を突き抜けて、人口減少社会になって、家族や世代環境は全く違うはずです。多分、15 年から 20 年の間に

３人に一人は単身で暮らしていますからね。もう、家族なんて相手にできませんからね。家族は形だけですから。みんなバラバラにネットワークが繋がっていますからね。家族という概念が変わると言われています。今のような父親・母親・子供という核家族ですが、今から50年前は大家族だったわけですからね。世の中、あっという間に核家族となり、今は単身家族なんでしょ。或いは、ホテル家族と言われたり。朝食だけ集まって、昼・夜はバラバラですから。それぞれのネットワークで楽しく過ごすしかないわけです。

先生が彼らと今学んでいること、本当に生きますかね。30年後はどんな仕事でしょう。AIでしょ。IOTでしょ。感情労働が人間の主体になるんでしょ。要は、人と人との感情をやりとりするような仕事、人間にしかできないような仕事が入ってくるわけですよ。

コミュニケーション能力って何で大事かって。人と誰とでも話す。誰とでもできるという意味なんですよ。

だから、学力って何かといったら、３つでしょうね。

基礎的・基本的な知識は大事でしょうね。読み書きそろばん程度でいいんですよ。読めなくちゃだめですよ。書けなきゃ駄目。計算はできなきゃ駄目。これはね、中学校の先生はよくわかっていると思いますけど、小学校でこの読み書きそろばんでつまずいた子は、中学校で、ほとんど非行問題行動か不登校になります。

残り２つの学力がこれから求められるんでしょ。

感情労働には、思考力・判断力・表現力・学びに向かう力。これが何かというのは、先生方みんなで話し合ってみてください。最初に言いました。聖職意識が専門職集団意識にならなければ駄目です。何でも先生がやる。人生を背負っているぞ。お前の為に夜も寝ない。『これが青春だ』は、もうないんです。

そうじゃなくて、20年後・30年後を見据えて、今君に大事なのは、この力だ。こういうことだ、「じゃ、先生は、7時間45分が終わったんで帰るよ」そういう専門職集団を作るしかない。

学校大好き、授業大好き、友達大好きと、いじめ、不登校、非行、無気力、無関心、学校へのクレーム、この根底は何だと思います？　やはり、授業がわからないということです。つまらない、恥ずかしい。だから、「わからない」って平気で誰もが言えて、解決できるクラスを作ったら非行問題行動は起きない。いじめも起きない。ある子が「わかんない」と言ったときに、「それはね、こうやってやるんだよ」って、小学校１年生の時から作っていれば、中学３年生まで、仲良くなるのは決まっているじゃないですか。家でわからないことがあっても学校で聞こうと思うから。みんなが教えてくれる、平気で「わからない」と言えるクラスを作ったらクラスが勝ちですね。先生、楽だと思いますよ。だって、自分で教えなくていいんだもん。周りが教え合うから。「じゃねえ、今日は江戸時代の勉強をするんだけど、この３つの言葉、先生わかんないんだな。みんなわかる？ちょっと勉強してくれる？教科書使って」と言えば、ワーと始まって、先生はチェックしていればいいわけです。いいと思いますよ。是非、新しい学園ドラマを作ってください。

10　さて、あなたの学校は　どこからはじめますか？

教員の本来の仕事は何か。原点に帰ってみてください。１日、６時間何をやっているんですか。一番時間を使っているのは何なんですか。

それから、これ注意してくださいね。「子供のためなら、子供のために」、この麻薬にみんな引っかかっちゃう。専門職集団は、子供の何を伸ばすんですか？　子供にどんな力を付けるのかって、ゴールをちゃんと決めるんです。青春ドラマは、みんな子供のためですからね。子供のためならブラックになっていたんです金八先生も。新しい令和の先生は、子供の何を伸ばすのか。どんな力を付けるのか。それを決めてからやればいいんです。あれもこれもやっては駄目なんです。

それから、教員免許状を持つ者しかできないことは、授業でしょ。教員免許状を持っている意味を考えてみてください。子供たちが過ごす学校生活の８割を占めるのは教室と授業ですから。

目指す改革改善は、授業に始まり授業で終わる。

キーワードは、「わからない」です。「わからない」を利用するんです。一人じゃなくてみんなで授業について語り合うことから働き方改革が始まる。語り合う職場にしていきましょう。

学校の一番の役割は何でしょうか？ということで、これからは、わが校の教員たちが、最もエネルギーを注ぐべきものは何かということを焦点化して頑張っていただければと思います。

ご清聴、ありがとうございました。

令和元年度

○　埼玉県連合教育研究会
役　員　等　名　簿

令和元年度評議員会・全体研究協議会にて

本 部 役 員 等

役職		氏名	勤務校
会長		田中 民雄	さいたま市立大宮東中学校
副会長		蓮見 哲	さいたま市立大谷場中学校
		森田 直樹	上尾市立東中学校
		中島 秀行	富士見市立本郷中学校
		矢嶌 泰	小鹿野町立小鹿野小学校
		宗方 健二	蓮田市立黒浜西中学校
事務局長		分須 正明	さいたま市立大宮東中学校
常任理事	さいたま	髙後 仁	さいたま市立仲町小学校
	南部	髙橋 眞一	川口市立神根東小学校
	南部	山村 一晃	草加市立西町小学校
	西部比企	西谷 和彦	滑川町立福田小学校
	西部入間	須田 亮	川越市立月越小学校
	北部秩父	吉岡 章	小鹿野町立小鹿野中学校
	北部児玉	関口 典夫	美里町立大沢小学校
	北部大里	笠原 健司	熊谷市立熊谷西小学校
	東部北埼	吉野 滋	行田市立泉小学校
	東部埼葛	坪井 俊治	八潮市立潮止小学校
理事	算数数学	新井 靖	上里町立上里中学校
	保健体育	関 克則	蕨市立南小学校
	進路・ｷｬﾘｱ	千代田 栄	富士見市立東中学校
	小・家庭	榊原 久子	羽生市立手子林小学校
	生活・総合	井原 政幸	さいたま市立谷田小学校
監事		辻口 幸恵	富士見市立針ヶ谷小学校
		濵名 博昭	本庄市立本庄東小学校
		小沢 仁志	春日部市立小渕小学校
編集委員長		長島 庸夫	さいたま市立八王子中学校
編集委員		松下 洋介	埼玉大学教育学部附属小学校
		三浦 直行	埼玉大学教育学部附属中学校
		石川 和宏	埼玉大学教育学部附属特別支援学校
		小代 美智子	さいたま市立大東小学校
		小坂 浩士	さいたま市立常盤小学校
		大島 綾子	蕨市立東中学校
幹事		髙山 裕子	さいたま市立大宮東中学校
		矢崎 孝典	さいたま市立大宮東中学校
		渡辺 俊行	さいたま市立大宮東中学校

教科等研究団体

No.	研究団体名	団体長名 事務局長名	団体長勤務校 事務局長勤務校
1	埼玉県国語教育研究会	石川　浩	深谷市立深谷中学校
		松下洋介	埼玉大学教育学部附属小学校
2	埼玉県書写教育研究会	小原　茂	入間市立上藤沢中学校
		秋野眞由美	さいたま市立上木崎小学校
3	埼玉県社会科教育研究会	斉藤　実	深谷市立桜ヶ丘小学校
		齊藤耕太郎	埼玉大学教育学部附属中学校
4	埼玉県算数数学教育研究会	新井　靖	上里町立上里中学校
		岸本航司	埼玉大学教育学部附属中学校
5	埼玉県理科教育研究会	安部正幸	川口市立東中学校
		島田直也	埼玉大学教育学部附属中学校
6	埼玉県音楽教育連盟	白井裕一	深谷市立常盤小学校
		納見　梢	埼玉大学教育学部附属小学校
7	埼玉県美術教育連盟	中川昇次	さいたま市立片柳中学校
		廣田和人	埼玉大学教育学部附属小学校
8	埼玉県保健体育研究会	関　克則	蕨市立南小学校
		首藤祐太朗	埼玉大学教育学部附属小学校
9	埼玉県英語教育研究会	阿久津一浩	さいたま市立大成中学校
		髙橋太一	埼玉大学教育学部附属中学校
10	埼玉県道徳教育研究会	藤澤由紀夫	越谷市立大沢小学校
		関本由美	吉川市立関小学校
11	埼玉県特別活動研究会	木場真理	越谷市立千間台小学校
		樋口成久	行田市立埼玉中学校
12	埼玉県進路指導・キャリア教育研究会	千代田　栄	富士見市立東中学校
		近藤智英	富士見市立東中学校
13	埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会	安藤義仁	蓮田市立蓮田中学校
		松本直大	白岡市立大山小学校
14	埼玉県教育心理・教育相談研究会	大木　剛	東秩父村立東秩父中学校
		松井　守	東秩父村立東秩父中学校
15	埼玉県特別支援教育研究会	山田　明	熊谷市立市田小学校
		加藤和子	埼玉大学教育学部附属特別支援学校
16	埼玉県学校図書館協議会	木村直美	朝霞市立朝霞第六小学校
		小日向輝代	越谷市立東中学校
17	埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会	橋本和人	蓮田市立黒浜中学校
		木村　僚	埼玉大学教育学部附属中学校
18	埼玉県小学校家庭科教育研究会	榊原久子	羽生市立手子林小学校
		渡邊はるか	埼玉大学教育学部附属小学校
19	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会	井原政幸	さいたま市立谷田小学校
		若村健一	埼玉大学教育学部附属小学校

地域教育研究団体

旧事務所	No.	地域団体名	団体長名 事務局長名	団体長勤務校 事務局長勤務校
南部	1	埼玉大学教育学部附属小学校	川端博子 河野裕一	埼玉大学教育学部附属小学校 埼玉大学教育学部附属小学校
	2	埼玉大学教育学部附属中学校	道工勇 齊藤耕太郎	埼玉大学教育学部附属中学校 埼玉大学教育学部附属中学校
	3	さいたま市教育研究会	蓮見哲 小倉弘一	さいたま市立大谷場中学校 さいたま市立大谷場中学校
	4	川口市教育研究会	髙橋眞一 小松正義	川口市立神根東小学校 川口市立青木中学校
	5	草加市教育研究会	山村一晃 成田匡宏	草加市立西町小学校 草加市立西町小学校
	6	蕨市教育研究会	椿智絵 山田博之	蕨市立中央小学校 蕨市立中央小学校
	7	戸田市教育研究会	小髙美恵子 山根淳一	戸田市立戸田第二小学校 戸田市立新曽北小学校
	8	志木市教育研究会	可知良之 可知良之	志木市立志木第四小学校 志木市立志木第四小学校
	9	朝霞市教育研究会	九鬼武 唐松善人	朝霞市立朝霞第三中学校 朝霞市立朝霞第五小学校
	10	新座市教育連合会	田野信哉 影山葉子	新座市立大和田小学校 新座市立栄小学校
	11	和光市教育研究会	來嶋実樹子 永村英樹	和光市立本町小学校 和光市立本町小学校
北部	12	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	戸部秀之 神田佳明	埼玉大学教育学部附属特別支援学校 埼玉大学教育学部附属特別支援学校
	13	鴻巣市教育研究会	吉野徳子 寺島麗王馬	鴻巣市立鴻巣北小学校 鴻巣市立鴻巣北小学校
	14	北本市教育研究会	吉澤達也 玉神順哉	北本市立北本中学校 北本市立北本中学校
	15	上尾市教育研究会	金子泰雄 太田将史	上尾市立芝川小学校 上尾市立芝川小学校
	16	桶川市教育研究会	小林松司 赤羽広美	桶川市立桶川東小学校 桶川市立桶川東小学校
	17	伊奈町教育研究会	加藤浩之 池田千世	伊奈町立小室小学校 伊奈町立小室小学校
入間	18	川越市教育研究会	長澤和明 吉野浩章	川越市立今成小学校 川越市立今成小学校
	19	所沢市教育研究会	佐藤佳岳 土井譲	所沢市立西富小学校 所沢市立北小学校
	20	飯能市教育研究会	山﨑敏雄 別府史康	飯能市立飯能西中学校 飯能市立飯能西中学校
	21	日高市教育研究会	新井馨 澤田秀一	日高市立高麗小学校 日高市立高萩北小学校
	22	狭山市教育研究会	尾澤栄一 杵山晃	狭山市立入間野中学校 狭山市立入間野中学校
	23	入間市教育研究会	小原茂 大野幸広	入間市立上藤沢中学校 入間市立上藤沢中学校
	24	富士見市教育研究会	藤井文則 矢場友道	富士見市立水谷東小学校 富士見市立水谷東小学校
	25	ふじみ野市教育研究会	三上正明 桑原操	ふじみ野市立東原小学校 ふじみ野市立東原小学校
	26	坂戸市教育研究会	矢島彰 関口学	坂戸市立千代田中学校 坂戸市立千代田中学校
	27	鶴ヶ島市教育研究会	保泉清之 藤田茂	鶴ヶ島市立南中学校 鶴ヶ島市立南中学校
	28	越生班教育研究会	福島一 赤松武	毛呂山町立川角小学校 毛呂山町立川角小学校

旧事務所	No.	地域団体名	団体長名 事務局長名	団体長勤務校 事務局長勤務校
入間	29	三芳町教育研究会	蘇武伸吾 岡崎秋世	三芳町立三芳小学校 三芳町立三芳小学校
比企	30	東松山市教育研究会	阿形寿和 庄山裕子	東松山市立野本小学校 東松山市立野本小学校
	31	小川班教育研究会	関口岩夫 工藤和也	小川町立竹沢小学校 小川町立竹沢小学校
	32	菅谷班教育研究会	西谷和彦 嵐口均	滑川町立福田小学校 滑川町立福田小学校
	33	玉川班教育研究会	塚本正家 小鷹悟	鳩山町立亀井小学校 鳩山町立亀井小学校
	34	川島教育研究会	栁澤睦夫 野本章	川島町立つばさ南小学校 川島町立つばさ南小学校
	35	吉見教育研究会	沼野友宏 岡崎康友	吉見町立吉見中学校 吉見町立吉見中学校
秩父	36	秩父教育研究会	吉岡章 逸見和弘	小鹿野町立小鹿野中学校 小鹿野町立小鹿野中学校
児玉	37	児玉郡本庄市教育研究会	関口典夫 小林悟	美里町立大沢小学校 美里町立大沢小学校
大里	38	熊谷市教育研究会	笠原健司 中村真由美	熊谷市立熊谷西小学校 熊谷市立熊谷西小学校
	39	深谷市教育研究会	茂木隆資 笛場敦司	深谷市立花園小学校 深谷市立花園小学校
	40	寄居町教育研究会	丹羽大恭 岡田久志	寄居町立男衾中学校 寄居町立男衾中学校
北埼	41	行田市教育研究会	吉野滋 川島一伸	行田市立泉小学校 行田市立中央小学校
	42	加須市教育研究会	蛭間吉伸 大勝進	加須市立不動岡小学校 加須市立不動岡小学校
	43	羽生市教育研究会	佐藤敏之 今井賢司	羽生市立新郷第一小学校 羽生市立新郷第一小学校
埼葛	44	春日部市教育研究会	小林孝之 槇山英司	春日部市立緑中学校 春日部市立緑中学校
	45	越谷市教育研究会	中三川勉 中村哲也	越谷市立鷺後小学校 越谷市立鷺後小学校
	46	久喜市教育研究会	小山隆二 野辺茂樹	久喜市立菖蒲中学校 久喜市立菖蒲中学校
	47	三郷市教育研究会	髙橋始 蛯原健之	三郷市立立花小学校 三郷市立立花小学校
	48	蓮田市教育研究会	大澤裕之 植竹稔	蓮田市立蓮田南小学校 蓮田市立蓮田南小学校
	49	幸手市教育研究会	内田弘志 安東由美子	幸手市立長倉小学校 幸手市立長倉小学校
	50	八潮市教育研究会	大野一吉 重岡勝之	八潮市立中川小学校 八潮市立中川小学校
	51	杉戸町教育研究会	田中健寿 杉野正純	杉戸町立杉戸中学校 杉戸町立杉戸中学校
	52	吉川市教育研究会	清水孝二 橋本隆弘	吉川市立美南小学校 吉川市立美南小学校
	53	松伏町教育研究会	長井勝利 相沢一弘	松伏町立松伏第二中学校 松伏町立松伏第二中学校
	54	白岡市教育研究会	阿部泰次郎 三船芳明	白岡市立菁莪小学校 白岡市立菁莪小学校
	55	宮代町教育研究会	但木和久 柴崎憲一	宮代町立前原中学校 宮代町立前原中学校
入間地区連合教育研究会			須田亮 生駒義郎	川越市立月越小学校 川越市立福原小学校
埼葛連合教育研究会			坪井俊治 佐伯貴夫	八潮市立潮止小学校 八潮市立潮止小学校

あ と が き

ここに、令和元年度「埼玉県連合教育研究会の研究集録付研究論文集」をまとめることができました。原稿をお寄せいただいた各教科等研究団体及び地域研究団体の皆様に、深く感謝申し上げます。

県内各研究団体が日頃の教育活動を礎とした研究の取組について、原稿をお寄せいただき、県内広く成果や取組につきまして共有できますことは、令和という新時代の教育実践に大いに資することと思っております。

また、今年度も広く会員の皆様方に研究論文を募集いたしましたところ、今年度は５編の研究論文を県下各地からお寄せいただきました。（校種別では小学校１編、中学校４編）

今年度は、応募要領を変更し募集期間を速めたことや、学習指導要領の移行期に当たり、新しい学習指導要領に即した教育実践に各校・各教師の皆様が試行錯誤を繰り返している現状が応募数減少の一因と捉えています。

しかしながら、今年度の研究論文集は、それぞれの地域で、時代を担っている様々な年代の教師による研究発表の場として貴重な実践に基づく研究発表の場となりました。

今年度は「入選論文」１編、「佳作論文」１編、「新人奨励賞論文」１編という審査結果となりました。ここに、紙面をお借りし編集委員会で委員の方々から出されました選評の一部を紹介させていただきます。

○「**入選論文**」

研究論文として全体の構成、論文としての体裁が良く整えられ、また先行研究の参照方法など論文をまとめる上での参考となる点が多々ある論文である。新学習指導要領で示された教科による「見方･考え方」を明らかにして実践するという課題をしっかり捉えたものとなっている。

一方、授業における構造は従来と大きく変わるところが無い点や、課題追究の場面が主体的で対話的で深い学びとなること、評価についてパフォーマンス評価の考えを取り入れるなどする、更に先進的な研究となる。力量のある論文であるので更なる研鑽を期待する。

○「**佳作論文**」

特別支援学級において、児童生徒の興味・関心を学習意欲に結び付け、よりよい変容を促す取組を主眼として、主体的・対話的で深い学びのある教科指導の実践に取り組んだことは大変意義深いものがある。授業構造や活用教材について、従来の実践に準じている点や単一単元・単一教材での研究事例となっている点は惜しまれる。今後、本実践に先行文献等を踏まえた論理的な裏付けを重ね、更に深まりのある研究論文となるよう継続的な研鑽を願いたい。

○「**新人奨励賞論文**」

授業改善への意欲的な取組や、児童生徒の興味・関心を高める創意を生かした取組には新鮮さが伺える。また、実践結果としての児童生徒の変容も伺える内容となっている。更に学習内容を精査し、その学習内容の定着を図る上での学習活動の端緒としての興味・関心の向上の在り方や、教科の「見方・考え方」を主体的な学習の中で育んでいく視点・具体的な手立てを、先行文献や先行実践に学び、具体例を引用しながら研究の論旨が裏付けされるよう、継続的な研究がなされることを期待している。

編集委員長　長島　庸夫　【さいたま市立八王子中学校長】

令和元年度　**埼玉県連合教育研究会「研究集録付研究論文集」**

令和２年３月 12 日　　印　刷
令和２年３月 12 日　　発　行

発　行　者　埼玉県連合教育研究会
　　会長　田　中　民　雄
印　刷　所　関東図書株式会社
　　ＴＥＬ　048（862）2901